国立国語研究所学術情報リポジトリ

The language ability of children in the first and second grade

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001224

国立国語研究所報告 10

低学年の読み書き能力

国立国語研究所
1956

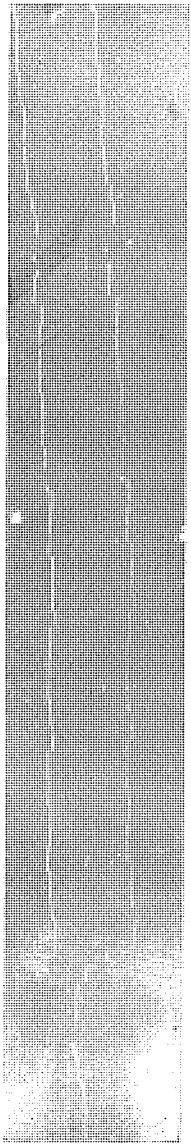
国立国語研究所報告 10

低学年の読み書き能力

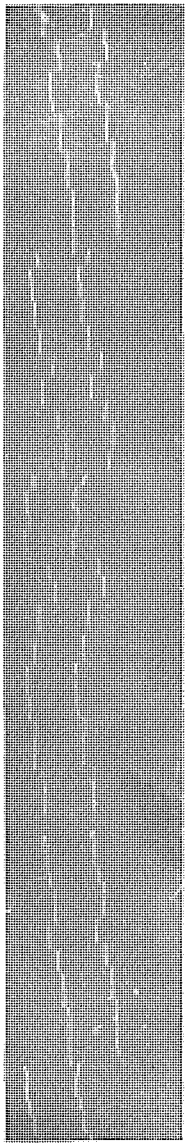
国 立 国 語 研 究 所

1 9 5 6

文章を読む時の目の動きを調べる実験



へたなよみ



うまいよみ



〔実験に読ませた文章〕

たろうさんの　うちの　きんじょに
いけが　あります。いけには　さか
なが　たくさん　います。たろうさ
んは　よく　つりに　いきます。まさ
るさんを　さそって　いきます。よ
しこさんを　さそうことも　あります。

刊行のことば

国立国語研究所で1953年4月から7か年の計画で「言語能力の発達に関する調査研究」を実施している。これは，「入門期の言語能力」(1954年3月刊) に続く第二次報告である。

この調査研究は，国語教育研究室が担当し，昭和29年度においては，主任輿水実を初めとして，高橋一夫，上甲幹一，芦沢節，村石昭三，岡本奎六（非常勤）が室員として仕事に当った。

研究所は，この調査研究を実施するため，実験学校（所員が直接観察・記録・テストなどをして資料を集める学校）と協力学校（その学校の教員が研究所の規格にしたがって調査研究をして資料を提供する学校）とを設け，学校と父兄との協力を得て来た。

この報告書については，そうした学校及び父兄の御協力に対して心からの謝意を表する。

1956年1月

国立国語研究所長　西尾　実

目　　次

刊行のことば
「言語能力の発達に関する調査研究」のあらまし…… 1
I　文を読む能力の発達…… 4
A　発達のとらえかた …… 4
B　音読技能と黙読態度の発達 …… 5
C　黙読速度の発達……10
D　黙読理解の発達……13
II　文を書く能力の発達 ……18
A　発達のとらえかた……18
B　分量の増加 ……18
C　文字や文法上の誤りの減少 ……19
D　句読点の発達……20
E　まとめる能力の発達 ……20
F　物の見かた・考えかたの発達 ……21
G　作文評価の観点と処理の実際 …… ……24
III　語い能力の発達……26
A　小学校低学年の語いの接近・把握の特殊性 ……26
B　小学校低学年における語い能力の発達 ……42
IV　文法能力の発達……65
A　28年度1年生の学年末テストの考察 ……65
B　29年度2年生の1学期末テストの考察 ……68
C　29年度2年生の3学期末テストの考察 ……70
V　ひらがな能力の発達 ……85
A　ひらがな読字力・書字力の正答率の上昇 ……85
1.　清音・濁音・半濁音の読み書き …… ……85

B　促音・拗音・長音の読み書きの発達 …… 95
1.　促音・拗音・長音の読み書き …… 100
2.　促音・拗音・長音の読みの正確度 …… 101
3.　促音・拗音を書く能力の発達 …… 102
4.　促音・拗音・長音書字力テストの誤りの傾向 …… 104
5.　助詞その他の書く能力 …… 105
6.　ひらがなの字形の発達 …… 106
VI　かたかな能力の発達 …… 122
A　かたかな読字力・書字力の正答率の上昇 …… 122
B　促音・拗音の読み書きの発達 …… 134
C　文字別にみたかたかな正答率 …… 136
1.　おぼえやすい字とおぼえにくい字 …… 140
2.　かたかな文字読み書きの誤りの傾向 …… 140
3.　かたかな能力と使用教科書との関係 …… 143
4.　かたかな能力テストの方法 …… 144
VII　漢字能力の発達 …… 146
A　漢字読字力・書字力の正答率の発達 …… 146
1.　全体的考察 …… 146
2.　文字別にみた発達 …… 160
3.　漢字の習得過程に見られる問題点 …… 169
4.　漢字を読むことと書くこととの関係 …… 177
B　個　人　差 …… 179
C　地　域　差 …… 183
D　男　女　差 …… 192
E　漢字の誤り …… 200
F　おぼえやすい字とおぼえにくい字 …… 218
G　漢字習得と教科書および学習指導との関係 …… 222
VIII　家庭読書の発達 …… 232

A　調査の方法…… 232
B　どんな本を読んでいるか …… 235
C　どう読んでいるか …… 240
1.　読書態度の変化…… 240
2.　読書の興味と時間…… 242
3.　本の選択…… 243
4.　音読と黙読…… 244
D　読書と地域差…… 246
E　家庭読書の個人差および家庭読書と言語能力との関係 … 254
1.　個別的考察…… 254
2.　全体的考察…… 261
F　新聞とラジオへの接近と興味…… 261
1.　新　　聞…… 262
2.　ラ　ジ　オ…… 265
3.　新聞・ラジオと地域差…… 267
Ⅸ　言語能力を規定する要因 …… 271
A　言語能力とこれを規定する要因の測定 …… 271
B　知的要因と言語能力 …… 274
C　人格的要因と言語能力 …… 290
D　身体的要因と言語能力 …… 299
E　家庭環境要因と言語能力 …… 302
F　学校生活要因と言語能力 …… 304
G　ま　と　め…… 308
Ⅹ　発　達　事　例 …… 311
A　概　　観…… 311
B　具体的事例　1―6…… 317
Ⅺ　低学年国語教科書の実態 …… 364
A　1・2年の教科書の形式・内容の分析 …… 364

B　2年の教科書における地位のかたかな …… 368
XII　低学年国語学習指導の実態 …… 373
A　調査のあらまし …… 373
B　学習指導過程の型 …… 380
数表・図表等一覧 …… 386
別表　1　個人別AテストBテストの比較表 …… 392
2　1・2年用漢字教科書別提出表 …… 397
3　文字別漢字習得表 …… 402

「言語能力の発達に関する調査研究」のあらまし

この調査研究に着手したのは1953年4月で，ちょうどその時に国立国語研究所分室が，東京都新宿区四谷第六小学校の地階に設けられたので，この学校を実験学校とし，その時に入学した1年生の1学級を実験学級として発足した。われわれは，この学級の児童のひとりひとりの6年間の言語能力の発達を調べようと思った。

これまでの言語能力の発達（言語発達）の研究はほとんど学齢前の幼児期のものであり，あるいは入学当初の語い量についての調査であった。小学校各学年の児童の文章読解力と漢字の読み書き能力に関して，学年を通じたテストがおこなわれて，そこに，その限りの発達も見出されていたが，言語能力の全面にわたったものでなかった。また発達といっても，同一人の発達ではなかった。そのために，言語諸能力の発達が，その言語を使っている人間の全体の心身の発達の成素としてとらえられていないうらみがあった。これに対してわれわれは，同一人の，同一学級についての，6年間の事例的な追跡研究によって，言語発達の生きた具体的なすがたを，その根底から明らかにしたいと考えたのであった。

われわれは，小学校6年間における言語諸能力の発達の実態はどんなものか、正常の発達はどんなふうで，そこにどんな段階があるか。発達を規定する要因は何と何であるか、発達の型にはどんなものがあるか等々をも明らかにしたいと考えた。

しかし，この実験学校は大都市の中心部にあるから，そこには何か大都市だけの特殊な事情があるかも知れない。そこで，東京に近い純農村地帯にある学校として，神奈川県中郡比々多小学校を，こうした実験学校に準ずる協力学校として，同時に同一のことをやってもらうように依頼した。また全国的に十数校を協力学校として選んで，われわれが実験学校の実験学級において得た数字が全国的傾向としてもどうであるかということを確かめたいと考えた。

このようにして，実験学校，協力学校の，この年に入学した児童について4月から 10 月中旬までにテストや観察によって知り得たデータをまとめて第一次報告『入門期の言語能力』ができた。

本書はこれにつぐ第二次報告で，この児童の1年生後期（10月下旬）から2年生の終了時（3月末）までの読み書き能力の発達を取扱っている。

こんどの研究報告に関係のある実験学校，協力学校は次の通りであって，各学校の学校長，国語主任，担任教諭，および父兄のかたがたの協力を得た。

実験学校	四谷第六小学校	東京都新宿区四谷大京町
実験学校に準ずる協力学校	比々多小学校	神奈川県中郡伊勢原町
協力学校	方南小学校	東京都杉並区方南町
〃	幸世小学校(北小学校と改称)	兵庫県氷上郡幸世村
〃	松代小学校	長野県埴科郡松代町
〃	豊野西小学校	長野県上水内郡豊野村
〃	小山第二小学校	栃木県小山市
〃	中央小学校	滋賀県大津市
〃	中田小学校	静岡県静岡市
〃	二子小学校	岩手県北上市
〃	新井小学校	東京都中野区新井町

話す能力・聞く能力の方面については，この学年のこの学級の児童についても観察しテストして来ているが，われわれの方法の準備が十分でないうちに時がたってしまうという傾向があるので，さらに次の年 1954 年に入学した児童について1学級を実験学級として依頼して，補充の調査研究をおこなっている。したがって，この調査研究で小学校の部分が終るのは，その 1954 年に入学した児童が卒業するまで，全部で7か年かかることになる。

われわれの実験や観察やテストは，きわめて多方面にわたり，ほとんどが未開拓のものである。われわれは，言語発達の身体的要因を明白にするために，視力検査，聴力検査，運動能力検査をおこなった。知的要因に対していろいろの自作の知能テストを実施した。社会性の発達やパーソナリティの発

達に関しては，面接や質問紙調査や，観察をおこなっている。言語能力の諸面，家庭の言語生活の実態や特に読書生活に関する調査もおこなっている。発音，文字，語い，文法の知識や，読む，書く，話す，聞くの能力のテストは，毎学期ほとんど全部われわれの手で新しいものを作って実施している。そうして，中には，かなりの成果が得られたように思うものもあるが，失敗に終ったものもないでもない。

この第二次報告は，上述のように，文字および文章の読み書き能力の発達を主にしているが，発達の型，発達要因の違いを営むいくつかの事例の報告をのせてみた。また，環境的要因の一つとして，低学年の教科書の分析の一部分や，学習指導実態調査の成果の一部をのせた。どちらも不十分なものであるが，これまで全然試みられていなかったものである。

この報告書の執筆分担は次の通りである。

Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅺ Ⅻ	興水　実
Ⅳ	高橋　一夫
Ⅴ Ⅵ Ⅶ Ⅷ	芦沢　節
Ⅸ	岡本　奎六
Ⅹ	村石　昭三

（興水　実）

I 文を読む能力の発達

A 発達のとらえかた

現在のやり方は，いわゆる文章法（センテンス・メソッド）であるから，小学校入学の当初から文の形をしたものを読む。文を読むことを通して，そこに出て来る文字や語句を習得して行く。

戦後の国語教科書の特性として，はじめに絵ばかりのページをおき，あるいは，絵に僅かの単語をつけたものをおいている。絵について話をしながら，聞くこと・話をすることになれさせ，読むことになれさせ，また，文字をも習得させようとする。いわゆる進んだ学校は，入学当初にはむしろ教科書を取扱わない。生活経験そのものを教材として，聞くこと・話すことの態度・能力の養成をし，それから教科書にはいる。それだけ，読みの学習はあとになる。

それにしても，全体として，文字を読むということは小学校入学の当初，あるいは，かなり早い時期から，はじまっている。しかもその場合，文字の一字一字がまだ十分習得されていないで，むしろ書いてある内容，さし絵，ストーリーの方から文を読んでいるのである。その意味では，まだ本格的な読みの学習とはいえない。

われわれは，五十音清音文字がほぼ完全に習得でき，濁音・半濁音の文字もかなりまで読めるようになる時期を 10 月中旬の１年前期の終りと見て，それまでを「読み方学習の入門期」とした。その入門期からあとが，本格的な，そしてその限り自主的な読みの可能な段階である。

「文を読む能力がついた」とか，その能力が「発達した」とかいうことはどういうことか。それをどういう証拠から押えて行くかということは，われわれの研究の出発点に横たわっている問題である。これについては，

(1) 音読において，文がすらすら読めるようになる。――一字一字の拾い読みでなく，文節に切って，すらすらと読めるようになる。

（音読技能の発達）

(2) 黙って読むことができるようになる。――はじめは，声を出して読んでいる。それがいつ頃からかだまって読めるようになる。（黙読態度の形成）

(3) 書いてあること（内容あるいは意味）を，はっきりと正確にとらえるようになる。（読解能力の発達）

(4) 黙読の速度がだんだんと速くなる。――これはある程度より速くなることはないが，子供の場合，未熟な場合，上達が著しい。

（速度の発達）

(5) 読む本の種類がふえ，領域がひろがる。よい本と悪い本とを見分ける力ができてくる。（読書の発達）

この(5)は別の項で取り扱うこととし，ここでは(1)(2)(3)(4)について，その発達の状況を概観する。

B　音読技能と黙読態度の発達

音読技能は，個人個人についてふだんの指名読みや自由読みの時の流暢さをチェックしたり，読みちがえを記録したりしているが，1年生の第3学期末に全員に対して個別テストを実施し，それから1年後の，2年生の第3学期末にもテストをしてみた。成績を比較するため，2年生の第3学期には1年前と全く同一の問題をまぜておいた。この成果を全体的にいえば，1年生の終りには，文章を文章らしく読む者が 55.0 %であるのに対して，1年たった2年生の終りには 69.4 %になっている。それだけの発達が見出された。

われわれは音読の流暢さを判定するために，

(a) 一字ずつの拾い読み

(b) 語を読んでいる

(c) 文として結んでいる

という三つの段階を設けた。そして小学校入学当初からずっと観察やテストを続けて来た。実験学校において，小学校第1学年入学当初に，文としてだ

いたいすらすら読めた者が約17％ある。他の83％は全然読めないか，一字一字の拾い読みであった。この17％が1年後に55.0％になり，それがさらに1年後には69.4％になったわけである。

文として読む段階まで進んでいるといっても，調子はよいが区切り方がほんとうに正しいかどうか，会話の文と地の文とを読み分けるような態度ができているかなどということを考えると，そこにさらに高次な段階がある。われわれはこの段階において，区切りの不正，読み誤りの数，助言回数，印刷行のとりちがえ，内容理解等をテストの評価項目として採用した。

1年生の第3学期末に読ませ，1年後の2年生の第3学期末に読ませた文章とその実施要領とをあげる。

音読技能検査問題（原文たてがき，以下同じ）

いけのまわりに，子どもが　おおぜい　あつまって　いました。

「なんだろう。あんなに。」

たろうさんは，いそいで　かけて　いきました。

いけの　中には，なわで　しばられた　子ねこが，いまにも　しずみそうに，木のきれはしに　つかまって　いました。

「どうしたの，この　ねこ。」

たろうさんは，そばの　子に　きいて　みました。

「としちゃんの　うちの　おぜんの　上から　さかなを　とって　いったんだって。わるい　のらねこなんだよ。」

そうか，と，たろうさんはおもいました。でも　かわいそうで　しかたが　ありませんでした。

ちょうど　そこへ　こうちょうせんせいが　とおりかかりました。

実　施　要　領

個人検査で．問題文を読ませて(1)―(8)の項目にしたがって記入する。したがって用紙は児童数だけ用意する。整理は個人別成績一覧表と読み誤りの傾向の分類表とになる。

観察評価の項目

(1) 調査者の助言回数（30秒以上つかえていたら．調査者がそのところを読んでやって．次に進む。）――めいめいについてその箇所を記しておく。行の右に～～線をつける。

(2) 語のいれかえの回数――めいめいについて，ある語を読みちがえて，他の読み

方をした場合に右の傍に小さくそれを記入しておく。

(3) 語や文字をぬかした回数――めいめいについてその箇所を（　）でかこんでおく。

(4) 印刷行の取りちがえ――これももし見出された場合には記入しておく。ただし(2)(3)(4)については，自分ですぐに訂正した場合は誤りとして記入しない。

(5) 発音の正確さ――文とし，語としては一応正しく読んでいるのであるが．一々の語音の発音が正確でない場合，それがはなはだしい場合だけ×をつける。

(6) 発声の適切さ――声が大きすぎず，小さすぎず，明瞭で歯切れがよい場合は○ふつうは無印，悪い場合は×。

(7) 読みの流暢さ――読みを

1. 文字1字1字のたどり読みの段階（×じるし）
2. ばらばらな語としての認知の段階（△じるし）
3. 文としての全体分節的な読みの段階（○じるし）にわけて評価する。

(8) 読みとった内容の再生――読後に 次の3つの質問を出して全部に答えられたら○，1つか2つの場合は△，全然できなければ×とする。

(a) 池の中にいたのはなに？

(b) ねこがどうしたの？　どんな悪いことをしたの？

(c) 太郎さんは　どう思ったの？

（実験学校）　音読技能テストの成績（同一問題．同一児童）

項　　目	分　　類	1年3学期末（40名）	2年3学期末（46名）
読みの流暢さ	文として読む	22 (55.0%)	32 (69.6%)
	語として読む	16	13
	一字ずつ読む	2	1
内容の理解	全部出来た	22 (55.0%)	35 (76.1%)
	少しできた	16	11
	全然できない	2	0
読み誤り	印刷行のとりちがえ	5	0
	語の入れかえ	111	54
	脱落		40
	区切りの不正	（　）	36
助言回数		34	3
所要時間		（　）	65.2秒

（　）は測定しなかつたところ

このテストの成果をどこまで信用できるかという問題，特に「文としてすらすら読む」か「語として読んでいる」かということは，判定が微妙で，主観的なものではないかという問題がある。ところがこの人数は，内容の理解において全部できた者の数と，二回ともだいたい一致している。しかもこの人数は同時に行った他のテストの結果によっても支えられている。

その一つは1年生の3学期におこなった黙読態度検査である。それはあとに掲げる問題である。そしてその結果は，

〔態度〕完全な黙読態度のできている者　23 名
　　時々つぶやく，唇を動かす者　10 名
　　音読と余りちがわない，低い声で読んでいる者　7 名
〔理解〕三問完全正答者　22 名
　　少しわかった者　12 名
　　全然理解していない者　6 名

であって，これ等を通して，1年生の終りに約 22名～23 名が文を読む態度能力ができていたといって差しつかえないようである。

黙読態度検査問題

指示（口頭）―この文を声を出さないで，だまって読みなさい。

みなさんは，さるが　水の　中を　およいで　いるのを　みた　ことが　ありますか。　いぬなら，およいで　いるのを　みた　ことが　あるかも　しれませんが，さるの　水およぎは　あんまり　みたり，きいたり　した　ことが　ありませんね。

ところが，このあいだの，子どもしんぶんに，いとうの　おんせんの　やどやで　かって　いる　さるが，おんせんの　あたたかい　水の　中を　およいで　いる　しゃしんが　でて　いました。

そうして，ひとつきに　一かいは，おんせんに　はいって　およがないと，ごきげんが　わるいと，かいて　ありました。ずいぶん　きれいずきの　おさるさんですね。

観察評価――次のどの段階であるかをみる。

0　音読の時と余りちがわない。低い声で読んでいる。
1　時々つぶやく。くちびるを動かす程度
2　完全な黙読

読ませてからの内容理解の質問（口頭で）

(1)　おもしろかったでしょう。なんの話？
(2)　おさるがどうするの？

(3) どこのおさる？　どうぶつえんにいるおさる？

以上の三問について，完全理解○，無理解あるいは誤解×，少し理解している場合は無印とする。

また，1年後の，2年生の終了時に文を流暢に読む者が32名，内容の質問に完全に答えられた者が35名であったことについては，この時は実はもうひとつ，これよりも少しむずかしい文について同じ評価項目で音読技能のテストをしたのであるが，その結果は，

読みの流暢さ	29名（63.0%）
内容理解の完全なもの	9名（19.6%）
少しできたもの	26名
全然できないもの	10名

である。32〜35名には及ばないが，だいたいそれに近い。このことから，音読技能は，ある一定段階に到達すれば，一つの獲得された技法であって，文章の内容にかかわりがないということもいえそうである。むずかしい，やさしいは内容にかかわることで，音読技能が獲得されれば内容のむずかしい文でもすらすら読めるということがいえそうである。とにかく，2年生終了時には30名ぐらい，あるいはそれ以上のものが文をすらすらと読むようになっているということができる。

ここで，上掲の1年生の終りと2年生の終りとの音読技能テスト成績をもう少し内容に立入って比較してみると，

(1) 印刷行をとりちがえる者は全然なくなっている。

(2) 読みちがえ（語の入れかえ，脱落など）は案外減っていない。

(3) 助言の必要はほとんどなくなっている。

という3つのことが目立っている。もちろん，その読みちがえかたは多少変って来ている。また，これを個人個人についてみると，いわゆるそそっかしい，読みちがえの多い読みでありながら，全体としては流暢で，内容も正確にとらえている者がある。逆に，読みちがえはほとんどないくらいていねい

に読んでいるが，それだけのことで，かえって流暢さを欠き，内容の理解が伴っていない者もある。印刷行の取りちがえは1年生の，それも，劣生だけに見出されている。

この音読技能および黙読態度について各地協力学校からの報告によると，農村地帯の学校ではこうした発達が非常におくれているようである。しかしこれについては，評価者がちがうのでその数字を比較しないことにする。

C　黙読速度の発達

低学年における読速度の発達を概観すると，入門期が終ってようやく文の読みにはいった1年生の 12 月末には1分間約120字である。1年後の2年生の12月末には1分間約240字になる。（やさしい漢字まじり文で）

2年生の 12 月から3月となり，さらに3年生に進んでも，それは，どんどん増加している。

これについては，われわれは，次のような検査を実施した。

読書速度テスト問題

つぎのぶんを　できるだけ　はやく　よんでいって，あとの　しつもんに　こたえなさい。

ひとつ　やりおわったら　つぎを　やりなさい。「やめ」と　いうまで　どんどんよんで　いきなさい。

れんしゅう　(1)

けさは　びっくりする　くらい　はやく　おきました。
おかあさんが　ごはんを　たいていました。
そとに　でて　みると，まだ　まっくら　でした。

けさは｛はやおきを　した
　　｛あさねを　した
　　｛ごはんを　たいた

(2)

がっこうから　かえって　べんきょうを　しました。
それから，かっちゃんを　さそって　みっちゃんの　うちへ　あそびに　いきました。
みんなで　ごむとびを　しました。

なにを　してあそんだか。{おみせ　ごっこ / かくれんぼ / ごむとび}

もんだい　(1)

きょうは　うんどうかいでした。4年生の　つぎに　わたしたちの　ばんに　なりました。どんと　ぴすとるが　なりました。わたくしは　いっしょうけんめい　はしりました。だれかが，わたしの　まえを　はしって　いましたが，だれだか　わかりません。わたくしは　2とうで，1とう　は　かとうさん　でした。

わたくしは　なんとうでしたか。{一とう / 二とう / 三とう}

(2)

あさ，にわの　そうじを　しました。おちばが，たくさん　ありますから，とても　たいへんです。おかあさんに，てつだって　いただきました。おとなりの　おばさんが「まあ　ひろむさん，きれいにして　くださって，ほんとうに　ありがとう。」と　おっしゃいました。わたくしは　うれしく　なりました。

「ありがとう」といったのは　だれですか。{わたくし / おかあさん / おとなりの　おばさん}

(3)

きょうは　さむいので，おともだちも　あそびに　きません。わたくしは，一日じゅう，うちの中で　べんきょうを　していました。おかあさんが，「きょうは，　よく　べんきょうが　できましたね。」と　いって，おしるこを　つくって　くださいました。おいしくて，三ばいも　たべました。しゅくだいも　すっかり　すみました。

おかあさんは　なにを　つくってくれましたか。{おぞうに / おだんご / おしるこ}

(4)

ばんごはんを　たべた　あとで，おとうさんと　すもうを　とって　あそびました。ぼくが　まけると，おとうとが　たすけに　きます。おとうとが　まけると，ぼくが　たすけに　いきます。ふたりで　いくら　ちからを　だしても，おとうさんには　かないません。でも．二かいだけ　おとうさんに　かちました。

おとうさんに　かったのは　なんかいですか。{一かい / 二かい / 三かい}

(5)

まつむらさんが　やすんで　いるので，くみの　みんなの　おみまいの　てがみを　もって，せんせいと　いっしょに　おみまいに　いきました。まつむらさんは，おとうさんも　おかあさんも　おつとめで，ひとりで　ねて　いました。わたくしは，まつむらさんが　はやく　よくなって，がっこうへ　こられるように　なると　いいと　おもいます。

まつむらさんの　おかあさんは　どこに　いきましたか。{ がっこう / おつとめ / おつかい }

(6)

おもてに　でて　みたら　みんなが　ふうせんを　ついて　いました。かぜに　ゆられて　ふっと　おりてきます。おもしろそうに　うけとりっこを　して　いました。ぼくも　ほしくなって，おかねを　もらって，いそいで　かいに　いきました。けれども　ふうせんが　なかったので，こまを　かって　かえりました。

ぼくが　かったのは　なんですか。{ ふうせん / たこ / こま }

(7)

きょうは　せんせいに　さんすうの　テストを　かえして　いただきました。みると　ひゃくてん　でした。ぼくは　うれしくなりました。となりの　のぶこさんは　一つ　まちがえて 90 てんでした。みっちゃんは　80 てんでした。ぼくは　はやく　おうちに　かえって　おかあさんに　みせたくなりました。

のぶこさんは　なんてんでしたか。{ ひゃくてん / 90 てん / 80 てん }

読書速度テスト手引

目的　(1)　文字負担のない内容のわかりやすい文を どんどん読ませて，3分間の読字量を調べる。

(2)　現在の2年生については，3月にテストしたものがあるので，なるべく それと同じものを使い（その分量をふやし），それからの発達が見られるようにする。

(3)　新しい1年生も，文が少し読めるようになったところであるから，どのくらい読めるか，全く同一の条件でやってみる。

方法　(1)　集団テストである。

(2)　やり方をのみこまるため，はじめに練習する。

実施上の注意

(1)　筆箱だけ出させる。下じきはいらない。

(2) はじめに練習をして，その紙は集めてしまう。

(3) 1年生には練習を念入りにやる必要がある。

途中のテストに○をつけること，読み終ったところに レじるしをつけること，一つ読んでしまったらどんどん次をやって行くことを，よくのみこませる。

(4) テスト用紙はとじて裏返しにしてくばる。テストの管理上，名前は裏に書かせる。

(5) 「用意はじめ」で読ませ，正確に3分で「やめ」という。からだを起して読んだところを指でおさえさせる。

(6) そして，赤あるいは青鉛筆で，大きく レじるしをつけさせる。それをまた指でおさえさせて，しるしを確認してから集める。

整理の方法

(1) 各人について，テストの正答・誤答と，読めた行数とを調べて，一覧表を作る。

氏名	も		ん		だ		い		計	読めた行数
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(7)				
a	○	○	○						3	21
b	○	×	○	○					3	30
c	○	○	○	○					4	28
d	○		×						1	23

(2) 正答は○，誤答は×，無答は無印とする。

(3) 読めた行数については，テスト問題はそれぞれ1行に数える。各問はみな7行．全体で 49 行である。

(4) 行の途中に レじるしのある場合は，四捨五入によって切り捨てるか1行と数えるかする。

(5) ほとんど全部が誤答か無答であって，内容を考えながら読んだと見なし難いものは．集計から除く。

D 黙読理解の発達

短い文章で，そこにだれとだれが出て来るか，どんな情景かをたずねる。その程度のことは，文の読みが開始されればすぐわかるようになる。が，まとめてどういうか，どういう筋であったかということは少しむずかしい。文の，隠れた意味をつかむとか，叙述の細部に注意するということは，もっとむずかしいことで，2年終了時ではまだ十分でない。

完全に同一の問題で同一条件で調べたところでは，1年生終了時に57.3点

であったものが，2年生の終了時には 71.8 点になって， 14.5 点の上昇であった。これはどちらも，文の話の筋の理解にかかわるテストである。

1 年生終了時と 2 年終了時とにテストした問題

問 題 (1)

けさ，うちを でる とき おかあさんが，「かさを もって いきなさい。」と，いいましたが，おてんきだったので，かさを もたないで，がっこうに きました。

かえる ころに なって，きゅうに あめが ふって きました。もし わたくしが おかあさんの いう とおりに かさを もって きたら，

あめが ふっても { こまったでしょう。 / こまらなかったでしょう。 / ぬれたでしょう。 / とんでかえりました。 }

問 題 (2)

どれが よく つづくか（ ）の中に じゅんばんの ばんごうを つけなさい。

たくさん ゆきが ふったので，ゆきだるまを つくりました。

（ ）それから，ちいさな たまを つくって，その うえに のせました。

（ ）おわりに，めを いれたら，かわいい ゆきだるまに なりました。

（ ）はじめに，からだに する おおきな たまを つくりました。

この正答率を，実験学校だけでなく，他の協力学校の方も加えてくらべると次のようになる。

	(問題1)	(問題2)
(校名)	29年3月～30年2月末	29年3月～30年2月末
Y	56.1～67.4	58.5～76.1
N	31.3～63.6	62.6～72.7
H	60.0～72.0	50.0～92.0
K	38.3～68.1	48.9～78.7
S	37.6～71.4	32.2～77.6
	44.7～68.5	50.4～79.4
	(329名) (225名)	(329名) (225名)

この表で目立っていることは，協力学校（それも農村地帯のであるが）では，1年の時の点が悪いところがあるが，2年の終了時には，どこも大きな差がなくなっていることである。

もうひとつ，この期間に同一問題でテストを実施して，読解力の発達の度

合いを調べたものがある。

それは，もう少し長い文で，教科書にもよく出る類型の文である。設問は細目の理解とか大要の理解というべき，やや高級な問題であるが，これについて，2年生の第1学期末は 35.5 点であったのが，約8か月後の2年生終了時には 50.4 点になった。約 15 点の上昇である。この方が，期間に比して上昇率がいい。これは，最初の2年生の第1学期末の得点が非常に悪かったからである。そして，こうした問題を解決する能力は，この時期にはまだ出来ていないが，2年生終了時になるとようやく出来て来るものといってよいであろう。

2年生の第1学期と2年生終了時とにテストした問題

「まさおさん，おつかいにいってきてちょうだい。」と，おかあさんがいいました。まさおさんは，「はい。」といって，すぐにでかけました。

とちゅうで，じろうさんにあいました。

いちばのそばでさーかすがにぎやかなおんがくをやっていました。

まさおさんは，じろうさんといっしょにさーかすのかんばんにみとれているうちに，おつかいをわすれてしまいました。

「まさおさん，どこへいくの。」みると，よしこさんがにこにこしながらたずねました。よしこさんは，おかあさんとおつかいにきたのでした。

「あっ，ぼくおつかいにきたんだっけ。」まさおさんは，おつかいをおもいだして，あわててかけだしました。

(1) おかあさんはだれのおかあさんですか。

1. まさおさんの　おかあさん
2. よしこさんの　おかあさん
3. じろうさんの　おかあさん
4. しらないうちの　おかあさん

(2) このおはなしでまさおさんのしたことを4人のひとがはなしました。だれのがいちばんいいですか。

1. まさおさんはじろうさんといっしょにたのしくあそびました。
2. まさおさんはさーかすがすきでさーかすをみにいきました。
3. まさおさんはおつかいのとちゅうであそびましたがよしこさんにあっておつかいをおもいだしました。
4. まさおさんはおかあさんにようじをたのまれるとすぐ「はい。」というかんしんなこです。

上に掲げたのは，2年生の終了時にちょうど50点ぐらいとれる，その意味での学力水準をあらわす問題文と設問である。他に，同様50点とれた問題文を掲げる。

2年生終了時の水準を示す文と設問

大きないろりに赤い火があたたかそうにもえています。ろばたにこしかけて，いちろうと，じろうと，ちよ子は，おかあさんから，雪ぼうずの話をきいていました。

「あるおばあさんが，ゆうがた遠くへおとうふを買いに行って，とちゅうで，道がわからなくなってしまったの。こまってぼんやりしていると，向こうに，まっ白い目もはなもない，のっぺらぼうのかおをしたぼうずが立っている。はっとしたとき，もうそれは見えなくなったが，いつのまにか，手にさげていたかごの中のおとうふがすっかりなくなっていたんですって。」

「そんなおばけなんかうそだい。」

と，じろうが言いました。

ろの上にかけてあった鉄のなべが，ぐつぐつと音をたてはじめました。

これに対する設問は，2題あったが，どちらもだいたい 50 点であった。

(1) 雪ぼうずの話をした人はだれか，きいていた人はだれか。（　）の中に書きこみなさい。

話をした人　（　　）

きいていた人（　　）

(2) これだけの話に題をつけるとしたら，どれがよいか。よいと思うものの上に○をつけなさい。

ろばた

鉄のなべ

雪ぼうず

おかあさん

3人の子供

これに対して1年前の，1年生終了時に 50 点だった文とその設問はもっとずっと簡単なものである。

1年生終了時の水準を示す文と設問

つぎの　おはなしを　よんで　あとの　しつもんに　こたえて　ください。

りすが，きに　のぼって，くりを　たべていました。

こぐまと　おさるが　とおりました。

「おうい。ここに　ごちそうが　あるよ。あげるから，たべて　いかないか。」

「やあ，くりだ。ありがとう。」

みんなで，なかよく　くりを　たべました。おひさまが　わらいながら　みて　いました。

「おうい。ここに　ごちそうが　あるよ。あげるから，たべていかないか。」と　いったのは，つぎの　うち　だれですか。

よいと　おもう　ばんごうの　うえに　一つだけ　○をつけなさい。

1. こぐま
2. りす
3. おひさま
4. さる

この二つの文と設問とを比較すれば，小学校1年生終了時の読解力の段階と2年生終了時の段階とを，かなりはっきりとつかむことができるであろう。

Ⅱ 文を書く能力の発達

A 発達のとらえかた

1年生の第1学期末では，ひらがな五十音文字をやっと身につけた程度であるから，誤字・誤記が多い。題目を出して書かせても，文はぽつりぽつりと切れていて，全体のまとまりが弱い。第2学期になると，ずっとよく書けるようになるが，飛躍的な発達が見られたのは，われわれの実験学校実験学級の場合では，2年になった時である。

われわれの研究資料として，1年生の第1学期末には「ともだち」，第2学期末には「わたくしのうち」，第3学期末には「せんせい」という題で，いつも30分間書かせた。2年生になっても各学期に，これと同じ題で，書かせた。これは，この時期の子供たちにもっとも書きやすい題であるつもりで選んだ。毎学期の題がちがっているので，これ等のすべてを同列におくことは困難であるとしても，同じ題のものについて形式面だけでなく内容的な，物の見かた，とらえかたの成長も調べることができるはずである。

以下，分量の発達，誤りの減少の実際，句読点の発達，まとまりの発達，物の見かた考えかたの発達に分けて調べてみよう。

B 分量の増加

第1学期「ともだち」，第2学期「わたくしのうち」，第3学期「せんせい」という30分間の課題作文について，書いた文字数は，それぞれ次のようである。（平均文字数）

	1年生 1学期末	2学期末	3学期末	2年生 1学期末	2学期末	3学期末
文字数平均	66	198	244	375	346	345
人数	34	36	37	42	44	43

この限りでは2年生の第1学期末で頭打ちになっている。題目別にすればすべて延びているが，題目を無視して同等のものと見れば，あとは伸びていない。結局，この期の子供が30分間に書けるのは400字ぐらいまでであること，

および，三つの中では「ともだち」という題が一番長く書きやすい題であることがわかる。

C　文字や文法上の誤りの減少

形式面の発達を見るために，文字や表記の上での誤りの多い者，文章構造の不完全な者の人数を調べた。これはそういう傾向が目立った者の数である。「目立った」という点では多少は主観的なものがはいる可能性がある。このことについてはほんとうは，誤りの件数を調べて，それぞれの分量で割ればよい。しかし，それは，客観的ではあるにしても，あるひとりの人が長い文を書いてたくさんのまちがいをしていれば，全体の数が多くなることもあるという欠点がある。そこでここでは，件数でなく人数で行くことにした。その人数に関する限り正確であるが，多少主観的だというのは，検査者に目立たないような小さい誤りは無視され，検査者の立てた基準によっているという意味である。（ただしこの表に関する限りは同一の検査者である。）

作文にあらわれた文字・文法上の誤り

検査項目	1年1学期	2学期	3学期	2年1学期	2学期	3学期
(1) かなに判読に困難するものがある。誤字がある	7	5	5	2	5	2
(2) 拗音・促音・長音の表記の不完全なものが目立つ	7	12	12	16	6	4
(3) 一般に語の表記の不完全。脱字，増字。	6	8	14	9	12	17
(4) 文法的な活用などの誤り	3	5	3	6	6	2
(5) 主・述の不分明	0	2	7	5	6	4
(6) 助詞「は」の誤り（わ）	5	5	6	5	9	8
(7) 〃「へ」（え）	0	7	0	5	3	4
(8) 〃「を」（お）	12	13	6	12	12	9
(9) 余分の接続詞。「そして」「それから」ばかり使う	0	9	5	4	2	2
(10) 全体の文章をほとんど切らないで続けている。「…たら…たら…ので…」	0	3	0	2	1	2
人数	34	36	37	42	44	43

この数字(人数)を見て，ずっと減って行っているものは，(1)と(9)である。(9)は1年の第1学期が零であるが，この時の「ともだち」という作文は，まだ作文になっていないで，友達の名前を列挙したものが大多数だから，「そして」も「それから」も出て来ないのである。(2)の促音などの表記も2年の第1学期を例外とすれば，だんだんと上達している。

その他の点について大した変化が見出されないのは，だんだんと書く分量が増し，それだけ誤る可能性が多くなっているからであろう。

D 句読点の発達

1年生の第1学期末にも，句点を打っている者はあるが，読点をも使っている者はない。句点を使っていた者の文は，内容的にもだいたい課題に合い，話の筋が通っていた。句読点を正しく使うということは，1年生2年生の段階では陳述意識というか，敍述能力というか，そういう能力と深い関係があるようである。

次は，各段階におけるその正しい使い方をしている人数の比率である。

1年生 1学期末	2学期末	3学期末	2年生 1学期末	2学期末	3学期末
32.4%	47.2%	51.4%	64.3%	68.2%	81.4%

これによって，2年生の終了時には，学級の80%の者が句読点をだいたい正しく使うことができるようになっているといえる。

E まとめる能力の発達

文がまとまっているかどうかということの判定には主観がはいりやすい。が，子供の文にはごたごたとして話の筋のわからないのがあり，それが，だんだんと筋の通った文になって行くことはたしかである。

そこで，同一の判定者によって，話の筋が通っていて読んでまとまった印象の得られる者の数を調べた。これについては，1年生の第1学期の「ともだち」はほとんどの者が筋を持っていないので数えないことにした。(数字は比率)

1年生 2学期末	3学期末	2年生 1学期末	2学期末	3学期末
41.7%	35.2%	52.4%	54.5%	62.8%

この数字でみると，1年生の3学期末が案外悪い。「せんせい」という題の時には，学年末ではあるし，書き手の感情が強く動いている。子供が感情的に興奮している。だから分量も少なかったし，ここに見出されるように，順序を追って冷静に述べにくいもののようである。

そして，1年生の3学期末が悪かったからか，2年生の第1学期末の上昇が目立つ。

まとめる能力の発達を見るために，逆に，題目に合わないよけいなことがまぎれこんでいるもの，内部の順序が逆になってそのためにとらえにくいものの人数を調べた。

1年生 2学期末	3学期末	2年生 1学期末	2学期末	3学期末
55.6%	56.8%	40.5%	29.5%	32.6%

これをも考え合せると，1年生の段階ではまだ順序のはっきりしない，余計なことのはいりこんだ文を書く者が半数以上いる。2年生になるとその数はずっと減って来る。

以上のようにして，2年生終了時において，句読点をだいたい正しく使う者が80%あり，内容のまとまりはそれと完全に一致しない，それよりやや劣るが，60～70%の者が，筋の通った，わかる文を書けるようになっている。

F　物の見かた・考えかたの発達

1年の第1学期の最初の作文では，「ともだち」という題で，「○○さんとあそびました。○○さんとあそびました。」という単純な羅列が多い。2年の1学期になると，「どんなことをしてあそんだか」それが書いてある。その時でも，まだ，自分がどういうことをしたとか，自分がおもしろかったとかいうように，自己中心のものが多い。そしてそれを通してむしろ友だちの

ことを描き出そうとしたり，もっと説明的に，自分にはどういう友だちがいるということを書いたりする者が少し出て来ている。

われわれは，上述のように，「ともだち」と「わたくしのうち」と「せんせい」と三つの題で書かせた作文を資料として持っているのであるが，このうち，1年1学期は，文字力が低く，書く習慣ができておらず，そのために想が十分に開展していない。したがって，これを2年生の時と比較するのはよろしくない。

また，「せんせい」については，ちょうど学年末に実施するために，受持の教師への感情がなまのまま入りまじって，その点から見ればおもしろい資料であるが，どうも内容的に偏っているように感じられる。そこで，次には，第2学期の「わたくしのうち」について，内容的に分類したものを掲げて，1・2年を比較することにする。

作文「わたくしのうち」の内容的分類

	1　年	2　年
(1)　うちのことには全く関係がなく，自分のしたことばかり書いているもの	11	0
(2)　うちの人も出て来るが，自分のしたことが中心のもの	9	12
(3)　うちの中の事件，たとえば父のみやげ，来客など，もちろん自分も登場する	6	12
(4)　うちに飼っている動物	8	2
(5)　家族・家庭・家の場所，家の歴史などの説明	1	14

(1)は全然題意に合っていないものである。それが1年生の2学期末には11名あった。しかし1年後にはそれは全くなくなっている。(2)も少し題意に合っていない。両者を合計すれば，1年生の2学期末では約60％近くが題意を解さないとも，陳述目的がはっきりしていないとも，いわなければならない。

2年生になると，(4)が減って(5)がふえている。(4)の内容として，1年生の時は，たいてい犬か猫である。2年生の2人は，猫とにわとりである。

(5)について，1年生の時のひとりは，「わたくしのおとうと」をとりあげてその子のことがわかるように書いている。これに対して2年の 14 名は非常に変化に富んでいる。内訳は，

家族の説明　6
家のくらし，職業の説明　4
家の場所，家の歴史など　4

であって，このように，家のくらしのことが出て来ているところにも，生活や精神の成長が感じられる。

全体として，1年生から2年生になるにしたがって，次のような特徴が見出された。

(1) 注意の向けかたが自分個人のことばかりでない。家族・家庭のことを考えて来る。

(2) 課題（文題）に合わせようとする。

(3) 説明的な態度が出て来る。

この(3)のことは，文の書き出しによくあらわれている。1年生の時の作文は，たいてい，

「きのう……」
「ぼくは……」
「がっこうからかえって……」

である。そしてその調子で貫かれている。2年生では，ほとんどが，

「わたくしのうちでは……」
「ぼくの家は……」

になっている。そして，家族や家庭に気をくばりながら，やがて，ぼく，わたしのしたことが中心になる。「きのう……」といった書き出しの作文もあるが，その中に家族が顔を出す。しかも，こうした書き出しは非常に少ない。ほとんどが家族・家庭の説明からはいっている。このように，説明的になることが，作文としてよいことかどうかは別として，とにかくそういった傾向が見出される。

G　作文評価の観点と処理の実際

以上は，実験学校のわずかの人数の分析から得た結論である。われわれはこれと同じことを各地の協力学校でも実施してもらった。そうして毎学期，各個人について五段階法で評価をして，個人個人の発達，他の諸能力との関連を調べた。その成果の一部分は，この報告では，事例研究のところや，言語能力決定の要因分析のところに出ている。次に，そうした場合の作文の検査の実施の手引きと，評価結果の一例を掲げる。

作文の実施の手引

1　方　　法

学級で，ふつうの時間に，きめられた題「ともだち」によって，文をかかせる。

2　原稿用紙

別掲のようなます目のものを用いる。

3　実施上の注意

(1) みなさんのともだちについて，なんでもよいからかいてください　といって，あまりこまごまとした説明や指示は与えない。

(2) 字をきかれても教えないで，かけない字は，ぬかしておかせる。

(3) 用紙が一枚で足りないものは，いるだけ与える。

(4) 制限時間 30 分。時間内にかけるだけかかせ，かきかけでも，時間がきたら，出させる。

4　評価のしかた

子供の作文の全部を以下の分類にもとづいて，五段階に分ける。できれば，それぞれの子供についての特色や，概評をあげることが，のぞましい。

分　類

1　言語上の誤りが多いか，少ないか。(文法上，語い上，文字および表記法上)

2　題意に合っているか，題意をとりちがえ，途中から題意からはずれるようなことがあるか。

3　文としてまとまっているか，単なる羅列か。

4　分量についても，多少考慮する。

配　点

5点，4点，3点，2点，1点

作品の処理（実験学校の実例）

1　評価観点

i　題意に合っているか，題意をとりちがえ，途中から題意からはずれるようなこと

があるか。

ii 文としてまとまっているか。単なる羅列か。

iii 言語上の誤りが多いか，少ないか。（文法上，語い上，文字および表記法上）

iv 分量についても多少考慮する。

2 評価結果

A （5名）評点5

1. 友だちの一人あるいは数人をえらんで，その人のこと，その人との交渉などを書いている。
2. 意味が通って要領を得ている。
3. ，。を使っている。
4. 文字もしっかりしていて読みやすい，誤りも少ない。

B （8名）評点4

1. 友だちの名をあげてその人との遊びを書いている。遊び方が主になっている。
2. 意味は通っている。
3. ，。を使い，あるものは分ち書きをしている。
4. 文字もしっかりしていて誤りも少ない。

C （19名）評点3

1. 友だちの名をあげて遊びを中心に書いているが，中心がはっきりしない。
2. 意味のよく通じないところも出てくる。
3. たいてい ，。を使っている。

D （10名）評点2

1. 自分の遊びを主にして書いている。
2. 意味がよく通じない。
3. やたらに。をつけたり，ずっと続いて切れ目のないものがある。

E （3名）評点1

1. 自分の遊びを書いている。
2. かなの判読にも苦しむ。

Ⅲ 語い能力の発達

A 小学校低学年の語いの接近•把握の特殊性

小学校入学時の語い能力については，これまでいくつかの調査があり，それに基づいて一般に，理解語い（聴解語い）5,000 語，使用語い 3,000 語と見なされている。しかし，そうした語い調査の成果の中の 2,000 語段階にある語いを選んで，やや正確な内容理解を求めた時には，正答率は 40〜50 % になるということは，われわれが，前の『入門期の言語能力』で報告した通りである。

われわれは，それについて，1 年生の終了時において，その語いへの接近および把握の特殊性を求めるために次のようなテストをおこなった。すなわち，「わけはどれでしょう」という問題 27 題と，「どのいいかたがいいでしょうか」という問題 13 題で，語いはやはり，従来の語い調査の 2,000 語段階のものから選んだ。

語い検査の問題　（昭和29年 3 月10日実施）

I　つぎのことばの　わけは　どれでしょう。　○を　つけなさい。
（れんしゅう）

どうぶつ
① いぬや　うまなどの　こと。
② ひとや　いぬ　うまなどの　こと。
③ いきて　いる　もの。

(1) うわさ
① うるさい　こと。
② ひとの　はなし。
③ うわべ。

(2) さいご
① なんにも　ない。
② いちばん　はじめ。
③ いちばん　おしまい。

(3) せいねん
① わかい　ひと。
② にいさん。
③ はたらいて　いる　ひと。

(4) ちり
① たべものの　くず。
② どろ。
③ ごみ。

(5) ばんとう
① おみせで つかって いる ひと。
② ばんにん。
③ おみせやさん。
(6) めいわく
① しんぱい。
② こまる こと。
③ ありがたい こと。
(7) はやくち
① おしゃべり。
② おはなしの しかたの はやい こと。
③ ごはんを たべるのが はやい こと。
(8) よくじつ
① つぎの ひ。
② あさって。
③ らいねん。
(9) しがい
① どうぶつの ほね。
② しんだ ひとを うめる こと。
③ しんだ どうぶつの からだ。
(10) やまい
① あめが やむ こと。
② びょうき。
③ くろい。
(11) なかなおり
① けんかを やめる こと。
② けんかしてから また なかよしになる こと。
③ けんかを とめる ひと。
(12) みはらし
① とおくの けしきが みえる ところ。
② やまの てっぺん。
③ ゆうえんち。
(13) いかる
① いばる。
② おこる。
③ けんかを する。
(14) ともす
① あかりを つける。
② いっしょに いく。
③ ひを もやす。
(15) つげる
① わるくちを いう。
② しらせる。
③ きく。
(16) はげむ
① いっしょうけんめいに やる。
② しごとを する。
③ べんきょうを する。
(17) あわれな
① かわいい。
② やさしい。
③ かわいそうな。
(18) すなおな
① げんきの いい。
② こころの まっすぐな。
③ すばしっこい。
(19) そまつな
① すこししか ない。
② じょうとうで ない。
③ ひとに あげたく ない。
(20) せんめんき
① ばけつ。
② おべんじょ。
③ かおを あらう とき みずを いれる どうぐ。
(21) おがわ
① ゆっくり ながれる かわ。
② ちいさい かわ。

③ おおきな かわ。

(22) どて

① かわの そばの たかい みち。

② わたいれの きもの。

③ どろ。

(23) たび

① ぼくは ゆうべ おばあさんの うちへ たびに いって きました。

② おとうさんは うちで ひろい たびに でます

③ ふたりは ふねで ながい たびに でました。

(24) そだてる

① おもりを する。

② おおきく する。

③ たねを まく。

(25) のぞく

① こっそり みる。

② いじわるを する。

③ おしえて もらう。

(26) やがて

① きゅうに。

② ながい あいだ。

③ すこし たって。

(27) いちめんに

① じめん。

② どこもかも。

③ そら ぜんたい。

Ⅱ どの いいかたが いいのでしょうか。 ○を つけなさい。

（れんしゅう）

ねすごす
① きょうは つかれたから はやく ねすごす ことに しよう。
② まいにち ねすごすと きもちが いい。
③ きのう おそかったので けさ ねすごした。

(1) さえずる
① けさは，ことりの さえずる こえが よく きこえる
② きを つけないと，きものを さえずりますよ。
③ たろうさんは きょうしつで さえずって こまります。

(2) ゆずる
① その ほんが あいて いたら，すこしの あいだ わたしに ゆずって ください。
② その ほんが いらなく なったら，わたしに ゆずって ください。
③ この ほんは たいへん おもしろいから，なかよく ゆずりましょう。

(3) ついらくする
① わたしは あんまり はねて せなかの あかちゃんを ついらくした。
② ぼくは わきみを して あるいたので，みずたまりに ついらくした。
③ じどうしゃが はしの うえから かわの なかに ついらくした。

(4) いきいき
① おねえさんは びょうきが なおって，いきいき した かおを して います。
② いぬが くるしそうに はあはあと いきいき して います。
③ にわの はなに みずを やらなかったので，しおれて いきいきして いる。

(5) いちもくさん
① きしゃが いちもくさんに はしって います。
② がっこうから かえると，いちもくさんに べんきょう します。
③ てきは いちもくさんに にげて いきました。

(6) ありったけ
① あさねを して おくれそうに なったので，ありったけ いそいで がっこうへ いきました。
② おまつりに おこづかいを ありったけ つかって しまいました。
③ この とんねるは にっぽんで ありったけ ながい とんねるです。

(7) ひさしぶり
① 1ねんせいに なったと おもったら，ひさしぶりに 2ねんせいだ。
② ふねに のった ことが ないから，ひさしぶりに のって みよう。
③ なんねんも あわない おじさんが ひさしぶりに いらっしゃいました。

(8) じょうひん
① あのひとは，ちからが あって，いばって いて，じょうひんな ひとだ。
② おとうとは げんきがあって，らんぼうで じょうひんな ことばを つかいます。
③ となりの おばさんは しずかで じょうひんな ひとです。

(9) とんでもない
① とんでもない ことを して，すみませんでした。
② とんでもない ことをして，ありがとう ございます。
③ とんでもない ことを して，いい きもちに なりました。

(10) やっかいな
① やっかいな ことが おこって，うれしく なりました。
② やっかいな ことが おこって，ほんとに こまりました。
③ やっかいな ことが おこって，らくに なりました。

(11) にわかに
① あめが やんだと おもったら，にわかに ひが さして きました。
② あんまり いそいで つかれたので，にわかに あるきました。
③ おはなしが みじかくて よく わかりません。もっと にわかに はなしてください。

(12) すれちがう
① ふたりは すれちがって いっしょに あるいた。
② きしゃが すれちがって ずんずん みえなく なった。
③ おともだちの くつを すれちがって はいて きた。

(13) しばらく
① ぼくは しばらくで がっこうへ いきます。
② おかあさんは おつかいに でかけました。しばらく かえります。
③ しばらく まって いて ください。いっしょに いきましょう。

Ⅰの定義の方の実験学校における成績は平均43.6％の正答である。

男子	うわさ			さいご			せいねん			ちり			ばんとう			めいわく		
	1	②	3	1	2	③	①	2	3	1	2	③	①	2	3	1	②	3
1	○					○			○			○		○		○		
2	欠																	
3		○				○			○			○	○				○	
4		○				○	○					○		○		○		
5		○				○			○			○	○				○	
6	○					○			○	○					○	○		
7		○		○					○			○	○				○	
8																		
9		○				○			○			○		○		○		
10	○					○	○					○		○				○
11	欠																	
12		○			○				○		○			○				○
13	○					○			○			○	○				○	
14																		
15	欠																	
16		○				○		○				○			○		○	
17	○					○	○					○		○			○	
18																		
19																		
20		○							○					○				○
21		○			○		○					○			○	○		
22																		
23		○				○			○	○				○			○	
24	○			○					○			○		○		○		
25		○				○		○				○	○				○	
計	6	⑪	0	2	2	⑫	④	2	11	2	1	⑬	⑤	9	3	6	⑧	3

男子	はやくち			よくじつ			しがい			やまい			なかなおり			みはらし			いかる		
	1	②	3	①	2	3	1	2	③	1	②	3	1	②	3	①	2	3	1	②	3
1	○				○		○					○	○			○				○	
2																					
3		○		○					○			○		○		○			○		
4		○		○					○	○			○				○		○		
5			○		○				○	○				○		○			○		
6			○	○				○		○					○		○				○
7		○		○			○			○				○			○				
8																					
9	○			○				○		○			○				○		○		
10		○			○				○	○				○				○	○		
11																					
12			○			○	○			○					○			○		○	
13	○			○				○		○			○				○			○	
14																					
15																					
16			○	○				○			○		○			○			○		
17		○				○			○	○			○			○			○		
18																					
19																					
20			○			○			○	○					○			○		○	
21	○					○		○		○				○		○			○		
22																					
23		○		○				○		○				○			○		○		
24		○		○				○				○		○			○		○		
25		○		○			○			○				○		○			○		
計	4	⑧	5	⑩	3	4	4	7	⑥	13	①	3	6	⑧	3	⑦	7	3	11	④	1

男子	と	も	す	つ	げ	る	は	げ	む	あ	わ	れ	な	す	な	お	な	そ	ま	つ	な
	①	2	3	1	②	3	①	2	3	1	2	③		1	②	3		1	②	3	
1			○		○		○					○			○					○	
2	欠																				
3			○		○				○			○			○					○	
4	○				○		○					○		○						○	
5	○				○			○			○					○		○			
6		○			○				○			○			○				○		
7			○									○			○				○		
8																					
9	○			○				○				○				○				○	
10			○	○					○			○			○				○		
11	欠																				
12		○			○				○			○		○				○			
13	○				○		○			○					○				○		
14																					
15	欠																				
16			○			○	○					○		○				○			
17	○			○				○				○			○					○	
18																					
19																					
20		○			○				○			○			○			○			
21	○					○			○		○					○				○	
22																					
23	○				○		○					○			○				○		
24	○				○			○				○		○					○		
25	○				○			○				○			○					○	
計	⑨	3	5	3	⑪	2	⑤	5	6	1	2	⑭		4	⑩	3		4	⑥	7	

男子	せんめんき			おがわ			どて			そだてる			のそく			やがて			いちめんに			計
	1	2	③	1	②	3	①	2	3	1	②	3	①	2	3	1	2	③	1	②	3	
1		○		○				○			○		○				○			○		11
2																						欠
3		○		○					○	○			○				○			○		15
4		○		○					○		○		○			○			○			15
5	○					○	○					○	○			○			○			13
6	○				○			○			○				○		○		○			9
7		○				○	○				○		○				○			○		14
8																						
9		○		○				○			○		○			○				○		9
10	○			○			○				○		○				○			○		12
11																						欠
12		○				○	○					○			○		○			○		6
13		○		○			○				○		○			○				○		15
14																						
15																						欠
16		○			○		○					○	○			○				○		13
17		○		○			○			○			○					○	○			15
18																						
19																						
20		○				○		○		○			○				○			○		8
21		○			○				○	○					○			○		○		9
22																						
23		○		○			○				○		○			○				○		16
24		○				○	○			○			○				○		○			12
25		○		○					○		○		○			○				○		16
計	3	0	⑭	9	③	5	⑨	4	4	5	⑨	3	⑭	0	3	7	8	②	0	⑤	12	208

女子	うわさ			さいご			せいねん			ちり			ばんとう			めいわく		
	1	②	3	1	2	③	①	2	3	1	2	③	①	2	3	1	②	3
1			○	○				○				○		○			○	
2	欠																	
3	○					○		○		○				○		○		
4	○								○	○					○			○
5	○					○			○			○			○	○		
6	○			○					○		○				○			○
7	○					○	○					○	○				○	
8	○				○		○			○				○				○
9	○			○					○			○		○		○		
10			○			○		○				○	○				○	
11	○				○				○		○				○			○
12	○					○			○			○		○			○	
13		○				○	○				○				○	○		
14	○				○		○			○				○			○	
15		○				○	○			○			○			○		
16	○					○			○	○				○				○
17		○		○				○				○		○		○		
18	○			○					○			○		○			○	
19	○				○				○	○			○					○
20	○			○					○		○				○			○
21	○				○		○					○	○			○		
22	○			○					○			○	○				○	
23	○					○	○					○	○				○	
24	○					○			○		○				○			○
25			○			○		○				○	○				○	
計	18	③	3	7	5	⑪	⑦	5	12	7	5	⑫	⑧	9	7	7	⑨	8
男女計	24	⑭	3	9	7	㉓	⑪	7	23	9	6	㉕	⑱	18	10	13	⑰	11

女子	はやくち			よくじつ			しがい			やまい			なかなおり			みはらし			いかる		
	1	②	3	①	2	3	1	2	③	1	②	3	1	②	3	①	2	3	1	②	3
1		○		○				○		○			○			○			○		
2																					
3		○		○				○		○				○		○			○		
4		○			○		○			○				○				○	○		
5			○	○				○		○			○				○		○		
6			○			○		○		○			○					○	○		
7		○		○				○			○			○		○			○		
8	○				○		○			○				○		○					○
9	○				○			○		○					○	○			○		
10		○		○			○			○				○		○					○
11			○		○			○				○	○					○	○		
12			○	○			○					○		○		○			○		
13		○			○		○				○				○		○			○	
14		○		○			○				○			○		○				○	
15	○			○					○		○			○		○			○		
16		○			○			○		○			○				○			○	
17		○		○				○		○				○			○				○
18		○			○			○			○			○			○			○	
19			○	○				○		○					○		○			○	
20			○			○	○			○					○			○	○		
21	○			○					○	○				○			○		○		
22		○			○		○				○			○		○			○		
23		○		○				○		○				○		○			○		
24		○			○			○		○					○			○	○		
25		○		○			○					○	○				○			○	
計	4	⑭	6	⑬	9	2	9	13	②	15	⑥	3	6	⑬	5	⑪	8	5	15	⑥	3
男女計	8	㉒	11	㉓	12	6	13	20	⑧	28	⑦	6	12	㉑	8	⑱	15	8	26	⑩	4

女子	ともす			つげる			はげむ			あわれな			すなおな			そまつな		
	①	2	3	1	②	3	①	2	3	1	2	③	1	②	3	1	②	3
1	○				○				○			○		○				○
2	欠																	
3	○				○		○			○			○				○	
4		○				○			○		○		○			○		
5			○		○				○		○				○	○		
6		○				○			○	○			○			○		
7			○	○			○					○	○				○	
8		○				○			○			○	○					○
9		○			○		○				○			○			○	
10	○					○	○			○					○			○
11			○	○					○			○	○			○		
12	○			○				○				○			○			○
13	○				○				○			○	○					○
14			○		○				○			○	○			○		
15	○			○			○					○	○					○
16	○				○				○			○		○				○
17	○				○			○				○		○				○
18	○			○			○					○		○				○
19			○		○				○		○		○			○		
20		○				○			○	○				○				○
21	○				○				○			○		○				○
22			○	○				○			○		○					○
23			○	○			○					○		○			○	
24			○		○				○			○		○				○
25	○				○		○			○				○				○
計	⑪	5	8	7	⑫	5	⑧	3	13	5	5	⑭	11	⑩	3	6	④	14
男女計	⑳	8	13	10	㉓	7	⑬	8	19	6	7	㉘	15	⑳	6	10	⑩	21

女子	せんめんき			おがわ			どて			そだてる			のぞく			やがて			いちめんに			計
	1	2	③	1	②	3	①	2	3	1	②	3	①	2	3	1	2	③	1	②	3	
1			○	○			○				○		○				○		○			13
2																						欠
3			○		○		○				○		○			○					○	14
4			○			○		○				○			○			○			○	4
5			○			○		○			○		○					○			○	8
6			○	○				○			○				○			○	○			3
7			○			○	○				○		○			○				○		18
8	○			○			○			○				○				○			○	6
9	○				○		○				○		○			○			○			10
10			○		○		○				○		○					○			○	16
11			○			○		○		○					○	○					○	2
12			○			○	○				○		○			○				○		13
13			○	○			○				○				○			○	○			13
14	○					○	○			○			○			○			○			12
15			○	○			○			○			○				○		○			15
16			○	○			○				○				○		○			○		11
17			○		○				○	○			○				○		○			12
18	○					○	○			○			○				○		○			13
19	○			○				○			○				○		○			○		6
20			○	○				○			○				○			○			○	4
21			○	○			○			○					○		○		○			13
22			○	○			○			○			○				○		○			10
23			○	○			○				○		○			○				○		18
24			○	○				○				○			○		○			○		7
25			○		○		○				○		○				○		○			16
計	5	0	⑲	12	⑤	7	⑯	7	1	8	⑭	2	⑭	1	9	7	18	⑨	11	⑥	7	257
男女計	8	0	㉝	21	⑧	12	㉕	11	5	13	㉓	5	㉘	1	12	14	16	⑪	11	⑪	19	465

このうちで，できのよかったのは，

せんめんき　　のぞく　　あわれな　　どて

などであり，よくなかったのは，

やまい　　おがわ　　しがい　　いかる

などである。「おがわ」のできが悪かったのは少し意外であったが，よく考えてみると，大都会の中心では，そうしたものは見当らないのであって，むしろ童話に出てくる語いである。

IIの使い方の実験学校における成績は平均60.1%の正答である。

男子	さえずる			ゆずる			ついらくする			いきいき			いちもくさん			ありったけ		
	①	2	3	1	②	3	1	2	③	①	2	3	1	2	③	1	②	3
1	○					○			○	○					○		○	
2	欠																	
3	○				○				○		○				○		○	
4	○				○				○		○				○		○	
5		○				○			○			○			○		○	
6	○				○			○			○			○				○
7	○			○					○			○	○				○	
8																		
9			○	○					○		○		○				○	
10	○					○			○	○					○		○	
11	欠																	
12	○					○			○		○			○				○
13	○					○			○	○					○	○		
14																		
15	欠																	
16	○					○			○		○				○			○
17	○				○				○	○			○			○		
18																		
19																		
20	○					○		○		○				○				○
21	○					○			○	○					○		○	
22																		
23	○				○				○	○			○					○
24	○			○					○		○		○				○	
25	○				○				○	○			○			○		
計	⑮	1	1	3	⑥	8	0	2	⑮	⑧	7	2	6	3	⑧	3	⑨	5

男子	ひさしぶり	じょうひん	とんでもない	やつかいな	にわかに	すれちがう	しばらく	たび	計
	1 2 ③	1 2 ③	① 2 3	1 ② 3	① 2 3	1 ② 3	1 2 ③	1 2 ③	
1	○	○	○	○	○	○	○	○	11
2									欠
3	○	○	○	○	○	○	○	○	11
4	○	○	○	○	○	○	○	○	12
5	○	○	○	○	○	○	○	○	8
6	○	○	○	○	○	○	○	○	6
7	○	○	○	○	○	○	○	○	9
8									
9	○	○	○	○	○	○	○	○	9
10	○	○	○	○	○	○	○	○	10
11									欠
12	○	○	○	○	○	○	○	○	7
13	○	○	○	○	○	○	○	○	12
14									
15									欠
16	○	○	○	○	○	○	○	○	7
17	○	○	○	○	○	○	○	○	9
18									
19									
20	○	○	○	○	○	○	○	○	8
21	○	○	○	○	○	○	○	○	9
22									
23	○	○	○	○	○	○	○	○	6
24	○	○	○	○	○	○	○	○	11
25	○	○	○	○	○	○	○	○	9
計	0 1 ⑯	3 4 ⑩	⑭ 3 0	2 ⑭ 1	⑨ 3 5	3 ⑩ 4	4 3 ⑩	3 4 ⑩	154

女子	さえずる			ゆずる			ついらくする			いきいき			いちもくさん			ありったけ		
	①	2	3	1	②	3	1	2	③	①	2	3	1	2	③	1	②	3
1			○			○			○		○				○		○	
2																		
3	○				○				○		○		○			○		
4	○					○			○	○				○			○	
5	○					○		○		○				○				○
6	○					○			○	○				○				○
7	○					○			○	○			○					○
8	○					○		○			○				○		○	
9		○				○	○			○					○			○
10	○					○			○			○	○					○
11		○				○		○			○	○			○			○
12	○					○			○	○			○				○	
13	○					○		○				○	○			○		
14	○					○		○		○					○		○	
15	○					○			○	○					○			○
16	○					○						○		○				○
17	○					○	○			○			○				○	
18		○				○	○			○					○		○	
19	○			○				○			○		○					○
20	○					○			○	○				○				○
21	○					○			○	○				○				○
22	○					○	○				○				○		○	
23	○				○				○	○				○			○	
24		○				○		○			○			○				○
25	○			○					○	○					○		○	
計	⑲	4	1	2	②	20	4	7	⑫	⑭	7	4	7	8	⑨	2	⑩	12
男女計	㉞	5	2	5	⑧	28	4	9	㉗	㉒	14	6	13	11	⑰	5	⑲	17

女子	ひさしぶり 1 2 ③	じょうひん 1 2 ③	とんでもない ① 2 3	やっかいな 1 ② 3	にわかに ① 2 3	すれちがう 1 ② 3	しばらく 1 2 ③	たび 1 2 ③	計
1	○	○	○	○	○	○	○	○	9
2									
3	○	○	○	○	○	○	○	○	10
4	○	○	○	○	○	○	○	○	8
5	○	○	○	○	○	○	○	○	8
6	○	○	○	○	○	○	○	○	9
7	○	○	○	○	○	○	○	○	10
8	○	○	○	○	○	○	○	○	4
9	○	○	○	○	○	○	○	○	8
10	○	○	○	○	○	○	○	○	7
11	○	○	○	○	○	○	○	○	4
12	○	○	○	○	○	○	○	○	11
13	○	○	○	○	○	○	○	○	8
14	○	○	○	○	○	○	○	○	6
15	○	○	○	○	○	○	○	○	11
16	○	○	○	○	○	○	○	○	7
17	○	○	○	○	○	○	○	○	9
18	○	○	○	○	○	○	○	○	9
19	○ ○	○	○	○	○	○	○	○	5
20	○	○	○	○	○	○	○	○	8
21	○	○	○	○	○	○	○	○	9
22	○	○	○	○	○	○	○	○	6
23	○	○	○	○	○	○	○	○	13
24	○	○	○	○	○	○	○	○	3
25	○	○	○	○	○	○	○	○	9
計	5 3 ⑰	1 6 ⑰	⑯ 8 0	4 ⑲ 1	⑰ 4 3	3 ⑩ 11	5 6 ⑬	4 4 ⑯	191
男女計	5 4 ㉝	4 10 ㉗	㉚ 11 0	6 ㉝ 2	㉖ 7 8	6 ⑳ 15	9 9 ㉓	7 8 ㉖	345

できのよかったのは，

さえずる　ひさしぶり　やっかいな　とんでもない

であり，悪かったのは，

ゆずる　いちもくさん　ありったけ　すれちがう

である。

このうち「ゆずる」だけが特に悪く，他は，悪いといってもそれほどでもない。「ゆずる」が悪かったのは，正答である選択肢(2)よりも，誤答である選択肢(3)にひかれる者が多かったからである。都会生活では，「なかよくゆずり合いましょう」などという標語がよく聞かれるので，語いをはっきり把握していない証拠である。この「ゆずる」の正答，男女8人のうち，6人までは，たしかに，ふだんの国語能力がすぐれた者である。

以上のように，語いテストのIIの，使用の方が，テストIの定義の方よりもずっと点がよかった。だがこれは，テストの語いがちがうから，そのまま比較することはできない。が，全体としてはほぼ同じ段階にあるものと見なされるから，内容の正確な把握よりも，場における用法への熟知の方が容易であるとも，また，その方が能力として初歩的なものであるともいえるかも知れない。もちろんそれも要求の程度による。幼い子供には，正確な定義がむずかしいのと同様に，用法のくわしい区分は，やはり，むずかしいのである。結局，子供の語いの接近と把握は，その子供の生活と精神との展開の一部分として見られるべきものであって，語の用法への感覚と語の内容の正確な把握とは，相伴って，一歩ずつ前進するものと見た方がよいようである。

B　小学校低学年における語い能力の発達

同じ児童について，2年生第1学期と第2学期に次のようなテストをおこなった。

2年生の第1学期の語いテスト（昭和29年7月10日実施）

(1) テストの方法

○ 30語を与え，Ⅰ定義，Ⅱ関係，Ⅲ使用の3つの方法を使って，正しく理解しているかどうかをみる。

1年の時の語いテストで，30％以下のできのものから10語それに田中久直氏「小学校の国語教科書の語い」から，教科書語いとして，2年から4.5年間に数種以上の教科書に出ている語から適当と思われる20語をえらんだ。

○ 実施上の注意――はじめに（れんしゅう）でやりかたをよく説明する。

本文は全部よんでやるが，説明は一切しない。

番号順に一問ずつよんでやってかかせ，大体のものがかき終えたら，次にすすむ。

(2) テストの問題

Ⅰ つぎの ことばの わけは どれでしょう。よいのに ○をつけなさい。

（れんしゅう）

せんめんき
(1) ばけつ。
(2) おべんじょ。
(3) かおを あらう とき みずを いれる どうぐ。

1. せいよう
   (1) にっぽんのこと。
   (2) アメリカや イギリスの こと。
   (3) かわいい おにんぎょう。
2. そよかぜ
   (1) そよそよと ふく すずしい かぜ。
   (2) つよく ふく あらしのような かぜ。
   (3) くるしい ねつの でる かぜ。
3. たびびと
   (1) たびたび くる ひと。
   (2) たびを して いる ひと。
   (3) たびを はいて いる ひと。
4. なみき
   (1) すべすべした きれいな 木（き）
   (2) なみの なかに うかんで いる 木（き）。
   (3) みちの りょうがわに いちれつに うえた 木（き）
5. ひとりごと
   (1) ひとりで なにか いう こと。
   (2) よその ひとの こと。
   (3) ひとりしか いない こと。
6. りょうしん
   (1) さかなを とる ひとの こと。
   (2) おとうさんと おかあさんの こと。
   (3) ふたり いると いう こと。
7. とくべつ
   (1) たくさんの こと。
   (2) りっぱな ひとの こと。
   (3) ふつうと ちがって いる こと。
8. かんびょうする
   (1) びょうきで くるしむ こと。
   (2) おかあさんが しごとを する こと。
   (3) びょうにんの めんどうを みて あげる こと。
9. ゆずる

(1) じぶんの ものを ひとに あげる。
(2) ともだちと なかよく する。
(3) ひとから ものを もらう。

10. うっかりする
(1) ひとから ものを かりる。
(2) けものや とりを とりに いく。
(3) きが ぬけて ぼんやり して いる。

Ⅱ うえと したの つづきぐあいの よいのに ○を つけなさい。

(れんしゅう)

せんせいが (1) きた。 (2) いらしゃった。 (3) くった。

1. (1) ないて いたので (2) わらって いたので (3) さわいで いたので } なぐさめる。

2. そまつな (1) ひと (2) ほど (3) もの

3. おがわが (1) かけて いく。 (2) ながれて いる。 (3) さいて いる。

4. こうふくに (1) くらした。 (2) きた。 (3) はしった。

5. はたして (1) そうして ください。 (2) かかって いる。 (3) その とおりだった。

6. (1) き (2) そら (3) さかな } が かれる。

7. (1) くうき (2) えんとつ (3) かみなり } が めだつ。

8. (1) ひかり (2) てんき (3) かお } が みにくい。

9. いきなり (1) とんでくる。 (2) うれしい。 (3) みっともない。

10. いちめんに (1) ちらばる。 (2) はしる。 (3) たべる。

Ⅲ どの いいかたが いいでしょうか。よいのに ○を つけなさい。

(れんしゅう)

うれしい (1) テストが ちっとも できないので とても うれしい。 (2) おとうさんに ほんを かって もらったので うれしい。 (3) ころんで けがをしたので うれしい。

1. ほとり (1) おじいさんは かわの ほとりで つりを して いた。 (2) ようふくの ほとりに ちりが ついて いた。 (3) ほとりの ちかくに もう 一ぴき かわいい とりが いた。

2. はげむ
(1) きのうは はげむを して あそびました。
(2) おとうさんは いつも しごとに はげんで います。
(3) わたしは がっこう から かえると きっと ほんを はげんで います。

3. うなずく
(1) いしに うなずいて たおれた。
(2) 「あそぼう」と いったら，まさおくんは「うん。」といって うなずいた。
(3) はなこさんは よそみを して，せんせいに うなずかれた。

4. たどりつく
(1) みちばたに ぽすたーが いっぱい たどりついていた。
(2) おばさんの うちに，すぐに たどりつきました。
(3) ようやく むこうの まちに たどりつきました。

5. なつかしい
(1) きょうは，こくごの とき，ほんが よく よめたので，なつかしい。
(2) よその がっこうに いった ともだちが なつかしい。
(3) もうじき なつやすみ なので とても なつかしい。

6. かすかに
(1) おおきな こえで かすかに ともだちの なを よんだ。
(2) むしの なく こえが とおくの ほうで かすかに きこえる。
(3) しろぐみが かつように みんなで かすかに おうえん した。

7. やがて
(1) けさは おそいので やがて がっこうに いきました。
(2) あめが ふってきた。やがて たってから かみなりが なりだした。
(3) おなかが すいてきた。やがて おひるの さいれんが なるだろう。

8. くちぐちに
(1) みんなが くちぐちに しゃべったので きょうしつが やかましく なった。
(2) みんな だまっているのに，たろうさんだけ くちぐちに おしゃべりを している。
(3) あのふたりは なかが わるいので くちぐちに おしゃべりを している。

9. ほんのりと
(1) かじの ひが いきおいよく ほんのりと もえている。
(2) ひがしの そらが ほんのりと あかるくなって よが あけた。
(3) こくばんに おおきな じで，ほんのりと わかりやすく かいて ください。

10. それとも
(1) ほんを よもうか，それとも，まりなげを しようか。
(2) がっこうに いきました。それとも べんきようを しました。
(3) あしたの えんそくには おべんとうや，それとも，おかしも もって いこう。

(3) テストの成績]

男	1 せいよう			2 そよかぜ			3 たびびと			4 な み き			5 ひとりごと		
子	1	②	3	①	2	3	1	②	3	1	2	③	①	2	3
1		○		○				○		V			○		
2			V	○				○		V			○		
3															
4		○		○					V	V				V	
5		○		○				○		V			○		
6		○		○				○				○	○		
7	V			○				○			V		○		
8		○		○				○		V			○		
9															
10		○		○			V					○			V
11		○		○				○			V		○		V
12			V	○				○				○			
13	V			○				○		V			○		V
14	V			○					V	V					V
15			V	○				○				○			
16		○		○			V				V		○		
17															
18			V	○				○			V		○		
19		○		○				○				○	○		
計	3	⑨	4	⑯	0	0	2	⑫	2	7	4	⑤	⑪	1	4
男女計	6	⑯	16	㊷	2	0	10	⑳	5	5	16	⑫	㉞	2	8

男 / 予	6 りょうしん 1	②	3	7 とくべつ 1	2	③	8 かんびょうする 1	2	③	9 ゆずる ①	2	3	10 うっかりする 1	2	③	正答	無答	誤答
1	V								○	○					○	7	0	3
2	V				V				○	○					○	6	0	4
3																		
4		○			V				○		V			V		4	0	6
5	V				V				○	○					○	7	0	3
6	V			V					○	○			V			7	0	3
7	V				V				○	○					○	6	0	4
8	V			V					○			V			○	6	0	4
9							V											
10		○			V						V		V			4	0	6
11	V			V					○	○					○	7	0	3
12	V			V					○			V			○	5	0	5
13	V			V					○	○					○	6	0	4
14		○			V				○		V			V		3	0	7
15	V					○	V			○					○	6	0	4
16		○			V				○	○					○	7	0	3
17																		
18	V			V					○	○					○	6	0	4
19		○			V				○	○					○	9	0	1
計	11	⑤	0	7	8	①	2	0	⑭	⑪	3	2	2	2	⑫	96	0	64
男女計	30	⑩	4	19	18	⑦	4	1	㊳	㉛	10	3	12	7	㉕	244	8	188

女	1 せいよう			2 そよかぜ			3 たびびと			4 な み き			5 ひとりごと		
子	1	②	3	①	2	3	1	②	3	1	2	③	①	2	3
1				○				○		V			○		
2			V	○				○		V			○		
3				○					V		V		○		
4			V		V		V				V		○		
5		○		○				○			V		○		
6	V			○				○		V			○		
7				○				○					○		
8		○		○				○				○			V
9			V	○				○			V		○		
10		○		○			V				V		○		
11			V	○				○			V		○		
12			V	○			V				V		○		
13			V	○				○		V			○		
14			V	○			V					○			V
15	V				V			○		V			○		
16			V	○			V			V			○		
17			V	○					V			○	○		
18			V	○			V				V		○		
19				○				○				○			V
20		○		○			V				V		○		
21				○				○				○			V
22		○		○				○			V		○		
23			V	○				○		V			○		
24				○				○		V			○		
25			V	○				○				○		V	
26	V			○				○			V		○		
27		○		○					V			○	○		
28		○		○			V				V		○		
計	3	⑦	12	㉖	2	0	8	⑪	3	8	12	⑦	㉓	1	4

女	6 りょうしん			7 とくべつ			8 かんびょうする			9 ゆずる			10 うっかりする			正	無	誤
子	1	②	3	1	2	③	1	2	③	①	2	3	1	2	③	答	答	答
1	V				V				○	○			V			5	1	4
2	V			V					○	○					○	6	0	4
3	V			V			V			○					○	4	1	5
4	V					○			○	○					○	5	0	5
5			V	V					○	○					○	7	0	3
6	V					○			○	○					○	7	0	3
7	V			V					○			V			○	5	2	3
8	V			V					○	○			V			6	0	4
9	V					○			○		V				○	6	0	4
10	V					○		V		○			V			5	0	5
11	V			V					○		V				○	5	0	5
12	V			V					○	○					○	5	0	5
13			V		V				○	○					○	6	0	4
14	V			V					○	○					○	5	0	5
15	V				V				○	○			V			4	0	6
16	V			V			V			○					○	4	0	6
17			V		V				○		V		V			4	0	6
18	V				V				○	○				V		4	0	6
19	V			V					○	○					○	6	1	3
20	V				V				○	○			V			5	0	5
21			V		V					○			V			4	2	4
22		○				○			○	○			V			8	0	2
23	V			V					○	○				V		5	0	5
24	V				V				○		V		V			4	1	5
25		○				○			○		V			V		6	0	4
26		○		V					○	○			V			6	0	4
27		○			V				○		V			V		6	0	4
28		○			V				○		V			V		5	0	5
計	19	⑤	4	12	10	⑥	2	1	㉔	⑳	7	1	10	5	⑬	148	8	124

(4) テストの成績 Ⅱ

男	1 なぐさめる			2 そまつな			3 おがわ			4 こうふく			5 はたして		
子	①	2	3	1	2	③	1	②	3	①	2	3	1	2	③
1	○			V				○		○					○
2	○			V				○		○					○
3															
4		V		V				○		○			V		
5	○			V				○		○					○
6		V				○		○		○					○
7	○					○		○		○					○
8	○					○		○		○					○
9															
10		V		V				○		○					○
11	○					○		○		○					○
12	○			V				○		○					○
13	○			V				○		○					○
14	○			V				○		○					○
15		V		V				○		○			V		
16	○			V				○		○			V		
17															
18	○					○		○		○					○
19	○					○		○		○					○
計	⑫	4	0	10	0	⑥	0	⑯	0	⑯	0	0	3	0	⑬
男女計	㉚	12	2	29	2	⑱	0	㊸	1	㊶	1	2	6	8	㉙

男	6 かれる			7 めだつ			8 みにくい			9 いきなり			10いちめんに			正	無	誤
子	①	2	3	1	②	3	1	2	③	①	2	3	①	2	3	答	答	答
1	○				○		∨			○				∨		7	0	3
2	○				○				○	○			○			9	0	1
3																		
4		∨		∨					○	○			○			5	0	5
5	○			∨					○	○	∨		○			7	0	3
6	○				○		∨			○			○			8	0	2
7	○				○		∨			○			○			9	0	1
8	○					∨			○	○					∨	8	0	2
9																		
10		∨		∨				∨			∨				∨	3	0	7
11	○				○		∨			○			○			9	0	1
12	○			∨			∨			○			○			7	0	3
13	○					∨	∨			○			○			7	0	3
14	○				○			∨		○				∨		7	0	3
15	○			∨			∨			○					∨	4	0	6
16	○					∨			○	○					∨	6	0	4
17																		
18	○					∨	∨			○			○			8	0	2
19	○				○				○	○			○			10	0	0
計	⑭	2	0	5	⑦	4	8	2	⑥	⑭	2	0	⑩	2	4	114	0	46
男女計	㊶	2	1	12	㉒	10	21	8	⑮	㉟	9	0	㉘	8	8	297	1	142

女	1 なぐさめる			2 そまつな			3 おがわ			4 こうふく			5 はたして		
子	①	2	3	1	2	③	1	②	3	①	2	3	1	2	③
1	○			V				○		○					○
2	○			V				○		○					○
3	○			V				○		○					○
4	○			V				○				V			○
5	○			V				○		○				V	
6	○			V				○		○				V	
7	○			V				○		○					○
8		V		V				○		○					○
9	○					○		○		○				V	
10		V		V				○		○				V	
11	○					○		○		○					○
12	○					○		○		○			V		
13	○					○		○		○					○
14	○			V				○		○			V		
15		V		V				○		○					
16	○			V				○		○					○
17		V			V			○		○					○
18		V		V				○		○				V	
19			V			○		○		○					○
20		V		V				○		○				V	
21	○				V			○		○					○
22	○			V				○		○					○
23	○			V				○				V			○
24	○			V				○			V			V	
25		V				○		○		○			V		
26		V				○		○		○				V	
27			V	V				○		○					○
28	○			V					V	○					○
計	⑱	8	2	19	2	⑦	0	㉗	1	㉕	1	2	3	8	⑯

女	6 かれる			7 めだつ			8 みにくい			9 いきなり			10いちめんに			正	無	誤
子	①	2	3	1	②	3	1	2	③	①	2	3	①	2	3	答	答	答
1	○				○		V			○			○			8	0	2
2	○				○			V		○			○			8	0	2
3	○			V			V			○			○			7	0	3
4	○				○		V			○			○			7	0	3
5	○					V	V			○			○			6	0	4
6	○				○				○	○			○			8	0	2
7	○				○		V			○			○			8	0	2
8	○				○				○		V		○			7	0	3
9	○				○				○	○					V	8	0	2
10	○					V		V		○			○			5	0	5
11	○				○		V			○			○			9	0	1
12	○				○				○	○			○			9	0	1
13	○				○				○	○			○			10	0	0
14	○					V	V			○				V		5	0	5
15	○			V			V			○					V	4	1	5
16	○			V			V			○			○			7	0	3
17	○				○		V				V			V		5	0	5
18	○					V		V			V		○			4	0	6
19	○				○			V		○			○			8	0	2
20	○				○				○	○				V		6	0	4
21	○				○			V		○			○			8	0	2
22	○				○				○	○			○			9	0	1
23	○			V					○		V			V		5	0	5
24			V	V			V				V			V		2	0	8
25	○					V		V			V				V	4	0	6
26	○			V					○	○					V	6	0	4
27	○			V			V				V			V		4	0	6
28	○					V	V			○			○			6	0	4
計	㉗	0	1	7	⑮	6	13	6	⑨	㉑	7	0	⑱	6	4	183	1	96

(5) テストの成績 Ⅲ

男	1 ほ と り			2 は げ む			3 うなずく			4 たどりつく			5 なつかしい		
子	①	2	3	1	②	3	1	②	3	1	2	③	1	②	3
1	○				○			○			∨				∨
2	○				○			○				○		○	
3															
4			∨		○			○			∨		∨		
5	○			∨					∨	∨			∨		
6	○					∨		○			∨				∨
7	○				○			○		∨					∨
8	○				○		∨					○	∨		
9															
10			∨			∨		○				○			∨
11	○				○		∨					○	∨		
12	○					∨	∨					○			∨
13	○				○				∨		∨				∨
14	○					∨		○			∨				∨
15	○					∨	∨					○	∨		
16	○					∨			∨			○	∨		
17															
18	○				○				∨			○		○	
19	○				○			○				○		○	
計	⑭	0	2	1	⑨	6	4	⑧	4	2	5	⑨	6	③	7
男女計	㉘	2	14	3	㉘	13	11	⑱	15	3	10	㉛	12	⑫	20

男	6 かすかに			7 や が て			8 くちぐちに			9 ほんのりと			10 それとも			正	無	誤
子	1	②	3	1	2	③	①	2	3	1	②	3	①	2	2	答	答	答
1			V		V		○				○		○			6	0	4
2	V					○			V		○		○			8	0	2
3																		
4		○			V			V				V		V		3	0	7
5		○		V				V				V			V	2	0	8
6		○				○	○				○		○			7	0	3
7		○				○	○				○		○			8	0	2
8			V			○	○				○		○			7	0	3
9																		
10		○				○		V				V		V		4	0	6
11		○				○		V			○		○			7	0	3
12			V		V		○				○			V		4	0	6
13		○				○	○				○		○			7	0	3
14		○		V				V				V	○			4	0	6
15			V		V		○				○		○			5	0	5
16			V	V			○			V				V		3	0	7
17																		
18		○			V		○				○		○			8	0	2
19		○				○	○				○		○			10	0	0
計	1	⑩	5	3	5	⑧	⑩	5	1	1	⑪	4	⑪	4	1	93	0	67
男女計	7	⑲	18	11	12	㉑	㉗	15	2	2	㉚	12	㉖	11	7	240	0	200

女	1 ほ と り			2 は げ む			3 うなずく			4 たどりつく			5 なつかしい		
子	①	2	3	1	②	3	1	②	3	1	2	③	1	②	3
1	○				○		∨					○		○	
2	○				○				∨			○		○	
3			∨			∨		○			∨				∨
4			∨			∨	∨				∨				∨
5			∨	∨					∨			○			∨
6			∨		○		∨					○		○	
7	○				○				∨		∨				∨
8			∨		○		∨				∨				∨
9			∨		○			○				○		○	
10			∨		○				∨	∨			∨		
11	○				○				∨			○		○	
12	○				○			○			∨		∨		
13			∨		○			○				○		○	
14	○				○		∨					○		○	
15	○				○		∨					○			∨
16		∨			○				∨			○		○	
17	○					∨			∨			○	∨		
18			∨		○			○				○	∨		
19	○				○				∨			○		○	
20			∨		○				∨			○			∨
21	○				○			○				○			∨
22	○					∨		○				○			∨
23	○					∨		○				○	∨		
24			∨			∨		○				○	∨		
25			∨		○				∨			○			∨
26	○					∨			∨			○			∨
27		∨		∨				○				○			∨
28	○				○		∨					○			∨
計	⑭	2	12	2	⑲	7	7	⑩	11	1	5	㉒	6	⑨	13

女	6 かすかに			7 やがて			8 くちぐちに			9 ほんのりと			10それとも			正	無	誤
子	1	②	3	1	2	③	①	2	3	1	②	3	①	2	3	答	答	答
1	V				V		○				○		○			7	0	3
2		○			V		○				○		○			8	0	2
3	V					○		V			○		○			4	0	6
4			V	V				V				V			V	0	0	10
5		○				○	○				○		○			6	0	4
6			V			○		V			○			V		5	0	5
7		○				○	○				○				V	6	0	4
8	V			V			○				○			V		3	0	7
9		○			V		○				○		○			8	0	2
10			V	V				V				V	○			2	0	8
11	V					○	○				○		○			8	0	2
12		○		V				V			○		○			6	0	4
13		○				○	○					V	○			8	0	2
14		○			V		○				○				V	7	0	3
15			V		V		○				○			V		5	0	5
16			V			○	○				○		○			7	0	3
17			V			○		V			○			V		4	0	6
18	V					○			V		○			V		5	0	5
19		○		V			○					V	○			7	0	3
20			V		V			V				V		V		2	0	8
21			V	V			○					V	○			6	0	4
22		○				○	○				○		○			8	0	2
23			V	V				V			○			V		4	0	6
24			V			○		V				V			V	3	0	7
25			V			○	○					V			V	4	0	6
26	V				V		○			V					V	3	0	7
27			V	V				V			○		○			4	0	6
28			V			○	○				○		○			7	0	3
計	6	⑨	13	8	7	⑬	⑰	10	1	1	⑲	8	⑮	7	6	147	0	133

この定義，関係，使用（長い文脈）の三つのテストは，テスト語いがちがうので，そのまま成績を比較することはできないが，Ⅱの関係のところが，テストとして簡単であるためか，成績が一番よかった。また，今回は，使用

よりも定義の方がむしろ成績がよかった。ただ，その差はごくわずかである。使用のところには無答が全く見当らない。これは，テストとして最後であるし，文脈が長いので，劣生の中には，もうつかれて来て，でたらめに○をつけた者が少しはあるのではないかと思われた。

2 年生の第 3 学期の語いテスト（昭和30年 2 月末実施）

（かっこの中は実施学校の正答率）

(1) テストの方法

○ 問題の構成は 40 語を含み，多肢選択法をとる。

テスト Ⅰ 定義 (1) ～ (14) ┐ 1 年の学期末テストに用いた 40 語から 20 語をえらんだ。
〃 Ⅱ 使用 (15) ～ (20) ┘
〃 Ⅲ 定義 (21) ～ (24) ┐ (25) ～ (27)
〃 Ⅳ 関係 (28) ～ (29) ┤ (30) ～ (33)
〃 Ⅴ 使用 (34) ～ (37) ┘ (38) ～ (40)

2 年 1 学期末テストに用いた30語から四谷第六小で大体50%未満の正答率のもの 10 語。

田中久直氏の調査で 3 年～ 5 年の国語教科書に配分されたもの 10 語。

○ 実施上の注意――一問ずつ読んでやって児童にいいと思うものに○印をつけさせる。

テストの問題 Ⅰ（平均 62.4 %）

つぎの ことばの わけは どれでしょう。いいのに ○を つけなさい。

（れんしゅう）

せいねん
① わかい ひと。
② にいさん。
③ はたらいて いる ひと。

(1) さいご (100%)
① なんにも ない。
② いちばん はじめ。
③ いちばん おしまい。

(2) ちり (58.7%)
① たべものの くず。
② どろ。
③ ごみ 。

(3) めいわく (71.7%)
① しんぱい。
② こまること。
③ ありがたいこと。

(4) よくじつ (77.7%)
① つぎの ひ。
② あさって。
③ らいねん。

(5) やまい (26.1%)
① あめが やむ こと。
② びょうき。

③ くろい。

(6) みはらし (71.7%)

① とおくの けしきが みえる ところ。

② やまの てっぺん。

③ ゆうえんち。

(7) いかる (26.1%)

① いばる。

② おこる。

③ けんかを する。

(8) ともす (65.2%)

① あかりを つける。

② いっしょに いく。

③ ひを もやす。

(9) はげむ (56.5%)

① いっしょうけんめいに やる。

② しごとを する。

③ べんきょうを する。

(10) すなおな (73.9%)

① げんきの いい。

② こころの まっすぐな。

③ すばしっこい。

(11) どて (95.7%)

① かわの そばの たかい みち。

② わたいれの きもの。

③ どろ。

(12) そだてる (69.6%)

① おもりを する。

② おおきく する。

③ たねを まく。

(13) やがて (45.7%)

① きゅうに。

② ながい あいだ。

③ すこし たって。

(14) いちめんに (41.3%)

① じめん。

② どこもかも。

③ そら ぜんたい。

テストの問題 Ⅱ (55.5%)

どの いいかたが いいでしょうか。いいのに ○を つけなさい。

(れんしゅう)

ねすごす	① きょうは つかれたから はやく ねすごす ことに しよう。 ② まいにち ねすごすと きもちが いい。 ③ きのう おそかったので けさ ねすごした。

(15) ゆ ず る (54.3%)

① その ほんが あいて いたら，すこしの あいだ わたしに ゆずって ください。

② その ほんが いらなくなったら，わたしに ゆずって ください。

③ この ほんは たいへん おもしろいから，なかよく ゆずりましょう。

(16) い き い き

① おねえさんは びょうきが なおって，いきいき した かおを して います。

② いぬが くるしそうに はあはあと いきいき して います。

(73.9%) ③ にわの はなに みずを やらなかったので，しおれて いきいき して いる。

(17) いちもくさん (34.8%)
① きしゃが いちもくさんに はしって います。
② がっこうから かえると，いちもくさんに べんきょう します。
③ てきは いちもくさんに にげて いきました。

(18) ありったけ (32.6%)
① あさねを して おくれそうに なったので，ありったけ いそいで がっこうへ いきました。
② おまつりに おこずかいを ありったけ つかって しまいました。
③ この とんねるは にっぽんで ありったけ ながい とんねる です。

(19) じょうひん (71.7%)
① あのひとは，ちからが あって，いばって いて，じょうひんな ひとだ。
② おとうとは げんきがあって，らんぼうで じょうひんな ことばを つかいます。
③ となりの おばさんは，しずかで じょうひんな ひと です。

(20) しばらく (62.5%)
① ぼくは しばらくで がっこうへ いきます。
② おかあさんは おつかいに でかけました。しばらく かえります。
③ しばらく まって いて ください。 いっしょに いきましょう。

テストの問題 Ⅲ (41.0%)

つぎの ことばの わけは どれでしょう。 いいのに ○を つけなさい。

(21) せいよう (60.9%)
① にっぽんの こと。
② アメリカや イギリスの こと。
③ かわいい おにんぎょう。

(22) なみき (47.8%)
① すべすべした きれいな 木(き)
② なみの なかに うかんで いる 木(き)
③ みちの りょうがわに いちれつに うえた 木(き)

(23) りょうしん (13.0%)
① さかなを とる ひとの こと。
② おとうさんと おかあさんの こと。
③ ふたり いると いう こと。

(24) とくべつ (28.3%)
① たくさんの こと。
② りっぱな ひとの こと。
③ ふつうと ちがって いる こと。

(25) あてな (39.1%)
① じぶんの なまえ。

② てがみを もらう ひとの なまえ。
③ 人の わるくちの なまえ。

(26) つげる (52.2%)
① わるくちを いう。
② しらせる。
③ しごとを いう。

(27) のうみん (45.7%)
① びんぼうな 人たち。
② おみせやさん。
③ おひゃくしょうさん。

テストの問題 Ⅳ (42.0%)

うえと したの つづきぐあいの いいのに ○を つけなさい。

(れんしゅう)

① きが
② そらが
③ さかなが
} かれる。

(28) そまつな (34.8%)
① ひと
② ほど
③ もの

(29)
① ひかりが
② てんきが
③ かおが
} みにくい。(43.5%)

(30)
① はっきりと
② こっそりと
③ おおごえで
} ささやく。(37.0%)

(31) めっきりと (41.3%)
① さむく なる。
② うれしく なる。
③ いたく なる。

(32)
① あしが
② あたまが
③ てが
} よろめく。(52.2%)

(33)
① べんきょうを
② おかしを
③ おこづかいを
} せつやくする。(43.5%)

テストの問題 Ⅴ (45.6%)

どの いいかたが いいでしょうか。いいのに ○を つけなさい。

(34) うなずく (45.7%)
① いしに うなずいて たおれた。
② 「あそぼう」と いったら，まさおくんは「うん。」といって，うなずいた。
③ はなこさんは よそみを して，せんせいに うなずかれた。

(35) なつかしい (52.2%)
① きょうは，こくごの とき，ほんが よく よめたので，なつかしい。
② よその がっこうに いった ともだちが なつかしい。
③ もうじき なつやすみ なので とても なつかしい。

(36) かすかに (63.0%)
① おおきな こえで かすかに ともだちの なを よんだ。
② むしの なく こえが とおくの ほうで かすかに きこえる。
③ しろぐみが かつように みんなで かすかに おうえん した。

(37) やがて (60.9%)
① けさは おそいので やがて がっこうに いきました。
② あめが ふってきた。やがて たってから かみなりが なりだした。
③ おなかが すいてきた。やがて おひるの さいれんが なるだろう。

(38) ふと (84.8%)
① がっこうの もんを はいったとき，ふと わすれものを おもいだした。
② はるの えんそくのことを おともだちと そうだんして ふと きめました。
③ 「さぶろうは このごろ ふと おおきく なったね。」

(39) ふくむ (39.3%)
① ろうかが よごれているから，よく ふくんで ください。
② この おはなしは，ふかい わけを ふくんで います。
③ にもつは ふろしきに よく ふくんで いくのですよ。

(40) まんいち (28.3%)
① この どてが まんいち くずれたら，まちは みずびたしになるでしょう。
② もし あした てんきになったら，まんいち みんなで でかけましょう。
③ まんいち せんきょに まけたので，しちょうさんは やめました。

以上のテストⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴの全体の平均は 53.1 %であって，これが，だいたい低学年，2年生終了時の語い能力の水準を示す語い表であるといえる。

テストⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴを比較すると，テストⅠの定義が成績がよいが，テストⅢの定義は一番悪い。テストⅣの関係もあまりよくない。平均してはむしろテストⅡとテストⅤとをふくむ使用が少しよい方である。もちろん，テスト語いがちがうし，数も少ないから，これだけからなんともいえない。前述のように，定義にしても，どこまで厳密な定義を求めるか，使用にしても，どこまで適切な使用例を求めるかということである。そして，これはまた語いの学習指導の方法とも関係があると思われる。

1年生の時から同じ語についてテストをしているのでその正答率の上昇を示すと次のようになる。

	1 年生終了時	2 年生終了時
さ い ご	56.1	100
ち り	61.0	58.7
めいわく	41.5	71.7
よくじつ	56.1	71.7
や ま い	17.1	26.1
みはらし	43.9	71.7
い か る	24.4	26.1
いちめんに	26.8	41.3
や が て	26.8	45.7
そだてる	56.1	69.6
ど て	61.0	95.7
すなおな	48.8	73.9
は げ む	31.7	56.5
と も す	48.8	65.2
平 均	**44.2**	**60.3**

「ちり」という1語を除いて他はすべて上昇しており，平均して20%近くの上昇である。

	2 年生第1学期	2年生終了時
せいよう	36.4	60.9
な み き	27.3	47.8
りょうしん	22.7	13.0
とくべつ	15.9	28.3
そまつな	29.5	34.8
みにくい	34.1	43.5
うなずく	40.9	45.7
や が て	47.7	45.7
かすかに	47.7	63.0
なつかしい	27.3	52.2
平 均	**33.0**	**43.5**

ここでは10語のうち，「りょうしん」と「やがて」とが成績が上昇していない。が，全体としてはやはり10%上昇している。

この数字の比較からすれば，1年間に20%上昇するものが，この9か月間には10%であるから，1年生から2年生になった3か月間の方が上昇率が

よいようである。しかしこれは，この時期が語い能力の急速発展の時期であるからではなく，このテストに選ばれている語いの性格によることらしい。すなわち，ここは，正答率10％とか20％とかいうむずかしい語いは1年や半年の短い期間にはごくわずかしか上昇しないのに対して，正答率50％60％というような語いは急速に上昇して，その正答率が，80％から90％にもなりやすいという一つの傾向があるようである。

これは非常に大胆な推測であって，もっと多くの調査・研究，実験によって，ほんとうにそうであるかどうかたしかめるのでなければならない。

Ⅳ 文法能力の発達

文法能力については，28年度入学児は，入学当初と1年生の終り，及び2年生の1学期末と3学期とにテストによって調べた。このうち，入学当初の結果については，「入門期の言語能力」に述べてあるので，ここでは1年生の終りからについて報告し，かつ29年入学児の1年末の調査結果をも参照することとしよう。

どういう事項を調査の題目として，児童の文法能力の発達を見るかというと，たとえば次のようなものがあげられる。

主語・述語のととのった文が表現できるか。

ことばの順序が，正しいか。

敬語表現が正しくできるか。

文章の良否の判別ができるか。

各種の文体を区別して使い分けることができるか。

動詞の自他の別が正しくできるか。

活用する語の活用や承接を誤らないか。

助詞・助動詞・副詞・接続詞などを正しく理解使用できるか。

代名詞・連体詞のコ・ソ・アの使い分けが正しいか。

句読法・送りがな・かなづかいなどが正しいか。

われわれの調査においては，できるだけ広く多方面にわたることが希望であるが，いろいろの制約のもとに思うに任せないので，助詞に主眼をおいて，その他をもごくわずかながら見ようとした。特に助詞を取りあげたのは，助詞が国語の運用上重大な役割を果たすものであると同時に，比較的テストしやすいと考えられ，かつ，従来も城戸・松本氏の調査や信濃教育会の調査があるので，これらと比較し確かめたかったからである。

A 28年度1年生の学年末テストの考察

テスト問題は次に示すとおりⅠ・Ⅱの2種各10問から成り，Ⅰは選択法に

より，Ⅱは正誤法によって，大体同じ助詞を両様のテスト法によって調べようとしたわけである。一斉テストで，いずれも実施者が1問ずつ読んでやった。

文法能力検査　Ⅰ

どの　いいかたが　いいでしょう。

（れんしゅう）

はるが{くれば／きたから／きたのに}すこしも　あたたかく　ならない。

1　ぼくは{おじさんに／おじさんから／おじさんが}ほんを　よんで　もらいました。

2　{おとうさんに／おとうさんから／おとうさんが}いもうとと　おそろいの　くれよんを　かって　くださいました。

3　{かみが／かみを／かみの}わすれた　ひとには　あげますよ。

4　せんせい，{わたくしは／わたくしが／わたくしに}びょうきの　とき，きて　くださって　ありがとう。

5　おかねが{10えんしか／10えんだけ／10えんほど}のこって　いません。

6　なつやすみに{1かいしか／1かいほど／1かいだけ}うみへ　およぎに　いった。

7　このごろは{あめばかり／あめだけ／あめぐらい}ふって　こまります。

8　がっこうから{うちへ／うちまで／うちで}5ふん　かかる。

9　あした　あめが{ふるのに／ふれば／ふって}わたしは　いきません。

10 いくら いそいで{いくけれど / いけば / いっても}まに あわないよ。

文法能力検査 Ⅱ

——の ある ところは いいかたが まずいですね。なおしましょう。

（れんしゅう）

もう じき 2ねんへ / 2ねんに なります。

1. からすが そらから とんで います。
2. やおやさんで ももが うって いました。
3. にいちゃんは やきゅうを とても じょうずだ。
4. ぼくが あしが いたいので，えんそくに いけません。
5. わたしたちは やさしい かんじだけ よめません。
6. ぼくは いもうとの ことを わらったばかりだ。ぶったり しないよ。
7. となりの おじさんは へんな ことしか いって いる。
8. てんらんかいが きんようびから にちようびに あるそうです。
9. くにこさんは くれよんが ないと えんぴつで かいても いい。
10. どんなに あめが ふるけれど，ゆうびんやさんは きっと くる。

このテストの実験学校における正答率は下のとおりである。

検査Ⅰ 問題番号	正	答	正答率%	検査Ⅱ 問題番号	正	答	正答率%
1	に	(格)	80				
2	が	〃	45	3	が	(格)	75
3	を	〃	75	2	を	〃	50
				1	を	〃	13
4	が	〃	61	4	は	(係)	80
5	しか	(係)	61	5	しか	〃	0
6	だけ	(副)	58	6	だけ	(副)	10
7	ばかり	〃	80	7	ばかり	〃	40
8	まで	〃	65	8	まで	〃	25
9	ば	(接続)	65	9	ば	(接続)	23
10	ても	〃	38	10	ても	〃	40
平均			63				36

この結果について言えることは，

(イ) 2つ以上の言い方のうちから，正しいものを見出すのはやさしく，これに反して，誤りに気づいて独力で正しく直すことはむずかしい。

(ロ) 同じ助詞でも，たとえば「を」に見るように（IIの1と2）用法によって相当難易の差がある。

(ハ) 内容が児童の経験にぴったり合っているものは，文法上はよく問題として取りあげられるようなものでも，案外にやさしい。たとえば，〝は—が〟の問題（I・IIの4）や〝ても〟（10）のように。

なお，IIの第5問は0％であるが，これは表現が児童にとってまぎらわしいものであったらしく，無答が40人中20人もあるもので，0％の結果から〝しか〟はきわめてむずかしいとするのは即断というべきであろう。

ちなみに、このテストによる各協力学校の平均成績は次表のとおりである。

学校名	I	II
N	64%	42%
H	57	34
S	60	30
F	53	32
K	53	26
C	70	32

B　29年度2年生の第1学期末テストの考察

文法的に誤っている短文を10与えて，その誤りを正させて文法能力を見ようとした。やはり一斉テストで，1問ずつ読んでやる方法を採った。

文法能力検査

——の　ある　ところは　いいかたが　まずい　ですね。どう　なおしたら　いい　でしょうか。なおして　ください。

（れんしゅう）

ぼくは　おじさんが　ほんを　よんで　もらいました。

1. おとうさんから　かわいい　おにんぎょうと　きれいな　ほんを　かって　くださいました。

2. とおくの　ほうに　みえる　この　がっこうが　ぼくたちの　がっこう　です。
3. うんどうかいの　ときには，　たくさんの　おかあさんが　あつめた。
4. そとで　あそんで　いたら，おかあさんに　よばれて，ぼくは　おつかいに　いかれた。
5. こんな　やさしい　ほんなら　あたし　にも　よめられる。
6. おひるを　たべてから　2じかんだけ　たって　いません。
7. ねこは　いぬに　くらべると　ちいさいが，ねずみ　から　おおきい。
8. ここの　ぱんやから　あそこの　さかなやは，10めーとる　あります。
9. あそんで　しか　いないで，もう　すこし　べんきょう　しなさい。
10. ぞうは　からだは　おおきい　ので　おとなしい。

この検査の実験学校における結果を，1年の時の検査と符合するものはそれを参照しながら，次にしるす。

問題番号	正　答	正答率	備　考
1	が	41%	1年末のⅠ（選択法）2.では45%。選択法より正誤法の方がずっとむずかしいという前提が認められるならば，1年末よりも力は向上したと言えよう。
6	しか	23	1年末のⅡ（正誤法）6.では 0% ｝どちらも1年末より
8	まで	32	〃　8.では25% ｝はよい。
9	ばかり	40	〃　9.では40%。1年では〝ばかり〟の上に体言が来たのに，これはそうでないので，そこに抵抗が強かったのかもしれない。
7	より	25	
10	のに	20	（正答は〝が〟〝けれど〟でも通じる。）
2	あの	48	事物を指示する時の遠近の関係を見る問題。
3	あつまった	55	1年入学時の同趣の「わいた―わかした」は88%。
5	よめる	70	1年入学時の「たべられない―たべれない」は76%。1年入学時の検査は口頭による選択法で，今度のとは検査法が違うので，2年の方が1年よりも悪いと言うには当らない。また，3では児童は適当に〝あつめた〟目的物を考えて答えたかもしれない。
4	いった	77	
平均		42	

なお，各検査校の成績は次表のとおりである。

学校と人員 / 問題番号と誤りの個所	Y			N			H			S		
	男人 (16)	女人 (28)	計人 (44)	男人 (27)	女人 (28)	計人 (55)	男人 (15)	女人 (18)	計人 (33)	男人 (24)	女人 (27)	計人 (51)
1. おとうさんから	8	10	18	3	12	15	3	5	8	2	3	5
2. この	8	13	21	17	19	36	7	8	15	8	3	11
3. あつめた	9	15	24	22	25	47	6	11	17	4	6	10
4. いかれた	12	22	34	23	24	47	10	15	25	3	6	9
5. よめられる	11	20	31	19	23	42	11	15	26	1	2	3
6. 2じかんだけ	3	7	10	10	2	12	0	0	0	0	3	3
7. から	7	4	11	8	11	19	3	5	8	8	3	11
8. さかなやは	5	9	14	12	11	23	2	2	4	9	2	11
9. しか	5	9	14	10	15	25	2	6	8	7	6	13
10. ので	5	4	9	4	9	13	3	1	4	1	0	1

C　29年度2年生の第3学期末のテストの考察

1月に行ったテストでは，調査の範囲を助詞の能力だけに限り，これをできるだけ広く見ようとした。以後の学年で助詞の能力の調査を継続し，この能力の発達を見きわめる基盤としようとの考えである。

テストの問題は，Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの3種類に別れているが，次に「もんだいⅠ」と実施に際してのインストラクションの一部を掲げる。

もんだい　1

どの　いいかたが　いいでしょうか。いいのに　○を　つけましょう。

O			K			M			F			D			合計			正答率	順位
男人(26)	女人(20)	計人(46)	男人(64)	女人(74)	計人(138)	男人(22)	女人(25)	計人(47)	男人(21)	女人(25)	計人(46)	男人(35)	女人(29)	計人(64)	男人(234)	女人(246)	計人(480)	%	
12	11	23	22	31	53	4	5	9	12	17	29	28	26	54	94	120	214	44.6	5
8	10	18	27	50	77	8	13	21	10	14	24	32	29	61	125	159	284	59.2	4
13	6	19	39	57	96	13	18	31	12	19	31	29	26	55	147	183	330	68.7	1
12	11	23	44	58	102	15	19	34	13	19	32	3	1	4	135	175	310	64.6	2
15	12	27	30	39	69	11	14	25	9	19	28	27	26	53	134	170	304	63.3	3
7	4	11	1	11	12	1	1	2	4	7	11	13	11	24	39	46	85	17.7	10
7	4	11	17	19	36	9	7	16	4	1	5	30	22	52	93	76	169	35.2	6
5	19	24	10	22	32	3	5	8	4	4	8	17	15	32	67	89	156	32.5	8
7	7	14	7	21	28	8	9	17	6	5	11	16	16	32	68	94	162	33.7	7
5	2	7	14	26	40	0	4	4	2	1	3	5	6	11	39	53	92	19.2	9

（れんしゅう）

はるが { 1 くれば / 2 きたから / 3 きたのに / 4 くると } すこしも あたたかく ならない。

1. { 1 おとうさんに / 2 おとうさんが / 3 おとうさんへ / 4 おとうさんから } ぼくの おもちゃを かって きて くれた。

2. この てがみは { 1 ともだちと / 2 ともだちだけ / 3 ともだちが / 4 ともだちから } きました。

3. きたの　くにでは{1 おおゆきで / 2 おおゆきぐらい / 3 おおゆきと / 4 おおゆきが}がっこうへ　いけなく　なります。

4. あなたは{1 おばさんに / 2 おばさんへ / 3 おばさんが / 4 おばさんを}あいませんでしたか。

5. にいさんは{1 ぼくを / 2 ぼくと / 3 ぼくの / 4 ぼくが}あたまを　なでで　くれました。

6. ぼうしは　ころころと　みちの{1 むこうに / 2 むこうへ / 3 むこうや / 4 むこうで}ころがって　いった。

7. つくえの　うえに{1 ほんから / 2 ほんなど / 3 ほんも / 4 ほんや}えんぴつが　ちらばって　いる。

8. やおやさんで{1 ももを / 2 ももが / 3 ももと / 4 ももから}うって　いました。

9. あなたは　いつ　いなかへ{1 いきますよ / 2 いきますぞ / 3 いきますから / 4 いきますか}。

10. むこうに　かくれたのは　きっと{1 おおかみだや / 2 おおかみだか / 3 おおかみだぞ / 4 おおかみだで}。

11. 「おかあさん，しもが　おりたよ。もう　じき{1 ふゆだや / 2 ふゆだとも / 3 ふゆださ / 4 ふゆだねえ}。」

12. となりの　へやに { 1 だれも / 2 だれより / 3 だれか / 4 だれが } いるようです。

13. { 1 あめと / 2 あめぐらい / 3 あめさえ / 4 あめしか } ふらなければ，どこでも　おともします。

14. おかねが { 1 10えんほど / 2 10えんぐらい / 3 10えんしか / 4 10えんだけ } のこって　いません。

15. そんな　こと { 1 こどもと / 2 こどもしか / 3 こどもぐらい / 4 こどもでも } しって　いるよ。

16. { 1 あしたに / 2 あしたと / 3 あしたは / 4 あしたの } むらの　おまつりです。

17. { 1 わたしばかり / 2 わたしが / 3 わたしにも / 4 わたしも } いっしょに　あそびに　いきたいな。

18. ふゆこさんは　からだは { 1 よわいも / 2 よわいが / 3 よわいの / 4 よわいは } よく　がんばります。

19. きょうは　かぜを　ひいて { 1 いるけれど / 2 いるから / 3 いたり / 4 いるのに } あそびに　いかないよ。

20. となりの　こは　からだは { 1 つよいから / 2 つよいけれど / 3 つよいと / 4 つよいので } なきむしだ。

21. きのうは　えいがを{1 みれば / 2 みると / 3 みるか / 4 みたり}おんがくを　きいたり　しました。

22. あまり{1 さむかったり / 2 さむくて / 3 さむいが / 4 さむいのに}そとへ　でられません。

23. かぜが　さっと{1 ふくから / 2 ふくと / 3 ふくので / 4 ふくに}おおつぶの　あめが　ふりだしました。

24. {1 ふざけるから / 2 ふざけても / 3 ふざけたり / 4 ふざけながら}みちを　あるいて　いると　きけんだよ。

25. きゅうに　さむく{1 なったのに / 2 なったのも / 3 なったので / 4 なったのは}かぜを　ひいた。

26. そとは{1 さむいのに / 2 さむいから / 3 さむいと / 4 さむいので}こどもは　げんきよく　あそんで　いる。

27. あした　あめが{1 ふれば / 2 ふるのに / 3 ふって / 4 ふったり}わたしは　いきません。

28. わたしだって{1 それほど / 2 それぐらい / 3 それさえ / 4 それまで}できるわ。

29. なつやすみに{1 1かいほど / 2 1かいなど / 3 1かいしか / 4 1かいだけ}うみへ　およぎに　いった。

30. ひとの { 1 わるくちしか / 2 わるくちだけ / 3 わるくちなど / 4 わるくちぐらい } いう　ものでは　ありません。

31. このごろは { 1 あめばかり / 2 あめだけ / 3 あめぐらい / 4 あめほど } ふって　こまります。

32. ぼくは { 1 じろうさんほど / 2 じろうさんぐらい / 3 じろうさんさえ / 4 じろうさんまで } えいがに　いかないよ。

33. がっこうから { 1 うちで / 2 うちを / 3 うちほど / 4 うちまで } 5ふん　かかる。

文法能力テストのインストラクション

○ 目的　今回は文法能力のうち，助詞の能力だけにかぎり，その学年別発達を見たいと考えた。

○ 問題の構成　1)　ここにとりあげたものは，児童の日常普通に使う助詞であり，一つの助詞について意味用法がいくつもあるものは，平易なもので代表させることにした。基本的な最低の能力について見ようとするわけである。そのいみで，文脈もごく平易なものにした。

2) えらんだ助詞の種類と数は次の通りである。

格 助 詞（8）　終・間投助詞（3）　係助詞（6）
接続助詞（10）　副 助 詞（6）　計 33

3) 問題は3部にわかれている。

テスト Ⅰ　選択法（4枚）助詞の概観を得る。
テスト Ⅱ　正誤法（1枚）＼
テスト Ⅲ　完成法（1枚）／ よく問題にされる助詞について特に考え、さらにテスト法による結果の比較考察をもする。

（Ⅰ）の正答

問題番号	選択肢の番号				
1	2 (が)	4	1 (に)	7	4 (や)
2	4 (から)	5	3 (の)	8	1 (を)
3	1 (で)	6	2 (へ)	9	4 (か)

10——3（ぞ）　18——2（が）　26——1（のに）
11——4（ねえ）　19——2（から）　27——1（ば）
12——3（か）　20——2（けれど）　28——2（ぐらい）
13——3（さえ）　21——4（たり）　29——4（だけ）
14——3（しか）　22——2（て）　30——3（など）
15——4（でも）　23——2（と）　31——1（ばかり）
16——3（は）　24——4（ながら）　32——1（ほど）
17——4（も）　25——3（ので）　33——4（まで）

実験学校及び協力学校における「もんだいⅠ」の調査結果の大体は次表のとおりである。

この結果についてみると，33の助詞について2,523人を検した結果，正答率の総平均は80％で，これを学校別にみると，G校の69％，D校の92％ ※

文　法　テ　ス　ト　Ⅰ

No.	種類／番号／学校（人数）／正答率		格助詞 1 が	2 から	3 で	4 に	5 の	6 へ	7 や	8 を	平均	終・間投助詞 9 か	10 ぞ	11 ねえ	平均	係助 12 か	13 さえ	14 しか	15 でも
			%																
1	Y	(43)	98	98	98	84	93	44	74	60	81	95	93	100	95	86	70	67	95
2	N	(52)	92	98	87	87	83	52	75	67	80	79	87	98	88	79	62	65	77
3	H	(32)	72	88	59	84	84	41	81	47	73	91	81	59	77	94	75	63	88
4	C	(50)	90	92	84	90	92	72	76	44	80	86	86	96	89	94	86	72	86
5	M	(46)	89	98	93	89	93	20	80	20	84	91	98	100	95	96	72	87	87
6	S	(51)	80	94	94	82	94	80	88	45	88	92	86	98	92	92	67	88	98
7	G	(53)	77	87	85	64	87	34	53	72	70	66	81	94	74	74	60	70	83
8	O	(47)	91	91	89	89	83	77	70	47	80	66	91	94	84	94	72	94	83
9	D	(58)	97	98	97	97	98	74	97	77	91	98	88	100	95	100	72	97	84
10	F	(45)	64	93	82	67	84	67	82	73	77	87	96	89	90	93	60	80	76
11	K	(46)	83	100	91	83	89	70	70	48	79	85	93	98	92	100	76	74	80
12	平均	(523)	**85**	**94**	**88**	**83**	**89**	**62**	**77**	**62**	**80**	**85**	**89**	**94**	**90**	**91**	**70**	**79**	**85**

※ というような平均値からかなり逸脱したものもあるが，大体において平均値80％の周辺に集中している。

これを助詞の種類別に考察すると，Y校とこれを含めた11校の平均を表にしてみるに

	格助詞	終間投助詞	係助詞	接続助詞	副助詞	合計
Y校	81％ (4)	95 (1)	84 (2)	84 (2)	79 (5)	83
全体	80 (3)	90 (1)	83 (2)	78 (4)	76 (5)	80

（ ）内の漢字は種類別による成績の順位を表わす。

ここに取り上げたのが助詞のすべてではなく，また，それぞれの助詞の異なる用法をあげつくしたものではなく，児童が日常普通に経験すると思われ▲

正答率一覧

詞			接続助詞											副助詞							総平均
16 は	17 も	平均	18 が	19 から	20 けれど	21 たり	22 て	23 と	24 ながら	25 ので	26 のに	27 ば	平均	28 ぐらい	29 だけ	30 など	31 ばかり	32 ほど	33 まで	平均	
95	88	84	84	77	95	93	93	44	84	86	84	93	84	93	79	81	100	28	93	79	83
90	87	77	79	71	85	67	90	40	75	89	75	81	75	75	73	67	92	44	87	73	77
91	78	81	84	81	50	63	81	28	75	78	75	81	70	78	56	66	84	38	84	68	73
86	58	80	92	82	88	76	84	50	54	70	74	84	75	82	60	54	92	66	92	74	78
98	89	88	96	87	85	91	98	30	85	95	89	89	85	93	87	72	96	74	87	85	86
96	92	89	82	86	69	76	90	37	80	96	88	80	78	69	90	37	90	47	94	71	82
79	75	74	62	68	72	66	75	45	75	72	66	70	67	58	64	60	83	49	64	63	69
94	96	89	83	89	74	94	87	47	85	89	81	81	81	94	81	79	87	32	91	77	81
100	98	92	97	97	100	93	100	45	98	97	91	97	91	93	88	88	97	81	97	91	92
91	64	77	73	78	78	76	78	29	69	89	76	73	72	78	73	51	76	22	87	64	74
100	83	86	63	83	78	83	91	30	80	91	83	93	78	89	96	76	98	59	93	85	82
93	**83**	**83**	**81**	**82**	**80**	**80**	**88**	**39**	**79**	**87**	**80**	**84**	**78**	**82**	**78**	**67**	**91**	**50**	**88**	**76**	**80**

▲る助詞であり用法であるという前提のもとに，これらの結果を考えてゆくわけであるが，概観すると，終助詞間投助詞の類は最も平易であり，副助詞が最もむずかしく，他の三種はこの両者の間に位置を占め，学校によってそれぞれ異なった結果を示している。

助詞能力の発達については，先にも言及したが，古く城戸幡太郎，松本金寿両氏の〝小学校児童における助詞表現の発達〟があり，また近く信濃教育会における近藤頻道氏の調査がある。前者は3年生から6年生までの調査であり，後者は2年生以上の調査であり，ともに学年による発達の跡を見るものではあるが，今試みに，前者の3年生，後者の2年生3年生の結果を引用すると，

	（城戸・松本氏の調査）	（信濃教育会の調査）	
	3 年の%	2 年の%	3 年の%
格助詞	90	28	37
終 〃	80	10	12
間投〃	90	5	6
係 〃	50	14	21
接続〃	40	16	23
副 〃	40	5	8

（注） 信濃教育会のはおおまかなグラフで表わされているのであるが，左の数字はこのグラフから推測したものである。

検査法や文脈が異なるのであるから，結果の数字を直ちに比較することは問題であるが，われわれの調査結果は信濃教育会のそれとは全然ちがい，城戸・松本氏の調査結果とはわりあい近似しているようである。いずれにしても，われわれの調査が学年の発達を跡づけられるようになった時，これらの調査と比較考察してみたい。

「もんだいⅡ」及び「もんだいⅢ」は次のとおりである。

もんだい Ⅱ

——の ところは いいかたが ちがって いますね。なおしましょう。

（れんしゅう）

もう じき 2ねんへ なります。

1. ともだちと かわらで いしを ひろいました。ぼくは あつめた いしの な

まえが　よく　しりませんでした。
2. にいちゃんは　やきゅうを　とても　じょうずだ。
3. ぼくは　いもうとの　ことを　わらったばかりだ。ぶったり　しないよ。
4. となりの　おじさんは　へんな　ことしか　いって　いる。
5. てんらんかいが　きんようびから　にちようびに　あるそうです。
6. わたしたちは　やさしい　かんじだけ　よめません。
7. どんなに　あめが　ふるけれど　ゆうびんやさんは　きっと　くる。
8. みんなが　さわぐのに　おべんきょうが　よく　できませんでした。

もんだい　III

□ の　なかには　どんな　ことばを　いれたら　いいでしょう。

（れんしゅう）

はやく　はるが　くる □ いいなあ。

1. もりの　むこう □ おおきな　いけが　ありました。
2. はるこさんは　ふゆこさん □ おはなしが　じょうずです。
3. ぼくは　きのう　おかあさん □ かいものに　いきました。
4. ぼくは　おじさん □ ほんを　よんで　もらいました。
5. うちの　おとうさん □ あしが　いたいので，しごとに　いけません。
6. 「みなさん，うちの　なか □ さわいでは　いけませんよ。」
7. 「もう　けっして　そんな　ことを　する □ 。」と　にいさんに　いわれました。
8. ながい　ひげ □ はえた　おじいさんに　あいました。

「もんだいII」及び「もんだいIII」の実験学校における集計の結果を，「もんだいI」の場合を参照しながらしるすと，

もんだい　II（正誤法）

番号	正　　答	正答率	「もんだいI」の場合
1	を（お）・は	86%	（8）を——60%
2	が・は	74	（1）が——98（ただし異質の「が」）
			(16) は——95
3	だけ・の	33	(29) だけ——79
4	ばかり・を（お）	70	(31) ばかり——100
			（8）を——60
5	まで	48	(33) まで——93

6	しか・が	28	(14) しか——67 (1) が——98 (これも異質の「が」)
7	ても・たって ていても	51	〔後述するように，3月のテストIの (7) で，「ても」——84%〕
8	ので・から	70	(19) から——77 (25) ので——86
平均		58	

以上を見ると，選択法による「もんだいI」の方が概して答えやすいように思われる。なお(8)では，正答30人中「ので」——13人，「から」——17人であった。

もんだい III (完成法)

番号	正答	正答率	「もんだいI」の場合
1	に	79%	(4) に——84%
2	より	47	〔あとの3月テストでは，文脈をかえて91%〕
3	と・の	91	(5) の——93〔Iで「と」はない〕
4	に	91	(4) に——84
5	は (わ)	88	(16) は——95
6	で・では	91	(3) で——98〔IとIIIとでは質がやや異なる〕
7	な・でない のではない	48	
8	が・の	65	(1) が——98 (5) の——93〔異質の「の」であるが〕
平均		75	

こうしてみると，IIIの完成法によるものはIの選択法による結果にかなり近い。子どもたちの経験からいって，文脈がすなおであれば，正誤法のように誤りに引きつけられることがなくて答えやすいのではなかろうか。

なお第8問では，こうした場合に「が」というか「の」というか，幼年のころは「が」というのが，長ずるにつれて書きことばに引きずられて「の」を可とするのが多くなるのではないかという予見をもって，これを確かめたかったのであるが，この段階では「が」——15人，「の」——13人であった。(この正答数よりも，男子の誤答が17人中3人であるのに，女子の誤答——す

べて「を」――が26人中12人もあったことに奇異を感じる。）

3月には，助詞の能力を調べた1月テストの補充と，その他の能力を見ようとした2年1学期末テストとの比較と，この2点を目ざして次のようにテストを行った。次にその問題と構成を掲げよう。

テ ス ト (1)

どの いいかたが いいでしょうか。いいのに ○を つけましょう。

（れんしゅう）

このてがみは｛① ともだちと ② ともだちだけ ③ ともだちが ④ ともだちから｝きました。

(1) がっこうから｛① かえるので ② かえるなり ③ かえるより ④ かえるから｝あそびに いって しまった。

(2) むこうの くらがりに｛① なにやら ② なにだけ ③ なにまで ④ なにばかり｝みえる。

(3) くびに すずを つけると いう｛① ことがぞ ② ことがよ ③ ことがの ④ ことがさ｝なかなか むずかしいんだよ。

(4) くりちゃんは あたまも｛① よいから ② よいし ③ よいのに ④ よいと｝からだも じょうぶだ。

(5) おとうとに できるくらいなら わたしにだって でき｛① ますとも。 ② ますか。 ③ ますや。 ④ ますと。｝

(6) 「きみは なんの ようが あって ここへ きたのだ。」「そういう｛① おまえは ② おまえも ③ おまえが ④ おまえこそ｝どうして ここへきたのだ。」

(7) いくら　いそいで{①いっても ②いくけれど ③いけば ④いったら}もう　まに　あわないよ。

(8) はるに{①なるから ②なると ③なるほど ④なるのに}くさが　いちどに　めを　だします。

(9) わたしは{①おとうとだけ ②おとうとさえ ③おとうとほど ④おとうとまで}およぎに　いかないよ。

□の　なかには　どんな　ことばを　いれたら　いいでしょう。

(10) はるこさんは　ふゆこさん□せいが　たかい。

テ　ス　ト (2)

——の　ところは　いいかたが　ちがって　いますね。なおしましょう。

（れんしゅう）

もうじき　2ねんへ　なります。

(1) とおくの　ほうに　みえる　この　がっこうが　ぼくたちの　がっこうです。

(2) うんどうかいの　ときには、たくさんの　おかあさんが　あつめた。

(3) そとで　あそんで　いたら、おかあさんに　よばれて，ぼくは　おつかいに　いかれた。

(4) こんな　やさしい　ほんなら、あたしにも　よめられる。

(5) まさおさんが　おとうさんに　ききました。

「おとうさん，おとうさんが　てにもっている　あれ，なあに。」

(6) おにんぎょうに　きれいな　きものを　きて　あげよう。

(7) いちろうくんは，よその　子どもたちに　いじめられて，とうとう　なかれた。

(8) きみが　とぶくらい，ぼくだって　とべれるよ。

○ テストは，テスト(1)は助詞，テスト(2)は動詞・代名詞・指示の連体詞の使用能力を見るように，構成されている。

テスト(1)— 1月テストの補充と確かめ（1月には児童にとってなじみのうすい助詞は省いたので，今回はその範囲を広げた）10問，

(1) なり　副助詞
(2) やら　副
(3) さ　終・間投
(4) し　接続
(5) とも　終・間投
(6) こそ　係
(7) ても　接続

} 1月テストの補充，選択法

(8) と　〃
(9) ほど　副
(10) より　格

} 選択法 } 1月テストの訂正
完成法

テスト(2)―動詞の自他の活用，代名詞（連体詞）の遠近などの理解（2年1学期末テストのうち助詞をのぞいた4問をそのままと，これと同趣のもの4問をくわえた）8問，

(1) (2) (3) (4)――2年1学期のテストから選定
(5) (6) (7) (8)――上と同趣のものの補充

テスト(1)の実験学校と実施各校（M・S・H・D・N・C・Gの各協力学校及びY校も含めて）とにおける正答率の概略は下のとおりである。

（番号）（助　詞）	（Y校）	（各校）	（備　考）
(1) なり（副）	47%	39%	
(2) やら（〃）	36	50	
(3) さ　（終・間）	62	65	
(4) し　（接）	44	45	
(5) とも（終・間）	96	85	
(6) こそ（係）	58	38	
(7) ても（接）	84	81	
(8) と　（〃）	64	67	（1月テストで，Y校――44%，各校――39%）
(9) ほど（副）	27	41	（　〃　〃　28，　〃　50　）
(10) より（格）	91	84	（　〃　〃　47　）

以上の数字を実験学校について1月テストのIと合わせてみると，次のようになる。

終・間投助詞	89%
係助詞	80
接続助詞	82
副助詞	70

（注）3月テストで補充したものはそれぞれ加え，改訂したのは改めた方を採る。「と」は今回の方が文脈がわかりやすかったらしく，「ほど」の不出来は，やはり文脈のせいではあるまいか。

格助詞の「より」は，完成法によっているので，1月テストIと合わせることはむりであるが，まずまず動かないと見てよいであろう。ただ，今回の方が文脈がはっきりしているので，1月テストのIIIでは47％だったのが，91％にあがっている。テスト(2)の実験学校における結果は次のとおりである。

検査の項目	問題の番号と正答	正答率	2年1学期末の正答率
指示詞の遠近	(1) あの	64％	48％
	(5) それ・これ もの・の（のは）	96	
動詞の自他等	(2) あつまった・きた・くる・みにきた・きました等	84	55
	(3) いった・いきました	96	77
	(6) きせて	82	
	(7) ないた・なかされた　等	87	
動詞の活用	(4) よめる・よめます	89	70
	(8) とべるよ・とべる	78	

2年1学期と比べると著しく向上していることが知られる。ただ，代名詞・連体詞など指示する語の遠近の関係を的確に表現することは，まだわりあい困難らしいことがわかると思う。

Ⅴ ひらがな能力の発達

A ひらがな読字力・書字力の正答率の上昇

1 清音，濁・半濁音の読み書き

ひらがなの文字力発達については，「入門期の言語能力」においてみたように，(1)書く力は学校にはいって組織的な学習を受けはじめる5月6月ごろ急速にのびる。(2)書く力の完成は読む力の完成よりも困難であり，ややおくれる。(3)都市においては読字書字ともに1年前期終了時（10月中旬）に90%に達し，純農村においても1年2学期末（12月）には90%以上に達するという状況であった。

1年生第2学期末ひらがな文字別正答率一覧表（清音）

文字	よみ平均 96.8 %				文字	かき平均 93.8 %			
	実験学校		協力学校			実験学校		協力学校	
	よみ	かき	よみ	かき		よみ	かき	よみ	かき
あ	100	95.9	98.0	96.1	ね	98.0	87.8	96,5	90.0
い	100	100	98.0	98.0	の	100	100	98.5	94.6
う	98.0	95.9	96.5	96.9	は	95.9	95.9	96.7	95.0
え	100	98.0	97.8	95.0	ひ	98.0	87.8	97.4	95.6
お	100	98.0	98.7	95.4	ふ	100	75.5	95.2	85.2
か	100	98.0	98.9	97.4	へ	98.0	83.7	93.9	89.3
き	100	93.9	98.5	97.6	ほ	98.0	85.7	93.3	87.6
く	100	95.9	97.6	96.1	ま	100	98.0	98.9	98,7
け	100	93.9	96.7	93.7	み	100	95.9	98.0	96.7
こ	100	100	98.0	97.8	む	93.9	69.4	95.6	83.2
さ	100	98.0	97.8	98.5	め	100	91.8	96.3	91.1
し	100	100	97.4	97.4	も	100	98.0	96.7	95.4
す	98.0	95.9	97.4	98.3	や	100	93.9	98.0	95.0
せ	98.0	100	98.3	97.2	ゆ	98.0	85.7	97.2	92.2
そ	100	85.7	93.5	89.3	よ	100	98.0	97.8	95.0
た	100	98.0	98.3	95.9	ら	98.0	91.8	95.4	90.4
ち	100	98.0	96.7	95.2	り	100	95.9	97.4	92.4
つ	98.0	95.9	96.7	94.8	る	100	98.0	97.0	94.6
て	100	100	96.7	93.7	れ	100	89.8	95.0	91.1
と	100	95.9	98.0	97.6	ろ	93.9	95.9	95.0	92.4
な	100	93.9	98.0	94.1	わ	100	85.7	96.7	89.1
に	100	95.9	97.2	95.2	を	100	93.9	96.3	89.1
ぬ	87.8	69.4	89.4	84.7	ん	100	93.9	98.3	97.2

同（濁音・半濁音）

よみ平均 90.9 %					かき平均 84.5 %				
文字	実験学校		協力学校		文字	実験学校		協力学校	
	よみ	かき	よみ	かき		よみ	かき	よみ	かき
が	100	98.0	95.5	95.6	で	100	98.0	95.5	90.8
ぎ	100	89.8	93.0	86.7	ど	100	91.8	95.0	88.2
ぐ	100	81.6	93.3	84.2	ば	95.9	81.6	92.3	84.9
げ	100	89.8	92.0	86.4	び	91.8	75.5	92.8	86.0
ご	100	89.8	94.8	90.8	ぶ	95.9	65.3	91.3	82.5
ざ	95.9	83.7	90.3	84.5	べ	89.9	85.7	89.1	83.8
じ	100	95.9	95.0	95.0	ぼ	93.9	79.6	88.3	82.1
ず	95.9	87.8	93.0	88.4	ぱ	87.8	71.4	88.1	85.8
ぜ	98.0	61.2	91.5	83.6	ぴ	91.8	87.8	86.8	81.6
ぞ	100	85.7	92.0	82.1	ぷ	77.6	77.6	83.3	74.8
だ	100	95.9	95.5	90.8	ぺ	83.7	63.7	84.8	80.5
ぢ	93.9	26.5	86.3	68.9	ぽ	71.4	75.5	84.6	77.9
づ	98.0	73.5	89.1	77.2					

そこで，1年2学期末で，ひらがなの習得は一応できたものと認めて，1年3学期末にはひらがなの文字力についてはテストを行わなかった。しかし，その後の教室観察や，ノートの使用状況，作文の文字使用などによって，一字ずつのテストに正答を得たことと，実際の使用力とは，必ずしも同一でないことが認められた。2年の2学期末にもう一度，1年の時と同じテスト方法で，(1)ひらがな清音，濁・半濁音71字の読み書き及び(2)使用上困難度の高い促音，拗音，長音の読み書き，助詞 は，を，へ等の書きのテストを行った。

ひらがなテストの問題

読み……個別テスト

(1) ひらがな（清音，濁・半濁音）71字

単独に文字として無作為に与え，正しく読めるかどうかを見る。

(2) 促音，拗音，長音15語

これらの音を含む15語を与え，正しく読めるか，どうかを見る。

① まっくら　② しゃしん　③ やきゅう　④ がっこう
⑤ ちょきん　⑥ じゅんばん　⑦ かえってくる　⑧ きんぎょ
⑨ びっくりする　⑩ じょうずに(できた)　⑪ りょうて　⑫ びょうき
⑬ かってもらう　⑭ ぎゅうにゅう　⑮ きょうは

書き……集団テスト

(1) ひらがな（清音，濁・半濁音）71字

それぞれの文字を含む語として与え，正しく書けるかどうかを見る。

(2) 促音，拗音，長音その他20語

よみの15語及び，助詞へとえの使いわけ等を含む20語が正しく書けるかどうかを見る。

⑯ ほんを　よむ　　⑰ うちへ　かえる　　⑱ ことりは　かわいい

⑲ おこったかお　　⑳ うんどうかい

その結果，次のようなことがわかった。

実験学校　昭和29年度2年生第2学期末テスト集計表

ひらがな　読字・書字

	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	し	す	せ	そ
読字（数）	44	44	44	44	44	44	44	43	44	44	43	44	44	44	44
正答（率）	100	100	100	100	100	100	100	97.7	100	100	97.7	100	100	100	100
書字（数）	44	44	44	43	44	44	44	42	44	43	44	44	44	44	44
正答（率）	100	100	100	97.7	100	100	100	95.5	100	97.7	100	100	100	100	100

	た	ち	つ	て	と	な	に	ぬ	ね	の	は	ひ	ふ	へ	ほ
読字（数）	44	44	44	44	44	44	44	42	44	44	43	44	44	43	44
正答（率）	100	100	100	100	100	100	100	95.5	100	100	97.7	100	100	97.7	100
書字（数）	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	43	41	43	41
正答（率）	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	97.7	93.2	97.7	93.2

	ま	み	む	め	も	や	ゆ	よ	ら	り	る	れ	ろ	わ	を
読字（数）	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
正答（率）	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
書字（数）	44	43	43	44	44	44	44	44	44	44	44	43	44	41	43
正答（率）	100	97.7	97·7	100	100	100	100	100	100	100	100	97.7	100	93.2	97.7

	ん
読字（数）	44
正答（率）	100
書字（数）	44
正答（率）	100

○ 平均読字数　45.9字
S.D　0.6

○ 平均書字数　45.5字
S.D　1.0

1. 調査日
読字力　29. 11. 30（火）
書字力　29. 12. 3（金）
2. テストの方法
読字力　個別テスト
書字力　集団テスト

	が	ぎ	ぐ	げ	ご	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	だ	ぢ	づ	で	ど
読字（数）	44	44	44	44	44	42	44	44	43	44	44	42	44	44	44
正答（率）	100	100	100	100	100	95.5	100	100	97.7	100	100	95.5	100	100	100
書字（数）	43	44	39	42	42	43	43	41	42	42	43	38	42	44	44
正答（率）	97.7	100	88.6	95.5	95.5	97.7	97.7	93.2	95.5	95.5	97.7	86.4	95.5	100	100

	ば	び	ぶ	べ	ぼ	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
読字（数）	44	44	44	43	43	42	43	42	41	40
正答（率）	100	100	100	97.7	97.7	95.5	97.7	95.5	93.2	90.9
書字（数）	44	40	38	42	41	40	42	39	42	42
正答（率）	100	90.9	86.4	95.5	93.2	90.9	95.5	88.6	95.5	95.5

○平均読字数 24.6字
S.D 0.9

○平均書字数 23.7字
S.D 2.0

ひらがな清音，濁・半濁音に関しては，清音46字中，平均読字数45.9字（99.8%），平均書字数45.5字（98.9%），濁・半濁音25字中，平均読字数24.6字（98.3%），平均書字数23.7字（94.7%）という，さらに高い上昇率を示した。そして1年の時に教科書および学習の如何にかかわりなく，読字・書字ともに完全習得のおくれる文字む，ぬ，そ，ほ，ろ（書きの「を」）等もそれぞれ上昇して100%に達したり，100%に近づいたりしている。濁・半濁音で，とくに書きにくかったぐ，ぢ，ぶ，ぷも90%近くにのびている。この発達状況は1～2年読字・書字能力の発達（ひらがな）をみるといっそうよくわかる。

実験学校　1～2年読字・書字能力の発達
ひらがな清音文字別正答率の上昇

読字	28年 4月 48人	5月 44人	6月 45人	7月 41人	9月 41人	12月 36人	29年 12月 44人
あ	60.4	79.5	91.1	97.6	100.0	97.2	100.0
い	60.4	77.3	86.7	95.1	97.6	97.2	100.0
う	64.6	81.8	95.6	92.7	97.6	97.2	100.0
え	62.5	77.3	86.7	90.2	100.0	97.2	100.0
お	60.4	86.4	96.5	100.0	100.0	97.2	100.0
か	60.4	81.8	93.3	95.1	97.6	97.2	100.0
き	64.6	75.0	86.7	95.1	97.6	97.2	100.0

書字	28年 4月 46人	5月 45人	6月 44人	7月 42人	9月 41人	12月 36人	29年 12月 44人
あ	54.3	71.1	79.5	92.7	97.6	100.0	100.0
い	64.4	71.7	84.1	88.1	90.2	91.7	100.0
う	56.5	71.7	80.6	88.1	92.7	97.2	100.0
え	43.5	55.6	72.7	81.0	90.2	94.4	97.7
お	63.0	77.8	95.5	95.2	100.0	97.2	100.0
か	60.9	93.3	88.6	95.2	90.2	100.0	100.0
き	63.0	71.7	88.6	95.2	95.1	100.0	100.0

	読字								書字						
	28年4月 48人	5月 44人	6月 45人	7月 41人	9月 41人	12月 36人	29年12月 44人		28年4月 46人	5月 45人	6月 44人	7月 42人	9月 41人	12月 36人	29年12月 44人
く	56.2	70.5	75.6	95.1	100.0	97.2	97.7	く	50.0	55.6	72.7	76.2	87.8	100.0	95.5
け	60.4	72.7	77.8	90.2	95.1	94.4	100.0	け	41.3	64.4	65.9	73.8	87.8	100.0	100.0
こ	62.5	81.8	86.7	95.1	100.0	97.2	100.0	こ	71.7	77.8	86.4	90.5	100.0	100.0	97.7
さ	62.5	79.5	85.6	97.6	95.1	97.2	97.7	さ	63.0	75.6	81.8	90.5	97.6	100.0	100.0
し	70.8	81.8	93.3	97.6	95.1	97.2	100.0	し	69.6	80.0	95.5	92.9	92.7	97.2	100.0
す	70.8	81.8	88.9	95.1	100.0	97.2	100.0	す	64.4	73.3	88.6	95.2	92.7	94.4	100.0
せ	56.2	81.8	95.6	100.0	97.6	97.2	100.0	せ	58.7	71.1	88.6	95.2	95.1	100.0	100.0
そ	50.0	52.3	71.7	80.5	92.7	91.7	100.0	そ	21.7	24.4	61.4	66.7	78.0	88.9	100.0
た	58.3	68.2	82.2	92.9	97.6	97.2	100.0	た	52.2	66.7	75.0	90.5	92.7	100.0	100.0
ち	58.3	68.2	88.9	95.1	97.6	97.2	100.0	ち	50.0	51.1	79.5	90.5	100.0	94.4	100.0
つ	54.2	70.5	77.8	92.7	95.1	97.2	100.0	つ	47.8	60.0	77.3	81.0	92.7	97.2	100.0
て	54.2	61.4	84.4	90.2	95.1	97.2	100.0	て	41.3	51.1	75.0	81.0	92.7	100.0	100.0
と	60.4	77.3	88.9	97.6	97.6	97.2	100.0	と	58.7	57.8	84.1	95.2	95.1	94.4	100.0
な	58.3	68.2	77.8	90 2	95,1	97.2	100.0	な	39.1	55.6	63.6	83.3	92.7	97.2	100.0
に	52.1	65.9	82.2	92.7	95,1	97.2	100.0	に	47.8	57.8	77.3	85.7	85.4	94.4	100.0
ぬ	45.8	50.0	48.9	70.7	82,9	94.4	95.5	ぬ	26.1	33.3	50.0	61.9	58.5	80.6	100.0
ね	54.2	72.9	82.2	90.2	90,2	94.4	100.0	ね	32.6	44.4	68.2	78.6	92.7	97.2	100.0
の	62.5	77.3	80.0	92.7	95.1	97.2	100.0	の	54.3	60.0	79.5	83.3	95.1	97.2	100.0
は	62.5	79.5	91.1	97.6	97.6	97.2	97.7	は	54.3	66.7	84.1	92.9	97.6	100.0	100.0
ひ	56.2	65.9	68.9	82.9	92.7	91.7	100.0	ひ	50.0	60.0	70.5	73.8	85.4	91.7	97.7
ふ	54.2	63.6	73.3	95.1	92.7	97.2	100.0	ふ	26.1	28.9	63.6	66.7	82.9	91.7	93.2
へ	52.1	59.1	60.0	73.2	78.0	88.9	97.7	へ	32.6	33.3	54.5	59.5	78.0	91.7	97.7
ほ	39.6	52.3	60.0	63.4	90.2	91.7	100.0	ほ	23.9	46.7	59.1	59.5	82.9	91.7	93.2
ま	64.6	77.3	95.6	97.6	100.0	97.2	100.0	ま	60.9	77.8	95.5	95.2	95.1	100.0	100.0
み	64.6	81.8	93.3	97.6	100.0	97.2	100.0	み	58.7	73.3	84.1	85.7	97.6	100.0	97.7
む	47.9	56.8	64.4	78.0	90.2	94.4	100.0	む	19.6	17.8	50.0	64.3	70.7	88.9	97.7
め	56.2	68.2	80.0	95.1	92.7	97.2	100.0	め	39.1	33.3	63.6	78.6	87.8	97.2	100.0
も	56.2	75.0	86.7	97.6	97.6	97.2	100.0	も	47.8	51.1	79.5	90.5	92.7	94.4	100.0
や	58.3	68.2	86.7	92.7	95.1	97.2	100.0	や	52.2	53.3	81.8	88.1	92.7	94.4	100.0
ゆ	60.4	65.9	68.9	82.9	90.2	97.2	100.0	ゆ	23.9	26.7	61.4	73.8	80.5	97.2	100.0
よ	60.4	81.8	91.1	97.6	97.5	97.2	100.0	よ	52.2	64.4	84.1	92.9	95.1	100.0	100.0
ら	50.0	65.9	68.9	78.0	95.1	97.2	100.0	ら	34.8	51.1	65.9	73.8	87.8	100.0	100.0

	読字							書字						
	28年 4月 48人	5月 44人	6月 45人	7月 41人	9月 41人	12月 36人	29年 12月 44人		28年 4月 46人	5月 45人	6月 44人	7月 42人	9月 41人	12月 36人	29年 12月 44人
り	56.2	77.3	82.2	90.2	97.6	97.2	100.0	り	39.1	60.0	75.0	83.3	92.7	100.0	100.0
る	56.2	72.7	85.9	95.1	92.7	94.4	100.0	る	47.8	55.6	72.7	83.3	90.2	91.7	100.0
れ	47.9	59.1	71.7	85.4	87.8	91.7	100.0	れ	23.9	31.1	54.5	66.7	80.5	91.7	97.7
ろ	56.2	63.6	75.6	85.4	92.7	94.4	100.0	ろ	37.0	57.8	72.7	66.7	87.8	97.2	100.0
わ	50.0	56.8	75.6	87.8	95.1	97.2	100.0	わ	26.1	44.4	63.6	76.2	82.9	86.1	93.2
を	50.0	63.1	77.8	87.8	95.1	97.2	100.0	を	13.0	22.2	59.1	71.4	61.0	97.2	97.7
ん	56.2	84.1	91.1	97.6	100.0	97.2	100.0	ん	58.7	75.6	93.2	97.6	100.0	100.0	100.0
平均	57.3	71.3	81.4	90.9	95.2	99.1	99.8	平均	46.2	55.7	75.0	82.3	89.3	96.1	98.9

1～2年読字・書字能力の発達　ひらがな濁・半濁音文字別正答率の上昇

	読字							書字						
	28年 4月 48人	5月 44人	6月 45人	7月 41人	9月 41人	12月 36人	29年 12月 44人		28年 4月 46人	5月 45人	6月 44人	7月 42人	9月 41人	12月 36人	24年 12月 44人
が	50.0	70.5	80.0	90.2	95.1	94.4	100.0	が	43.4	55.6	65.9	78.6	87.8	97.2	97.7
ぎ	43.5	54.5	60.0	70.7	90.2	91.7	100.0	ぎ	34.8	46.7	56.8	61.9	75.6	88.9	100.0
ぐ	41.7	50.0	55.6	70.7	82.9	91.7	100.0	ぐ	28.2	42.2	52.3	45.2	61.0	91.7	88.6
げ	39.6	56.8	66.7	73.2	90.2	91.7	100.0	げ	23.9	31.1	40.9	59.5	73.2	91.7	95.5
ご	45.8	59.1	71.7	85.4	92.7	97.2	100.0	ご	37.0	75.6	61.4	73.8	87.8	100.0	95.5
ざ	39.6	47.8	60.0	70.7	80.5	91.7	95.5	ざ	28.2	31.1	47.8	52.4	75.6	94.4	97.7
じ	50.0	61.4	66.7	85.4	92.7	97.2	100.0	じ	43.4	62.2	59.1	71.4	92.7	100.0	97.7
ず	58.3	68.2	75.6	90.2	92.7	94.4	100.0	ず	50.0	75.6	70.5	81.0	87.8	88.9	93.2
ぜ	39.6	50.0	64.4	75.6	85.4	86.1	97.7	ぜ	21.7	20.0	47.8	45.2	73.2	94.4	95.5
ぞ	43.5	45.5	62.2	73.2	85.4	91.7	100.0	ぞ	8.7	20.0	47.8	52.4	70.7	77.8	95.5
だ	52.1	59.1	68.9	80.5	92.7	94.4	100.0	だ	41.3	42.2	61.4	71.4	85.4	91.7	97.7
ぢ	37.5	47.8	51.1	63.4	75.6	77.8	95.5	ぢ	8.4	26.7	25.0	21.4	46.3	80.6	86.4
づ	45.8	54.5	60.0	70.7	82.9	91.7	100.0	づ	34.8	40.0	43.2	45.2	58.5	88.9	95.5
で	45.8	56.8	73.3	85.4	95.1	97.2	100.0	で	30.4	46.7	56.8	61.9	82.9	91.7	100.0
ど	45.8	50.0	68.9	75.6	95.1	94.4	100.0	ど	32.6	35.6	56.8	66.7	95.1	94.4	100.0
ば	35.4	43.2	51.1	61.0	82.9	88.9	100.0	ば	26.1	26.7	43.2	52.4	75.6	100.0	100.0
び	43.5	56.8	80.0	90.2	87.8	94.4	100.0	び	28.2	46.7	68.2	69.0	85.4	88.9	90.9
ぶ	39.6	54.5	62.2	73.2	87.8	91.7	100.0	ぶ	19.5	26.7	52.3	52.4	78.1	97.2	86.4
べ	39.6	45.5	75.6	61.0	85.4	91.7	97.7	べ	28.2	33.3	52.3	50.0	75.6	88.9	95.5
ぼ	29.2	47.8	57.8	61.0	82.9	88.9	97.7	ぼ	21.7	33.3	54.5	45.2	75.6	91.7	93.2

	読字							書字						
	28年4月 48人	5月 44人	6月 45人	7月 41人	9月 41人	12月 36人	29年12月 44人		28年4月 46人	5月 45人	6月 44人	7月 42人	9月 41人	12月 36人	29年12月 44人
ば	27.1	43.2	46.7	48.8	53.7	75.0	95.5	ば	23.9	31.1	40.9	58.1	65.8	77.8	90.9
び	29.2	43.2	75.6	56.1	56.1	75.0	97.7	び	21.7	31.1	47.8	33.3	70.7	72.2	95.5
ぶ	31.3	40.9	31.1	43.9	53.7	75.0	95.5	ぶ	10.9	22.2	36.4	31.0	48.8	72.2	88.6
べ	33.3	40.9	44.4	39.0	51.2	83.3	93.2	べ	15.2	33.3	38.6	33.3	51.2	80.6	95.5
ぼ	29.2	36.4	31.1	31.7	46.3	69.2	90.9	ぼ	21.7	24.4	34.1	33.3	51.2	77.8	95.5
平均	40.8	51.4	60.3	69.1	80.7	88.7	98.3	平均	27.4	36.6	50.4	53.0	73.2	88.8	94.7

この状況は実験学校ばかりでなく協力学校も同じである。

協力学校1～2年 読字・書字能力の発達　ひらがな清音文字別正答率の上昇(%)

	読字力					書字力			
	28年4月 6校 244名	28年7月 4校 177名	28年12月 6校 315名	29年12月 7校 326名		28年4月 6校 244名	28年7月 5校 232名	28年12月 6校 313名	29年12月 6校 271名
あ	79.1	87.6	96.1	99.7	あ	57.0	81.5	98.0	100
い	82.0	85.9	98.0	99.7	い	67.6	77.6	98.0	99.3
う	73.8	84.7	96.9	99.7	う	51.6	78.9	96.5	99.3
え	69.7	78.5	95.0	99.7	え	50.8	71.9	97.8	99.6
お	83.6	91.0	95.4	99.7	お	68.4	83.2	98.7	97.0
か	79.5	89.3	97.4	100	か	61.1	83.2	98.9	99.3
き	80.7	83.6	97.6	99.7	き	64.3	82.3	98.5	99.3
く	70.1	78.5	96.1	99.7	く	52.0	75.9	97.6	99.6
け	68.0	74.0	93.7	99.7	け	47.5	69.0	96.7	99.3
こ	77.9	87.0	97.8	99.7	こ	63.1	84.5	98.0	98.9
さ	70.9	86.4	98.5	99.7	さ	54.5	83.6	97.8	99.3
し	77.9	89.8	97.4	99.7	し	57.0	80.2	97.4	99.6
す	73.0	83.1	98.3	99.7	す	51.2	78.4	97.4	100
せ	68.9	83.6	97.2	99.7	せ	45.9	76.3	98.3	99.6
そ	56.6	65.0	89.3	99.7	そ	32.0	63.8	93.5	98.9
た	75.4	81.9	95.9	99.7	た	53.3	78.4	98.3	99.3
ち	69.3	80.7	95.2	99.4	ち	47.1	79.3	96.7	99.6
つ	76.2	80.7	94.8	99.4	つ	57.4	72.0	96.7	99.3
て	66.4	83.1	93.7	99.7	て	38.9	75.0	96.7	99.6
と	75.8	87.0	97.6	100	と	50.0	77.2	98.0	99.6
な	66.8	81.4	94.1	99.7	な	43.9	74.6	98.0	98.5
に	64.3	78.5	95.2	99.7	に	43.9	75.4	97.2	99.3

	読字力					書字力			
	28年4月 6校 244名	28年7月 7校 177名	28年12月 6校 315名	29年12月 7校 326名		28年4月 6校 244名	28年7月 5校 232名	28年12月 6校 313名	29年12月 6校 271名
ぬ	51.6	62.7	84.7	99.1	ぬ	28.3	58.6	89.4	95.9
ね	59.8	69.5	90.0	99.4	ね	34.4	67.7	96.5	98.5
の	75.4	81.9	94.6	99.7	の	50.8	75.9	98.5	99.3
は	68.4	81.4	95.0	98.8	は	45.9	78.0	96.7	99.6
ひ	70.1	80.2	95.6	99.1	ひ	45.1	77.2	97.4	99.3
ふ	61.1	70.6	85.2	99.7	ふ	35.2	59.5	95.2	98.2
へ	59.0	68.4	89.3	99.1	へ	39.8	65.5	93.9	94.8
ほ	52.9	67.7	87.6	99.4	ほ	30.3	65.9	93.3	94.5
ま	77.5	85.3	98.7	99.7	ま	57.4	81.5	98.9	99.6
み	75.4	88.1	96.7	99.4	み	49.2	80.2	98.0	99.3
む	56.1	65.5	83.2	99.7	む	31.1	51.3	95.6	98.2
め	59.1	78.5	91.1	99.7	め	31.1	65.5	96.3	98.5
も	67.6	76.8	95.4	99.7	も	40.6	69.8	96.7	98.9
や	73.0	83.6	95.0	99.7	や	50.8	74.1	98.0	99.3
ゆ	60.7	75.1	92.2	99.4	ゆ	29.9	63.4	97.2	97.8
よ	76.2	78.5	95.0	99.7	よ	43.4	75.9	97.8	98.9
ら	59.4	71.2	90.4	97.5	ら	32.0	65.9	95.4	98.2
り	68.9	76.8	92.4	99.4	り	49.6	69,0	97.4	98.9
る	67.6	73.4	94.6	99.1	る	41.0	71.6	97.0	98.9
れ	54.9	67.2	91.1	99.4	れ	26.6	62.5	95.0	98.9
ろ	62.7	82.5	92.4	97.5	ろ	34.8	73.3	95.0	98.2
わ	61.5	69.5	89.1	99.7	わ	38.1	64.2	96.7	93.7
を	51.6	74.0	89.1	99.7	を	21.3	60.3	96.3	91.5
ん	75.8	89.3	97.2	99.7	ん	51.2	80.7	98.3	97.8
平均	68.5	79.1	93.8	99.5	平均	45.6	73.0	96.9	98.6

協力学校1～2年 読字・書字能力の発達　ひらがな濁・半濁音文字別正答率の上昇(%)

	読字力					書字力			
	28年4月 5校 209名	28年7月 4校 191名	28年12月 6校 315名	29年12月 6校 272名		28年4月 5校 209名	28年7月 4校 232名	28年12月 6校 313名	29年12月 7校 324名
が	55.0	75.6	95.5	90.4	が	44.5	71.6	95.6	99.4
ぎ	48.8	66.0	93.0	98.9	ぎ	33.0	56.9	86.7	98.1
ぐ	48.3	62.8	93.3	98.1	ぐ	30.1	53.0	84.2	98.8
げ	49.8	63.4	92.0	98.5	げ	32.5	56.5	86.4	97.2
ご	53.6	66.5	94.8	99.2	ご	39.2	58.6	90.8	99.1

	読字力					書字力			
	28年4月 5校 209名	28年7月 4校 191名	28年12月 6校 272名	29年12月 6校 272名		28年4月 5校 209名	28年7月 4校 232名	29年12月 6校 313名	29年12月 7校 324名
ざ	56.0	63.9	90.3	97.1	ざ	36.8	58.2	84.5	98.1
じ	56.9	68.1	95.0	97.4	じ	45.0	69.2	95.0	96.9
ず	56.5	67.5	93.0	97.8	ず	39.2	61.6	88.4	95.4
ぜ	47.4	60.2	91.5	94.5	ぜ	29.2	59.5	83.6	91.7
ぞ	35.9	56.5	92.0	97.1	ぞ	17.2	50.9	82.1	95.4
だ	61.2	69.1	95.5	99.6	だ	45.9	62.5	90.8	97.5
ぢ	43.5	46.1	86.3	95.6	ぢ	24.4	37.9	68.9	81.5
づ	47.4	54.5	89.1	97.4	づ	30.6	47.0	77.2	88.0
で	54.1	68.1	95.5	99.6	で	37.3	62.5	90.8	95.7
ど	48.3	65.4	95.0	98.9	ど	26.3	58.2	88.2	96.0
ば	46.4	57.1	92.3	98.1	ば	36.8	62.1	84.9	95.4
び	39.2	50.3	92.8	89.7	び	23.9	49.6	86.0	97.2
ぶ	41.6	58.6	91.3	98.9	ぶ	24.4	52.2	82.5	94.8
べ	42.6	53.9	89.1	97.4	べ	34.4	53.0	83.8	95.4
ぼ	38.8	56.0	88.3	97.4	ぼ	23.0	50.9	82.1	94.4
ぱ	34.0	14.4	88.1	96.7	ぱ	25.8	49.1	85.8	94.8
ぴ	31.6	40.8	86.8	96.0	ぴ	20.6	42.7	81.6	96.6
ぷ	26.8	36.6	83.3	93.4	ぷ	13.4	38.8	74.8	93.5
ぺ	23.0	35.6	84.8	93.0	ぺ	12.0	33.2	80.5	94.4
ぽ	30.1	39.8	84.6	93.4	ぽ	18.2	39.7	77.9	94.4
平均	44.7	57.0	90.9	96.6	平均	29.8	53.4	81.4	94.0

われわれの調査では，1年の2学期末でひらがな文字力調査を一応打ち切ったために，この2年の2学期末テストの間までに，時期的にブランクがあるわけで，それを補正する意味で，同じ実験学校及び協力学校（新たに，A校を加える）の1年生に対して，1年2学期末と3学期末の二回に亘って全く同一の方法でテストを行った。それによると，

		1年2学期末（12月）					1年3学期末（3月）				
		実験学校			協力学校		実験学校			協力学校	
		字	%	S.D	字	%	字	%	S.D	字	%
清音	平均読字数	45.5	98.9	1.40	44.5	96.7					
	平均書字数	42.8	93.0	2.56	43.1	93.7					
濁・半音	平均読字数	23.6	94.4	2.54	22.7	90.8	24.0	96.0	1.59	24.3	97.2
	平均書字数	20.0	80.0	6.00	21.1	84.4	23.1	92.4	2.63	21.4	85.6

2学期は前年度の1年2学期末と比べるとむしろ上回る成績（ことに清音の読み書き）である。3学期は濁・半濁音のみについて行ったが，その結果はほぼ2年の2学期末に近い上昇率を示していることがわかった。

このように，ひらがなの清音，濁・半濁音の1字ずつの文字習得は1年の2学期末までに 90％台に達し，あとは濁・半濁音の難度の高い字の書き等も徐々に習得の確度をまして行って，2年の中ごろまでにほとんど完成期に達するということがわかった。

しかし，それはただテストの成績であって，実際の場での使用状況は先に述べたように必ずしもこの結果と一致しない。

音読の際の拗・長・促音の渋滞は2年も中ごろになるとよほどとれてすらすら読めるようになるが，作文やノート等における書字の誤用は相当にある。

たとえば，実験学校2年 1学期末に行った国語学習帳検査（7月 13 日）でも，評価3（上）に価する，比較的誤記の少ない者は男子5人，女子7人，計 12 人（42人中）という結果であった。教師の指示によって板書の文字や文を視写したり国語の教科書の一部を写したりすることが多いこの学習帳でさえこのような状態だから，自由に書き綴る作文などの誤記は予想以上に多いわけである。

作文にみられる誤りの傾向

(1) 促音を脱落させる

まていました（まって）　のていきました（のって）　いちやいました（いっちゃい）　らぴとでいきました（ラビット）

(2) 拗音の脱落や他音の添加

ろっぴくごじゅうえん（ろっぴゃく）　だいきょうちう（だいきょうちょう　大京町で 町名）　おくじおう（おくじょう，屋上）

(3) 長音の脱落および，長音化

じょずに（じょうずに）　ぴやのうを（ピヤノを）

(4) 助詞の使用

……え　（へ）

……わ　（は）

……お　（を）

ことに　へとはは使用しにくい。

しかも一方では，

「わ」と「は」を混同して，はすれたので（わすれたので） といった誤用も相当ある。

(5) 「ん」と「う」とが混用される。

こんちょうせんせい（こうちょうせんせい）

これら五つの使用法が困難度の多いものと見受けられる。そこで，2年2学期末に文字ごとの読み・書きと同時に，こうした問題を含んだテストを実施して，日常の使用場面との関係を調査してみた。

B 促音・拗音・長音の読み書きの発達

2年2学期末の促・拗・長音の読み書き調査に先立って，入学後の1年の6月（28.6），1年の1学期末，1年2学期末に，ごく簡単ではあるが，促音・拗音の読み書きテスト（書きは1年2学期末，入門期の終りのみ）を行ってきた。

（実験学校）

よみ

	28年6月（38名）							28年7月（38名）							28		
	促音		拗音					促音		拗音					促音		
	まっか	いった	うやきゅ	きしゃ	んちょき	促計	拗計	りしっか	かった	こきゅう	んしゃし	ちょうう	促計	拗計	ついさ	かっぱ	らまっく
人	7	11	7	13	8	18	28	10	19	15	15	7	29	37	26	24	21
%	18.4	28.9	18.4	34.2	21.1	23.7	24.6	26.3	50.0	39.5	39.5	18.4	38.1	32.5	76.5	70.8	61.8

	年12月（34名）							29年12月									
	拗音					促計	拗計	らまっく	んしゃし	うやきゅ		うがっこ		んちょき	ばじゅん	てかくえるっ	ょきんぎ
	んしゃし	ぶびょう	りきゅう	しりょう	んちゃわ												
人	25	27	29	21	28	71	130	30	39	42	41	42	43	38	41	44	42
%	73.5	79.4	85.3	61.8	82.4	69.6	76.5	68.2	88.6	95.5	93.2	95.5	97.7	86.4	93.2	100.	95.5

(49名)

	りびっするく	じょにう	りょう	びょう	もからって	ぎゅうにゅう (ゅ)(う)(ゅ)(う)	きょう	促計	拗計	長計
人	43	42 44	39 42	42 43	42	41 41	39 40	43 44	201	448	338
%	97.7	95.5 100.	88.6 95.5	95.5 97.7	95.5	93.2 93.2	88.6 90.9	97.7 100.	91.3	92.6	96.0

かき

	28年 12月 (35名) 促音 おまっさ	らっぱ	まっか	拗音 きしゃ	きびょう	うやきゅ	うりょこ	おちゃ	促計	拗計	29年 らまっく	んしゃし	うやきゅ	うがっこ	んちょき
人	15	19	23	30	21	20	16	27	57	114	34	32	28 40	37 43	29
%	42.9	54.3	65.7	85.7	60.0	57.1	45.7	27.1	54.3	65.1	77.3	72.7	63.6 90.9	84.1 97.7	65.9

12月 (49名)

	ばじゅん	てかくえるっ	きょんぎ	りびっするく	じょにう	りょう	びょう	もからって	ぎゅうにゅう	きょう
人	30	36	25	34	32 42	27 41	29 41	33	31 40 27 38	30 42
%	68.2	81.8	56.8	77.3	72.7 95.5	61.4 93.2	65.9 93.2	75.0	70.5 90.9 61.4 86.4	68.2 95.5

	促計	拗計	長計
人	174	320	327
%	79.1	68.1	92.9

その結果を見ると，入学後10週めごろ，ひらがなの読字力がかなりつき始めるころから，促・拗音の読みは可能になり，1学期末には大体30%内外，1年の2学期末には70%を越えている。2年の2学期末までにはさらに上昇して90%を上回りほとんど完成に近づいている。しかし，ひらがな71字の一字ずつの習得率にはやや劣るのは，使用面の状況を裏がきしている。書きの方はひらがなが大体書けるようになる入門期の終り，即ち1年の2学期末には60%台で，読みに比べ書く方が劣っている。しかし2年末には80%台になって，書く力もかなりあることがわかった。読みは拗音が，書きは促音が早くできるようである。協力学校についてみても，実験学校と大体同じ結果がみられる。

	(項目) / (校名)	28年7月 促音 しっかり	促音 かった	拗音 きゅうこ	拗音 しゃしん	拗音 ちょうちょう	促計	拗計	28年12月 促音 いっさつ	促音 かっぱ	促音 まっくら	拗音 しゃしん	拗音 びょうぶ	拗音 きゅうり
よみ	N	26	27	31	27	22	53	80	48	51	54	49	47	56
	H	33	33	27	27	13	66	67	19	22	21	19	17	21
	O	23	25	17	19	23	48	59	36	35	38	33	32	37
	人数計	82	85	75	73	58	167	206	103	108	113	101	96	114
	正答率	56.6	58.6	51.7	50.3	40.0	57.6	47.4	71.5	75.0	78.5	70.1	66.7	79.2

		まっさお	らっぱ	まっか	きしゃ	びょうき	やきゅう
かき	N	36	41	45	52	38	39
	H	18	20	21	22	15	18
	O	32	27	36	41	24	25
	人数計	86	88	102	115	77	82
	正答率	59.7	61.1	70.8	79.9	53.5	56.9

	(項目) / (校名)	りょうし	ちゃわん	促計	拗計
よみ	N	50	55	153	257
	H	19	24	62	100
	O	32	37	109	171
	人数計	101	116	324	528
	正答率	70.1	80.6	75.0	73.2

		りょこう	おちゃ	促計	拗計
かき	N	36	49	122	214
	H	14	23	59	92
	O	17	38	95	145
	人数計	67	110	276	451
	正答率	46.5	76.4	63.4	62.6

29年	まっくら(っ)	しゃしん(ゃ)	やきゅう(ゅ)(う)		がっこう(っ)(う)		ちょきん(ょ)	んじゅんばん(ゅ)
N	49	52	52	50	52	52	49	51
H	29	30	31	31	31	31	29	29
O	45	42	45	45	47	46	43	42
人数計	123	124	128	126	130	129	121	122
正答率	93.1	93.9	97.0	95.5	98.5	97.7	91.7	92.4
N	46	44	40	48	50	50	39	35
H	28	23	16	30	28	30	25	18
O	41	39	41	37	41	41	38	30
人数計	115	106	97	115	119	121	102	83
正答率	89.8	82.8	75.8	89.8	93.0	94.5	79.7	64.8

	(項目) / (校名)	12月 かえって (っ)	きんぎょ (ょ)	すびっくり (っ)	にじょうず (ょ)	にじょうず (う)	りょうて (ょ)	りょうて (う)	びょうき (ょ)	びょうき (う)	らかってもっ (っ)
よみ	N	51	52	52	51	50	51	47	52	49	52
	H	31	29	30	30	30	27	27	30	30	29
	O	45	45	44	43	44	42	42	44	43	39
	人数計	127	126	126	124	124	120	116	126	122	120
	正答率	96.2	95.5	95.5	93.9	93.9	90.9	87.9	95.5	92.4	90.9
かき	N	42	43	45	43	47	38	47	45	44	45
	H	23	15	22	22	26	20	23	20	22	24
	O	31	35	36	34	33	36	31	36	34	39
	人数計	96	93	103	99	106	94	101	101	100	108
	正答率	75.0	72.7	80.5	77.3	82.8	73.4	78.4	78.9	78.1	84.4

	(項目) / (校名)	ぎゅうにゅう (ゅ)	ぎゅうにゅう (う)	ぎゅうにゅう (ゅ)	ぎゅうにゅう (う)	きょうは (ょ)	きょうは (う)	促音計	拗音計	長音計
よみ	N	52	52	51	51	50	50	256	563	401
	H	29	29	29	29	30	30	150	323	237
	O	45	45	45	45	44	44	220	480	354
	人数計	126	126	125	125	124	124	626	1,366	992
	正答率	95.5	95.5	94.7	94.7	93.9	93.9	94.8	94.1	93.9
かき	N	44	44	40	44	42	47	228	453	371
	H	18	24	15	28	23	27	125	215	210
	O	33	32	32	34	37	34	188	391	276
	人数計	95	100	87	106	102	108	541	1,059	857
	正答率	74.2	78.1	68.0	82.8	79.7	84.4	84.6	75.2	83.7

28 年度1年生についての促・拗音の読み書き能力テストは 1年の2学期末から2年の2学期末にとんで，その間に空白があるので，補充的に 29 年度1年生について1年2学期末，1年3学期末に同じテストをし，比較してみた。

（実験学校）拗・長・促音の読みの正答率の発達

			1. まっくら	2. しゃしん	3. やきゅう		4. がっこう		5. ちょきん	6. じゅんばん	7. かえってくる	8. きんぎょ
よみ	1年2学期	29児	71.4	79.6	87.8	87.8	100	93.9	69.4	87.8	95.9	87.8
	1年3学期		91.9	91.9	98.0	98.0	100	91.9	83.7	85.8	100	93.9
	2年2学期	28児	68.2	88.6	95.5	93.2	95.5	97.7	86.4	93.2	100	95.5
かき	1年2学期	29児	55.1	75.5	53.1	79.6	57.1	71.4	61.2	26.5	49.0	34.7
	1年3学期		81.6	83.7	69.4	89.8	86.1	83.7	69.4	57.1	79.6	40.8
	2年2学期	28児	77.3	72.7	63.6	90.9	84.1	97.7	65.9	68.2	81.8	56.8

			9. びっくりする	10. じょうずに		11. りょうて		12. びょうき		13. かってもらう	14. ぎゅうにゅ～		
よみ	1年2学期	29児	87.8	83.7	87.8	81.6	87.8	83.7	83.7	93.9	83.7	83.7	87.8
	1年3学期		96.0	93.9	91.9	91.9	87.8	91.9	93.9	96.0	87.8	85.8	87.8
	2年2学期	28児	97.7	95.5	100	88.6	95.5	95.5	97.7	95.5	93.2	93.2	88.6
かき	1年2学期	29児	40.8	59.2	89.8	49.0	71.4	53.1	75.5	57.1	51.0	69.4	18.4
	1年3学期		73.5	67.3	89.8	59.2	83.7	65.3	87.8	85.7	55.1	75.5	51.0
	2年2学期	28児	77.3	72.7	95.5	61.4	93.2	65.9	93.2	75.0	70.5	90.9	61.4

			う	15. きょうは		平均	促音平均	拗音平均	長音平均
よみ	1年2学期	29児	87.8	81.6	83.7	85.3	89.8	83.1	87.0
	1年3学期		87.8	93.9	87.8	92.1	96.7	90.9	90.7
	2年2学期	28児	90.9	97.7	100	93.5	91.3	92.6	96.0
かき	1年2学期	29児	46.9	67.3	77.6	57.9	51.8	49.9	72.7
	1年3学期		81.6	75.5	96.0	74.3	81.3	63.1	86.0
	2年2学期	28児	86.4	68.2	95.5	77.7	79.1	68.1	92.9

その結果によれば，1年の3学期末には，2学期末よりさらに上昇しており，大体2年の2学期ごろまでに一応の発達をとげるという推定ができるわけである。

促・拗音の読み書きの一応の発達がなされるとみられる2年2学期末のこれらの能力をさらに分析してみると，

1. 促音・拗音・長音の読み書き

実験学校では，促・拗・長音の読みは正答率93.5％，書きは77.7％で，読みはかなりの好率であるが，書きは生活の場での使用状況を裏書きするように，まだあまりよいとはいえない。また協力学校でも，読み93.1％，書き83.9％で，（書きは実験学校にまさる）もう一息というところである。総体的に促音はよく読めるが，書く方で少し劣り，拗音は「よ」がよく読めて，「や」がよく書け，「ゆ」が読み書きともにやや劣っている。もっともこれは提出語や，提出数にもよるであろうが，拗音を含む語を考えた時，生活の場での使用状況とある程度の一致が見られる。長音「う」は実験・協力学校とも，読み書きともに高いのも，生活面と一致している。

（実験学校）　2年生第2学期末テスト　拗音・促音・長音その他

	1. まっくら	2. しゃしん	3. やきゅう		4. がっこう		5. ちょきん	6. じゅんばん	7. かえってくる	8. きんぎょ	9. びっくりする	10. じょうずに	
読字(数)	30	39	42	41	42	43	38	41	44	42	43	42	44
正答(率)	68.2	88.6	95.5	93.2	95.5	87.7	86.4	93.2	100	95.5	97.7	95.5	100
書字(数)	34	32	28	40	37	43	29	30	36	25	34	32	42
正答(率)	77.3	72.7	63.6	90.9	84.1	97.7	65.9	68.2	81.8	56.8	77.3	72.7	95.5

	11. りょうて		12. びょうき		13. かってもらう	14. ぎゅうにゅう				15. きょうは		平均計
読字(数)	39	42	42	43	42	41	41	39	40	43	44	987
正答(率)	88.6	95.5	95.5	97.7	95.5	93.2	93.2	88.6	90.9	97.7	100	93.5
書字(数)	27	41	27	41	33	31	40	27	38	30	42	821
正答(率)	61.4	93.2	65.9	93.2	75.0	70.5	90.9	61.4	86.4	68.2	95.5	77.7

	16. ほんをよむ	17. うちへかえる		18. ことりはかわいい		19. おこったかお		20. うんどうかい			正答計 16〜29	正答計 1〜20
書字(数)	31	9	43	36	38	44	34	42	43	42	362	1,183
正答(率)	70.5	20.5	97.7	81.8	86.4	100	77·3	95.7	97.7	93.2	82.2	79.1

1. 調査日
   読字力 29. 11· 30 (火)
   書字力 29. 12. 3 (金)
2. テストの方法
   読字力 個人テスト
   書字力 集団テスト

○平均読字数 20.2
○平均書字数 (1〜20) 26.9

文字別 正答率 (1〜15)

	つ	う	や	よ	ゆ
読字力	91.3	96.0	88.6	93.2	92.6
書字力	79.1	92.9	72.7	65.2	66.5

(協力学校) 2年生 第2学期末テスト (29. 12)

ひらがな拗・促・長音その他の読字書字集計表

	まっくら	しゃしん	やきゅう	がっこう		ちょきんばん	じゅんばん	かえってくる	きんぎょ	びっくりする	じょうずに		
読字率	91.3	91.6	96.6	95.6	99.4	98.4	92.5	83.8	95.3	89.1	96.6	92.5	92.8
書字率	89.9	87.7	82.5	88.8	92.4	95.4	85.8	73.5	83.9	68.6	83.9	85.8	84.7

	りょうて		びょうき		かってもらう	ぎゅうにゅう				きょうは		計
読字率	90.0	90.7	96.0	95.3	92.2	92.2	92.2	91.0	91.0	94.7		93.1
書字率	81.9	82.8	85.8	81.4	90.4	80.6	77.9	70.8	81.2	89.3	90.4	83.9

	ほんをよむ	うちへかえる		ことりはかわいい		おこったかお		うんどうかい			計
書字率	86.1	60.9	89.6	86.1	82.5	96.2	72.4	95.1	97.0	92.1	84.5

テストの方法
読字力 個人テスト
書字力 集団テスト

(注)読字「きょうは」の長音「う」は手違いから集計してこなかった学校が多いので一応集計から除外した。
集計できなかった学校 (T・D・C〔読字〕)

文字別正答率

	つ	う	や	よ	ゆ
読字力	95.0	93.0	91.6	92.5	90.9
書字力	88.1	87.0	87.7	82.8	76.9

2. 促音・拗音・長音の読みの正確度

児童に促・拗・長音を含む語を提示して読ませると，一度で正しく即答できる子供は上位の子であり，下位の子ほど一字ずつ読んだり，口の中でまず一字ずつ読んでみて，それから正しく読みなおすといった段階にある。そこで，この調査では，読みの場合，正答者を，(1)すぐに正しく読めたもの二重まる◎，(2)一字ずつ読んでから正しく読む，読みちがえをみずから気づいてすぐ訂正するもの一重まる○の二種に分けて行ってみた。その結果，2年の2学期末でも○の段階のものが 15.1% もいることがわかった。なお，同一の問題を補充的に行ってみた 29 年度1年生の2学期末では，2年2学期末テストに比べると，○が多く◎が減っており，1年の3学期末には○がへって◎がふえている。無答から誤答へ，誤答から○へ，○から◎への発達段階が示されている。

促・拗・長音の読みの確度

		2年2学期末			1年3学期末			1年2学期末		
		人		%	人		%	人		%
実験学校 Y校	◎	44	829	78.5	49	932	79.3	49	628	53.4
	○		159	15.1		150	12.8		341	29.0
協力学校 N校	◎	52	1,000	80.1	56	1,140	84.8	57	784	57.3
	○		170	13.6		77	5.7		153	11.2
H校	◎	32	625	81.4	56	608	45.2	55	296	22.4
	○		55	7·2		228	17.0		282	21.4
G校	◎	50	760	73.3	41	756	76.8	42	470	46.6
	○		267	22.2		147	14.9		355	35.2
M校	◎	46	904	81.9	42	916	90.9	42	750	74.4
	○		81	7.3		52	5.6		92	9.1
計	◎	224	4,118	76.6	244	4,352	74.3	245	2,928	49.8
	○		732	13.6		655	11.2		1,223	20.8

協力学校でも多少の出入はあるが同様の結果がみられる。

3. 促音・拗音を書く能力の発達

2年の2学期では，すでにひらがな一字ずつの書字力も 90 %以上になっているのに，促・拗音の書く力が劣っていることは前に見た通りである。促

・拗音が書けないのはなぜか，どこに欠陥があるのかを見る一助として，誤答の分析を試みてみた。誤答を分けて，(イ)促・拗音に小字を使わないもの，(ロ)促・拗音があやまった他の音などに置きかえられたり，脱したりして書けないものの二種を設けてみたところ，実験学校では誤答の中にイの型のものの方が多く，ロはごく少い。補充テスト1年3学期末では，正答数が減り，誤答ではロの型がイの倍近くあるという状態である。3学期末には，まだロの型がやや多くなっているというふうに，促・拗音が書けないということに，全然書けない，書けるが表記ができない，という段階があること，その段階を経て正しく書けるようになることが認められる。

促・拗音の誤答分析

		2年2学期末			1年3学期末			1年2学期末		
		人		%	人		%	人		%
実験学校 Y	イ	44	122	17.3	49	106	13.5	49	101	12.9
	ロ		57 (497)	8.1 (70.6)		113 (537)	14.4 (68.5)		189 (396)	24.1 (50.5)
協力学校 N	イ	51	68	8.3	57	20	2.2	57	26	2.9
	ロ		56 (681)	6.9 (83.5)		66 (824)	7.2 (90.4)		123 (674)	13.5 (73.9)
H	イ	32	87	17.0						
	ロ		60 (340)	11.7 (66.4)						
G	イ	46	8	1.1	40	19	3.0	41	33	50.3
	ロ		110 (326)	14.9 (44.3)		68 (511)	10.6 (79.8)		65 (494)	9.9 (75.3)
M	イ	46	9	1.2	38	8	1.3	42	27	4.0
	ロ		120 (598)	16.3 (81.3)		30 (531)	4.9 (87.3)		114 (497)	17.0 (74.0)
C	イ	51	18	2.2	46	72	9.8	52	93	11.2
	ロ		47 (360)	5.6 (44.1)		42 (600)	5.7 (81.5)		164 (495)	19.7 (59.5)
F	イ	46	19	2.6						
	ロ		47 (628)	6.4 (85.3)						

		2年2学期末			1年3学期末			1年2学期末		
A	イ				58	56	6.0	54	141	16.3
	ロ					45 (776)	4.8 (83.6)		148 (512)	17.1 (59.3)
S	イ				42	41	6.1	37	21	3.5
	ロ					1 (55.9)	1.5 (83.2)		109 (460)	18.4 (77.7)
		人		%	人		%	人		%
計	イ	316	331	6.65	402	322	5.0	402	442	6.9
	ロ		497 (3430)	9.83 (67.8)		365 (4338)	5.7 (67.4)		912 (3528)	14.2 (54.6)

（ ）中は正答数・率

協力学校における促・拗音の書字力のイ，ロの反応を見ると，学校によって，イロの差が非常にちがっていることがわかる。たとえば2年2学期末のテストでは，

(1) イが多くてロが少ない　（実験学校）
(2) イがややロより多い　（N校，H校）
(3) ロがイよりやや多い　（C校，F校）
(4) ロが圧倒的に多い　（M校，G校）

とあって，実験学校にみられた学年の発達段階の相違というよりも学校差の方が現われていて非常に区々になっている。これは，促・拗音を正しく書くという能力は，ひらがな書字能力を代表することはもちろんであるが，同時にそのこと自体の習練の結果によるものであると思われる。

4. 促音・拗音・長音書字力テストの誤りの傾向

促音，拗音，長音の書字力テストの誤りの傾向は次のようである。

促音

(1) 小字を使えない。　例　まつくら　〔まっくら〕
(2) 促音が脱落する。　　まくら　がこう　〔がっこう〕
(3) 促音の位置の入れかえ　　まくつら

拗音

(1) 小字を使えない。　例　しやしん　〔しゃしん〕
(2) 拗音が脱落する。　　ちきん　〔ちょきん〕
　　きうは　〔きょうは〕

例　＊じんばん　〔じゅんばん〕
＊ぢんばん　〔　〃　〕
（＊これはなまりでもある。）

(3) 脱落の結果字音的な表記となる　やきう　〔やきゅう〕
ぎうにう　〔ぎゅうにゅう〕
＊ぎう　にゅう　（　〃　）
＊ぎゅう　にう　（　〃　）
（＊どちらか片方が脱落する時もある）

(4) 拗音の代りに他の音が入る　きゅは　〔きょうは〕
ぎょう　にゅう　〔ぎゅうにゅう〕

(5) 拗音の次の音が長音化する　きんぎょう　〔きんぎょ〕
じゅうんばん　〔じゅんばん〕
じゅうばん　〔じゅんばん〕

(6) 拗音の抵抗から次にくる音を歪める。
ぎうぬう　〔ぎゅうにゅう〕
ぎゅうじ　〔　〃　〕
やききゅ　〔やきゅう〕
きんよう　〔きんぎょ〕

長音

(1) 拗音の次にある場合，長音が脱落する。
ぎゅにゅ　〔ぎゅうにゅう〕
ぎゅう　にゅ　〔　〃　〕
ぎゅ　にゅう　〔　〃　〕
やきゅ　〔やきゅう〕
きょは　〔きょうは〕

(2) 長音うをおにする　がこお　〔がっこう〕

これらの誤答反応で面白いとおもわれたのは，拗・長音の誤りなど，同一人が同じような誤り方をしており，なお，正しい読み方ができていないものには，書きの方でも誤りが多いこと等が見出され，拗・促音を示す文字の大小も文字能力の発達を示す指標であることがわかった。

5. 助詞その他の書く能力

作文やノートに誤用の多い，「を，へ，は，」と「お，え，わ」の使いわけ，「う，ん」の使用等をテストしてみた結果が次の表である。

（実験学校）　　2年2学期テスト

	ほんをよむ	うちへかえる		ことりはかわいい		おこったかお		うんどうかい			計
正答(数)	31	9	43	36	38	44	34	42	43	42	362
正答(率)	70.5	20.5	97.7	81.8	86.4	100	77.3	95.5	97.7	93.2	82.2
（協力学校）											
正答(率)	86.1	60.9	89.6	86.1	82.5	96.2	72.4	95.1	97.0	92.1	84.5

これによると，助詞のうちでは，「へ」の使用がいちばん困難で，2年になっても 20 %(実験学校)しか正しく書けず,比較的よかった協力学校でも 60 % で，他の「を」「は」より悪い。「を」「は」は大体同じで，80%内外である。「え」「わ」の使用はかなりよいが，ことりはかわいい」のような形で出されると，逆に，「ことりわかはいい」と書くものが相当にある。同様に，「おこったか」おと提出されると，語頭の方は「お」にし，語尾の方は「を」にするという答え方が意外に多かった。したがって，「かお」の「お」はいずれも「おこった」の「お」よりも正答率が低い。「うんどうかい」のように，「う」「ん」の類似音の重なるのは，2年の2学期になると，かなり安定して書けている。

実験学校での，同一テストを同一方法で1年生に行ったものによると，

（実験学校）

	ほんをよむ	うちへかえる		ことりはかわいい		おこったかお		うんどうかい			計
1年2学期	28.6	4.1	87.8	49.0	65.3	93.9	81.6	79.6	93.9	73.5	65.7
1年3学期	42.9	38.8	83.7	65.3	79.6	96.0	83.7	87.8	93.9	83.7	74.7
2年2学期	70.5	20.5	97.7	81.8	86.4	100	77.3	95.5	97.7	93.2	82.2

このように1年の2学期，3学期を経て，2年になるほど正答率が上昇している（二，三の例外を除き）が，助詞「へ」のように不安定な状態にあるものもある。

6. ひらがなの字形の発達

低学年におけるひらがな文字を書く能力は入門期の習得期からさらに発達

して，習得完成期を示していることは，今まで見て来たとおりであるが，それらの文字が，ただ正しく書けるというだけでなく，次第に文字としてわかりやすく，しかも美しく書けるという習字的な面からも著しい発達が見られる。

次の表は，1年の4月，入学当初から，2年の2学期末までの文字テストや作文から採取した文字であるが，これらによっても，文字を書くことの発達がうかがわれる。

表は，上位者（女児），中位者（男・女児），下位者（男・女児）のもので，右から1年4月，5月，6月，7月，9月，12月，2年12月の七時期にわたり，全体の傾向を代表しているような文字を選んである。

脱けている字は，入学当初や，初期のころは書けなかった文字，テストからも，作文からも該当の時期に拾い出せなかった文字である。したがって，下位者になるほど，初めのころが脱けているわけである。

(1) 上 位 者（女児）



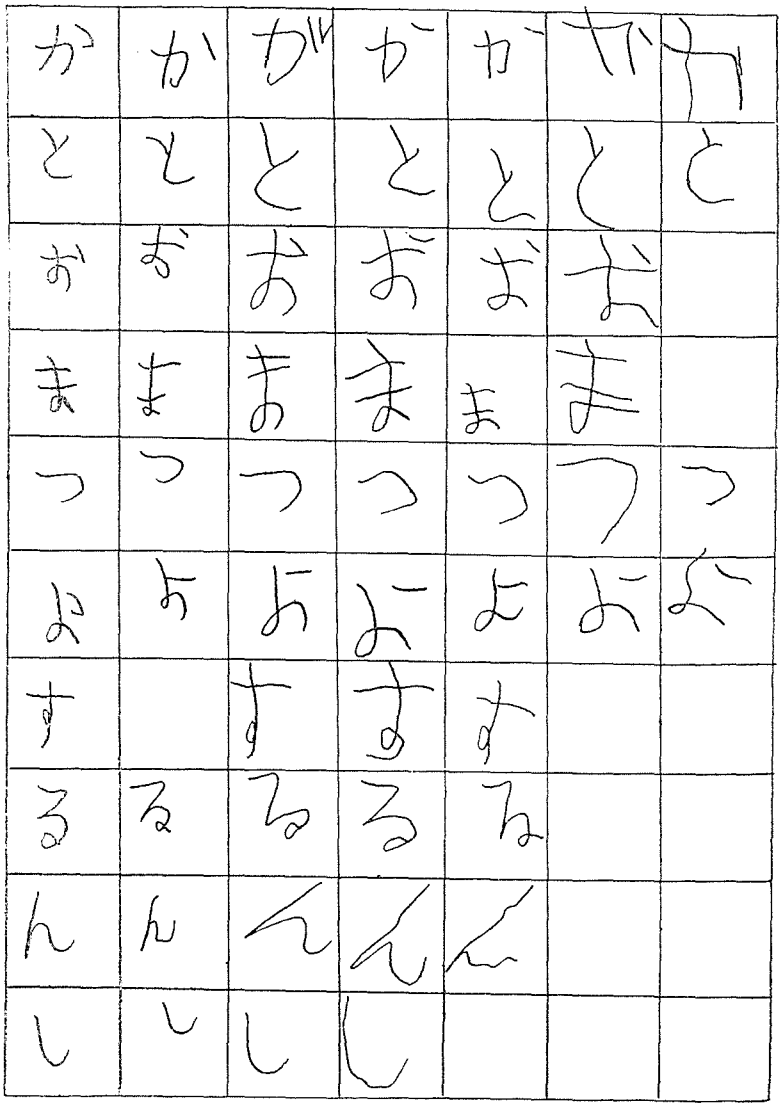
(2) 中 位 者 (男児)

お	お	お	お	お	お	お
み	み	み	み	み	み	み
あ	あ	あ	あ	あ	あ	
か	か	か	か	か	か	
た	た	た	た	た	た	
く	く	く	く	く	く	
れ	れ	れ	れ	れ		
る	る	る	る	る		
で	で	で	で	で		
ね	ね	ね	ね			

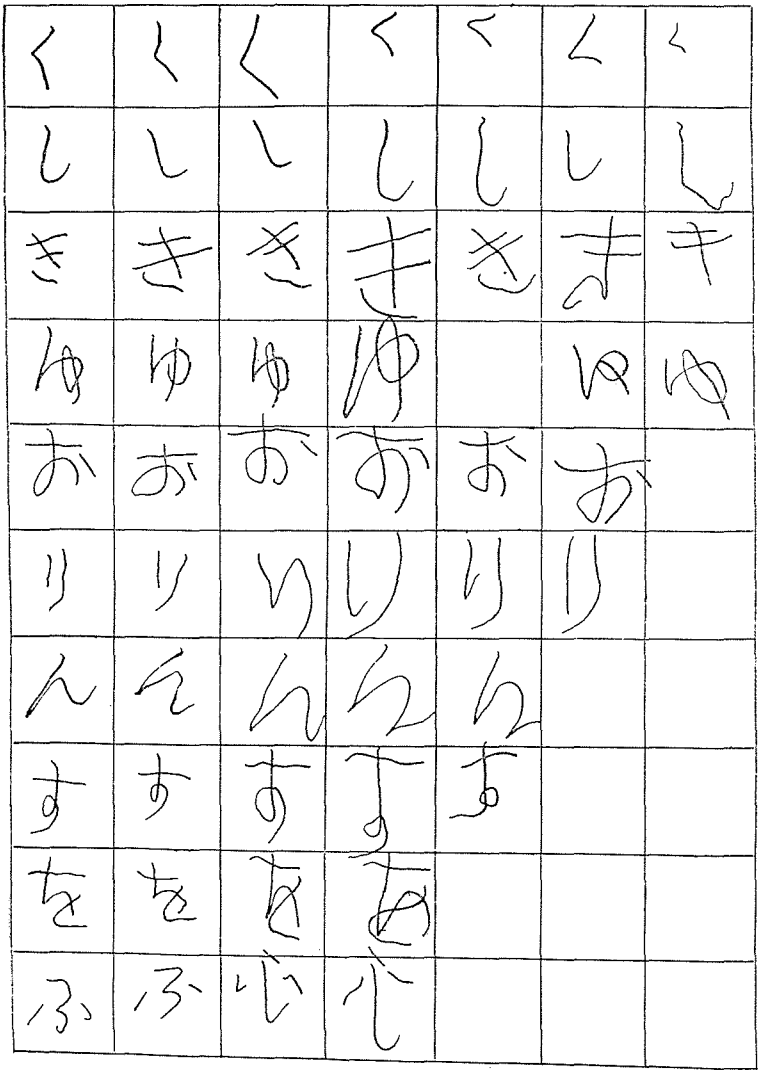
中 位 者（女児）



(3) 下 位 者 (女児)



下 位 者（男児）



これらの図表から，次のことが考察される。

1年生初期の段階

(1) 正しい字形がとれない。逆字や，点画の不足が目立ち，上位者でも続けて書くべきところを切ったり，とめておくところをつきぬけたりの例がかなりある。

(2) 点画線条の道具は一応そろっても，平がなを構成している特有の曲線がなめらかに書けない。たとえば，

a. 最も低い段階では，線がひといきに引けないでぶるぶるとくねっている。

b. こ，ま，ほ，た，き，りなど上下，左右に向き合う字の，向き合いが，釣り合いがとれない。

c. あ，お，つ，か，ふなどの右まわしの線，ひ，となどの左まわしの線が，途中で切れたり，大きくまわしすぎたり．逆に小さすぎたりする。

d. は，ほ，よ，ま，る，な，む，すなどの結びがほどよくできない。

e. て，ひ，そ，ん．え，を，わ，れなどのつき返しが足りなかったり，多すぎたりして，形がととのわない。

(3) このように文字を構成する線分の上下，左右，長短の形，位置の均衡がとれないし，のばすところ，はねるところ，とめるところ等の区別がはっきりつかないので，文字として不安定で，読みにくい。美的であるとはいえない。

(4) 濁，半濁音をあらわす，てん，まるの位置，大小なども，まだ不安定である。

(5) 下位者ほど，ますめ（2 cm角方眼）いっぱいに大字を書いたり，または小字にしすぎたりして，文字と余白のつり合い，文字同士の均衡が考えられていない。もっと低い段階では，入学当初（4月）に，このますめの中には，どうしても文字を書くことができず，ふるえながら，用紙の裏の白いところに，自分の名まえのみ記したという例が一例だけあった。これは，限られたますめの中に字を書くということに精神的緊張を覚えて抵抗を感じたもので，心理的・生理的に，字を書くことに未熟であることを示している。

1年生中期の段階

学校でひらがなの文字学習をし，文字をひととおり正しく書けるようになる入門期の終りごろには，正しく書けるという要素の上に字形がととのって，読みやすい字になるという点が加わってくる。上位者にはすでに美しい要素も加わり，中位者も初期の不安定な文字から比べれば，かなりの進歩が見られる。このころになると，子供たちに文字美に対する鑑賞眼がつき始めるようで，教師が子供たちに同一の文字を板書させた場合，「この方がよく書けている」と文字のよしあしを識別することができた。（1年2学期教室観察）

下位者でも，何の字か判読に困るというような字は，よほど少なくなってくる。

2年生の段階

2年の2学期末になると，ますめに納められた文字一字ずつとしては，正しく，読

みやすく，そうして一応，美しく書けるようになり，文字の大きさも一定してくる。余白の考慮もできるようになる。そういう意味では，上，中，下位者の差はあまり見られない。

したがって，低学年で，ひらがな文字はその一字ずつが，一応誤りなく正しく書けるという以上に，読みやすく美的に書けるようになると言ってさしつかえないようである。しかし，これはますめに書かれる一字ずつの問題であって，これらの文字を語や文として，白紙やけい紙に書いた場合の，文字と文字との続き工合，文字間の均衡，いわゆる字くばりや，連綿，行間や余白の使い方など，全体としての問題は，低学年の次の段階になるようである。

《参考》　**ひらがなのテスト問題（問題と手引）**

ひらがな読字力

1. テストの目的

ひらがな清音，濁・半濁音の読みは1年の2学期末のテストの結果80％ほどのものができたので，ひらがなの文字力については，その後テストを行わなかった。しかし2年になってからの教室での学習活動，ノート，作文などを通してみると，まだ問題が残っているようなので，もう一度，ひらがなの文字力についてテストをすることにした。

2. テストの方法

(1) ひらがなの清音，濁・半濁音をそれぞれ単独に文字として無作為に与え，正しく読めるかどうかをみる。

(2) あわせて，拗音，長音，促音を含む語を与えて，正しく読めるかどうかをみる。

3. テストの材料

① ひらがな清音　(46字)
② 濁・半濁音　(25字)　} 用紙は別表
③ 拗音，長音，促音（15語）

4. 実施上の注意

個人別に行う。

ただし，テストの目的に従って，上位と下位の能力別に分けて行う。

上位のもの ――前回のテストで，平がな清音の読み書きが100％（46字）でき，その後の学習活動等からも，正しく読めると判定できるものは，①清音（46字）の読みのテストはしない。（テスト表Aは用いない。）②濁・半濁音及び③拗音，長音，促音のテストを行う。（テスト表B・テスト表Cを用いる。）

下位のもの ――前回のテストで，平がな清音の読み書きが完全にできなかったもの及び，その後の学習活動で，支障のあるものには，①ひらがな清音，②

濁・半濁音及び③拗音，長音，促音のテストを行う。（テスト表Bテスト表Cを用いる。）

テストを受ける子供だけをテスト室に入れて，調査者の左に腰かけさせる。名前は調査者が用紙に記入して，テストに入る。

テストもんだい①②のやり方は今までのに準じて一字ずつ指して言わせ，③は，一語ずつさして言わせる。（子供には，子供用の用紙を見せて読ませ，調査者は記録用の用紙に記録してゆく。）

① 読めない時にも，指示を与えたり，誘導したりしない。

② テストする文字の提出順序は矢印や番号順に従う。

③ 拗音，長音，促音は，その部分が拗音，長音，促音として読めればよい。

（例，8のきんぎょはキンギョ <ガ行の鼻濁音> と読んでも，キンギョと読んでもどちらでもよい。）

最初は正しく読めなくても，自分で誤りに気づいて，訂正して読めれば正答とする。

5. 記録のしかた

テスト実施中に子供の答を下記要領にしたがって，用紙に記録する。

記録用紙は，子供が見ている文字表を使う。（テスト表A・Bのみ）

テスト表Aとテスト表B

① 正しく読めた字には○印をつける。

② 読み誤りの字には，その文字の右下に誤音をカタカナで記入する。

③ 読めない字は無印とする。

テスト表C

テストCについては記入用の用紙と読ませるための用紙とを区別する。同じものでよいから，印刷の鮮明なものをみんなに読ませるために使う。

記録のしかたは別表の記入要領に記しておいたが，下表のように，判定の箇所に正誤の印（◎○∨）をつけ，誤って読んだ場合は誤りの音を語の右側にカタカナで記録しておく。

5	4		3		2	1
ちょきん	がっこう ガッコ		やきゅう		しゃしん シャシン	まっくら
（拗）	（長）	（促）	（長）	（拗）	（拗）	（促）
◎	∨	◎	◎	○	∨	◎

（判定）

（注）

◎ すぐ正しく読めたもの。

○ 一字ずつよんでから正しく読む。読みちがえたが，気づいて正しく読みなおす。

∨ 誤って読む。

テスト表A


あ が ぎ ひ ぐ ま や
げ い ふ ご み ゆ ら
く へ う む よ り ぱ
ぢ け で え る ぴ な
そ も こ び お に ぜ
ぼ た ろ さ ぷ づ か
ず わ ぽ ぺ し ぬ き
を ざ ち つ ぞ す ね
の め べ だ て ば せ
ほ は ど れ ぶ と じ
ん

テ ス ト 表 B

ぢ	ば	が
ぞ	ご	ぽ
べ	ぴ	だ
ぜ	ざ	ぎ
ず	び	で
	ぶ	ぺ
	じ	ぐ
	ぱ	ど
	ぽ	ぷ
	づ	げ

テ ス ト 表 C

8. きんぎょ	7. かえってくる	6. じゅんばん	5. ちょきん	4. がっこう	3. やきゅう	2. しゃしん	1. まっくら
(拗)	(促)	(拗)	(拗)	(長)(促)	(長)(拗)	(拗)	(促)

	15. きょうは(おてんきだ)	14. ぎゅうにゅう	13. かってもらう	12. びょうき	11. りょうて	10. じょうずに(できた)	9. びっくりする
	(長)(拗)	(長)(拗)	(促)	(長)(拗)	(長)(拗)	(長)(拗)	(促)

調査者	

	正答数 ◎	正答数 ○	正答数 計	誤答数	無答数
拗音					
長音					
促音					

男	女
なまえ	

記入要領

① 正しく読めた場合
- すぐ読めたものは判定欄に◎印をつける
- 一字ずつ読んでから正しくいい直す／はじめまちがっても気づいて訂正できたもの } ○印をつける

② まちがって読んだ場合　イ 語の右横に誤りの音をカタカナで記入する。
ロ 判定欄にV印をつける。

③ 読めないといった場合　無印

④ (促)は促音を，(拗)は拗音を，(長)は長音を示す。それぞれ，ここで問題にする箇所である。　(例，3 のやきゅうを「ヤ，キ，ユ，ウ」と読めば，拗音ができない，「ヤキュ」と読めば長音ができないことになる。)

ひらがな　書字力

1. テストの目的　ひらがな読字力テストの目的に同じ
2. テストの方法

(1) ひらがなの清音，濁・半濁音をそれぞれ語として無作為に与え，正しく書け

るかどうかをみる。

(2) あわせて，拗音，長音，促音および，正しく使用できぬ文字（例えば助詞の「へ」と「え」の別）等を含む語を与えて正しく書けるかどうかをみる。

3. テストの材料

① ひらがな清音（46字）
② 清音，濁・半濁音（25字）
③ 拗音，長音，促音，その他（20語）

} 検査語表と書字用紙は別表

4. 実施上の注意 上位，下位のグループに分けて，集団テストを行う。

上位のもの——前回のテストで，ひらがなの清音の読み書きが100％（46字）でき，その後の学習活動からも，正しく書けると判定できるものは，

① 清音（46字）の書字力テストはしない。（テスト語表Aは用いない。）

② 濁・半濁音および，③ 拗音・長音・促音その他のテストを行う。（テスト語表B，テスト表Cを用いる。）

下位のもの——前回のテストで，ひらがな清音の読み書きが完全にできなかったもの，および，その後の学習活動で，支障のあるものは，①ひらがな清音，②ひらがな濁・半濁音および③拗音・長音・促音その他のテストを行う。（テスト語表A，テスト語表Cを用いる。）

○ この二つのグループをグループごとに，いっせいにテストする。

○ 机の上に，下じきと筆入れだけを出し，他はしまわせる。教室の周囲にある文字表等は目にふれないように始末する。

① 用紙を縦に使って，文字を書かせる。

② テストする文字の用語の提出順序は，用語表に矢印または番号順で示す。

③ 同音異字，たとえば「を」を要求した場合，子供が「お」を書いているかもしれないので，「もう一つの別のをがあるでしょう。ふたつ書いて下さい。」といって書かせる。

④ 大半のものが書けたら，次に進む。

⑤ 文字を書かせるための用語は，1個の文字に対して，1語をあてる。地域その他により，別表に示してある用語が不適当であれば，その学校で適宜に他の語と変えてもよい。

5. 記録のしかた

テスト語表Aとテスト語表B

子供の書いた文字の右わきに，下記の要領に従って記録する。

① 正答には○印をつける。

② 誤答には，誤字にあたるカタカナを記入する。

③ 逆書(ㇱ)には㊟印をつける。

④ 全然書けないものには無印。

テスト語表 C

拗音，長音，促音その他の部分は，拗・長・促音その他，こちらで問題とする箇所が正しく書けていればよい。ただし，拗音，促音は小字を用いなければ正答としない。この誤答の場合，拗，促音に大字を用いる誤り(イ)と，拗，促音が書けない(ロ)のとを区別して記録しておく。それぞれの語の判定欄に，下記の要領に従って記録する。

① 正答には○印をつける。

② 誤答には∨印をつけ，誤りの箇所に——をひきカタカナで誤りの字を記入しておく。

③ 全然かけないものは無印。

（記入例）

4.	3.	2.	1.
が こう ッ	やきゅ ウ	しや しん ャ	まっくら
(長) (促)	(長) (拗)	(拗)	(促)
○ ∨□	∨ ○	∨イ	○

判定

（注）

○ 正しく書けたもの。

レ 誤って書いたもの。

イ 拗音・促音に大字を書く。

ロ 拗音・促音が書けない。

昭和29年度 1・2年生 第2学期末テスト
ひらがな書字力テスト用語表

○ 書かせる文字の順序と文字を含む単語

テスト語表A（下位のものに使用）

⟶

スイカ	す	イヌ	い	シンブン	し	ミカン	ん	ミミ	み
ウチワ	う	キモノ	き	トリ	と	カサ	か	センセイ	せ
コドモ	こ	マツ	ま	オツカイ	お	サカナ	さ	ズボン	ず
ガッコウ	が	サル	る	ヤマ	や	ハナ(花)	は	エンピツ	え
クチ	く	アシ	あ	ジドウシャ	じ	ノリ	の	ヨウフク	よ
モモ	も	ヒヨコ	ひ	ニンジン	に	ツキ	つ	メガネ	め
チイサイ	ち	ケシゴム	け	タコ(凧)	た	ゴハン	ご	ローソク	ろ
ラッパ	ら	ダイコン	だ	リンゴ	り	ギンコウ	ぎ	ナマエ	な
テッキョウ	て	パン	ぱ	グルグルマワル	ぐ	ソラ	そ	ピストル	ぴ
ゲタ	げ	レンゲ	れ	ユキ	ゆ	ネコ	ね	ヘビ	へ
ポンプ	ぽ	エビ	び	ザッシ	ざ	フユ	ふ	ドウブツ	ど
ヌリエ	ぬ	バラ	ば	デンシャ	で	ワタクシ	わ	ホシ	ほ

ベントウ　べ	ツマヅク　づ ずのもう 一つの字	カゼ　ぜ	ムラ　む	ホッペタ　ぺ
木ヲ切ル　を おのもう一 つの字	ブランコ　ぶ	ゾウキン　ぞ	テンプラ　ぷ	ハナヂ　ぢ じのもう一 つの字
ボウシ　ぼ				

テスト語表 B（上位のものに使用）

1.	ガッコウ　が	9.	テンプラ　ぷ	17.	ザッシ　ざ
2.	ボンプ　ぽ	10.	ゲタ　げ	18.	ブランコ　ぶ
3.	ダイコン　だ	11.	バラ　ば	19.	ジドウシャ　じ
4.	ギンコウ　ぎ	12.	ピストル　ぴ	20.	ボウシ　ぼ
5.	デンシャ　で	13.	ゴハン　ご	21.	ツマヅク ずのもう一つの字　づ
6.	ホッペタ　ぺ	14.	エビ　び	22.	ゾウキン　ぞ
7.	グルグルマワル　ぐ	15.	パン　ぱ	23.	ベントウ　べ
8.	ドウブツ　ど	16.	ズボン　ず	24.	カゼ　ぜ
				25.	ハナヂ じのもう一つの字　ぢ

テスト語表 C（上位・下位のものに使用）

1.	まっくら	8.	きんぎょ	15.	きょうは(おてんきだ)
2.	しゃしん	9.	びっくりする	16.	ほんをよむ
3.	やきゅう	10.	じょうずに(かけた)	17.	うちへかえる
4.	がっこう	11.	りょうて	18.	ことりはかわいい
5.	ちょきん	12.	びょうき	19.	おこったかお
6.	じゅんばん	13.	かってもらう	20.	うんどうかい
7.	かえってくる	14.	ぎゅうにゅう		

Ⅵ かたかな能力の発達

A かたかな読字力・書字力の正答率の上昇

実験学校で，入学当初かたかな（清音，濁・半濁音71字）の読み書きテスト（テストの材料，テスト方法はひらがなのテストの場合と同様。ただ，かたかなでは，書きの場合の語表にかたかな表記の語を使用した）を行ったところ，下表のような結果を得て，同じく行ったひらがなテストの結果とは大きな差があった。

		かたかな		ひらがな	
		清(46字)	濁・半濁(25字)	清(46字)	濁・半(25字)
よみ	全部よめた人	1人	3人	15人	9人
	全然よめない人	18人	18人	2人	14人
	平均読字数	4.1字	3.3字	26.4字	10.2字
かき	全部かけた人	0人	0人	0人	0人
	全然かけない人	38人	45人	3人	14人
	平均書字数	0.6字	0字	20.9字	6.8字

よみのテスト実施日 28. 4. 18 人員 48 人
かきのテスト実施日 28. 4. 21 人員 46 人

現行教科書は，ひらがなを最初に出し，1年の最初にはかたかなを提出していない。（もっとも，ある教科書では，1年後期にスキー，ハンケチの二語，もう一つの教科書ではクレヨンの一語がある。）そのために，入学前に家庭でかたかなは教えないし，絵本その他の児童読みものでもひらがながきである。

協力学校でも，かたかな清音，濁・半濁音（71字）の一字ずつの読み書き能力は，

読　字　男（708名）12.5%　女（704名）11.1%
書　字　男（735名）2.4%　女（704名）2.4%

という結果である。正答率は全体として低く，しかも，実験学校の例でもわかるように，ごく少数のすぐれた子供の存在によってこれだけの数を得ているわけで，文字としては，「リ，ヘ，カ，ヤ，キ」など，ひらがなと字形が似て

いるものを読み得る程度にすぎない。

その後，5月，6月と同じようにテストしてみたが，

	4月	5月	6月
清音よみ	13.8%	16.1%	17.3%
濁・半濁音よみ	13.2%	14.4%	17.1%
清音かき	1.4%	1.6%	5.1%
濁・半濁音かき	0.3%	0	0.5%

と，ほとんど正答率に，大きな増減が見られない。かたかなは学校でも，社会生活でも学習されていないからである。このような現象は実験学校ばかりでなく，協力学校においても同じように現われている。こうした状態であったから，その後1年の終りまで，かたかなの文字力については調査を打ち切っておいた。

2年になり，学校で計画的にかたかなの学習に入るようになってから，児童のかたかな文字に対する関心がようやく出はじめてきた。しかし，教室観察などから見て，読みはその提出された文脈の中ではそれほどの抵抗がなかったが，書きでは，時々の板書などにも，相当の困難さが伴っていた。擬音語とかたかな学習を結びつけての指導の場合，いろいろの動物のなき声を板書させていたが，児童は，ねこや犬のなき声をニャソ（ニャン），ワソワソ（ワンワン）などと書いて，教師に訂正されていた。(29.6.7 ンは学習ずみである。)

2年1学期末までに，教科書に提出されているかたかなは，全般的にいって大体5割程度である。そして，学習率については7月末において，文字数として，清音25字内外，濁音10字内外，拗・促音3.1字内外の割である。早期にかたかなを提出している本でも，清音39字，濁・半濁音17字といった状態である。われわれは，2学期末になってから，再びかたかな文字力の調査を行ってみたが，その結果は一躍して，

清音　よみ　79.1%　かき　62.0%

濁・半濁音よみ　80.8%　かき　58.0%

というように上昇していた。しかも12月末では，未習の漢字が2割5分近く

あるわけだから，提出に対する習得率は非常によいということになる。

（実験学校）　29年12月　2年生第2学期末テスト　かたかな読字・書字集計表

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ
読　字(数)	39	32	32	33	37	43	44	34	30	37	34	31	39	36	31
正　答(率)	88.6	72.7	72.7	75.0	84.1	97.7	100	77.3	68.2	84.1	77.3	70.5	88.6	81.8	70.5
書　字(数)	37	39	34	26	37	43	41	30	23	35	19	29	40	29	15
正　答(率)	84.1	88.6	77.3	59.1	84.1	97.7	93.2	68.2	52.3	79.5	43.2	65.9	90.9	65.9	34.1

	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
読　字(数)	35	34	24	34	39	33	42	21	30	36	40	33	30	43	32
正　答(率)	79.5	77.3	77.3	77.3	88.6	75.0	95.5	47.7	68.2	81.6	90.9	75.0	68.2	97.7	72.7
書　字(数)	28	23	28	18	36	27	23	14	21	29	26	17	18	35	20
正　答(率)	63.6	52.3	63.6	40.9	81.8	61.4	52.3	31.8	47.7	65.9	59.1	38.6	40.9	79.5	45.5

	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ヲ
読　字(数)	34	36	36	34	40	43	32	36	34	43	36	30	34	27	17
正　答(率)	77.3	81.8	81.8	77.3	90.9	97.7	72.7	81.8	77.3	97.7	81.8	68.2	77.3	61.4	38.6
書　字(数)	24	26	23	25	31	37	21	23	33	40	23	21	21	11	18
正　答(率)	54.5	59.1	52.3	56.8	70.5	84.1	47.7	52.3	75.0	90.9	52.3	47.7	47.7	25.0	40.9

	ン
読　字(数)	41
正　答(率)	95.5
書　字(数)	38
正　答(率)	86.4

○ 平均読字数　36.2 字
S.D　12.8
○ 平均書字数　28.5 字
S.D　11.7

1. 調査日
読字力　29. 11. 27 (土)
書字力　29. 12. 4 (土)

2. テストの方法
読字力――個別テスト
書字力――集団テスト

	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド
読　字(数)	44	44	32	34	37	35	33	38	39	28	36	32	19	33	36
正　答(率)	100	100	72.7	77.3	84.1	79.5	75.0	84.1	88.6	63.6	81.8	72.7	43.2	75.0	81.8
書　字(数)	39	41	24	20	32	20	26	35	21	15	27	9	18	19	27
正　答(率)	88.6	93.2	54.5	45.5	72.7	45.5	59.1	79.5	47.7	34.1	61.4	20.5	40.9	43.2	61.4

	バ	ピ	ブ	ベ	ボ	パ	ピ	プ	ペ	ポ
読 字(数)	40	31	34	41	37	41	32	33	38	35
正 答(率)	90.9	70.5	77.3	93.2	84.1	93.2	72.7	75.0	84.1	79.5
書 字(数)	32	22	20	32	22	36	25	20	35	23
正 答(率)	72.7	50.0	45.5	72.7	50.0	81.8	56.8	45.5	79.5	52.3

○ 平均読字数 20.0字
S.D 9.7

○ 平均書字数 14.5字
S.D 11.0

実験学校ではT書本を使用しているから，表中太字の文字は，未習のはずであるが，それらも，文字によっては，（例，へ，ギ）かなりの率である。ひらがなからの類推と五十音図表などでの学習や，家庭での学習によるものであろう。いずれにしても，文字一字ずつの習得のしかたは順調である。読みに比べて書きが劣ることについてはかたかなを書く機会が生活の上でとぼしいからであると思われる。なお協力学校では，

清音 よみ	82.9%	かき	72.7%
濁・半濁よみ	82.1%	かき	70.6%

と，むしろ実験学校を上回る好成績であった。

このテストに先立つ29年10月29日（土）の国語教室では，「あたらしいかきかた1(2ねん上31ぺ)を使用しての書き方を主にした学習であったが，そこに書かれているかたかな五十音図は大体読めていた。上から順に読んでも，下から逆に読んでも，大体まちがいなく読めていた。文字力の下位者が指名読みをさせられたが，できた。しかし，書く場合になると，臨書させてもなかなか書きにくく，上位者の中でも「カきクケ」などと書いて誤りに気づかずにノートを提出したほどであった。

次に，2年3学期末に行ったかたかな文字力調査（前回と同様，ただ，拗・促音4語を加える）の結果は，実験学校・協力学校ともに前回よりは，いっそうの進歩発達が認められた。

実験学校	清音よみ	88.7%	かき	70.7%
	濁・半濁音よみ	87.5%	かき	68.8%
協力学校	清音よみ	91.8%	かき	84.0%
	濁・半濁音よみ	88.7%	かき	82.0%

2年の3学期末においても，各教科書とも，清・濁音ともに完全に提出しきっておらず，（N書のみ濁音7字がのこり，C書は清濁各一字ずつのこっている）3年にもちこしの文字が（T書16字，G書28字，M書26字）相

当残っている。それにもかかわらず，このようにかなりの好率を得たわけで，この限りにおいては，かたかな一字ずつの習得は，世に低下をいわれるほどでないことがわかった。次の１～２年かたかな文字別正答率の上昇（読字力・書字力の発達）を見ると，さらに文字別に発達の状態がわかる。

１～２年　かたかな文字別正答率の上昇　（読字力・書字力の発達）（実験学校）

清音

	読字					書字				
	28年 4 月	5 月	6 月	29年 12 月	30年 2 月	28年 4 月	5 月	6 月	29年 12 月	30年 2 月
	48 人	44 人	45 人	44 人	46 人	46 人	45 人	44 人	44 人	46 人
ア	12.5	15.8	15.6	88.6	89.1	4.3	4.4	9.5	81.8	82.6
イ	10.4	11.4	13.3	72.7	89.1	2.2	4.4	0	88.6	97.8
ウ	10.4	11.4	13.3	72.7	91.3	2.2	0	4.5	77.3	78.3
エ	10.4	13.6	13.3	75.0	91.3	2.2	0	2.3	59.1	71.1
オ	10.4	9.5	8.9	86.4	91.3	2.2	0	4.5	81.8	84.8
カ	37.5	40.9	64.4	97.7	97.8	10.9	13.3	20.5	97.7	100.0
キ	29.2	47.5	62.2	1000.	97.8	6.5	11.1	25.0	93.2	97.9
ク	12.5	13.6	13.3	77.3	87.0	4.3	0	6.8	68.2	67.4
ケ	8.3	6.8	8.9	68.2	84.8	0	0	0	52.3	56.5
コ	12.5	18.2	17.8	81.8	91.3	0	2.2	11.4	79.5	80.4
サ	6.3	15.8	13.3	77.3	89.1	0	0	2.3	43.2	50.0
シ	6.3	6.8	6.7	70.5	87.0	0	0	0	65.9	82.6
ス	12.5	13.6	17.8	88.6	97.8	2.2	4.4	4.5	90.9	97.8
セ	25.0	25.0	26.7	80.6	89.1	0	0	2.3	65.9	65.2
ソ	8.3	4.5	8.9	70.5	69.6	2.2	0	6.8	34.1	52.2
タ	8.3	9.5	13.3	79.5	89.1	0	2.2	6.8	63.6	76.1
チ	6.3	11.4	11.1	77.3	89.1	0	0	2.3	52.3	56.5
ツ	8.3	11.4	11.1	77.3	84.8	0	0	0	63.6	54.3
テ	8.3	9.5	8.9	77.3	84.8	0	0	0	40.9	52.2
ト	12.5	11.4	13.3	88.6	93.5	4.3	2.2	4.5	80.6	84.8
ナ	8.3	9.5	8.9	75.0	84.8	0	0	2.3	61.4	73.9
ニ	29.3	38.6	46.7	95.5	95.6	2.2	0	6.8	52.3	67.4
ヌ	2.1	4.5	4.4	47.8	71.7	0	0	0	31.8	34.7
ネ	6.3	9.5	8.9	68.2	84.8	0	0	0	47.8	58.7
ノ	10.4	13.6	15.6	80.6	93.5	0	4.4	11.4	65.9	89.1

	読字					書字				
	28年4月	5月	6月	29年12月	30年2月	28年4月	5月	6月	29年12月	30年2月
	48人	44人	45人	44人	46人	46人	45人	44人	44人	46人
ハ	10.4	11.4	13.3	90.9	93.5	0	2.2	6.8	59.1	78.3
ヒ	8.3	9.5	8.9	75.0	84.8	0	0	0	38.6	71.1
フ	6.3	13.6	4.4	68.2	82.6	0	2.2	2.3	40.0	54.3
ヘ	41.7	47.5	46.7	97.7	95.6	0	0	6.8	79.5	78.3
ホ	10.4	13.6	8.9	72.2	95.6	2.2	0	4.5	45.5	54.3
マ	8.3	13.6	13.3	77.3	87.0	0	0	2.3	77.3	82.6
ミ	16.7	15.8	15.6	80.6	89.1	0	2.2	11.4	59.1	73.9
ム	8.3	9.5	8.9	80.6	87.0	0	0	0	52.3	43.5
メ	8.3	11.4	11.1	77.3	91.3	0	2.2	4.5	56.9	58.7
モ	10.4	18.2	15.6	90.9	91.3	0	0	2.3	70.5	76.1
ヤ	31.3	40.9	42.2	97.7	97.8	0	2.2	11.4	81.8	82.6
ユ	8.3	9.5	8.9	72.7	76.1	2.2	2.2	4.5	47.8	54.3
ヨ	10.4	11.4	11.1	80.6	89.1	0	0	2.3	52.3	82.6
ラ	10.4	15.8	13.3	77.3	89.1	2.2	2.2	2.3	75.0	80.4
リ	54.2	68.2	73.3	97.7	97.8	0	2.2	18.2	90.9	95.6
ル	12.5	11.4	11·1	80.6	89.1	0	0	2.3	52.3	67.4
レ	6.3	4.5	8.9	68.2	87.0	0	0	0	47.8	56.5
ロ	12.5	13.6	17.8	77.3	89.1	2.2	0	9.5	47.8	45.7
ワ	8.3	6.8	6.7	61.4	80.4	0	0	0	25.0	37.0
ヲ	6.3	6.8	6.7	38.6	76.1	2.2	0	4.5	40.9	69.6
ン	14.6	13.6	20.0	93.2	95.6	0	0	4.5	86.4	93.5
	13.8	16.1	17.3	79.1	88.7	1.4	1.6	5.1	62.0	70.7

濁・半濁音

	読字					書字				
	28年4月	5月	6月	29年12月	30年12月	28年4月	5月	6月	29年12月	30年2月
	48人	44人	45人	44人	46人	46人	45人	44人	44人	46人
ガ	33.3	40.9	48.9	100.0	97.8	0	0	0	88.6	91.3
ギ	25.0	31.1	44.4	100.0	97.8	0	2.2	2.2	93.2	87.0
グ	12.5	11.4	11.1	72.7	84.8	0	0	2.2	77.3	76.1
ゲ	8.3	9.5	6.7	77.3	84.8	0	0	0	45.5	58.7
ゴ	10.4	13.6	17.8	81.8	93.5	0	0	2.2	72.7	84.8

	読字					書字				
	28年4月	5月	6月	29年12月	30年12月	28年4月	5月	6月	29年12月	30年2月
	48人	44人	45人	44人	44人	46人	45人	44人	44人	46人
ザ	6.3	13.6	15.6	79.5	84.8	0	0	0	45.5	47.8
ジ	6.3	4.5	6.7	75.0	87.0	0	0	0	59.1	76.1
ズ	12.5	11.4	15.6	86.4	91.3	0	0	0	79.5	93.5
ゼ	20.8	20.0	24.4	88.6	87.0	0	0	0	47.8	58.7
ゾ	6.3	4.5	6.7	63.6	69.6	0	0	0	34.1	52.2
ダ	8.3	9.5	8.9	80.6	91.3	0	0	4.5	61.6	78.3
ヂ	8.3	9.5	11.1	72.7	80.4	0	0	0	20.5	30.4
ヅ	8.3	9.5	11.1	47.5	56.5	0	0	0	40.9	30.4
デ	8.3	9.5	8.9	75.0	80.4	0	0	0	47.5	52.2
ド	16.7	15.8	15.6	80.6	95.6	0	0	2.2	61.4	76.1
バ	10.4	13.6	13.3	90.9	95.6	0	0	0	72.7	91.3
ビ	8.3	9.5	8.9	70.5	82.6	0	0	0	50.0	65.2
ブ	8.3	9.5	11.1	77.3	80.4	0	0	0	45.5	58.7
ベ	31.0	27.3	51.1	93.2	93.5	0	0	0	72.7	89.1
ボ	10.4	11.4	13.3	95.6	95.6	2.2	0	0	50.0	67.4
パ	14.6	13.6	15.6	93.2	97.8	0	0	0	80.6	97.8
ピ	10.4	11.4	13.3	72.7	91.3	2.2	0	0	56.8	65.2
プ	8.3	9.5	11.1	75.0	82.6	0	0	0	45.5	52.2
ペ	27.1	25.0	33.3	86.4	91.3	0	0	0	79.5	89.1
ポ	10.4	13.6	13.3	79.5	93.5	2.2	0	0	52.3	56.5
	13.2	14.4	17.1	80.8	87.5	0.3	0	0.5	58.0	68.8

1～2年　かたかな文字別正答率の上昇（読字力・書字力の発達）（協力学校）

（清音）

読字力	28年4月 5校244名	28年6月 2校109名	29年12月 6校289名	30年3月 6校286名	書字力	28年4月 5校244名	28年6月 2校109名	29年12月 8校387名	30年3月 7校322名
ア	11.1	15.6	87.2	94.8	ア	5.3	0.9	80.9	92.2
イ	11.1	12.8	84.4	96.9	イ	4.9	0	92.5	97.5
ウ	7.4	12.8	81.0	95.1	ウ	3.3	0	82.9	93.2
エ	7.4	9.2	83.4	91.6	エ	4.1	0.9	69.5	86.0
オ	10.2	12.8	89.3	96.2	オ	3.7	0	80.4	93.5
カ	33.2	25.7	97.9	99.7	カ	13.9	2.8	92.9	99.1
キ	29.5	25.7	98.3	99.3	キ	9.4	0.9	94.3	97.5

読字力	28年4月 5校244名	28年6月 2校109名	29年12月 6校298名	30年3月 6校286名	書字力	28年4月 5校244名	28年6月 2校109名	29年12月 8校387名	30年3月 7校322名
ク	9.8	11.9	82.4	94.8	ク	5.3	0	75.7	87.3
ケ	5.7	12.8	81.0	90.6	ケ	1.2	0.9	78.0	83.9
コ	11.9	19.3	91.0	95.8	コ	5.3	0	85.5	92.2
サ	9.8	11.0	81.0	90.6	サ	2.9	0	66.9	77.6
シ	7.4	9.2	71.3	87.8	シ	1.6	0	78.6	87.3
ス	9.8	15.6	87.2	96.2	ス	2.5	0	92.8	96·3
セ	16.8	11.0	83.4	95.1	セ	3.3	0	65.6	85.7
ソ	4.9	4.6	65.1	85.7	ソ	0.4	0	64.3	73.3
タ	8.2	11.9	84.1	92.3	タ	2.9	0.9	76.0	85.4
チ	4.5	9.2	83.7	92.3	チ	0.8	0	66.4	78.0
ツ	5.3	8.3	60.9	84.3	ツ	2.0	0	71.6	77.3
テ	5.3	4.6	76.1	90.2	テ	2.0	0	57.9	75.8
ト	7.8	11.9	91.7	98.3	ト	4.1	0	84.8	91.9
ナ	4.9	9.2	84.8	91.6	ナ	1.6	0	70.8	83.9
ニ	22.1	35.8	93.4	96.9	ニ	6.1	0	68.5	75.8
ヌ	4.1	4.6	60.9	78.3	ヌ	1.2	0	47.5	68.9
ネ	3.3	8.3	77.9	86.4	ネ	0.4	0	59.2	72.4
ノ	7.8	9.2	85.8	94.1	ノ	4.1	1.8	82.4	88.8
ハ	8.2	13.8	88.6	96.5	ハ	4.1	0.9	70.0	85.4
ヒ	7.4	9.2	83.7	89.5	ヒ	2.5	0.9	63.3	82.0
フ	5.3	6.4	70.2	85.0	フ	1.6	1.8	58.4	76.4
ヘ	31.1	27.5	86.5	99.0	ヘ	12.3	1.8	80.6	89.1
ホ	7.0	11.0	81.7	92.7	ホ	2.0	0	67.2	82.0
マ	5.7	8.3	84.4	89.9	マ	1.6	0	77.5	84.5
ミ	9.0	8.3	81.7	93.4	ミ	2.0	0	72.4	79.2
ム	4.1	7.3	87.5	87.8	ム	0.4	0	52.5	70.2
メ	7.4	8.3	87.5	93.7	メ	2.9	0	67.4	80.1
モ	9.0	7.3	86.5	93.0	モ	0.8	0	74.2	82.6
ヤ	25.8	25.7	98.3	99.3	ヤ	2.9	1.8	87.6	95.0
ユ	5.7	6.4	69.6	79.0	ユ	0.8	0	54.3	79.8
ヨ	5.3	7.3	79.2	90.9	ヨ	1.6	0.9	73.1	79.8
ラ	9.4	10.0	88.9	95.1	ラ	2.5	0.9	74.4	94.1
リ	3.7	31.2	97.2	100.0	リ	13.1	0.9	86.6	93.2

読字力	28年4月 5校244名	28年6月 2校109名	29年12月 6校289名	30年3月 6校286名	書字力	28年4月 5校244名	28年6月 2校109名	29年12月 8校387名	30年3月 7校322名
ル	6.5	13.8	83.4	93.0	ル	1.6	0	69.5	85.7
レ	4.5	7.3	77.9	85.3	レ	2.0	0.9	66.2	79.8
ロ	5.3	11.0	79.2	90.2	ロ	1.6	0	70.8	80.7
ワ	3.7	3.7	63.0	79.7	ワ	1.2	0	47.0	61.8
ヲ	4.1	4.6	59.9	80.8	ヲ	0.4	0	52.5	71.1
ン	9.0	13.8	92.4	95.8	ン	2.9	0.9	92.0	92.5
平均	10.2	12.3	82.9	91.8	平均	3.3	0.5	72.7	84.0

（濁・半濁音）

読字力	28年4月 5校238名	28年6月 2校109名	29年12月 6校288名	30年3月 7校333名	書字力	28年4月 5校238名	28年6月 2校109名	29年12月 6校386名	30年3月 7校324名
ガ	29.8	24.8	97.2	97.3	ガ	9.2	0.9	81.6	91.0
ギ	25.6	20.2	95.8	96.4	ギ	7.1	0	91.7	93.8
グ	6.7	12.8	81.2	88.0	グ	2.5	0	74.1	83.3
ゲ	5.0	11.0	79.9	88.0	ゲ	1.3	0	73.3	79.0
ゴ	9.7	16.5	85.8	93.1	ゴ	2.5	0	84.5	89.2
ザ	8.0	11.0	79.2	85.9	ザ	0.8	0	62.2	77.8
ジ	4.6	8.3	70.5	89.8	ジ	0.4	0	73.6	80.2
ズ	7.1	8.3	82.6	93.4	ズ	0.8	0	74.6	84.3
ゼ	13.9	9.2	81.9	88.3	ゼ	0	0	56.5	74.7
ゾ	3.8	6.4	60.8	79.9	ゾ	0	0	49.7	70.1
ダ	5.0	9.2	79.9	84.1	ダ	0	0	73.8	84.3
ヂ	4.6	7.3	71.2	82.9	ヂ	0	0	49.2	66.4
ヅ	2.9	8.3	56.9	74.2	ヅ	0	0	54.4	61.7
デ	4.6	5.5	76.7	87.7	デ	0.4	0	56.0	72.5
ド	6.3	10.1	89·2	94.0	ド	1.3	0	78.2	89.2
バ	7.6	11.9	91.7	92.2	バ	1.7	0.9	79.8	92.0
ビ	5.9	8.3	78.5	86.2	ビ	0	0.9	69.2	83.0
ブ	5.9	6.4	76.7	80.2	ブ	0	0	61.7	74.4
ベ	29.5	29.9	95.5	94.3	ベ	6.3	0.9	78.2	89.2
ボ	5.9	11.0	88.9	92.5	ボ	0	0	71.3	83.6

読字力	28年6月 5校238名	28年6月 2校109名	29年12月 6校288名	30年3月 7校333名	書字力	28年4月 5校293名	28年6月 2校109名	29年12月 6校386名	30年3月 7校324名
パ	6.7	10.1	92.4	94.6	パ	0	0.9	96.3	92.9
ピ	4.6	13.8	84.0	89.2	ピ	0.4	0.9	71.8	87.7
プ	4.6	10.1	79.9	87.7	プ	0	0	59.6	78.4
ペ	10.5	16.5	89.6	91.0	ペ	1.3	0.9	80.3	89.2
ポ	7.1	11.0	87.2	92.2	ポ	0	0	74.6	82.1
平均	8.9	11.6	82.1	88.7	平均	1.4	0.3	70.6	82.0

（注）ここで集計された学校名を調査の時期別に示すと下記の通りである。

28年4月

東京都杉並区	方南小学校	山口県下松市	下松小学校
神奈川県中郡	比々多小学校	長野県埴科郡	松代小学校
栃木県小山市	小山第二小学校		

28年6月

静岡県静岡市	城内小学校	神奈川県小田原市	大窪小学校

29年12月

東京都杉並区	方南小学校	滋賀県大津市	中央小学校
神奈川県中郡	比々多小学校	長野県上水内郡	豊野西小学校
長野県松代市	松代小学校	神奈川県逗子市	久木小学校
静岡県静岡市	中田小学校	兵庫県氷上郡	幸世小学校

30年3月

東京都杉並区	方南小学校	神奈川県逗子市	久木小学校
神奈川県中郡	比々多小学校	兵庫県氷上郡	幸世小学校
長野県松代市	松代小学校	長野県上水内郡	豊野西小学校
静岡県静岡市	中田小学校		

かたかな文字の学習開始期にあたる2年1学期のかたかな能力については，29年度入学児童に対しておこなってみた。被調査者が同一ではないが，実験学校で，

清音　よみ　55.8%　かき　39.1%

濁・半濁音　よみ　64.0%　かき　36.8%

という数であり，かなりの学習効果がみられる。29年度入学児童のテスト結果も含めて，文字別の正答率の発達を見たのが，次の表であるが，これによって，低学年のかたかな文字力の発達がほぼうかがえる。

1～2年かたかな文字別正答率発達一覧表（実験学校）

	読字					書字				
	28年4月	5月	6月	29年*7月	29年12月	28年4月	5月	6月	29年*7月	29年12月
	48人	44人	45人	50人	44人	46人	45人	44人	51人	44人
ア	12.5	15.8	15.6	54	88.6	4.3	4.4	7.5	25.5	81.1
イ	10.4	11.4	13.3	44	72.7	2.2	4.4	0	52.9	88.6
ウ	10.4	11.4	13.3	40	72.7	2.2	0	4.5	29.4	77.3
エ	10.4	13.6	13.3	50	75.0	2.2	0	2.3	54.9	59.1
オ	10.4	9.5	8.9	56	86.4	2.2	0	4.5	47.1	81.8
カ	37.5	40.9	64.4	98	97.7	10.9	13.3	20.5	88.2	97.7
キ	29.2	47.5	62.2	96	100.0	6.5	11.1	25.0	96.1	93.2
ク	12.5	13.6	13.3	64	77.3	4.3	0	6.8	41.2	68.2
ケ	8.3	6.8	8.9	64	68.2	0	0	0	25.5	52.3
コ	12.5	18.2	17.8	78	81.8	0	2.2	11.4	52.9	79.5
サ	6.3	15.8	13.3	64	77.3	0	0	2.3	19.6	43.2
シ	6.3	6.8	6.7	44	70.5	0	0	0	31.4	65.9
ス	12.5	13.6	17.8	66	88.6	2.2	4.4	4.5	92.2	90.9
セ	25.0	25.0	26.7	64	80.6	0	0	2.3	47.1	65.9
ソ	8.3	4.5	8.9	22	70.5	2.2	0	6.8	55.9	34.1
タ	8.3	9.5	13.3	60	79.5	0	2.2	6.8	43.1	63.6
チ	6.3	11.4	11.1	50	77.3	0	0	2.3	11.8	52.3
ツ	8.3	11.4	11.1	30	77.3	0	0	0	19.6	63.6
テ	8.3	9.5	8.9	32	77.3	0	0	0	5.9	40.9
ト	12.5	11.4	13.3	70	88.6	4.3	2.2	4.5	68.6	80.6
ナ	8.3	9.5	8.9	44	75.0	0	0	2.3	13.7	61.4
ニ	29.3	38.6	46.7	74	95.5	2.2	0	6.8	19.6	52.3
ヌ	2.1	4.5	4.4	14	47.8	0	0	0	0	31.8
ネ	6.3	9.5	8.9	34	68.2	0	0	0	0	47.8
ノ	10.4	13.6	15.6	62	80.6	0	4.4	11.4	64.7	65.9
ハ	10.4	11.4	13.3	66	90.9	0	2.2	6.8	37.3	59.1
ヒ	8.3	9.5	8.9	48	75.0	0	0	0	29.4	38.6
フ	6.3	13.6	4.4	36	68.2	0	2.2	2.3	5.9	40.9
ヘ	41.7	47.5	46.7	94	97.7	0	0	6.8	72.5	79.5
ホ	10.4	13.6	8.9	60	72.7	2.2	0	4.5	2.0	45.5
マ	8.3	13.6	13.3	42	77.3	0	0	2.3	29.4	77.3
ミ	16.7	15.8	15.6	76	80.6	0	2.2	11.4	39.2	59.1

	読字					書字				
	28年4月	5月	6月	29年*7月	29年12月	28年4月	5月	6月	29年*7月	29年12月
	48人	44人	45人	50人	44人	46人	45人	44人	51人	44人
ム	8.3	9.5	8.9	36	80.6	0	0	0	7.8	52.3
メ	8.3	11.4	11.1	82	77.3	0	2.2	4.5	72.5	56.9
モ	10.4	18.2	15.6	54	90.9	0	0	2.3	31.4	70.5
ヤ	31.3	40.9	42.2	98	97.7	0	2.2	11.4	84.3	81.8
ユ	8.3	9.5	8.9	24	72.7	2.2	2.2	4.5	19.6	47.8
ヨ	10.4	11.4	11.1	46	80.6	0	0	2.3	37.3	52.3
ラ	10.4	15.8	13.3	64	77.3	2.2	2.2	2.3	32.5	75.0
リ	54.2	68.2	73.3	98	97.7	0	2.2	18.2	84.3	90.9
ル	12.5	11.4	11.1	74	80.6	0	0	2.3	47.1	52.3
レ	6.3	4.5	8.9	50	68.2	0	0	0	33.3	47.8
ロ	12.5	13.6	17.8	36	77.3	2.2	0	9.5	9.8	47.8
ワ	8.3	6.8	6.7	22	61.4	0	0	0	47.1	25.0
ヲ	6.3	6.8	6.7	6	38.6	2.2	0	4.5	9.8	40.9
ン	14.6	13.6	20.0	80	93.2	0	0	4.5	68.6	86.4
	13.8	16.1	17.3	55.8	79.1	1.4	1.6	5.1	39.1	62.0

	読字					書字				
	28年4月	5月	6月	29年*7月	29年12月	28年4月	5月	6月	29年*7月	29年12月
	48人	44人	45人	50人	44人	46人	45人	44人	51人	44人
ガ	33.3	40.9	48.9	98	100.0	0	0	0	64.7	88.6
ギ	25.0	31.1	44.4	94	100.0	0	2.2	2.2	80.4	93.2
グ	12.5	11.4	11.1	54	72.7	0	0	2.2	29.4	77.3
ゲ	8.3	9.5	6.7	68	77.3	0	0	0	35.3	45.5
ゴ	10.4	13.6	17.8	74	81.8	0	0	2.2	49.0	72.7
ザ	6.3	13.6	15.6	58	79.5	0	0	0	23.5	45.5
ジ	6.3	4.5	6.7	58	75.0	0	0	0	31.4	59.1
ズ	12.5	11.4	15.6	68	86.4	0	0	0	56.9	79.5
ゼ	20.8	20.0	24.4	70	88.6	0	0	0	29.4	47.8
ゾ	6.3	4.5	6.7	18	63.6	0	0	0	3.9	34.1
ダ	8.3	9.5	8.9	60	80.6	0	0	4.5	35.3	61.4
ヂ	8.3	9.5	11.1	46	72.7	0	0	0	0	20.5
ヅ	8.3	9.5	11.1	34	47.5	0	0	0	11.8	40.9

	読字					書字				
	28年4月	5月	6月	29年*7月	29年12月	28年4月	5月	6月	29年*7月	29年12月
	48人	44人	45人	50人	44人	46人	45人	44人	51人	44人
デ	8.3	9.5	8.9	34	75.0	0	0	0	11.8	47.5
ド	16.7	15.8	15.6	70	80.6	0	0	2.2	64.7	61.4
バ	10.4	13.6	13.3	78	90.9	0	0	0	70.6	72.7
ビ	8.3	9.5	8.9	58	70.5	0	0	0	39.2	50.0
ブ	8.3	9.5	11.1	40	77.3	0	0	0	15.7	45.5
ベ	31.0	27.3	51.1	96	93.2	0	0	0	60.8	72.7
ボ	10.4	11.4	13.3	62	81.8	2.2	0	0	7.8	50.0
パ	14.6	13.6	15.6	94	93.2	0	0	0	82.4	80.6
ピ	10.4	11.4	13.3	66	72.1	2.2	0	0	35.3	56.8
プ	8.3	9.5	11.1	46	75.0	0	0	0	17·6	45.5
ペ	27.1	25.0	33.3	82	86.4	0	0	0	54.9	79.5
ポ	10.4	13.6	13.3	74	79.5	2.2	0	0	7.8	52.3
	13.2	14.4	17.1	64.0	80.8	0.3	0	0.5	36.8	58.0

＊の欄は2年1学期末（30年度）テストで，これは補充テストなので，被調査者は前後の者と同一でない。

ひらがなの文字習得で，書字力の読字力に対する割合が80％以上になった時期は，1年の9月（89％）であったが，かたかなのそれは2年生の12月（88％）にあたっている。

ただ，児童の作文などを見ると，「ジェット機」を「じえっとき」，「ラビット」を「らぴと」，「ピヤノ」を「ぴやのう」，「クリーム」を「くりいみ（アイスクリームの意）」のように，依然としてひらがな表記を用いているものが多く，「トラック」，「バス」，「サインして」などかたかな表記で書きわけているものは，クラスのごく少数の上位者に限られているのが使用面の実態である。すなわち低学年のこの段階では，文字として知ってはいるが，まだ使っていない。使用できる段階まで行っていないわけである。

B　促音・拗音の読み書きの発達

かたかな書きの語には，促音・拗音を含むことが多い。そこでキャラメル，

ニュース，チョコレート，ラッパの四語の読み書きテストをしてみたところ，2年の終了時に次の結果を得た。

実験学校（2年3学期末）

		キャラメル			ニュース			チョコレート			ラッパ		
		男 18人	女 28人	計 46人	男 18人	女 28人	計 46人	男 18人	女 28人	計 46人	男 18人	女 28人	計 46人
読字力	正答 人	18	28	46	15	25	40	16	27	43	17	27	44
	正答 %			100			87.0			93.5			95.6
	誤答 人	0	0	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0
	誤答 %			0			6.5			0			0
	無答 人	0	0	0	1	2	3	2	2	3	1	1	2
	無答 %			0			6.5			6.5			4.4
書字力	正答 人	10	12	22	9	9	18	8	9	17	8	7	15
	正答 %			47.8			39.1			37.0			32.6
	誤答 人	7	15	22	7	13	20	6	9	15	5	17	22
	誤答 %			47.8			43.5			32.6			47.8
	無答 人	1	1	2	2	6	8	4	10	14	5	4	9
	無答 %			4.4			17.4			30.4			19.6

読みの方は，四語とも一字ずつの正答率に劣らない好率であるが，書きは，いずれも低い。キャラメルという児童に最もしたしい拗音が，読み書きともによかったのは，生活と結びついているからであろう。協力学校七校332名の結果も大体同じである。

協力学校（2年3学期末）正答の人数および正答率

		キャラメル	ニュース	チョコレート	ラッパ
読字	人	328	282	283	303
	%	98.8	84.9	85.2	91.3
書字	人	267	140	163	235
	%	72.6	38.0	44.3	63.9

29年入学児童について，2年1学期末にテストした結果は，

実験学校（2年生第1学期末）促音・拗音の読字力・書字力

		キャラメル			ニュース			チョコレート			ラッパ		
		男 27人	女 24人	計 51人	男 27人	女 24人	計 51人	男 27人	女 24人	計 51人	男 27人	女 24人	計 51人
読字力	正答 人	9	6	15	0	0	0	0	1	1	2	3	5
	正答 %			29.4			0			2.0			9.8
	誤答 人	16	15	31	5	5	9	3	2	5	14	15	29
	誤答 %			60.8			17.6			9.8			56.9
	無答 人	2	3	5	22	22	42	24	21	45	11	6	17
	無答 %			9.8			82.4			88.2			33.3
		男 26人	女 24人	計 50人	男 26人	女 24人	計 50人	男 26人	女 24人	計 51人	男 26人	女 24人	計 50人
書字力	正答 人	21	20	41	9	9	18	11	11	22	13	11	24
	正答 %			82.0			36.0			44.0			48.0
	誤答 人	1	2	3	1	1	2	1	0	1	3	5	8
	誤答 %			6.0			4.0			2.0			16.0
	無答 人	4	2	6	16	14	30	14	13	27	10	8	18
	無答 %			12.0			60.0			54.0			36.0

読みは，最も身近かなキャラメルはよいが，他は50％以下であり，書きはキャラメルが少し書けただけで，他は無答もしくは誤答が多い。また，誤答の型にはいろいろある。

読みの誤りの傾向

キャラメル	ニュース	チョコレート	ラッパ
キャメル	ニングン	メコレート	パン
キョーメン	ニルイダ		ウッタ
キャッチャー			ウヂッパ
			ランパ
			ランプ
			パン
			ポンプ

書きの誤りの傾向（2年1学期末）

キャラメル	ニュース	チョコレート	ラッパ
キヤラメル	ニユス	チョ	ラツパ
キラメル	ニーウス	ちょこれいと	ラシパ
キャー	ニユウス		ラーパ
キャメル			ラパ
キャメ			フパ
			ラル

C　文字別にみたかたかな正答率

2年3学期末に行ったかたかな文字力テストの結果を，文字別，学校別に

整理すると次のようになる。

かたかな読字力・書字力テスト　文字別正答率表（実験・協力学校）

（清音）

上段よみ　下段かき（太字は未学習文字を示す）

学校＼文字	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ
	%										
Y	89.1	89.1	91.3	91.3	91.3	97.8	97.8	87.0	84.8	91.3	89.1
(T書)	82.6	97.8	78.3	78.7	84.8	100	97.8	67.4	56.5	80.4	50.0
N	98.0	98.0	92.2	96.1	98.0	98.0	100	98.0	96.1	96.1	94.1
(T書)	80.4	97.9	91.5	97.9	93.6	100	95.7	83.0	85.7	85.1	63.8
H	93.8	96.9	93.8	90.6	93.8	100	100	84.4	81.3	90.6	87.5
(C書)	87.5	93.8	87.5	65.6	87.5	100	90.6	62.5	81.3	87.5	65.6
G	100	98.1	100	94.2	100	100	100	98.1	96.2	100	98.1
(N書)	92.5	94.3	94.3	86.8	92.5	96.2	94.3	86.8	29.2	86.8	75.4
M	95.6	95.6	95.6	91.1	93.3	100	95.6	93.3	93.3	95.6	93.3
(N書)	88.4	97.7	93.0	79.1	93.0	100	97.7	83.7	76.7	93.0	81.4
S	83.7	91.8	91.8	**79.6**	91.8	100	100	89.8	79.6	89.8	75.5
(G書)	91.5	93.6	89.4	**85.1**	91.5	95.7	97.9	89.4	91.5	91.5	78.7
D	96.5	100	96.5	96.5	98.2	100	100	100	93.0	100	93.0
(M書)	96.7	100	95.0	88·3	95.0	98.3	100	98.3	86.7	100	90.0

学校＼文字	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ
	%											
Y	87.0	97.8	99.1	**69.6**	89.1	89.1	84.8	84.8	93.5	84.8	95.6	71.7
(T書)	82.6	97.8	65.2	**52.2**	76.1	56.5	54.3	52.2	84.8	73.9	67.4	34.7
N	94.1	98.0	96.1	**88.2**	76.1	98.0	96.1	96.1	98.0	96.1	98.0	84.3
(T書)	83.0	100	80.9	**76.6**	87.2	76.6	78.7	78.7	85.1	83.0	85.1	63.8
H	84.4	90.6	82.5	78.1	81.3	93.8	75.0	84.4	96.9	81.3	93.8	68.8
(C書)	78.1	90.6	78.1	50.0	65.6	53.1	43.8	59.4	87.5	59.4	65.6	53.1
G	94.2	100	100	94·2	98.1	96.2	90.4	98.1	100	98.1	100	90.4
(N書)	90.6	98.1	84.9	71.7	88.7	79.2	83.0	81.1	94.3	90.6	86.8	67.9
M	95.6	97.8	95.6	95.6	93.3	95.6	84.4	95.6	100	95.6	100	86.7
(N書)	88.4	100	83.7	69.8	88.4	72.1	83.7	86.0	95.3	83.7	72.1	72.1
S	63.3	87.8	91.8	**63.3**	81.6	69.4	59.2	**67.3**	93.9	73.5	**89.8**	**49.0**
(G書)	76.6	83.0	93.0	**61.7**	68.1	59.5	63.8	**53.2**	78.7	72.3	**63.8**	**46.8**
D	93.0	100	96.5	**91.2**	98.2	100	94.7	96.5	100	100	**98.2**	**86.0**
(M書)	98.3	98.3	91.7	**91.7**	96.7	98.3	90.0	86.7	100	93.3	100	**90.0**

文字 / 学校	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ
Y	84.8	93.5	93.5	84.8	82.6	95.6	95.6	87.0	89.1	87.0	91.3	91.3
(T書)	58.7	89.1	79.3	71.7	54.3	78.3	54.3	92.6	73.9	43.5	58.7	76.1
N	92.2	96.1	98.0	92.2	92.2	100	94.1	92.2	98.0	94.1	96.1	100
(T書)	59.6	93.6	91.5	83.0	78.7	89.4	85.1	87.2	63.8	78.7	63.8	83.0
H	35.0	93.8	90.6	81.3	75.0	93.8	78.1	87.5	81.3	78.1	81.0	87.5
(C書)	46.9	65.6	68.8	65.6	46.9	81.3	62.5	62.5	68.8	28.1	50.0	68.8
G	92.3	100	100	94.2	90.4	100	94.2	98.1	100	94.2	98.1	94.2
(N書)	71.7	90.6	86.8	83.0	81.1	81.1	79.2	90.6	96.2	67.9	88.7	75.4
M	97.8	100	92.8	95.6	88.9	100	95.6	93.3	100	97.8	100	97.8
(N書)	69.8	90.7	81.4	86.0	90.7	95.3	88.4	90.7	90.7	93.0	93.0	90.7
S	61.2	75.5	91.8	73.5	63.3	98.0	91.8	71.4	77.6	63.3	81.6	77.6
(G書)	61.7	74.4	72.3	63.8	53.2	83·0	70.2	57.4	42.6	51.0	68.1	70.2
D	94.7	98.2	98.2	96.5	93.0	100	96.5	94.7	98.2	94.7	100	98.2
(M書)	91.7	98.3	93.3	96.7	91.7	100	91.7	93.3	93.3	88.3	9.17	91.7

文字 / 学校	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ヲ	ン	計
Y	97.8	76.1	89.1	89.1	92.8	89.1	87.0	89.1	80.4	76.1	95.6	88.7
(T書)	82.6	54.3	82.6	80.4	95.6	67.4	56.5	45.7	37.0	69.6	93.5	70.7
N	100	90.2	94.1	98.0	100	98.0	94.1	96.1	90.2	86.3	98.0	95.5
(T書)	97.9	59.6	89.9	91.5	95.7	87.2	91.5	76.6	48.9	63.8	89.4	83.1
H	100	71.9	81.3	96.9	100	87.5	62.5	71.9	65.6	56.3	96.9	83.2
(C書)	87.5	40.6	59.4	84.4	84.4	59.4	40.6	95.4	25.0	31.2	93.8	66.8
G	100	86.5	98.1	98.1	100	100	94.2	100	84.6	90.4	100	96.8
(N書)	90.6	71.7	79.2	86.8	92.4	90.6	86.8	84.9	66.0	77.4	90.6	84.9
M	97.8	75.6	95.6	97.8	100	93.3	95.6	95.6	88.9	100	95.6	92.2
(N書)	97.7	93.0	83.7	90.7	90.7	88.4	79.1	79.1	74.4	95.3	95.3	87.1
S	100	55.1	75.5	83.7	100	75.5	61.2	71.4	55.1	53.1	89.8	78.5
(G書)	85.1	42.6	59.6	87.2	85.1	70.2	63.9	70.2	53.2	46.8	76.6	72.1
D	98.2	89.5	96.5	96.5	100	100	94.7	98.2	87.7	87.7	94.7	96.4
(M書)	100	90.0	93.3	98.3	98.3	96.7	98.3	96.7	76.7	91.7	98.3	94.3

（濁・半濁音）

学校＼文字	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	ダ	ヂ	ヅ
Y	97.8	97.8	84.8	84.8	93.5	84.8	87.0	91.3	87.0	69.6	91.3	80.4	56.5
(T書)	91.3	87.0	76.1	58.7	84.8	47.8	76.1	93.5	58.7	52.2	78.3	30.4	30.4
N	100	100	94	96	96	90	96	96	96	88	92	94	84
(T書)	89.4	85.1	78.7	78.7	91.5	59.6	80.9	78.7	63.8	68.1	89.4	70.2	55.3
H	100	100	71.9	75.0	84.4	84.4	84.4	87.5	81.3	68.8	75.0	68.8	59.4
(C書)	65.6	87.5	65.6	56.3	78.1	68.8	56.3	65.6	53.1	43.8	59.4	25.0	25.0
G	100	100	95.1	94.2	100	94.2	98.1	100	98.1	92.3	98.1	96.2	92.3
(N書)	90.6	90.6	86.8	77.4	86.8	79.2	56.8	90.6	75.4	67.9	86.8	71.7	77.4
M	100	93.3	93.3	93.3	97.8	95.6	93.3	92.8	95.6	88.9	91.1	88.9	68.9
(N書)	93.0	93.0	76.7	83.7	88.4	79.1	76.7	88.4	79.1	79.1	76.7	58.1	74.4
S	87.0	87.0	67.4	82.6	80.4	65.2	71.7	71.7	73.9	56.5	54.3	54.3	52.2
(G書)	93.9	100	79.6	83.7	79.6	81.6	65.3	75.5	79.6	51.0	77.6	65.3	42.9
D	100	100	96.5	93.0	100	95.2	100	100	93.0	87.7	80.7	94.7	78.9
(M書)	96.7	100	98.3	86.7	100	86.7	91.7	91.7	81.7	86.3	95.0	85.0	71.7

学校＼文字	デ	ド	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	パ	ピ	プ	ペ	ポ	計
Y	80.4	95.6	95.6	82.6	80.4	93.5	95.6	97.8	91.3	82.6	91.3	93.5	87.5
(T書)	52.2	76.1	91.3	65.2	58.7	89.1	67.4	97.8	65.2	52.2	89.1	56.5	68.8
N	96	98	98	98	90	100	96	100	98	96	98	100	95.6
(T書)	78.7	87.2	93.6	89.4	76.6	89.4	80.9	93.6	91.5	78.7	83.0	89.4	81.1
H	81.3	93.8	90.6	71.9	65.6	93.8	87.5	93.8	84.4	87.5	87.5	90.6	82.8
(C書)	53.1	59.4	68.8	50.0	53.1	62.5	56.3	81.3	62.5	56.3	65.6	78.1	59.9
G	100	100	98.1	96.2	90.4	98.1	100	100	98.1	94.2	98.1	94.2	97.2
(N書)	73.6	86.8	88.7	81.1	77.4	81.8	77.4	96.2	79.2	81.1	86.8	79.2	82.3
M	95.6	100	97.8	95.6	88.9	100	95.6	97.8	97.8	95.6	95.6	100	94.3
(N書)	81.4	93.0	90.7	90.7	65.1	90.7	88.4	88.4	90.7	76.7	86.0	93.0	83.3
S	58.7	73.9	73.9	54.3	52.2	80.4	78.3	76.1	63.0	50.0	76.1	69.6	68.4
(G書)	57.1	91.8	93.9	67.3	63.3	98.0	89.8	91.8	91.8	71.4	98.0	87.8	79.0
D	96.5	100	100	100	98.2	100	100	100	100	94.7	98.2	100	96.4
(M書)	81.7	100	100	96.7	93.3	95.0	95.0	98.3	96.7	90.0	96.7	93.3	92.3

1. おぼえやすい字とおぼえにくい字

文字別の正答率に，相当の高低が認められる。実験学校・協力学校共通して読みやすい文字

イウオカキストニノハヘ(ホ)ヤ(ラ)リンガギズドバベボ(パ)ペ

書きやすい文字

アイオカキストノヘヤラリンギズバベパペ

読みにくい文字

ソツテヌユレロワヲザゼゾヅブプ

書きにくい文字

サセソチツテヌネホムメモユロワヲグゲザジゼゾヂヅ

等があげられる。既習字でも字形が混同しやすかったり，形のとりにくい文字は成績が悪い。

2. かたかな文字読み書きの誤りの傾向

実験学校における2年3学期末のかたかな文字力テストで，次のような読み誤り，書き誤りが見られた。

(1) 読字力の誤りの傾向

(1) 字形の混同

誤	男	女	計	誤	男	女	計
ソ → ン	5	3	8	ヌ → ネ	1	1	2
ソ → シ	0	1	1	タ → ユ	1	1	2
ソ → ツ	1	0	1	ワ → ウ	0	2	2
シ → ツ	0	1	1	ウ → ク	0	1	1
ツ → ソ	0	1	1	マ → ア	0	1	1
ツ → ン	0	1	1	ル → ハ	0	1	1
ユ → ヨ	0	3	3	ロ → コ	0	1	1
ユ → ヌ	1	0	1	レ → シ	0	1	1
エ → ユ	0	1	1	ヅ → ジ	4	11	15
ヲ → ヨ	1	0	1	ゾ → ジ	1	3	4
ヌ → ヲ	0	1	1	ゾ → ヅ	1	0	1

(2) 類似字形のひらがなと混同した読み誤り

誤	男	女	計	誤	男	女	計
サ → セ (せ)	3	0	3	ラ → ウ (う)	0	1	1
ネ → エ (え)	2	1	3	ザ → ゼ (ぜ)	1	4	5
フ → ツ (つ)	1	0	1				

(3) 同行の他の音と混同

誤	男	女	計
マ → ム	1	1	2
ル → ラ	1	0	1
イ → ア	0	1	1
ゾ → ゼ	1	0	1
ビ → ブ	0	1	1
ブ → ビ	1	0	1
プ → ピ	0	1	1

(4) 漢字と混同

	男	女	計
ロ → くち（口）	1	0	1
ナ → なな（七）	1	0	1

(5) 原因のつかめない出たらめ読み

誤	男	女	計
ム → ア	0	1	1
シ → カ	0	1	1
フ → ミ	0	1	1
ミ → ハ	0	1	1
ム → ナ	0	1	1
ゼ → ビ	1	0	1
ズ → エ	0	1	1
ズ → ブ	0	1	1
ズ → バ	1	0	1

(ニ) 書字力の誤りの傾向

(1) 類似字形のかたかなと書き誤る

誤	男	女	計
ア → マ	0	2	2
サ → セ	1	1	2
セ → サ	2	1	3
ク → タ	3	0	3
ケ → チ	1	0	1
ケ → テ	1	0	1
シ → ツ	2	3	5
ツ → シ	3	4	7
チ → ナ	1	0	1
チ → テ	1	0	1
チ → ケ	1	0	1
ヨ → ユ	1	0	1
コ → ユ	0	1	1
ヲ → ラ	1	1	2
ン → ソ	1	0	1
シ → ソ	0	1	1
ア → ヤ	0	1	1
ウ → ラ	0	1	1
ウ → ワ	0	1	1
ヌ → ユ	0	1	1
ジ → ヅ	2	1	3
ゼ → ザ	1	0	1
ヅ → ジ	2	1	3
ザ → ゼ	0	2	2

(2) ひらがなと混同

誤	男	女	計	誤	男	女	計
ウ → う	3	2	5	チ → ち	1	0	1
サ → せ	4	4	8	フ → ふ	1	0	1
ザ → ぜ	2	2	4	ヤ → や	1	0	1
				リ → り	2	0	2
モ → も	3	0	3	ギ → ぎ	2	0	2
メ → め	1	0	1	デ → で	1	2	3
エ → え	1	0	1	ピ → ぴ	1	0	1
ソ → そ	1	0	1	ヂ → じ	3	2	5
タ → た	1	0	1				

(3) 逆書

誤	男	女	計	誤	男	女	計
コ → ㄷ	1	0	1	ノ → 乀	0	1	1
ヒ → ㄋ	1	0	1	ヨ → ㄸ	0	1	1
ミ → 彡	3	0	3	ビ → ブ゛	1	0	1
ル → 小	2	0	2	ピ → プ゜	1	1	2
レ → 亅	2	1	3	ド → イ゛	0	1	1
オ → 卞	0	2	2				

(注) ビピなどの逆書をしている児童は同一の児童である。

○同音からの誤り。

誤	男	女	計	誤	男	女	計
ヲ → オ	0	2	2	ヂ → ジ	1	0	1
ジ → ヂ	1	0	1				

○清濁を誤ってかく

(イ) 濁音化

誤	男	女	計	誤	男	女	計
ケ → ゲ	0	1	1	ク → グ	1	0	1
コ → ゴ	0	1	1	ヘ → ペ	0	1	1
テ → デ	0	1	1				

(ロ) 濁・半濁音の混同

誤	男	女	計	誤	男	女	計
ブ → プ	1	0	1	ビ → ピ	0	2	2
バ → パ	1	0	1				

(ハ) 清音化

誤	男	女	計	誤	男	女	計
ブ → フ	0	1	1	プ → フ	1	1	2
バ → ハ	0	1	1	ブ → フ	0	1	1

○字形の不足

誤	男	女	計	誤	男	女	計
キ → キ	1	0	1	サ → 七	0	1	1
セ → 七	5	2	7	ネ → ネ	0	1	1
ゼ → ゼ	2	2	4	不	0	1	1

○漢字と誤ってかく

誤	男	女	計	誤	男	女	計
ホ → 木	2	0	2	オ → 大	0	1	1
ボ → 木	1	0	1	コ → 子	0	1	1
木	1	0	1	ゴ → 子	0	1	1
ポ → 木	2	0	2				

○同じ行の中の他の音と書き誤る

誤	男	女	計	誤	男	女	計
バ → ボ	0	1	1	ペ → パ	1	0	1
ビ → ブ	0	1	1	プ → ポ	0	1	1
ピ → プ	0	2	2				

○原因のとらえられない出たらめ書き

誤	男	女	計	誤	男	女	計
エ → ス	1	1	2	ケ → ユ	0	1	1
ハ → ヤ	0	1	1	エ → ジ	1	0	1

文部省のかたかな学習の実験学校であった久原小学校（東京）では，指導法に種種の研究を施して効果をあげているが，生徒にツとシ（書字の混同の多い字）の区別として，ツは横に点を並べて最後のノを上から下へかき，シは，縦に点を並べて下から上へはねる。あるいは，ツは続けるとひらがなのつになり，シは続けるとひらがなのしになるというような鑑別法を教えて，効果をあげたと報告している。

3. かたかな能力と使用教科書との関係

前掲のかたかな読字力•書字力テスト文字別正答率表(実験•協力学校)(137〜139ページ)は，使用教科書によって学校を配列し，太字の数字は，その学校での使用教科書では，2年終了時までに未学習の文字の習得率であるこ

とを示している。これでみると，教科書のかたかな提出に対する配慮や意図が，かなりかたかな習得に影響があるようである。

また，かたかなの文字環境の多寡も影響するようである。

4. かたかな能力テストの方法

教科書で未習の文字でも，ひらがなと字形が似ている，どこかで見たなどで読めるが書けない場合がある。しかし，読めないが書けるという文字がある。これらは，教科書外のかたかな学習法，指導法（例えば五十音図使用）の反応，低学年や能力の低い児童にみられる書字の先行などの現われと思われる。

われわれのかたかなの読み書きテストではテスト方法として，読みは，71字を無作為に無意味文字として配列した文字表を一字ずつ読ませる方法，書きは，ラジオのラというように児童に親しい語でその音を確認してから書かせるという方法をとった。この場合読みのテストにも書きの語形と同じに，ラジオ，ズボンというふうに語として出して，目的のラ・ズの読字力をみたら，その結果は一字ずつ読ませる方法とどのように違うであろうか。この方法検討のために一字ずつ読ませる方法をAテスト，語として読ませる方法をBテストとし，両方のテストを同一の被調査者に試みてみた。その結果，

	男	女	計
A B 両テストで同様に誤っているもの——	9字	16字	25字
A テストのみ誤っていてBテストではできたもの——	19	33	52
A テストではできているが Bテストではできないもの——	8	11	19

Aテストで誤答して，Bテストで正答できた文字は

Aテスト（誤）	Bテスト	Aテスト（誤）	Bテスト
サ → セ	○	ヅ → ジ	○
セ → サ	○	ゾ → ジ	○
ユ → ヨ	○	ザ → ゼ	○
ヲ → ヨ	○	ビ → ピ	○
ヌ → ネ	○		

である。無意味文字一字として提示された時は，はっきり識別できなくても，サカナとあれば，セカナとは読みにくい。Bテストの方法が結果として読みに好率を示すのは当然であろう。児童にしたしい語形では，その文字が

一字としてははっきり読めなくても前後の関係で読めるわけで，一字ずつの正しい読みのテストという場合にはAテストの方が，真の児童の読字力をあらわすものと思われる。

B　テスト問題

1. スイカ	2. イヌ	3. シンブン	4. パン	5. ミカン
6. ウチワ	7. キモノ	8. トリ	9. カサ	10. センセイ
11. コドモ	12. マッチ	13. オツカイ	14. サカナ	15. ズボン
16. ガッコウ	17. ルスバン	18. ヤマ	19. ハナ	20. エンピツ
21. クルマ	22. アシ	23. ジドウシャ	24. ノリモノ	25. ヨウフク
26. モモ	27. ヒヨコ	28. ニンジン	29. ツキ	30. メガネ
31. チイサイ	32. ケシゴム	33. タコ	34. ゴハン	35. ローソク
36. ラジオ	37. ダイコン	38. リンゴ	39. ギンコウ	40. ナマエ
41. テッキョウ	42. パン	43. グルグルマワル	44. ソラ	45. ピストル
46. ゲタ	47. レコード	48. ユキ	49. ネズミ	50. ヘンジ
51. ポンプ	52. ビックリ	53. ザッシ	54. フユ	55. ドウブツエン
56. ヌリエ	57. バナナ	58. デンシャ	59. ワタクシ	60. ホシ
61. ベントウ	62. ダヂヅデド	63. カゼ	64. ムラ	65. ペンキ
66. ホンヲヨム	67. ブランコ	68. ゾウキン	69. コップ	70. ダヂヅデド
71. ボウシ				

Ⅶ 漢字能力の発達

A 漢字の読字力・書字力の正答率の発達

1. 全体的考察

入学直後，実験学校で，ひらがな・かたかなの読字力・書字力テストと相まって，漢字の読み書きテストを行った。（読みは 28. 4. 18，書きは 28. 4. 22に実施），テスト方法は個人テスト，テスト材料は，1・2年生の教科書に頻出し，1，2年で学習すると考えられる 50 字（一から十までの漢数字 10 字と，青赤足石入色上大川木口国子字下白正先生空立小月土手出中花早日火左人冬本右水目山耳の 40 字）とした。

入学当初の漢字力調査結果表

よみ				かき			
正答数(字)	男 人	女 人	計 人	正答数(字)	男 人	女 人	計 人
23(字)	1		1				
22	1		1				
18		1	1				
15	1		1	15	2		2
14	1	1	2				
11		2	2	11	1	1	2
10	2		2	9		1	1
9		1	1	8		1	1
8		1	1	7	1	1	2
7	1	1	2	6	1		1
5		2	2	5		1	1
4		1	1	4	1		1
3	1	3	4	3	2	3	5
2	1		1	2		1	1
1	3	5	8	1	4	2	6
0	11	7	18	0	11	12	23

読みでは最高 23 字，書きでは最高 15 字，平均読字数 4.5 字，平均書字数 2.6 字であった。しかし，入門期当初ひらがなの読み書きすら まだ 習得さ

れていない段階であるから，これらの漢字の読み書きができるものは極めて少数で，18人のものが一字も読めず23人のものが一字も書けないという状態であった。

教科書プレ•プリマでは，もちろん漢字は提出されていない。したがってその読める字，書ける字も，下表のように漢数字が主であり，ひらがなの読み書きをすでに習得して，さらに漢字をおぼえ始めた読書能力の高いごく数名を除いては，何かの関係でとくにその字を知っているという程度にすぎない。

読める字															
一	二	三	子	四	五	日	本	川	山	中	十	大	木	八	七
24人	20	19	17	11	10	9	8	8	8	7	7	7	6	6	5

書ける字								
一	二	三	四	中	十	川	子	山
18人	16	16	9	6	5	5	5	5

上位の文字「子」が，名前で見なれる文字としての要因がきいていると思われるのも，「子」の読みが正答者17人中，男子6人，女子11人，書きが正答者5人中男子2人，女子3人であることから察せられる。その他，川，本，石などの正答者に川上•宮本•石田姓のものがあるなど，入門期当初の段階では，漢字の読み書きについては，特殊の児童を除いて，まだ自然のままに放置されている状態といえる。協力学校の結果もやや率がよいが，だいたい同じである。

しかし，4月以降の漢字力は，調査のたびに少しずつ上昇している。（28

漢字　読めた字の平均数（実験学校）

	28年4月18日			5月30日			6月24日			7月16日			9月3日			12月7日			29年3月9日		
	よめた字数	被調査者	平均	字	人	平均	字	人	平均	字	人	平均	字	人	平均	字	人	平均	字	人	平均
	字	人	字			字			字			字			字			字			字
男	109	23	4.74	137	20	6.85	171	20	8.51	156	17	9.18	188	16	11.75	342	14	24.42	537	17	31.58
女	106	25	4.24	131	24	5.46	145	25	5.80	166	24	6.92	226	25	9.04	426	21	20.29	722	24	30.08
計	215	48	4.48	268	44	6.09	316	45	7.02	322	41	7.85	414	41	10.10	768	35	21.94	1259	41	30.71
50字に対する正答率			% 9.0			% 12.2			% 14.0			% 15.7			% 20.2			% 43.7			% 61.4

年4月～29年3月までは調査文字50字は同一なので，前ページの表及び次の表によって，発達の度合がわかる。）

漢字　書けた字の平均数（実験学校）

	4月22日			5月28日			6月25日			7月14日			9月4日			12月8日			29年3月11日		
	かけた字数	被調査者	平均字数	字	人	平均字	字	人	平均字	字	人	平均字	字	人	平均字	字	人	平均字	字	人	平均字
	字	人	字																		
男	68	23	2.96	80	21	3.81	122	19	6.42	108	17	6.35	146	16	9.13	334	16	20.88	434	17	25.52
女	53	23	2.30	47	24	1.76	98	25	3.92	111	25	4.44	205	25	8.20	344	20	17.20	537	23	23.34
計	121	46	2.63	127	45	2.82	220	44	5.14	219	42	5.21	351	41	8.56	678	36	18.83	971	41	24.28
50字に対する正答率	%		5.3	%		5.6	%		10.3	%		10.4	%		13.1	%		37.7	%		48.6

これは協力学校も同様であって，下表の如くである。これらによれば9月末まではごく少しずつ上昇しているが，12月即ち2学期末に至ると，急に

漢字　よみの発達（平均字数を示す）

学校名	第1回 入学当初	第2回 1期学末	第3回 2学期初	第4回 2学期末	第5回 3学期末
N	6.2字	10.0字	15.7字	31.7字	38.1字
C			15.9		35.1
K	4.5	12.9		27.7	32.8
H	4.9	11.4	14.7	25.8	29.7
S	4.2				37.7
平均	5.0字	11.4字	15.4字	28.4字	34.7字
50字に対する正答率	10.0%	21.8%	30.8%	56.8%	69.4%

漢字　かきの発達

学校名	第1回 入学当初	第2回 1学期末	第3回 2学期初	第4回 2学期末	第5回 3学期末
N	3.3字	6.4字	14.2字	28.7字	32.2字
C		14.0			36.4
K	1.8	9.7		24.9	26.9
H	2.9	9.1	11.0	19.6	30.4
S	2.3	10.0			31.9
平均	2.6字	9.8字	12.6字	24.4字	31.6字
50字に対する正答率	5.2%	19.6%	25.2%	48.8%	63.2%

発達を見せていることがわかる。実験学校及び協力学校では，大体7月の初めごろからプリマを使用しており，漢数字などの初歩的な文字を学習しはじめているが，「入門期の言語能力」にあるように，ひらがなの読字・書字の学習が10月ごろに終るので，このころから，漢字に対する受け入れ態勢がつくものと思われ，2学期末の上昇は，その一つの現われであるといえよう。正答率の上昇は2年生になっても同じで，ほぼ同率に伸びている。ことに2年

29年度2年生　漢字（実験学校）

よみ	1学期末（50字）			2学期末（60字）			3学期末（110字）		
	読字数	人数	平均読字数	読字数	人数	平均読字数	読字数	人数	平均読字数
	字	人	字	字	人	字	字	人	字
男	576	16	36.0	784	18	43.6	1,303	18	72.4
女	1,000	28	35.7	1,069	26	41.1	1,844	27	68.3
計	1,576	44	35.8	1,853	44	42.1	3.147	45	69.9
平均正答率			71.6%			70.2%			63.5%

かき	1学期末（50字）			2学期末（60字）			3学期末（110字）		
	書字数	人数	平均書字数	書字数	人数	平均書字数	書字数	人数	平均書字数
	字	人	字	字	字	字	字	人	字
男	348	16	21.8	460	18	25.6	826	18	45.9
女	585	28	20.9	597	26	23.0	1,298	28	46.4
計	933	44	21.2	1,057	44	24.0	2,124	46	46.2
平均正答率			% 42.4			% 40.0			% 42.0

になってからは，調査文字が，それぞれ前回テストで80%以上の習得率のものは捨てて，新たに程度の高い文字（2年～3年の教科書で共通に出る漢字）を加えたものであるから，1年のころより漢字習得の度がいっそうさかんであることがわかる。やや目立つ現象として，提出文字数に対する正答率は，2年の学年末の方が低くなっているのは，（読字力・書字力の平均数は読み69.9字，書き42.0字で今までのテスト中いちばん高い）従来の50字乃至60字に対し，文部省の学習漢字学年別配当案による2年用漢字110字をそのまま用いてテストしたためであり，2年終末テストでは，正答の規準も従来より厳格にして採点したからである。協力学校の方は，読み書きともに，実験学校を上回る好率でそれぞれ上昇している。

29年度2年生　漢字（協力学校）

	平均読字数			平均書字数		
	1学期末 (50字)	2学期末 (60字)	3学期末 (110字)	1学期末 (50字)	2学期末 (60字)	3学期末 (110字)
N	40.6	51.6	84.9	33.9	38.8	60.4
C	38.0	50.3	85.0	36.1	43.2	56.7
K	38.7	43.7	−	28.2	37.7	−
H	32.6	44.0	79.3	23.3	33.2	49.2
S	37.4	47.3	78.1	33.6	44.2	65.4
平　均	34.5	47.4	81.8	31.0	39.4	57.9
平均正答率	69.0%	79.0%	74.4%	62.0%	65.7%	52.6%

問題と実施の手引

2年生　1学期末文字力テスト

漢字の読字力

1. テストの方法

やさしい漢字50字を，それぞれ単独に文字として与え，正しく読めるかどうかをみる。

2. テストの材料

漢字50字（1年のテストで正答率70％以下の字33字に，2年の各教科書に頻度の高い字17字を加えたもの）

用紙は別表。

3. 実施上の注意

集団テストで，いっせいに行う。

机上に下じき，筆具のみを用意させる。

教室の周囲にある文字類は，目にふれないようにあらかじめ始末しておく。

隣の人の書いたのを，のぞかないように注意する。

4. 記録のしかた

答案に，下記の要領にしたがって，記録する。

① 読めた字は○をつける。（音でも訓でも正しく読めていれば正答）

② 読み誤りの字は△をつける。

③ 読めない字は無印

漢字の書字力

1. テストの方法

やさしい漢字50字を，わかりやすい語，文の形にくみ合わせて与え，正しく書けるかどうかをみる。

2. テストの材料

漢字50字（読字用漢字に同じ）

書字用紙は別表

3. 実施上の注意

読字力テストの場合と同じ。

大体のものが書きおえたらやめる。

4. 記録のしかた

問題用紙に下記の要領にしたがって記録する。

① 書けた字には○印をつける。

② 書きあやまりの字には△印をつける。

③ 書けないものは無印

（ ）のなかに よみかたを かなで かいて ください。

1. （ ）川。	13. （ ）左。	25. （ ）花。	37. （ ）空。
2. （ ）手。	14. （ ）下。	26. （ ）国。	38. （ ）音。
3. （ ）水。	15. （ ）耳。	27. （ ）お正がつ。	39. （ ）雨。
4. （ ）青い。	16. （ ）入れる。	28. （ ）田。	40. （ ）車。
5. （ ）人。	17. （ ）火。	29. （ ）赤い。	41. （ ）男。
6. （ ）足。	18. （ ）先 （ ）生。	30. （ ）土。	42. （ ）早い。
7. （ ）目。	19. （ ）右。	31. （ ）色。	43. （ ）町。
8. （ ）本。	20. （ ）方。	32. （ ）光る。	44. （ ）女。
9. （ ）立つ。	21. （ ）月。	33. （ ）門。	45. （ ）走る。
10. （ ）上。	22. （ ）石。	34. （ ）夕がた。	46. （ ）村。
11. （ ）字。	23. （ ）白い。	35. （ ）学 （ ）校。	47. （ ）十（じゅう）年。
12. （ ）口。	24. （ ）冬。	36. （ ）出る。	48. （ ）作る。

□ のなかに　かんじを　かいて　ください。

1. かわ □ の みず □ 。
2. て □ と あし □ 。
3. あお □ い　うみ。
4. ひと □ が た □ って います。
5. め □ と くち □ 。
6. かばんに ほん □ を □ れる。
7. うえ □ と した □ 。
8. じ □ をかく。
9. ひだり □ の みみ □ 。
10. せん □ せい □ 。
11. ひ □ がもえる。
12. みぎ □ の ほう □ にむく。
13. つき □ が ひか □ る。
14. おおきな いし □ 。
15. しろ □ い はな □ 。
16. さむい ふゆ □ 。
17. にっぽんの くに □ 。
18. お しょう □ がつ。
19. た □ んぼの つち □ 。
20. あか □ い いろ □ 。
21. もん □ から で □ る。
22. がっ □ こう □ 。
23. ゆう □ がたの そら □ 。
24. あめ □ のふる おと □ 。
25. くるま □ が はや □ く はし □ る。
26. おとこ □ と おんな □ 。
27. まち □ や むら □ 。
28. 二 ねん □ せいになる。
29. つみきでうちを つく □ る。

2 年生　2 学期末文字力テスト

漢字の読字力

1. テストの方法

現行教育課程において 1 年生と 2 年生の初期に配当されている漢字 60 字を，単独に文字として与え，正しく読めるかどうかをみる。

2. テストの材料

漢字60字（2年1学期末のテストで，読み書きの正答率80％以下の字34字に2年用漢字として26字――2年の各教科書に頻度の高い字および，読みものに多く使われる字――を加えたもの）読字用紙は別表。

3. 実施上の注意

集団テストで，いっせいに行う。
机上に下じき，筆具のみを用意させる。
教室の周囲にある文字類は目にふれないように始末しておく。
指示だけ読んでやって説明し，番号順に書かせる。
大体のものが，書き終えたらやめる。
隣の人の書いたのをのぞかないように注意する。

4. 正答・誤答の判定

① 読みは，音でも，訓でも，どちらでも正しく読めたものは正答とする。したがって「五分」は「ふん」「ぶ」はもちろん，「わけ」でも正答である。
② 「何かほしい」は（なん）でも（なに）でも正答
「名」に対して（なまえ）は誤答
「お正がつ」に（しょ），「多い」に（お）は誤答とする。
③ そのほか，判定に困難したものについては，それをどう判定したかを記録しておく。

5. 記録のしかた

問題用紙に下記の要領にしたがって記録する。
① 読めた字は○をつける。
② 読み誤りの字は△をつける。（できたら読み誤りをカタカナで記録しておく。―誤りの傾向をしらべるために―）
③ 読めない字は無印。

漢字の書字力

1. テストの方法

やさしい漢字60字を，わかりやすい語，文の形に組み合わせて与え，正しく書けるかどうかをみる。

2. テストの材料

漢字60字（読字用漢字に同じ）
書字用紙は別表。

3. 実施上の注意

読字力テストの場合と同じ。
隣の人の書いたのを，のぞかないように注意する。

4. 正答・誤答の判定

正答・誤答の判定に困難したものについては，その字形を書き写しておいて，それをどう判定したかをとっておく。

5. 記録のしかた

問題用紙に下記の要領にしたがって記録する。

① 書けた字には○印をつける。
② 書き誤りの字には△印をつける。
③ 書けないものは無印。

かんじ（よみ）

（ ）の なかの よみかたを かなで かいて ください。

1. （ ）花
2. （ ）左。
3. （ ）青い。
4. （ ）火。
5. （ ）夕がた。
6. （ ）耳。
7. （ ）冬。
8. （ ）光る。
9. （ ）字。
10. （ ）男。
11. （ ）お正がつ。
12. （ ）立つ。
13. （ ）町。
14. （ ）色。
15. （ ）早い。
16. （ ）土。
17. （ ）出る。
18. （ ）石。
19. （ ）音。
20. （ ）村。
21. （ ）赤い。
22. （ ）右。
23. （ ）入れる。
24. （ ）方。
25. （ ）先。
26. （ ）国。
27. （ ）女。
28. （ ）思う。
29. （ ）虫。
30. （ ）海。
31. （ ）空。
32. （ ）（ ）天気。
33. （ ）草。
34. （ ）声。
35. （ ）雨。
36. （ ）走る。
37. （ ）名。
38. （ ）十（じゅう）年。
39. （ ）書く。
40. （ ）三（さん）時。
41. （ ）車。
42. （ ）家。
43. （ ）外。
44. （ ）道。
45. （ ）多い。
46. （ ）用。
47. （ ）来る。
48. （ ）作る。
49. （ ）林。
50. （ ）何かほしい。
51. （ ）五（ご）分。
52. （ ）見る。
53. （ ）高い。
54. （ ）心。
55. （ ）校門（もん）。
56. （ ）行く。
57. （ ）友。
58. おはなし（ ）の会。
59. （ ）力。

かんじ（かき）

□ の なかに かんじを かいて ください。

1. みぎ□ の みみ□。
2. まち□ や むら□。
3. にっぽんの くに□
4. つち□。
5. せん□ 生(せい)。
6. あか□ い はな□。
7. くるま□ が はや□ く。
   はし□ る。
8. お しょう□ がつ。
9. 五(ご) ねん□。
10. ひだり□ の ほう□。
11. そら□ の いろ□
12. ひばちに ひ□ を
    い□ れる。
13. ふゆ□ の ゆう□ がた。
14. むし□ の な□ まえ。
15. つく□ る。
16. あめ□ がふる。
17. おと□ と ひかり□。
18. うんどう かい□ に
    い□ く。
19. おとこ□ と おんな□。
20. ひとが た□ っている。
21. じ□ を か□ く。
22. くさ□。
23. もりや はやし□。
24. とも□ だちが
    く□ る。
25. たか□ い こえ□。
26. てん□ き□ がよい。
27. いし□ の おお□ い みち□。
28. よう□ がすんだら
    かえりなさい。
29. 学 こう□ の門から で□
    る。
30. こころ□ に おも□ う。
31. あお□ い うみ□。
32. なに□ が ほしいので
    すか。
33. ちから□ もち。
34. そと□ を み□ る。
35. 三(さん) じ□ 五(ご) ふん□。
36. いえ□。

2 年生　3 学期末文字力テスト

漢字の読字力

○ テストAおよびBに分けて構成されている。

A 110字（文部省国語課の 学習漢字 学年別配当試案による）

B 20字　110字のうちから，誤読の多い漢字をとりあげ，選択肢法でテストし，Aテストとの比較をする。

テストの方法

A・B ともに集団テスト。大体のものが書きあげたらやめる。

A 40分～50分ぐらい。

B 20分ぐらい（練習でやり方をよく説明しておいてからはじめる。）

正答・誤答の判定

テストA　正答誤答の判定については正答と準正答とを設け，正答は文部省の採点基準にしたがう。比較のためそれ以外に，従来の研究所テストで正答となるものは準正答とする。

文部省の採点基準

(1) 読みで可とするもの

ア かなづかいの誤りの中で，次のようなもの

用（よお），両（りょお），多い（おうい），

イ 促音，拗音を大きくかいたもの。

学（がつ），両（りよう），車（しや），百（ひやく），

(2) 読みで不可とするもの。

ア 方言あるいは，児童自身の発音による誤り。

用（よ），両（りょ），光（しかる），百（しゃく），犬（えぬ），少し（しこし），所（とこ），風（かじぇ）

イ 問題が要求しているのとは異なる読み方。（　）内の読みが正しい。

土（つち），西（にし）の空（そら），作（さく）文，話（はなし）

ただし，一字で提出したものは，音でも訓でも正しくよめていれば正答とする。

例　森（もり，しん），海（かい，うみ）又，冬の夜は　よる　でも　よ　でも正答

ウ 表記の誤り

書く，　高い，　半分，　元気，　千年，　汽車

しかし，この基準に従うと，従来の学年末テストの採点法より相当厳格になるので一応，文部省案に従って判定し，次に(2)のアの方言，あるいは児童自身の発音による誤り，例えば，　光，　百，　犬などは準正答とみなす。（△）

同様に(イ)の土（つち），作（文）も準正答。

(ウ)の動詞や，形容詞の送りがなのあやまりも準正答。例　書く　高い　しかし，

半分（はんぶん），元気（げんき）などは純然たる誤答として扱う。

テストB　四つの選択肢のうち，正答が一つ入れてある。

（記録のしかた）

A　問題用紙に次の要領に従って記録する。

① 文部省基準による答　　○印

② 準正答（正答ではないが従来のやり方で許容すべきもの）　　△ 印

③ 誤答　　△印

④ 読めないものは　　無印

漢字の書字力

○ テストはAおよびBにわけて構成されている。

A 110 字（文部省国語課の 学習漢字 学年別配当試案による。）

B 20字　110字のうちから，誤記の多い漢字をとりあげ，選択肢法でテストし，Aテストとの比較をする。

（テストの方法）

A．Bともに集団テスト

Aは任意にやらせ最後にはじめから一応読んでやって，書き入れもれのないようにしてやるとよい。

A 40～50分　B 20分ぐらい。

（正答・誤答の判定）

テストA　正答誤答の判定については正答と準正答とを設け，正答は文部省の採点基準にしたがう。その基準にははずれるが従来の研究所テストでは正答となるものは準正答とする。

文部省の採点基準

(1) 書きで可とするもの

ア 点画の長さ・方向などのわずかな違い。（　）内が正しい形

学（学），雨（雨），戸（戸），会（会），

(2) 書きで不可とするもの。

ア 国語教科書の字体とは異なる通用字体

草（草），向（間），门（門），來（来），國（国），海（海），黑（黒）

イ 点画の過不足（　）内が正

組（組），家（家），書（書），汽（汽），国（国），

ウ 点画の位置・長さ・方向の目立つもの。

玉（玉は可とする），風（風），波（波）

ただし，この基準に従うと，従来の学年末テストの採点法より相当厳格になるの

で，一応，文部省案に従って判定し，次に従来どおりの観点から，(2)のアの旧字体を用いたものは，準正答とする。(2)のイ，ウは文部省案どおり誤答（△）としておく。

テストB　正答は明確なので省略するが，記録の場合，見まちがいのないように注意のこと。

（記録のしかた）

A 問題用紙に次の要領に従って記録する。

① 文部省基準による正答　○印
② 前記の準正答　△印
③ 以上二つの基準に合わないもの（誤答）△印
④ 読めないものは　無印

〔よみ〕

（ ）のなかに よみかたを かなで かいて ください。

（ ）今 から　（ ）千　（ ）年　（ ）前。　（ ）道。　（ ）両 がわ。

（ ）東。　（ ）力　（ ）を　（ ）合 わせる。　（ ）田。　（ ）黒 い　（ ）土。

（ ）池。　（ ）何 ですか。　（ ）元　（ ）気。　（ ）歩 く。

（ ）海。　（ ）向 かって。　（ ）石。　（ ）秋。　（ ）会。

（ ）冬　（ ）の　（ ）夜。　（ ）毎　（ ）朝。　（ ）早 い。　（ ）北。

（ ）南　（ ）の　（ ）国。　（ ）谷　（ ）の　（ ）方。　（ ）竹　（ ）を　（ ）切　（ ）る　（ ）音。　（ ）牛。

（ ）西　（ ）の　（ ）空。　（ ）金　（ ）色。　（ ）光 っ て　（ ）見 え る。

（ ）馬。　（ ）走 る。　（ ）犬。　（ ）来 る。　（ ）長 い　（ ）糸。

（ ）春。　（ ）夏。　（ ）休 み。　（ ）字。　（ ）読 む。

（ ）友 だ ち。　（ ）名 ま え。

（ ）夕 が た。　（ ）戸。　（ ）町　（ ）や　（ ）村。　（ ）玉。

（ ）雲。　（ ）少 し。　（ ）出 た。　（ ）波。　（ ）高 い。

（ ）風。　（ ）百　（ ）時　（ ）間。　（ ）森。　（ ）林。　（ ）鳥。

( ) ( ) ( ) ( ) ( )
紙。 半 分にきる。 草。 虫。

( ) ( ) ( ) ( ) ( )
声。 心。 思った。 考えた。 お 話。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
書く。 作 文。 組。 汽 車。

( ) ( ) ( ) ( ) ( )
知らない所。 行ってみたい。 父。 母。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
家 の 外。 学 校。 門。 近く。

( ) ( ) ( ) ( ) ( )
米。 麦。 入れる。 用 が 多 い。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
天。 地。 雪。 雨。 男 と 女。

〔かき〕

□ のなかに かんじを かいて ください。

いま □ から せん ねん まえ □ □ □。 みち □ の りょう □ がわ。 ひがし □。

ちから □ を あ □ わせる。 た □ んぼの くろ □ い つち □。

いけ □ のなかに いるのは なん □ ですか。 げん □ き □ に ある □ く。

うみ □ へ む □ かって いし □ をなげた。 あき □ のうんどう かい □。

ふゆ □ の よる □。 まい □ あさ □。 はや □ い。 きた □。 みなみ □ の くに □。

たに □ の ほう □ から たけ □ を き □ る おと □ がした。 うし □。

にし □ の そら □ が きん □ いろ □ に ひか □ って み □ える。

うま □ が はし □ る。 いぬ □ が く □ る。 なが □ い いと □。

はる □。 なつ □ やす □ み。 じ □ がよく よ □ める。

とも □ だちの な □ まえ。

ゆう □ がた と □ をしめる。　□ まち や むら □。　□ たま てばこ。

□ くも が □ すこ し で □ た。　□ なみ が □ たか くなる。　□ かぜ。

□ ひやく □ じ □ かん □。　□ もり や □ はやし で □ とり がなく。

□ かみ を □ はん □ ぶん にきる。　□ くさ のなかで □ むし の □ こえ がする。

□ こころ に □ おも ったことや □ かんが えたことを，お □ はなし をする

ように □ か けば，よい　□ さく □ ぶん ができる。

わたくしたちの □ くみ。　□ き □ しゃ にのって □ し らない

□ ところ へ □ い ってみたい。　□ ちち と □ はは。　□ いえ の □ そと。

□ がっ □ こう の □ もん の □ ちか く。　□ こめ や □ むぎ を □ い れるもの。

いろいろ □ よう が □ おお い。　□ てん と □ ち。　□ ゆき や □ あめ。

□ おとこ と □ おんな。

2. 文字別にみた発達

次に，文字別に習得状況及び発達のあとを見る。(161～167ページの表参照)

この実験学校の1年末から2年末の漢字の読み書きの正答率一覧表によって，つぎのことがわかる。(一中，二下は提出教科書を示す。無印は未出文字)

(1) 時を重ねるごとに正答率が高くなり，一定の安定した習得段階に達する文字群がある。漢数字や基本的な漢字，例えば，水，木，大，子，山，生，白，赤，石，土，年など。これらは教科書にも比較的に頻出度が高く，又他

よみ（一）　　実験学校　文字別発達一覧表（1～2年）

(1)　　1 年 用 50 字(1)～(1)

	一中一	一中二	一中三	一中四	一中五	一中六	一中七	一中八	一中九	一中十	一下日	一中山	一下子	一中大	一中小	一下中
1年学年末	95.1	90.2	95.1	90.2	97.6	87.8	92.7	65.9	80.5	90.2	87.8	95.1	90.2	92.7	95.1	85.4
2年1学期末																
2年2学期末																
2年3学期末正答																
準正答																

(2.1)　　(2.2)

	一下木	一中上	一下下	一中目	二下口	二上川	一下月	二上水	一下手	二上足	一下生	二上本	一下人	一下白	二上火	一下耳
1年学年末	87.8	75.6	90.2	78.0	68.3	73.2	73.2	58.5	97.6	12.2	73.2	68.3	70.7	75.6	41.5	56.1
2年1学期末		95.5	97.7	90.9	79.5	100	81.8	100	95.5	70.5	97.7	90.7	92.5	90.9	77.3	75.0
2年2学期末															86.4	77.3
2年3学期末正答																
準正答																

(2.3)

	一下先	二上右	二下左	一下立	二上赤	二上青	一下正	二上花	四上字	三上国	二下色	一下石	二下冬	二上早	一下入	二上出
1年学年末	70.7	19.5	19.5	51.2	17.1	12.2	73.2	24.4	7.3	9.8	7.3	65.9	4.9	7.3	43.9	26.8
2年1学期末	100	72.8	43.2	90.9	50.0	45.5	90.9	95.5	4.6	22.7	9.1	77.3	6.8	15.9	93.2	88.7
2年2学期末	65.9	63.6	59.1	84.1	100	93.2	77.3	100	15.9	31.8	15.7	88.6	22.7	56.8	93.2	93.2
2年3学期末正答									37.8	46.7	82.2	93.3	95.7	86.7 88.9	77.8	84.4
準正答															86.7	95.6

(1) 2年1学期用 50字 (2・1)～(2・1)

	二上空	一中土	二上田	二上門	二上学	二上方	二上光	二上校	二上夕	二上雨	二上音	二下車	二上走	二上男	二上女	二上町
1年学年末	12.2	65.9														
2年1学期末	88.7	75.0	95.5	97.7	93.2	93.2	50.0	90.9	93.2	79.6	65.9	40.9	9.1	79.6	79.6	72.7
2年2学期末	88.6	84.1				86.4	93.2	68.2	68.2	100	86.4	88.6	81.8	95.5	95.5	95.5
3学期末																
2年正答	80.0	94.4	80.0	93.3	73.3	80.0	68.9	95.6	73.3	97.8	77.8	82.2	86.7	91.1	97.8	100
準正答		93.3	84.4		80.0		86.7		95.6				91.1			

(2.1) 2年2学期用 60字 (2・2)～(2・2)

	二上村	二下年	二下作	二下思	二上虫	二下海	二下天	二下気	二下草	二下声	名	二下書	二上時	二下家	二下外	二下道
1年学年末																
2年1学期末	81.8	50.0	0													
2年2学期末	65.9	81.8	29.6	86.4	97.7	25.0	63.6	84.1	13.6	88.6	6.8 6.8	84.1	72.7	95.5	86.4	43.2
3学期末																
2年正答	86.7	88.9	62.2	88.9	95.6	97.8	93.3	95.6	93.3	100	75.6	77.8	82.2	77.8	93.3	100
準正答			63.0	95.6								88.9		100		

よみ (二)

(2.2)

	二上多	二下用	二上来	二下林	二上何	二上分	一下見	二上高	二下心	二上行	友	会	二上力	一下犬	二上春	二下前
1年学年末																
2年1学期末																
2年2学期末	75.0	45.5	70.5	63.6	68.2	77.3	97.7	84.1	56.8	86.4	9.1	31.8	63.6			
3学期末																
2年正答	80.0	77.8	55.6	91.1	35.6	77.8	88.9	93.3	48.9	88.9	55.6	37.8	95.6	86.7	84.4	86.7
準正答	84.4		84・4		80.0	80.0	100		88.9							95.6

	二下東	二下元	二下夜	二下金	二下長	二下糸	二下休	二下少	二下間	二下話	二下汽	二下所	二下近	二下雪	二下半	今
1年学年末																
2年1学期末																
2年2学期末																
2年3学期末正答	75.6	93.3	15.2	93.3	86.7	97.8	93.3	95.6	80.0	93.3	88.9	55.6	13.3	97.8	77.8	28.9
準正答	88.9			95.6	88.9		95.6		84.4			68.9	26.7			

2年3学期用 110字 (2.3)～(2.3)

	千	両	合	黒	池	歩	向	秋	毎	朝	北	南	谷	竹	切	牛
1年学年末																
2年1学期末																
2年2学期末																
2年3学期末正答	68.9	22.2	48.9	37.8	6.7	22.2	13.3	37.8	6.7	8.9	24.4	31.1	35.6	17.8	15.6	35.6
準正答	71.1		51.1	40.0	8.9	26.7							40.0		17.8	40.0

	西	馬	夏	読	戸	玉	雲	波	風	百	森
1年学年末											
2年1学期末											
2年2学期末											
2年3学期末正答	35.6	28.9	35.6	17.8	11.1	24.4	11.1	2.2	53.3	73.3	80.8
準正答					13.3					77.8	

(2.3)

	鳥	紙	考	文	組	知	父	母	米	麦	地
1年 学年末											
2年 1学期末											
2年 2学期末											
2年 3学期末											
正答	24.4	26.7	6.7	68.9	40.0	24.4	71.1	75.6	33.3	2.2	8.9
準正答											

かき（一）

	一中一	一中二	一中三	一中四	一中五	一中六	一中七	一中八	一中九	一中十	一下日	一中山	一下子	一中大	一中小	一下中
1年 学年末	95.0	95.0	85.0	82.5	70.0	87.5	72.5	65.0	77.5	82.5	65.0	95.0	95.0	92.5	62.5	82.5
2年 1学期末																
2年 2学期末																
2年 3学期末																
正答																
準正答																

	一下木	一中上	一下下	一中目	二下口	二上川	一下月	二上水	一下手	二上足	一下生	二上本	一下人	一下白	二上火	一下耳
1年 学年末	85.0	62.5	80.0	77.5	62.5	57.5	45.0	37.5	77.5	5.0	35.0	60.0	57.5	55.0	25.0	32.5
2年 1学期末		79.5	90.9	84.1	61.4	100	63.7	95.5	86.4	18.2	56.9	79.5	70.5	68.2	29.6	15.9
2年 2学期末															34.1	27.3
2年 3学期末																
正答																
準正答																

	一下 先	二上 右	二下 左	一下 立	二上 赤	二上 青	一下 正	二上 花	字	国	二下 色	一下 石	二下 冬	二上 早	一下 入	二上 出
1年 学年末	20.0	12.5	15.0	27.5	0	2.5	37.5	2.5	2.5	2.5	0	45.0	0	0	22.5	100
2年 1学期末	43.2	43.2	25.0	38.6	11.4	4.6	45.5	47.7	4.6	2.3	0	63.7	0	0	36.4	52.3
2年 2学期末	38.6	70.5	47.7	63.6	56.8	45.5	50.0	88.6	4.5	4.5	0	63.6	4.5	13.6	36.4	59.1
2年 3学期末正答									8.7	21.7	0	78.3	95.7	47.8	41.3	84.8
準正答																

	二上 空	一中 土	二上 田	二上 門	二上 学	二上 方	二上 光	二上 校	二上 夕	二上 雨	二上 音	二下 車	二上 走	二上 男	二上 女	二上 町
1年 学年末	2.5	65.0														
2年 1学期末	52.3	61.4	77.3	93.2	77.3	40.9	4.6	63.7	68.2	22.7	25.0	2.3	0	9.1	4.6	43·2
2年 2学期末	50.0	77.3				68.2	75.0	36.4	68.2	79.5	45.5	84.1	40.9	75.0	90.9	70.5
2年 3学期末正答	67.4	87.0	89.1	84.8	87.0	73.9	37.0	74.0	84.8	76.1	52.2	82.6	56.5	91.3	97.8	100
準正答										95.7						

	二上 村	二下 年	二下 作	二下 思	二上 虫	二下 海	二下 天	二下 気	二下 草	二下 声	名	二下 書	二上 時	二下 家	二下 外	二下 道
1年 学年末																
2年 1学期末	43.2	11.4	0													
2年 2学期末	22.7	70.5	0	66.4	34.1	0	45.5	43.2	2.3	61.4	0	11.4	15.9	20.5	34.1	0
2年 3学期末正答	32.3	71.7	63.0	67.4	28.3	0	84.8	97.8	63.0	78.3	6.5	50.0	70.0	76.1	78.3	73.9
準正答						65.2										

かき（二）

	二上多	二下用	二上来	二下林	二上何	二上分	一下見	二上高	二下心	二上行	友	会	二上力	一下犬	二上春	二下前
1年学年末																
2年1学期末																
2年2学期末	20.5	9.1	6.8	75.0	18.2	45.5	52.3	59.1	27.3	47.7	0	0	47.7			
2年3学期末	21.7	39.0	23.9	89.1	32.6	21.7	80.4	73.9	50.0	71.7	4.3	6.5	84.8	50.0	45.7	50.0
正答準正答								76.1								

	二下東	二下元	二下夜	二下金	二下長	二下糸	二下休	二下少	二下間	二下話	二下汽	二下所	二下近	二下雪	二下半	今
1年学年末																
2年1学期末																
2年2学期末																
2年3学期末	78.3	89.1	15.2	54.3	60.9	93.5	54.3	45.7	56.5	70.0	82.6	54.3	10.9	80.4	6.5	4.3
正答準正答														87.0		

	千	両	合	黒	池	歩	向	秋	毎	朝	北	南	谷	竹	切	牛
1年学年末																
2年1学期末																
2年2学期末																
2年3学期末	39.0	0	0	0	0	4.3	0	6.5	0	4.3	13.0	2.2	21.7	4.3	0	6.5
正答準正答																

	西	馬	夏	読	戸	玉	雲	波	風	百	森
1年学年末											
2年1学期末											
2年2学期末											
2年3学期末正答	17.4	6.5	2.2	0	8.7	15.2	0	0	2.2	37.0	73.9
準正答											

	鳥	紙	考	文	細	知	父	母	米	麦	地
1年学年末											
2年1学期末											
2年2学期末											
2年3学期末正答	2·2	6.5	0	24.0	2.2	0	34.8	71.7	13.0	0	0
準正答											

のよみものや，日常の生活環境の中でも接近しやすい字である。字形・字画が平易な文字が多いが，時には必ずしもそうでなくても頻出度や文字環境から比較的早く安定して習得できるものもある。町，花など。

(2) 習得状況が不安定で，ゆれのある文字群。これらは学習して一応習得できても，その後，忘却したり，テストの時期や方法によって，いろいろとゆれのみられるもの。したがってその後に教科書に出たり，ドリルによって，反復学習され，だんだん確実になり，安定してくる。多くの文字習得の過程はこのような経過を経て，徐々に児童の身について行くものと思われる。先，立，入，空，学，方，光，校など。たとえば，「先」の字は1年の下（「あたらしいこくご」40ページ）で，「先生（せんせい）」の形で新出（こ

こで5回出ている）されている。したがって1年の学年末テストでは既習の文字であり，読み 70.7％，書き 20.0％の正答率を得た。そして2年の1学期末では，読み 100％，書き 43.2％まで上昇，一応身についたと見えたが，2年の2学期末になると，読み 65.9％。書き 38.6％と下降している。これは，2年の1学期末テストの事前に，単元「えにっき」中の「先生のはなし」で先生という文字を学習したばかりなので非常に高まったが（二の上では先が 17 回出ている），その後「先」の字にふれる機会が少なかったためか，（会話の中で出てくる程度）忘却しているものと見なされる。また，「学」と「校」とであるが，学は2年の1学期末に読み 93.2％，書き 77.3％を得，（校は読み90.9％，書き63.7％）よい成績であったので，2年1学期末のテスト文字から除外して「校」のみを「校門」という形で提出した。その結果，「校」読み 68.2％，書き 36.4％という悪い成績にずり落ちている。「学校」の「校」は二の下でかなり提出されており，学習されたはずであるのに，こうした結果を見たのは，児童に親しい「学校」という語形をとらず，「校門」という語形でテストしたためと思われる。事実2年3学期末に，再び「学校」という語でテストしたところ，「校」読み 95.6％，書き 74.0％と再び上昇している。

（この場合「学」の読みがよくなかったのは，正答の規準を厳格にしたのでかなづかいなどによる誤りがあり，準正答にすると，80.0％になる。）

児童は文字を一字ずつ体得する前に，自分たちの親しい語形や文脈の一要素として習得するわけで，それぞれの文字を一字ずつ音，訓，義にわたって体得できるのは，更に上の段階になるわけである。このことは，文字指導の方法に示唆を与えてくれると思われる。

これら2例によっても，比較的学年の低い段階におけるある時期のあるテストの結果が，そのまま，その児童や学級の文字力であると断定してしまえない，もっと継続した力でなければならず，さらにいえば，これが日常の使用力となって結びついた時に，はじめて正しい文字力であるといえるのである。

(3) 未学習の文字でありながら，日常生活の文字環境などから自然に少し

ずつ習得されている文字群。

たとえば，口，国，字，名，友，会など，いずれも3年，4年に新出字となる字で，（口は2年末）未学習文字のはずであるが，他の読みものや文字環境の中で自然に習得されたものと思われる。ことに「名」の読み75.6％（書き6.5％）は近ごろのテスト流行で（「名まえ」と書いてあるところに記入する習慣がついている）読みには非常に習熟しているが，書く場合はにさして必要性のない文字なのでこのような数字を示すのであろう。父，母，文，森などの読みも未学習文字にしては上位のものに属している。

3. 漢字の習得過程に見られる問題点

同一の被調査者を対象として継続的に低学年の漢字力の発達を見て来た上で，文字習得上，特に必要と思われる二，三の点について次にのべると，

(1) 漢字の習得と忘却

前に述べたように，一度覚えた文字でも忘れることがある。文字力として真に身につかない低学年の段階では特にこうした場合が多いと思われる。一例として，実験学校での文字テストで，耳の字は，

＼	入学当初	1学期末（7月）	2学期末（12月）	3学期末（3月）	2年1学期末（7月）	2年2学期末
よみ	0％	0％	2.9％	56.1％	75.0％	77.3％
かき	0	0	0	31.7	15.9	27.3

という結果を得た。耳の字は一の下で学習ずみである。耳というような不安定な形を，学習直後の1年3学期末には，13人，31.7％のものが書けたのに，2年の1学期末には7人，15.9％しか書けていない。前の13人と7人との間にどういう関係があるか調べてみたところ，

1年の時耳のかけたもので	2年にもかけたもの	2年になって新しくかけたもの
男 7人	男 0人	男 1人
女 6人	女 2人	女 4人

であった。このうち1年の男7人中，優秀児2人が転じ，2年になって新しく書けた男児は他校から転じたもの，女児4名中1名もそうであるから，非

常に不安定なものであることがわかる。さらに2年の2学期末のテストをしらべると，

	1年学年末に耳のかけたもの	2年1学期末に耳のかけたもの	2年2学期末に耳のかけたもの
男	A. B. C. D. E. F. G 7人	H. 1人	E. G. H. I. J. 5人
女	A. B. C. D. E. F 6人	B. C. G. H. I. J 6人	A. C. D. G. J. K. L 7人

というように，三回のテストを通じていつも書けているものは女児C一人ということになる。これは，耳の字は一の下（57ページ）で新出一回きり，その後二の上では一度も出ず，二の下（3学期ごろ）二回出るきりで，頻出度が低い。加えて字形がとりにくいためにこの結果となって現われたものと思われる。

なお，同じ東京のN校では，2年からT書本を使用しているが，次のような結果である。こうなると，さらに指導法の問題が加わってくる。

	1年4月	1年7月	1年12月	1年学年末	2年1学期末
よみ	0%	0%	3.3%	96.7%	98.1%
かき	0	0	1.7	90.0	83.3

（この学校では1年の時はG書を使用した。ここでは一の下（57ページ）に耳が出ている。両書とも，うさぎの耳という提出のし方で，目に連関させながら教えて同じ条件である。）

このように漢字の忘却度の中には，使用教科書との関係や，教師の指導法の問題もあるわけである。

(2) 文字の認知と想起・再生と使用

低学年の段階では，文字を認知できる能力と，それを正しく想起・再生できる能力との間に，どのくらいの差があるものか，その実態はどうかを見るために，2年の3学期末に上述の文部省試案の110字に対して，読み・書きのテストを行うと同時に，110字の中から（誤りの多かった先の字だけは新たに加えた）文部省初等教育課や国語課などで，すでにテストし，誤答の多い

もの，従来のわれわれのテストの結果誤りの多いもの，教室観察の結果などから，20字を読み・書き，それぞれの立場から選出し，これは選択肢法でテストしてみた。前者をAテスト，後者をBテストを名づける。

2年終了時テスト　Bテスト問題

〔よみ〕

つぎの　めいめいの　かんじに，よみかたが　四つずつ　かいて　あります。どの　よみかたが　ただしいでしょうか。ただしいものの　うえに　一つだけ　○をつけなさい。

（れんしゅう）

水。	かわ。　みず。　き。　ひ。

(1)	林。	き。　はやし。　むら。　もり。
(2)	名。	いし。　みぎ。　な。　なまえ。
(3)	多い。	おおきい。　おおい。　おもい。　たい。
(4)	会。	いま。　かい。　ふん。　しゃ。
(5)	天。	てん。　げん。　て。　おてん。
(6)	字。	がく。　じ。　こう。　いえ。
(7)	歩く。	いく。　はやく。　あるく。　はしこく。
(8)	先。	せん。　せい。　ひかり。　うまれる。
(9)	少し。	こし。　なかよし。　ちいさいし。　すこし。
(10)	分。	じ。　ふん。　あう。　いま。
(11)	雪。	くも。　ゆき。　かぜ。　あめ。
(12)	南。	みなみ。　よう。　きた。　ひがし。
(13)	休む。	やむ。　たのしむ。　のむ。　やすむ。
(14)	話。	はなし。　むかし。　よむ。　おはなし。
(15)	所。	ちかい。　ばしょ。　ところ。　と。
(16)	玉。	おう。　たから。　たま。　くに。
(17)	来る。	とる。　くる。　ふる。　はしる。
(18)	百。	しろい。　ひゃく。　め。　むく。
(19)	間。	かん。　もん。　きく。　じかん。
(20)	両。	あめ。　りょう。　よう。　りょ。

〔かき〕

つぎの □ の なかには，どんな かんじをかいたらよいでしょうか。したに かんじが 四つずつ かいてあります。ただしい かんじの うえに 一つだけ ○ を つけなさい。

（れんしゅう）

まるい □（つき）。 月。月。月。目。

(1) それは □（なん） ですか。 何。伺。同。何。

(2) 元（げん） □（き） にあるく。 氣。気。木。汽。

(3) □（はや） い。 早。早。申。車。

(4) 光（ひか）って □（み） える。 見。昆。見。目。

(5) 犬（いぬ） が □（く） る。 来。釆。行。来。

(6) 二 □（じ） かんめ 時。時。字。分。

(7) きれいに □（か） く。 書。書。書。書。

(8) しらない ところへ □（い） ってみたい。 行。行。入。彳丁。

(9) □（いえ） の そと。 家。家。家。家。

(10) ようが □（おお） い。 大。多。多。多。

(11) げんきに □（ある） く。 歩。走。歩。行。

(12) □（ちか） い ところ。 近。近。近。返。

(13) □（なが） い いと。 長。長。長。長。

(14) ながい □（いと）。 糸。糸。糸。糸。

(15) □（かぜ） が ふく。 風。風。風。雲。

(16) お □（はなし）。 話。語。話。読。

(17) □（ゆき） が ふる。 雪。雲。雨。雪。

(18) □（かみ） を くばる。 紙。紙。紙。紙。

(19) □（みなみ） の くに。 南。南。東。北。

(20) じ □（かん） を まもる。 間。問。間。問。

その結果は次の如くである。

（実験学校）

読字率（%）			書字率（%）		
	Aテスト	Bテスト		Aテスト	Bテスト
多	80.0	89.1	多	21.7	63.0
歩	22.2 (26.7)	39.1	歩	4.3	13.0
雪	97.8	97.8	雪	80.4	100
南	31.1	58.7	南	2.2	32.6
話	93.3	95.7	話	70.0	95.7
来	55.6 (84.4)	76.1	来	23.9	76.1
間	80.0	87.0	間	56.5	87.0
林	91.1	95.7	何	32.6	93.5
名	75.6	37.0	気	97.8	100
会	37.8	54.3	早	47.8	95.7
天	93.3	95.7	見	80.4	97.8
字	37.8	50.0	長	60.9	93.5
少	95.6	95.7	糸	93.5	89.1
分	77.8	93.5	風	2.2	39.1
休	93.3	95.7	時	70.0	100
所	55.6	95.7	紙	6.5	34.8
玉	24.4	26.1	書	50.0	73.9
百	73.3	78.3	行	71.7	97.8
両	22.2	39.1	家	76.1	82.6
先	—	82.6	近	10.9	58.7
平均	65.2 (12.4字)	74.2 (14.8字)	平均	48.0 (9.6字)	76.1 (15.3字)

（ ）内は準正答も入れた数字

読みの場合実験学校では，選択肢法で，いくつかの中から正しい読みかたをえり分ける力の方が，想起する力よりすぐれていることがわかったが，両者の差は書きにおけるよりも大きくない。また，「雪」の如く，学校で学習した直後の文字で，文字として児童に体得できたものは，認知力も想起力も同一で全く安定した状態に達しているということがわかった。AテストよりBテストの方がよい結果を示したが，ただ名(未習文字)だけはBテストの方が悪かったのは，Aテストでは名(まえ)として出し，Bテストでは名として出し

たために，誤答のなまえに多く反応したためである。未習文字であるからでもあろうが 児童は名という文字を まだ正しく習得してないことがわかる。（児童には平生，名まえという形で接する機会が多いのも一因である。）

書きの場合は読みの場合よりも認知と想起・再生力の差が大きく開いてくる。これは書く力が本来劣っているのに対し，このテスト方法では一種の読み（認知）になってくるから，当然の結果である。しかも，おもしろいことに，南，話，来，間などは読みの場合と全く同じ反応を示していることである。糸がAテスト93.5%，Bテスト 89.1 %と逆になっているのは，あわてて字形の点画の不足を見落したためであろう。読みの場合と違って未習の文字

（協力学校）

読字率（%）			書字率（%）		
	Aテスト	Bテスト		Aテスト	Bテスト
多	78.9	86.0	多	50.6	70.6
歩	47.2	72.2	歩	25.6	48.7
雪	94.7	74.8	雪	79.0	89.3
南	76.7	90.3	南	52.2	89.2
話	76.3	84.9	話	79.4	73.3
来	33.6	60.5	来	23.8	63.6
間	63.3	66.2	間	46.0	76.5
林	88.7	93.0	何	47.3	86.1
名	88.5	61.4	気	75.8	92.3
会	77.9	84.6	早	60.0	96.0
天	90.2	94.9	見	76.7	88.0
字	78.9	88.4	長	55.9	74.1
少	83.7	87.8	糸	70.9	69.3
分	49.9	73.0	風	47.8	62.0
休	89.2	92.2	時	52.4	81.6
所	50.8	65.1	紙	40.0	67.4
玉	59.0	61.1	書	44.1	76.5
百	76.7	84.3	行	46.4	81.8
両	41.2	76.2	家	62.1	76.2
先		91.9	近	34.4	78.9
平均	70.8 (13.5字)	79.4 (159.字)	平均	52.0 (10.4字)	77.1 (15.4字)

に対する両者の開きが書く方に多いという現象がある。

協力学校でも実験学校とほぼ同様の現象がみられる。

実験学校におけるBテストの反応を分析してみると次のようになる。

書字力　　Bテスト反応分析表　　(実験学校)

調査者＼文字	(1) なんですか				(2) げんき				(3) はやい				(4) みえる				(5) くる				(6) 二じかんめ			
	何	伺	同	何°	氣	気°	木	汽	早°	里	申	車	見	息	見°	目	未	釆	行	来°	時°	時	字	分
男 18人		1		17	18				17	1					18			3	1	13	18			
女 28人	2			26	28				27	1			1		27		1	2	2	22	28			
計 46人				43	46				44						45					35	46			

来1。N.1

(欄外は、無答(N)または他の反応とその人数を示す。)

調査者＼文字	(7) かく				(8) いってみたい				(9) いえ				(10) おおい				(11) あるく			
	書	書	書	書°	仟	行	入	行	家	家	家	家°	大	多	多	多	赤	走	歩	行
男 18人	5			13		18			3		1	14	5		14		2	6	6	
女 28人	7			21		27		1	4			24	7	2	17	1	8	6		1
計 46人				34		45						38			31				6	

N.1　　N.14

調査者＼文字	(12) ちかい				(13) ながい				(14) いと				(15) かぜ				(16) おはなし				(17) ゆき			
	近	近°	近	返	長	長	長	長	糸	糸	糸	糸	風	風°	風	雲	話	語	話°	読	雷	雪	雨	雪°
男 18人	2	9	1	4	1		16	1	3				15	4	9	3	1			17				18
女 28人	2	18		4		1	27		2				26	5	9	8				26	1			28
計 46人		27					43						41		18					43				46

N.6　　N.7　　N.2

調査者＼文字	(18) かみ				(19) みなみ				(20) じかん			
	紙	紙	紙	紙°	南	南°	南	北	間	間	間°	間
男 18人	4	2	1	9			2	1	2		15	1
女 28人	4		8	7	1	15	2	1	3		25	
計 46人				16		15					40	

N.11　　N.12

° 印は正答を示す。

平均 15.3字

(男15.2 女15.3)

S.D 1.97

読字力

調査者＼文字	(1) 林 き	°はやし	むら	もり	(2) 名 いし	みぎ	°な	°なまえ	(3) 多い °おおきい	°おおい	おもい	たい	(4) 会 いま	°かい	ふん	しゃ	(5) 天 °てん	°げん	て	°おてん	(6) 字 が く	°じ	こう	い え
男 18人		17		1			8	8	1	16		1	1	13	2	1	17	1			6	11	1	0
女 28人		27		1	2		9	14	1	25		2	5	12	1		27			1	9	12	3	0
計 46人		44					17			41				25			44					23		
				N.15											N.11								N.4	

調査者＼文字	(7) 歩く いく	はやく	°あるく	はしこく	(8) 先 °せん	せい	ひかり	うまれる	(9) 少し こし	なかよし	ちいさいし	°すこし	(10) 分 じ	°ふん	あう	いま	(11) 雪 くも	°ゆき	かぜ	あめ
男 18人	1	1	10	2	17	1			1			17		18				13		
女 28人	5	2	8	2	21	3		2	1			27	2	26				27		
計 46人			18		38							44		44				45		
				N.15	せ	ん	せ	い	2										N.1	

調査者＼文字	(12) 南 °みなみ	よう	きた	ひがし	(13) 休む やむ	たのしむ	のむ	°やすむ	(14) 話 °はなし	むかし	よむ	おはなし	(15) 所 ちかい	ばしょ	°ところ	と	(16) 玉 おう	たから	°たま	くに	(17) 来る とる	°くる	ふる	はしる
男 18人	13	2	1	1	1			17	18						18		10		5	3	5	13		
女 28人	14	3	1	1				27	26			2			26		17	1	7	1	3	22		1
計 46人	27							44	44						44				12			35		
			N.10				N.1							N.2				N.1			N.1			

調査者＼文字	(18) 百 しろい	°ひゃく	め	むく	(19) 間 °かん	もん	きく	じかん	(20) 両 あめ	°りょう	よう	りょ	平均 14.8字 (男15.8 女14.2)	S.D 2.93
男 18人	3	15			14	2		2	1	9	3	2		
女 28人	5	21		1	26	1		1	2	8	4	1		
計 46人		36			40					17				
			N.1							N.16				

これによってみると，既習の文字はかなり高率な成績を示しており，ことに書字においてそれが著しく現われていることがわかる。正否の判断はかなりついているわけであるが，ただそれを適正に想起・再生しにくいところに，

この段階での文字力の問題点があることがわかる。なお，未習の文字になると，教科書外の読みもの，かつての文字経験などにてらして，解答しようと試みているわけで，未習字「玉」を「王」と読んだもの 27 名などは，字形の近似によることで，おとぎ話・童話類が大いに影響しているように思われる。

なお，同一人がAテストとBテストに対して，どのように反応しているかを見たのが，**巻末別表1**，である。これによると，読みの場合上位者の中にはかえってAテストの結果の方が正答の数が多いという現象がみられる。これはAテストでは頭の中で，自分の記憶力や判断力を動員して正しい読みを直観的にえらび出す方が，まぎらわしいいくつかの形を提示されるよりも混乱をきたさないためであろうか。完全に把握していない段階では優秀児にもおこりやすい現象である。なお，誤答数がBテストでふえているのは，前の現象に加えて，Aテストで無答なものにいろいろと反応しているからである。これに反し，書きの方は，できているがあわてて誤答をえらんだという二，三の例外を除いては，ほとんどBテストの方がよい結果を出している。これは再生的に書くということのはたらきからくる，当然の結果である。認知できても，正しく再生する力がないことが，これでも判明するであろう。そうしてさらに，現実のノートや作文でこれを正しく使用する段階は，より高次の段階であり，能力であることが，作文の成果やノート点検，教室観察などによって実証されているわけである。

4. 漢字を読むことと書くこととの関係

(1) 読める字と書ける字の割合

実験学校・協力学校では，1年終了時，2年終了時の漢字の読み書きテストにそれぞれ次のような結果を得た。ふつう，書ける字の読める字に対する

		1年3学期末			2年3学期末		
		正答平均字数	正答率%	書字対読字率	正答平均字数	正答率%	書字対読字率
実験学校	よみ	30.71	61.4	% 79.2	69.9	63.5	% 66.1
	かき	24.28	48.6		46.2	42.0	

		1年3学期末			2年3学期末		
		正答平均字数	正答率%	書字対読字率	正答平均字数	正答率%	書字対読字率
協力学校	よみ	36.5	72.9	% 91.2	83.4	75.8	% 70.8
	かき	33.3	66.5		59.1	53.7	

割合は6割から8割といわれているが，われわれの調査でも1年の時は8～9割近くの率で読める字と書ける字の度合はかなり接近している，しかし2年になると，6～7割となってその差がだんだん大きくなってくる。

かな文字（ひらがな・かたかな）の場合では，（とくにひらがな）はじめに読みと書きの差が大きく，だんだんその差が少なくなって一致するのに対し，漢字では，それと逆な現象を呈している。これは，ひらがなやかたかなが71字という一定の限られた文字数を有し，早期に教えられ反復練習することが多いのに対し，漢字では，提出し教えられる漢字の文字が年次ごとに増加し，それをかな文字のように反復練習する機会も少ないからである。したがって読む力は，国語学習以外に他教科の学習や家庭での読書等で読む文字の範囲が拡大されるが，実地使用の機会の少ない書く力はそれに追いつけない結果であろうと思われる。この現象は中学年になるといっそう顕著になるもので，低学年の段階でもすでに現われているのである。

(2) 読字力・書字力と学習効果の関係

実験学校では，漢字の読み・書きの標準偏差が右表の如くで，両回のテストとも書字力の方が偏差値が少ない。このことはいろいろに解釈されるが書字力が読字力よりも学校の学習の効果のみられることをも示していると思われる。

	1年末	2年末
よみ	9.32	17.51
かき	8.57	16.64

B 個　　人　　差

文字習得の発達の状況を実験学校について個人別に見ると，入学当初から9月までの習得状況は，ほぼ家人から教えてもらった，読みもの，看板，町名などから自然におぼえた，又は自分の姓名に関係があっておぼえたなど，学校の学習によらないで，自然に習得したものであった。（このうちプリマ提出の漢数字がごく少し入っている）そして，すでに，読み27～0字，書き25字～0字という差が見られる。その後漢字の学習が徐々にすすめられたわけであるから，以後は大体学校の学習の結果得られたものになる。

個人別漢字読字数の発達

男子	知能指数	読字数 1年 4月	5月	6月	7月	9月	12月	3月	2年 7月	12月	3月	1年9月までの習得数	1年終りまでの習得数	2年終りまでの習得数
1	101	0	3	3	5	4	23	32	38	47	70	4	28	42
2	142	10	10	13	19	20	29	44	42	50	86	10	24	62
3	100	0	0	0	0		14	14	17	25	57			
4	94	0	0	3	3	3		19	19	22	47	3	16	31
5	115	1	4	4	4	6	22	32	36	44	83	5	26	57
6	142	14	19	21	23	27	32	35	43	53	84	13	8	76
7	133	3	7	9	9	11	27	34	38	49	72	8	23	49
8														
9	84	0	1		6	7		24	37	52	82	7	17	65
10	115	7	7	12	19	19	30	38	42	54	79	12	19	60
11	138	2	3	4	11	9	23	30	36	43	59	7	21	38
12	88	0	0	2	3	5	22	27	41	43	58	5	22	36
13	91	0	2	0	0	6		29	35	46	68	6	23	45
14	108	0		1		1	11	14	15	23	44	1	13	31
15	84	0	0	1	1	4	18	29	42	52	87	4	25	62
16	144	22	21	23	20	25	31	43	47	59	106	3	18	88
17									48	59	103			
18										45	73			
19										18	45			
											(平均習得字数)	6.3	20.2	53.0

（注）1年4月に最高23字読んだ男児は1年1学期末で転校しているので，この表には記入してない。

個人別漢字書字数の発達

男子	書字数 1年 4月	5月	6月	7月	9月	12月	3月	2年 7月	12月	3月	1年9月までの習得数	1年終りまでの習得数	2年終りまでの習得数
1	0	0	0	0	4	20	20	20	28	43	4	16	27
2	6	10	12	12	13	27	35	33	31	55	7	22	33
3	0	0	0	0		13	8	8	12	15			
4	0	0	0	0	1	12	17	9	9	22	1	16	6
5	0	0	0	2	5	16	16	17	18	35	5	11	24
6	15	15	24	17	24	30	34	27	30	51	9	10	41
7	3	4	8	7	8	19	29	21	25	48	5	21	27
8													
9	0	0	2	5	2		20	16	21	40	2	18	22
10	4	1	11	15	17	25	38	32	42	60	13	11	49
11	3	3	5	11	6	23	30	16	29	38	3	24	14
12	1	0	1	0	1	18	23	22	21	43	0	22	21
13	0	2	2		7	15	23	22	19	47	7	16	31
14	0		1	1	3	7	8	10	10	32	3	5	27
15	0	0	1	1	5	25	23	22	30	59	5	18	41
16	15	8	12	12	15	29	32	36	49	91	0	17	74
17								37	46	98			
18									31	51			
19									9	28			
										(平均習得字数)	4.6	16.2	31.2

個人別漢字読字数・書字数の発達表によると，1年の終りには，読み最高32字から最低8字（平均20.6字），書き 36字～6字（平均16.3字）という習得差がある。(もっとも，低い習得数の者の中にも4月当初からかなりの漢字力を持っていたために，こちらで行った漢字テスト問題数の限界内((50字))での習得数という意味のものもある。) 2年の終りには，その習得差はさらに開いて，読み 88字～26字(平均49.2字)，書き 74字～11字(平均29.2字)という数になっている。このような漢字習得の差によって，2年の末には，さらに読み 106字～35字，書き 91字～15字というような大きな差が生じてくる。実験学校で使用している教科書は，「あたらしいこくご」で，1年の提出

個人別漢字読字数の発達

女子	知能指数	読字数 1年 4月	5月	6月	7月	9月	12月	3月	2年 7月	12月	3月	1年9月までの習得数	1年終りの習得数	2年終りの習得数
1	114	11	12	13	13	15			35	40	52	4		
2		14	20	21	23	19	29	42	45	60	100	5	23	77
3	94	8	9	9	11	12		29	34	37	60	4	17	43
4	109	11	13	12	16	18	14	37	38	43	64	7	19	45
5	111	3	5	5	8	5	23	34	39	40	73	2	29	44
6	94	5	5	5	6	7		31	33	42	68	2	24	44
7	92	7	14	15		24	22	43	42		85	17	19	66
8	115	1	3	1	3	6	32	29	30	26	56	5	23	33
9	118	3	7	8	9	11	27	33	42	44	78	8	22	56
10	95	0	0	0	2	3		27	33	37	50	3	24	26
11	114	9	7	12	13	17		42	41	55	96	8	25	71
12	91	18	20	20	21	21	31	37	40	46	73	3	16	57
13	104	1		4	6	8	31	35	35	52	88	7	27	61
14	130	1	1	0	4	1	22	33	40	46	67	0	32	35
15	78	0	0	0	0	0	23	8	22	20	35	0	8	27
16	88	1	0	2	3	5		36	33	41	79	4	31	48
17	57	0	0	0	3	6		18	28	26	45	6	12	33
18	71	0	0	0	1	1		24	35	39	57	1	23	34
19	117	0	1	1	2	5	11	20	27	26	53	5	15	38
20	111	0	2	3	4	10		25	35	40		10	15	
21									43	54	89			
22	113	4	5	5	7	10	18	28	37	42	71	6	18	53
23	86	5	4	4	5	13		28	30	42	71	8	15	56
24	65	0	0	0	0	0	29	22	30	37	56	0	22	34
25									49	59	96			
26									46	54	92			
27									28	21	43			
28											47			
								(平均習得字数)				5.0	20.9	46.7

漢字数（新出）は，中16字，下18字計34字，2年の提出字数は上37字，下53字計90字（このうち8字はテスト実施までに未習なので，実際は82

個人別漢字書字数の発達

女子	書字数 1年 4月	5月	6月	7月	9月	12月	3月	2年 7月	12月	3月	1年9月までの習得数	1年終りの習得数	2年終りの習得数
1	8	10	8	8	14			26	32	50	6		
2	9	3	16	13	14	27	31	24	32	62	5	17	45
3	5	4	0	7	13		23	16	20	47	8	10	37
4	7	3	14	9	16	13	32	30	33	55	9	16	39
5	3	0	0	4	5	20	27	20	20	46	2	22	24
6	1	3	4	3	6	12	25	8	18	44	5	19	25
7	0	12	14	17	25	16		28		60	25		
8	1	0	0	2	3	30	21	14	15	29	2	18	11
9	3	4	4	5	12	19	24	31	27	59	9	36	23
10	0	0	0	0	7		16	21	27	43	7	9	34
11	2	6	10	9	16		37	38	39	68	14	21	47
12	11	1	15	15	16	29	28	23	24	41	5	12	29
13	0		0	4	7	29	33	29	39	64	7	26	38
14	0	0	0	0	1	18	29	23	22	43	1	28	15
15	0	0	0	0	0	23	6	17	8	22	0	6	16
16	0	0	1	0	3		28	14	15	49	3	25	24
17	0	0	0	0	4		11	10	6	21	4	7	14
18	0	0	2	1	2	15	20	17	19	57	2	18	39
19	0	1	0	2	5	7	15	12	10	38	5	10	28
20	0	0	3	3	9		15	10	15	30	9	6	24
21								19	30	61			
22	0	0	4	6	9	25	25	17	22	51	9	16	35
23	0	0	0	2	5		16	21	21	52	5	11	41
24	0	0	0	0	5	26	17	21	22	38	5	12	26
25								36	34	60			
26								31	42	66			
27								12	5	20			
28										22			
										（平均習得字数）	6.4	16.4	29.2

字）である。同一の教科書で学習しながら上位者と下位者の間に，このような大きな差があるわけである。

なお，量的な面からばかりでなく，漢字に反応する型としていろいろある。(1)学校で習った文字だけはきちんと覚え，作文その他を書く場合にも必ず使用するもの。(2)学校で学習するよりも多くの文字を知っているが，使い方は乱用するもの。(3)学校で習った字などテストの時はかなりできるが，平生は積極的に使用しないもの。(4)平生もテストでもあまりふるわないものがある。また，読み書きの差の小さいもの，大きいもの，ふつうのものという区別もできる。これらの型を知ることは指導の上で必要な条件となる。

C 地　域　差

実験学校・協力学校を大都市，中小都市，農山村に分けて，地域差を調べてみる。

（よみ）　漢字平均読字数

地域	学校名	入学当初	3学期末	2年1学期末	2学期末	3月期末
大都市	Y	4.5	30.7	35.8	42.1	69.9
	N	6.2	38.1	40.6	51.6	84.5
中小都市	C	—	34.6	38.0	49.2	83.3
	O	4.5	32.8	38.7	42.5	—
農山村	H	4.9	32.4	32.7	44.3	79.3
	S	4.2	37.7	37.4	47.2	81.4
	K	—	42.1	44.4	48.1	83.3

（かき）　漢字平均書字数

地域	学校名	入学当初	3学期末	2年1学期末	2学期末	3学期末
大都市	Y	2.6	24.0	21.2	24.0	46.2
	N	3.3	32.3	33.9	39.0	59.5
中小都市	C	—	35.4	36.1	43.2	56.7
	O	1.8	26.9	28.2	37.7	—
農山村	H	2.9	30.4	23.3	33.5	49.2
	S	2.3	31.9	33.6	44.2	65.4
	K	—	37.9	39.5	39.4	54.9

実験・協力学校の文字力の発達を見ると，読み書きともに大都市の実験学校が一番悪い。これは，実験学校では，常に先立ってテストを実施し，その後に各協力学校にテスト問題を配布する仕組みになっているのと，テストを全部われわれ研究所の者で実施して，その条件が厳密であることが，その原

実験・協力学校29年度2年生第1学期末テスト
学校別平均得点数・正答率一覧表

〔注（ ）内は得点数，無カッコは正答率〕

テストされた能力＼学校名		Y	N	H	S	K	T	G	M	F	C	D	平均
漢字読字力	50	(35.2) 70.4	(40.6) 81.2	(32.6) 63.1	(37.4) 74.8	(38.7) 77.4	(44.3) 88.6		(31.7) 63.3	(48.0) 96.1	(38.0) 75.9	(48.3) 96.5	(40.7) 81.4
漢字書字力	50	(21.2) 42.4	(33.9) 67.9	(23.3) 26.6	(33.6) 67.2	(28.2) 56.4	(39.5) 79.1		(22.1) 44.2	(40.0) 80.1	(36.1) 72.1	(46.9) 83.8	(34.4) 68.8
文法能力	10	(4.2) 42.3	(5.1) 50.7	(3.5) 34.8	(1.5) 15.1	(3.9) 58.5	(3.9) 39.4		(3.6) 35.5	(4.0) 39.6		(5.9) 59.1	(4.4) 43.9
語い力 ㈠定義	10	(5.6) 55.5	(5.9) 58·9	(5.6) 55.6	(4.5) 44.8	(5.6) 55.9	(4.9) 49.3	(5.1) 50.6	(5.6) 56.2	(5.1) 50 9		(7.5) 74.7	(5.7) 56.5
語い力 ㈡関係	10	(6.8) 67.5	(6.5) 64.7	(5.5) 54.7	(4.9) (48.8	(6.1) 60.7	(5.4) 54.3	(5.7) 56.6	(6.5) 64.6	(4.6) 46.0		(8.4) 84.2	(6.0) 60.2
語い力 ㈢使用	10	(5.5) 54.5	(5.3) 53.1	(3.6) 35.7	(4.0) 39.8	(4.7) 46.5	(3.7) 37.2	(4.5) 44.6	(4.4) 44.3	(5.2) 52.2		(7.7) 77.3	(4.8) 47.9
語い力 ㈠㈡㈢計	30	(17.8) 59.2	(17.7) 58.9	(14.6) 49.0	(13.3) 44.5	(16.3) 54.4	(14.1) 46.9	(15.2) 50.6	(16.5) 55.0	(14.9) 49.7		(23.6) 78.7	(15.9) 54.9
黙読理解 ㈠生活文	2	35.2	52.7	40.9	23.0	47.5	44.1		37.5	39.1		72.2	44.5
黙読理解 ㈡生活文	1	38.6	40.0	48.5	44.0	50.0	53.1		37·5	58.7		73.0	50.6
黙読理解 ㈢昔話	1	52.3	32.7	51.5	36.0	47.5	47.6		58.3	45.7		92.1	51.7
黙読理解 ㈣生活文	1	70.5	58.2	60.6	68.0	35.0	55.9		72.9	63.0		96.8	64.4
黙読理解 ㈤童話	5	(3.2) 64.6	(2.6) 51.0	(2.4) 47.8	(3.2) 63.2	(1.8) 35.6	(2.7) 54.0		(2.5) 50.4	(3.9) 77.4		(4.1) 82.0	(2.9) 58.8
黙読理解 ㈠～㈤計	10	(5.6) 55.5	(4.9) 49.1	(4.8) 28.2	(5.1) 51.0	(4.5) 45.0	(5.2) 51.5		(4.7) 47.3	(6.3) 63.3		(9.7) 97.2	(5.6) 55.8
音読技能	15	(10.7) 71.3		(10.7) 71.5		(11.6) 77.0			(9.1) 60.9				(10.8) 72.0
全体の正答率		56.9	61.6	48.8	50.5	58.1	61.0	50.6	51.0	65.8	74.0	83.0	62.8

因となっていると思われる。

しかし２年１学期末実施の言語能力の諸テストの結果を学校別に分類したものを見ると（184 ページ），

漢字力では農山村に劣るが，語い力，文法能力，黙読理解力などでは，都市性を発揮してすぐれている。２年生の１学期末漢字力テストの結果を文字別に，習得率によって分類してみると下表のようになる。これによると，文字習得の上に一つの型があり，それは地域別というより，むしろ，使用教科書や学習指導法によるとみることができる。小学校の低学年の漢字の学習は，学校の教科書によることが一番多いのであって，漢字を早く多く提出した教科書を使用したところが，一応習得数が多くなるのは当然である。

したがって，低学年では，漢字習得に関しては，使用教科書からの検討ということが必要になってくる。

学校別（地域別）読字力の順位（２年生第１学期）　昭和29年７月

正答率	大都市		農山村
	Y 校 (44人) (T書)	N 校 (54人) (1年G書 2年T書)	S 校 (51人) (G書)
100%	水 先 川	水 手 川	水 雨
90～99	下 生 門 手 上 田 花 人 入 学 方 夕 本 目 白 校 正 立	上 田 先 口 下 生 門 耳 目 月 立 右 入 火 土 村 雨 音 空 足 出 校 青 学 町 花 白 石	上 口 下 門 耳 田 男 字 花 空 足 目 本 入 手 女 校 光
80～89	空 出 月 村	女 本 正 年 方	青 先 生 出 作 白 人 音 火 石 学 土 立
70～79	口 女 男 雨 石 火 土 耳 町 右 足	男 赤 光 左 人 夕	川 年 色 左
60～69	音		正 赤
50～59	赤 光 年	字	夕 月 左
40～49	青 左 車	国	右
30～39		早	
20～29	国	車 冬 走	早 国 車
10～19	早	色	村
1 ～ 9	走 色 冬 字	作	冬 走 町
0	作		

正答率	中小都市 O校 (40人) (G書)	農山村 H校 (32人) (C書)	中小都市 M校 (48人) (N書)
100%	川		女
90～99	口 水 下 入 男 手 田 先 生 花 門 足 目 女 上 火 月 出 人 雨 台	川 青 本 花 町 人 赤 手 上 先 口 生	水 先 下 本 生 門 川 町 男 手 田 花 足 雨
80～89	土 青 字 本 立 光 年 石 校 学 耳	水 火 白 出 田 月 方 雨	人 字 月 上 火 空 口 入 石
70～79	空 町 正 音	空 立 村 車 目 校 字 石 右 正 左 学	村 出 校 年 左
60～69	作 赤	足 年	右 作 土 学
50～59	方 夕 色 村	門 入	正 白 目
40～49	右 冬 早 左	下 土	光 耳
30～39	国	女 光	
20～29	車	男 国 夕 色	赤 青 国
10～19	走	早 冬	
1 ～ 9		字 耳 走	早 冬 立 音 方 色 車 走
0		作	夕

正答率	中小都市 F校 (46人) (M書)	中小都市 D校 (64人) (M書)	農山村 K校 (138人) (M書)	中小都市 C校 (51人) (T書)
100%	水 手 上 田 川 下 花 足 目 月 白 出 石 校 立 青 赤 字	水 手 田 先 川 下 生 花 門 足 目 土 耳 村		
90～99	口 本 空 火 女 土 学 町 耳 村 音 正 方 色 門 人 男 走 年 夕 早 冬 車 入 右	上 口 本 空 火 月 立 青 雨 赤 音 年 早 白 女 車 町 男 字 国 方 学 夕 入 作	口 花 青 赤 目 手 下 立 水 生 足 本 上 土 空 火 月 白 町 先 男 女 田 村 耳 冬 門 石 音	上 月 町 水 先 本 雨 手 川 口 立 下 人 白 村 音 空 目
80～89	先 生 光 左 雨	冬	川 走 字 早 国 出 学 右 校 車 人 正	門 足 出 土 青 耳 石 赤 生 火 右 左 女 方
70～79		正	左 夕 方	枝 人 男 学 光 花 正
60～69	作	人	年	夕
50～59				年
40～49				字
30～39			雨	国
20～29			作	早 色 走
10～19				冬 作
1 ～ 9				車
0				

学校別　（地域別）書字力の順位（2年生第1学期）　昭和29年7月

正答率	大都市		農山村	中小都市
	Y 校 (44人)	N 校 (54人)	S 校 (51人)	O 校 (45人)
100%	川	川口		
90～99	水門下	上本水下門右目手学生出足左田	川水口目門女上田生出男下手学月	川水口上
80～89	手目	月白土校町方花人夕耳雨空	本人雨校正足字	門下目花男女人本
70～79	上本田学人	先光村入	入先立空夕青花土光	田手生学先
60～69	白夕月石校口土	立年石火正音	作白音火年方色	雨月出白土校字青正空
50～59	生出空	青	石	入音足石年光
40～49	花正右町先村方		右左耳	火町耳立
30～39	立入			夕方作
20～29	火雨左音			右左色
10～19	足耳赤年	女赤男早		光
1 ～ 9	男女青光字国車	字国冬走作音	国早村赤	冬早国走
0	色冬早走作	色車	冬車走町	赤車

正答率	農山村	中小都市	
	H 校 (32人)	M 校 (47人)	F 校 (46人)
100%		川	
90～99	川	口	川口上目門下水田手足本月青字
80～89	口本上下白水町青	水本門人上下	土空火冬人花石左右村音町入方赤学出正光
70～79	人生立車目学石	男女生先月	白女立男耳生
60～69	出手火田左字	学目足	夕年色車早
50～59	年右校正方月村	田花町石校入手出火光	国走
40～49	先	村字雨左右年	先
30～39	花土空	作	作校雨
20～29	赤	空	
10～19	足門入	土白	
1 ～ 9	男光夕女雨国早	立赤青色正方国	
0	音耳色冬走作	夕音耳冬早車走	

正答率	中小都市 D校 (64人)	農山村 K校 (138人)	中小都市 C校 (49人)
100%	川 水 口 上 下 目 空	川	川 人
90～99	田 足 土 女 火 本 門 青 学 村	水 口 上 本 下 目 門	口 門 生 上 学 町 水 下
	人 手 花 石 入 出 光	女 田 男 字	目 花 白 校 本 立
	耳 冬 生 男 方		
	月 白 色 学 校 早 青 走		
	立		
80～89	町 年 雨 正 赤 国 車	人 空 手 青 足 花 夕	足 夕 村 雨 土 空 火 方 音
		光 土 左 赤 月 冬 石	石 入 正 手 出 先 田 月
		村 町 学 校 色 正	右
70～79	作 先	右 白 方 生 出 入 早	
		音 国	
60～69		年 走 車 火	青 男 左 耳
50～59		先 耳 立	年 赤
40～49			女 光
30～39		作	
20～29		雨	字
10～19			国色早
1 ～ 9			車走
0			冬作

学校別（地域別）読字力の順位 （2年学年末）

正答率	大都市 Y校	大都市 N校	中都市 C校
100%	町 道 声	町	年 力 田 気 海 石 村 家 天
			雪 女
90～99	石 力 高 虫 校 門 雨 男	土 石 見 力 田 方 音 空	千 前 道 東 合 土 元 冬 早
	女 元 気 冬 金 糸 休 少	春 村 虫 学 校 門 雨 女	音 西 空 金 色 見 走 長 糸
	林 話 外 天 雪 海 草	道 元 気 冬 糸 休 少 声	春 休 友 町 少 高 時 間 草
		家 外 雪 海 草 西	虫 声 話 外 学 校 門 雨 男
80～89	土 犬 見 田 早 方 空 走	犬 入 何 早 光 走 夕 出 高	今 何 方 光 犬 名 夕 出 風
	春 村 出 時 行 多 色 森	行 多 男 年 前 書 汽 夜 金	百 森 林 半 分 思 車 行 父
	長 間 思 汽 車	長 組 林 話 黒 北 馬 車 用	母 入 用 多
		天 色 半 鳥 夏 名	
		風 百 母	
70～79	入 音 夕 分 学 東 夜 書	時 分 間 心 思 所 千 秋	秋 夜 国 来 書 文 汽
	家 用 半 名 百 父 母	朝 南 国 友 森 父	
60～69	光 作 千 文	来 作 今 字	会 玉 心 作 組 所
50～59	来 所 友 風	合 会 牛 戸 玉 雲 文 麦	両 黒 朝 北 谷 馬 夏 字 雲
			鳥 米
40～49	心 合 国 組	近 読 知 米	竹 切 牛 知 近
30～39	黒 秋 会 南 谷 牛 西 夏	谷 竹	歩 向 毎 南 読 戸 麦
	字 米		

正答率	大都市		中都市
	Y 校	N 校	C 校
20～29	今両歩北馬玉紙鳥知	両毎	池紙考
10～19	近向竹切読戸雲	歩切波紙地	地波
1 ～ 9	池毎朝波考麦地	池考	
0		向	

正答率	農山村		中小都市
	S 校	H 校	M 校
100%	見糸色池父母		石見田早村町高雨冬書作家外雪牛名玉文
90～99	土石田何早空光走雨 春町村高虫学校夜金南 男麦米女海草冬秋北知 長声天夏字名風	石田空夕町村高虫 行雨女道朝夜北南牛西 半草黒森紙文 名風	犬入力空光走春夕出 時行学校門多女声前海 元気糸休森間朝会北南 色草今合黒読戸思風紙 竹西馬夏字
80～89	犬入力方音出門年 前東気会思家外雪文 今歩谷竹切牛	土犬入見早音出時 分学校門男声思前東 元気金休海今池話会国 汽家雪鳥組 馬字友	土何方虫男東夜金長百 林心千両毎谷友百 鳥父母
70～79	夕多休作毎友戸玉百	方走林所天色両向 読雲百	音少話用池秋祖知米地
60～69	用向	光合秋母	向
50～59	林心近黒読森組	力春糸間知父地	道切
40～49	行話汽合朝	冬心用千歩竹切	雲
30～39	車馬雲	何多外谷	汽車波
20～29		戸玉米	来分歩
10～19	時分元書半鳥考	少毎麦	所半考
1 ～ 9	来間所千両紙地	来近考	近麦
0	波	夏波	

正答率	中小都市	農山村
	D 校	K 校
100%	田音空高村女声朝南名組鳥	高村空方女道少谷国雪色風考来
90～99	土石犬見力早方光走春夕町出 虫学校雨多男牛前糸道夜冬夜思 長友雲風紙知金雪林気心池歩文 話書作外近用天字海元少休草組 秋会北国谷西読色戸波森 考黒	土入田早音光走春町出虫学校 門雨男書年前海元気冬黒池金声 思話南字友名波今鳥紙文歩毎 朝

正答率	中小都市	農山村
	D 校	K 校
80～89	入何時金所家今切百父母麦	石見力何夕休林心作所家外用北夏読雲知
70～79	合馬夏	時近向切西戸森母
60～69	東汽車千竹牛	多東合牛馬百
50～59	分行玉米	行父
40～49	来聞半	
30～39	両地	犬聞玉
20～29		分汽千竹
10～19	向	車両
1 ～ 9		来半麦地
0		

学校別（地域別）書字力の順位（2年学年末）

正答率	大都市		中小都市
	Y 校	N 校	C 校
100%	町		
90～99	男女気冬糸	土方出田町車	力田上元気夕町村男女
80～89	土見力田夕出学門元林汽車天雪	石見音空春夕高学校男女道東元気冬糸声家草西	校門雪雨道空金見走糸休石高林声思汽車家外学
70～79	石方高時行校雨年道東声話家外森母	時村光方門雨年少休林思話外雪千北南戸	千年前東海冬方光長春出百時分話行天
60～69	空長思作草	犬何早走分虫行前長汽海森母	音色犬少聞心母入
50～59	犬音走前金休聞心書所	金聞書用天色半朝字百組来	何西森虫草
40～49	入早春少	来多夜心所今国風父	会早来字半用多
30～39	何光村用千百父	入作黒秋夏名鳥	今夜国玉作所近
20～29	来分虫多国谷文	近会竹	北竹友名書父米
10～19	夜近北西玉米	両毎谷馬友玉麦	朝谷牛雲風組
1 ～ 9	半今歩秋会朝南竹牛馬夏字友名戸風鳥紙組	合池牛読雲文地	両黒池歩秋毎夏読戸鳥文
0	海色両合黒池向毎切読雲波考知麦地	向歩切波紙考知	合向南切馬波紙考知麦地

正答率	農山村		中小都市
	S 校	H 校	M 校
100%			町
90～99	土見田何光春女国名	町学男女森	田春夕出学門雨男女金作雪文
80～89	石犬空夕町村出虫学校門雨男東冬金長少林草秋字父母米	田夕校門雨牛百文	北竹切字森石見力村校年冬糸林心家外海草会
70～79	力方高多休声思外天雪歩会北南谷友戸風百	石土見光村出林車海両朝国雲紙	玉米紙牛犬高行前東元気休間声思書朝南西
60～69	入早音走年道夜糸作近海色牛西夏麦	犬方虫行道東気話今池会北西組	時光空方早多馬名戸母百
50～59	気今合池竹森文	力早空高分年前元休思作書字名風	両合毎谷夏風組父
40～49	前心車千玉用	走時夜心雲色南馬友	土入音走夜少天色今読
30～39	元向毎知	何音来金長声汽半草黒母	何池国
20～29	分間組	千秋鳥	用黒鳥知
10～19	行汽家半両切	入春冬所外天読玉父	虫長車雲友
1 ～ 9	来時話書所黒地	糸間家近用合毎竹戸	分来道話汽千向秋麦地
0	朝馬読雲波鳥紙考	多少歩向谷切夏波考知米麦地	所近半歩波考

正答率	中小都市	農山村
	D 校	K 校
100%		
90～99	友名森文上石力田早音光町村学道気冬少林心思会朝	
80～89	糸休声話作近天雪海色草今池歩毎北国切西字戸雲鳥考犬見方空走春出高虫行門多雨男女年東元長風紙組	土見力方町学海会風
70～79	入何夕前夜金書車外用千秋南谷夏読父	紙文田音空光春村虫校男道元冬林心雪色友
60～69	所家鳥玉知母麦	名組石早夕門女気夜糸少話家天今朝北字
50～59	時間汽黒百	出年前長休声思黒毎国戸雲
40～49	来両波地	走雨東作外近草地南谷切森考
30～39	行竹牛	入高多金所歩秋西夏波鳥

正答率	中小都市 D校	農山村 K校
20～29	分米	時書読母
10～19	合向	犬何用牛天
1～9	半	車千馬百父米麦
0		来分行門汽半両合向竹玉地

D 男　女　差

漢字の習得に関する性別の差は下表のように，

実験学校　漢字の平均読字数・書字数（男女別・1～2年）

		1年 4月	7月	9月	12月	3月	2年 7月	12月	3月
よみ	男	4.74字	9.18字	11.75字	24.42字	31.58字	36.0字	43.6字	72.4字
	女	4.24	6.92	9.04	20.29	30.08	35.7	41.1	68.3
	計	4.48	7.85	10.10	21.94	30.71	35.8	42.1	69.9
かき	男	2.96字	6.35字	9.13字	20.88字	25.52字	21.8字	25.6字	45.9字
	女	2.30	4.44	8.20	17.20	23.34	20.9	23.0	46.4
	計	2.63	5.21	8.56	18.83	24.28	21.2	24.0	46.2

実験学校においては，4月入学当初から2年終了時まで，読み書きともに，男子の方がよい。（2年の学年末，書きは女子の方がややよいが）しかし，協力学校（7校560名）を見ると，

1年生学年末テストの平均読字数（実験・協力学校）

学校名	男 よめた字		女 よめた字		計	
Y	(17人) 537字	字 31.6	(24人) 722	字 30.1	(41人) 1,259	字 30.7
H	(12人) 368	30.7	(18人) 604	33.6	(30人) 972	32.4
N	(30人) 1,153	38.4	(30人) 1,134	37.8	(60人) 2,287	38.1
O	(27人) 825	30.6	(21人) 750	35.7	(48人) 1,575	32.8
C	(25人) 868	34.7	(22人) 784	35.6	(47人) 1,652	34.6

1年生学年末テストの平均書字数（実験・協力学校）

学校名	男 かけた字		女 かけた字		計	
Y	(17人) 434字	字 25.5	(24人) 527	字 22.0	(41人) 961	字 23.4
H	(14人) 408	29.1	(18人) 564	31.3	(32人) 972	30.4
N	(30人) 928	30.9	(30人) 1,007	33.6	(60人) 1,935	32.3
O	(27人) 656	24.3	(21人) 633	30.1	(48人) 1,289	26.9
C	(28人) 990	35.4	(23人) 817	35.5	(51人) 1,807	35.4

学校名	男 よめた字		女 よめた字		計		学校名	男 かけた字		女 かけた字		計	
K	(63人) 2,491	字 39.5	(73人) 3,239	字 44.4	(136人) 5,730	字 42.1	K	(64人) 2,254	字 35.2	(74人) 2,975	字 40.2	(138人) 5,229	字 37.9
S	(70人) 2,651	37.9	(79人) 2,992	37.9	(149人) 5,623	37.7	S	(72人) 2,178	30.3	(79人) 2,641	33.4	(151人) 4,819	31.9
F	(20人) 877	43.9	(25人) 1,196	47.8	(45人) 2,073	46.1	F	(20人) 876	43.8	(25人) 1,176	47.0	(45人) 2,052	45.6
計	(264人) 9,770	37.0	(292人) 11,401	39.0	(556人) 21,171	38.1	計	(272人) 8.724	32.1	(289人) 10,340	35.8	(561人) 19,064	34.0

他校はだいたい女子の方がすぐれており，ことに書きは全部女子の方がよくなっている。実験学校・協力学校を平均しても，

男子　よ み　37.0％　　か き　32.1％

女子　〃　39.0％　　〃　35.8％

となる。

2年生　漢字読字力テスト（1～3学期）平均読字数（実験・協力学校）

	1学期末			2学期末			3学期末		
Y	男 16人 576字 (36.0字)	女 28人 1,000字 (35.8字)	計 44人 1,576字 (35.8字)	男 18人 784字 (43.6字)	女 26人 1,069字 (41.1字)	計 44人 1,853字 (42.1字)	男 18人 1,303字 (72.4字)	女 27人 1,844字 (68.3字)	計 45人 3,147字 (69.9字)
H	14 433 (30.9)	18 612 (34.0)	32 1,045 (32.7)	15 608 (40.5)	17 809 (47.6)	32 1,417 (44.3)	15 1,402 (93.5)	17 1,136 (66.8)	32 2,538 (79.3)
N	27 1,099 (40.7)	27 1,092 (40.4)	54 2,191 (40.6)	26 1,346 (51.8)	27 1,390 (51.5)	53 2,736 (51.6)	22 1,823 (82.8)	24 2,065 (86.0)	46 3,888 (84 5)
O	20 709 (35.5)	20 838 (41.9)	40 1,547 (38.7)	27 1,088 (40.3)	21 954 (45.4)	48 2,042 (42.5)	—	—	—
C	27 1,014 (37.6)	24 922 (38.4)	51 1,936 (38.0)	27 1,311 (48.6)	23 1,153 (50.1)	50 2,464 (49.2)	28 2,269 (81.1)	22 1,894 (86.1)	50 4,163 (83.3)
K	64 2,682 (41.9)	74 3,440 (46.5)	138 6,122 (44.4)	23 1,016 (44.2)	25 1,294 (51.8)	48 2,310 (48.1)	19 1,579 (83.1)	24 2,242 (93.4)	43 3,821 (83.3)
S	24 871 (36.3)	27 1,037 (38.4)	51 1,908 (37.4)	23 1,065 (46.3)	27 1,297 (48.0)	50 2,362 (47.2)	23 1,818 (79.0)	24 2,010 (83.8)	47 3,828 (81.4)
F	21 984 (46.9)	25 1,224 (49.0)	46 2,208 (48.0)	21 1,156 (55.0)	25 1,445 (57.8)	46 2,601 (56.5)	20 1,884 (94.2)	25 2,498 (99.9)	45 4,382 (97.4)
計	213人 8,368字 (39.3字)	243人 10.165字 (41.8字)	456人 18,533字 (40.6字)	180人 8,374字 (46.5字)	191人 9,411字 (49.3字)	371人 17,785字 (47.9字)	145人 12,078字 (83.3字)	163人 13,689字 (84.0字)	308人 25,767字 (83.7字)

実験学校では，男子と女子のクラスの成員数が異り，又，男子の方にすぐれた子がおり，女子には下位の子がいるので，このような特別な結果を示すものと思われる。

このように漢字力について総体的に女子の方がすぐれているのは，ひらがなの読み書きの場合と同様である。

さらに，2年になっても，協力学校では，読みで，N校の女子が1・2学期ほとんど同率程度に劣っているが，3学期には優位となり，書きで，C校とS校が1・3学期劣っているのを除けば，すべて，女子の方が優位になっている。

2年生　漢字書字力テスト（1～3学期）平均書字数（実験・協力学校）

	1学期末			2学期末			3学期末		
Y	男 16人 348字 (21.8字)	女 28人 585字 (20.9字)	計 44人 933字 (21.2字)	男 18人 460字 (25.6字)	女 26人 597字 (23.9字)	計 44人 1,057字 (24.0字)	男 18人 826字 (45.9字)	女 28人 1,298字 (46.4字)	計 46人 2,124字 (43.3字)
H	14 293 (20.9字)	18 453 (25.2)	32 746 (23.3)	15 445 (29.7)	17 626 (36.8)	32 1,071 (33.5)	15 681 (45.4)	18 943 (52.4)	33 1,624 (49.2)
N	27 877 (32.5)	27 956 (35.4)	54 1,833 (33.9)	25 938 (37.5)	27 1,090 (40.4)	52 2,028 (39.0)	26 1,446 (55.6)	25 1,586 (63.4)	51 3,032 (59.5)
O	26 594 (22.8)	19 675 (35.5)	45 1,269 (28.2)	27 944 (35.0)	20 828 (41.4)	47 1,772 (37.7)	—	—	—
C	26 944 (36.3)	23 823 (35.8)	49 1,767 (36.1)	27 1,147 (42.5)	23 1,011 (44.0)	50 2,158 (43.2)	28 1,656 (59.1)	23 1,235 (53.7)	51 2,891 (56.7)
K	64 2,326 (36.3)	74 3,129 (42.3)	138 5,455 (39.5)	23 797 (34.7)	25 1,093 (43.7)	48 1,890 (39.4)	19 855 (45.0)	24 1,506 (62.8)	43 2,361 (54.9)
S	24 807 (33.6)	27 908 (33.6)	51 1,715 (33.6)	23 989 (43.0)	27 1,220 (45.2)	50 2,209 (44.2)	23 1,520 (66.1)	26 1,683 (64.7)	49 3,203 (65.4)
F	21 796 (37.9)	25 1,046 (41.8)	46 1,842 (40.0)	21 1,006 (48.0)	25 1,332 (53.3)	46 2,338 (50.8)	—	—	--
計	218人 6,985字 (32.0字)	241人 8,575字 (35.6字)	459人 15,560字 (33.9字)	179人 6,726字 (37.6字)	190人 7,797字 (41.0字)	369人 14,523字 (39.4字)	129人 6,984字 (54.1字)	144人 8,251字 (57.3字)	273人 15,235字 (55.8字)

2年学年末では，

男子	よみ	83.3%	かき	54.1%
女子	〃	84.0%	〃	57.3%

となって，1年の時と同様に女子の方が優位を占めている。したがって，ひらがな・かたかなの文字力の場合と同様に，低学年では漢字の文字力も女子の方が優位であるといえる。

なお，男子と女子とでは，漢字の一つ一つの文字に対し，性別からくる特別の好みや習得の差というようなものがあるかどうかを調べてみたのが下表である。入学当初には女子が「子」の字を割合よく知っていたが，この表からは男女差というようなものは見出されない。地域別テストで見たように，低学年の段階では，むしろ，使用教科書との関係が現われたにすぎなかった。

ただ，しいて言えば，「花」というような文字は女子好みがするのか，概して女子がよくできている（総体的に女子の劣る実験学校でもそうである）という程度のことが見受けられたにすぎない。

低学年の段階では，教科書以外の読みものにも，まだ性別による差が著しくない時期にあるから，性別による文字習得の差や反応は，さらに上学年になってから生ずるものと思われる。

2年生学年末テスト

学校別（男女別）読字力の順位（実験・協力学校）

正答率	Y校		N校	
	男 16 人	女 28 人	男 22 人	女 24 人
100%	水田先川生	水先川下花門人	水手先川口下生目立	水手上田川門町耳
90～99	手上下門白出方夕	手上生入校学田本目立正方夕	上田門火月土青耳右音空入白右学校村雨	先口下生花足入月出村雨右空目火女土校立学音
80～89	本花空目入立学人正火月女土校男雨	空白出村口月石	本足出年女町正方	白石青正本年方
70～79	口足町耳村音	女男雨火耳右土町	人花男赤光左	男夕赤光左
60～69	石右赤	足音	夕園	人
50～59	年車青左	光	字	
40～49	光	年青赤	早	字
30～39		左車		

正答率	Y 校 男 16 人	Y 校 女 28 人	N 校 男 22 人	N 校 女 24 人
20～29	国早	国	車	
10～19	色冬走	早	冬	国早
1～9		字色走冬	作	色
0	字作	作		

正答率	S 校 男 24 人	S 校 女 27 人	O 校 男 20 人	O 校 女 20 人
100%	水田下男雨	水上口門耳雨字	川	手川口下花門目入火月男雨
90～99	上口花門空耳手足目入字	下本足目校手田先生花空入女青男光	水口田先下生足入女人男字	水上田先本生空人足白年女光出立青石土
80～89	本女出人光音先生校立青作	白作出石学火土人音	手上花門目白出月土火校青学雨光年	校町正字学音作
70～79	川白石土学年色	川立年正方色	本石立耳町	赤色
60～69	方	赤左夕	空音	村夕方冬
50～59	赤正夕	月	赤方作夕	右左早
40～49	月	右	色村右	車
30～39	右左		左国早冬	国
20～29	早国	早車国		
10～19	車村	村走冬	車	走
1～9	冬	町	走	
0	町走			

正答率	H 校 男 15 人	H 校 女 17 人	M 校 男 23 人	M 校 女 25 人
100%	川青		女	水先本生花女
90～99	口本花白町人赤	水手上先川本生花立青町人赤	水田川下門町男手先本生足人	下門雨手上川空足月町男字
80～89	生手上先火出方	田口月火目出校村左白雨字方右	火雨字花月	口目人入火石村出
70～79	水田空月立雨車石	空学正車足石	上石校口空入土村年作	左校
60～69	学村正字年	門入土年	出右学左白	右年作学
50～59	門足目校左右入		正	土光
40～49	下	下女光	耳青光	正白耳
30～39		男国	赤国	

正答率	H 校 男 15 人	H 校 女 17 人	M 校 男 23 人	M 校 女 25 人
20～29	女土男光夕色国	夕色早		赤
10～19	耳音早冬	冬	冬	国
1 ～ 9	走	耳音走	目早立音方色車走	早青立冬
0	作	作	夕	音方夕色車走

正答率	F 校 男 21 人	F 校 女 25 人
100%	水手上田川口下本花雨足月白出石立校学青赤正字	水手上田川下花空足目火月白女出石土校立青町男人耳村赤字光年方冬色
90～99	門空火女土町耳村音早夕色方人男年車冬走	先口生門入本学正音左夕国車早走雨右
80～89	入右国先生	
70～79	雨光左	
60～69		作
50～59	作	
40～49		
30～39		
20～29		
10～19		
1 ～ 9		
0		

	D 校 男 35 人	D 校 女 29 人	K 校 男 64 人	K 校 女 74 人
100%	水手上田先川口下本生花門空立青耳村早光音年	水手田光川下生花門足目火月土耳村		手
90～99	入火月女石町男字左色国車出学校夕作冬	上口本空女出石立青町字年雨赤右音車夕方左国走色走入白	赤口上花目青色手田本生足水先下立白男村土	口下本正花空火月立青水上目女右町石白男光色冬耳赤入国土早川門先音字走田足村夕人校左正学方車
80～89		学校光正冬	空入出校火門石町音冬走光耳川国字早	

正答率	D 校 男 35 人	D 校 女 29 人	K 校 男 64 人	K 校 女 74 人
70～79		人	車学右正左人	年
60～69	正人		方夕年	
50～59				雨
40～49			雨	作
30～39			作	
20～29				
10～19				
1～ 9				
0				

2 年 生 学 年 末 テ ス ト

学校別（男女別）書字力の順位（実験・協力学校）

正答率	Y 校 男 16 人	Y 校 女 28 人	N 校 男 27 人	N 校 女 27 人
100%	川水門	川	川口上右	川水口本門
90～99	下	目水	左本下目田水門手白出	月出右空夕左耳上下手学生足雨目人
80～89	本田手学	下門手上	花学生足土校方月町	方先村年花土校町光田白人
70～79	上月	本学夕人田	先人夕耳空光村雨	正立青音
60～69	目人生白校空	白土石口校	石立	火
50～59	口石夕土町正先村	月出花生	入火音年	石
40～49	出立音	空右正方	正青	
30～39	花右火方雨足入	町入先村		
20～29		左立火耳	男	早
10～19	左年男赤	雨足音赤	女赤	女赤字
1 ～ 9	青光耳国	男女字年青光車	字冬国作	国男色冬車作走
0	女字色冬早車走作	色冬早国走作	色車走	

正答率	S 校 男 24 人	S 校 女 27 人	O 校 男 26 人	O 校 女 19 人
100%	雨	川水口目手女		川水口門男女
90～99	本田月生男女川水口目門出上	上門田学生下人男	川水口	上下花

正答率	S 校 男 24 人	S 校 女 27 人	O 校 男 26 人	O 校 女 19 人
80～89	下正人学夕	立月出校字本足正	上目下門花	雨人学生本目田手
70～79	光年白火字立音作手足校入青先土空	入先花空雨青	本人男女田手先	先字月白青出足土校正
60～69	花石方	色土夕光作白方音	生学出入	空年
50～59	色耳	火年石左	白空正青火光年月土石校字音雨	音石町入光耳
40～49	右左	右	足町立	夕立作
30～39		耳	耳作方夕	方右左
20～29			右色	色
10～19	村国	赤	左	村冬早
1 ～ 9	早	早国村	村国	国走
0	町赤冬車走	町冬車走	赤冬早車走	赤車

正答率	H 校 男 14 人	H 校 女 18 人	M 校 男 22 人	M 校 女 25 人
100%			川先	川
90～99	川	川水町	口本女	水口門
80～89	口上本	口下本白上立	水人上門	上本人下
70～79	目出立下人生白青車水	左字目人学生石車田手	下生男学	月男目生
60～69	学石町火	出火校右村年	月田足校	町入学足女花
50～59	手正年田右左方字	月方空正先	目手花火出石	田光字左石先
40～49	月校先	花土	光村雨年右町作	火年出右村雨手校
30～39	村		入左字	
20～29	花足土赤	赤門入		空作土
10～19	空男	足女光	白土空	
1～ 9	門夕光早国	男夕雨国	青立赤国	白立赤色正方
0	冬走作入女音耳雨色	音耳色冬早走作	冬早夕正方音耳色車走	夕青音耳冬早国走車

正答率	F 校 男 21 人	F 校 女 25 人	D 男 35 人
100%	川口上目門		川水口上下本目土石
90～99	字音冬水本下手青田足石	人手土空町村字立赤耳川口上下目門	音立耳冬国右入夕左青方光色月出白校田

正答率	F校 男 21 人	F校 女 25 人	D 男 35 人
		田月足火水	手足花空男女火村字門人
80～89	火方村月花上空右左人女	学石方音車白男本花出右入左青正光冬	学生正雨早走町年赤車
70～79	光赤学白町入出男正	生夕女年色早走	作先
60～69	生色夕立年国		
50～59	耳早	先国作	
40～49	車	雨	
30～39	校走	校	
20～29	先雨作		
10～19			
1 ～ 9			
0			

正答率	D 校 女 29 人	K 校 男 64 人	K 校 女 74 人
100%	足白空入女火方光立川水口上下目門人田月	川	川水口上
90～96	青学音耳色冬早走本学石村手生花出土右町男夕左	水口上本田	空下本目門手男字足色土石字左女青光人月夕村田
80～89	校年赤作雨車	夕赤出足冬下目門女人花男青字	花校町赤冬学音生白右正入出方年
70～79	光正国	空右村白光月土左正学町石校	早国車
60～69		火方早国出色入生走	先走火立耳
50～59		音年車	
40～49		光耳	作
30～39		立	
20～29			雨
10～19			
1 ～ 9		作雨	
0			

E 漢字の誤り

時を重ねるごとに児童の漢字力の読み書き正答率が昇って行くことは前述

の通りだが，それでは，正答以外の反応の仕方はどうであろうか。

四月入学当初の漢字力のテストでは，「わからない」「知らない」で通過するものが多い。正答でないものはほとんど無答であって，誤答は少なかった。まれに「口」を「ろ」，「川」を「さん」，「十」を「ばつ」と読んだものもあったが，これらはごく少数であり，まだ漢字という文字意識以前のかたかなや他の記号との混同であった。

書きにおいても，自分がたしかに知っている文字以外には反応を示さないものが多かった。まれに「四」を「𠃌」，「五」を「𠄌」，「六」を「亖」と書くといった読み同様の誤りが見られる程度であった。1年の2学期末になると，無答でなく字形を正しく把握できないための誤りがようやく出はじめてきている。書く方でも手を手，毛と書くといった誤りが出て来た。

	1年3学期（50字）			2年1学期（50字）			2年2学期（60字）			2年3学期(110字)		
	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無
よみ	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字
	1,141	106	654	1,576	136	488	1,853	245	531	3,147	496	1,280
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
	60.0	5.6	34.4	71.6	6.2	22.2	70.5	9.3	20.2	63.9	10.1	26.0
かき	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字
	865	110	875	933	288	963	1,057	417	1,168	2,124	573	2,386
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
	46.8	5.9	47.3	42.7	13.2	44.1	40.0	15·8	44.2	41.8	11.3	46.9

1年3学期末のテストでは，読み106字（5.6%），書き110字（5.9%）という数の誤りが見出され，この誤答数は，以後，正答数の上昇に正比例的に上昇を示している。一方，無答数の方は，これと反比例的に下降しているのである。（ただ2年終了時のテストでは，テスト文字110字中，未学習字48字というように児童にとって未知の文字が一挙に数多く提出されたので，この場合には，1年の初期のように無答数が多く誤答数は減っているという現象が見られる。）

誤答の増加ということは，児童の漢字範囲が拡大され，文字意識も強くなってきた結果であると思われる。

なお，以上の傾向は，読み書きともに見られるが，読みに比して書きの方が誤答率が高い。

誤りの傾向

各期の漢字テストに現われた誤答を分類すると，

〔よみ〕

a. 形態上の誤り

(1) 類似字形を弁別できないために生ずる誤り

	（読み誤り）	男 女			男 女
上	つち	3人 (1 2)	木	すい	1 (0 1)
右	いし	9 (4 5)	日	め	3 (1 2)
八	ひと	4 (2 2)	白	ひ(し)	2 (1 1)
人	はち	1 (1 0)	字	がく	2 (1 1)
	いれる	1 (0 1)			
入	ひと	8 (3 5)			
	はち	2 (1 1)			

1年の学年末にこれだけの誤りが見出された。これらは漢字の字形の類似を弁別できぬため，自分の知っている字に引きよせて読むもので，漢字習得の過程でよく見られる現象であり，同一人が，書字の方も誤っている。2年になるといろいろの文字に接する機会が多くなるため，この種の誤りがますます増加する。

「右」は1年のころは，既習文字のいしとしか誤らなかったが，2年になると，

		男 女	
1学期末			
右	いし	6 (3 3)	（注）
	ひだり	3 (0 3)	石のほかに右の字との混同も見られるようになり，2年2学期末には，1学期に身につかないままに持ちこされた誤りと，他の読書からなどと相まって，混乱を極め，左を学習した後の3学期末には，ようやく落ちついている。この三女児は劣った能力のものである。
石	みぎ	3 (1 2)	
	ひだり	1 (1 0)	
2学期末			
右	ひだり	8 (3 5)	
	いし	6 (3 3)	
左	みぎ	11 (3 8)	
石	ひだり	1 (0 1)	
	みぎ	4 (3 1)	
3学期末			
石	みぎ	2 (0 2)	
	ひだり	1 (0 1)	

その他

			男	女				男	女
足	むし	4	(1	3)	学	がく	3	(2	1)
目	つき	1	(1	0)		がつ	10	(2	8)
	ひ	1	(0	1)		そら	1	(1	0)
月	め	2	(1	1)	林	むら	1	(0	1)
					村	はやし	5	(0	5)

など。なお，「目」を「つき」と答えたものは，「月」を「め」と答えるというふうに逆に覚えているものが多い。

又，未学習文字，「国」を1年の末に「たま」と読んだ子が，2年の終りまでにまだわからず，「おお（王)」と読み違えている例も見られ，誤読の様相や変化から漢字習得の段階がうかがわれるというおもしろい現象も見出される。

2年の2学期末テストでは，「力」を「か」と読んだものが，11人(4・7)もいた。これはかたかな学習が進んできたころで，文字の種類について正しい認識がないためである。

2年3学期末には，かなり大量にテストし，未習文字も多かったために，この類の誤りは種類もましている。

馬	しま	3	(2	1)	鳥	しま	5	(2	3)
	とり	1	(0	1)		うま	1	(0	1)
玉	おう	8	(3	5)	米	ひかり ひかる	2	(0	2)
	おお	11	(6	3)					
	お	2	(0	2)	毎	はは	1	(0	1)
百	しろ	1	(0	1)	今	ふん	1	(1	0)
両	あめ	2	(1	1)		ぶん	2	(0	2)
	にし	2	(2	0)		ぷん	1	(0	1)

未習文字の場合は，今まで学習した文字や何かで見た記憶から字形の同じものに読み誤るもので，優秀児の中にもかなり見出される。

(2) 字形の一部認知による誤り

この誤りは，漢字の構成が複雑になるにつれて生ずる性質のためか，低学年であまり見られず，徐々にあらわれている。

1年の学年末には，

国　　たま　　青　　はる

の二例しかない。青は春にも似ているが，この場合は自分の名前「晴男（はるお）」の一部分として読んだものと思われる。二児ともクラスでは優秀児である。

2年になると，

1学期末

音	たつ たつて	2	(0 2)
毎	うみ	3	(2 0)

3学期末

玉	くに	1	(1 0)
男	ちから	1	(0 1)
	たか	1	(0 1)

（男を田と力に分けて認知したもの）

といったものがある。

b. 熟語と構成文字との未分化による誤り

語として覚えていて，文字としては識別できないものである。

(1) 調査の対象になる文字に，自分が知っているその文字が含まれている全体の読みをつける誤り。

1年	四	よんくみ	1	(0 1)	川	かわかみ	1 (1 0)
	日	にちようび	1	(0 1)	生	せと(せいとの意)	1 (1 0)
	先	せんせ	1	(1 0)			
	火	かよう	1	(0 1)			

（注）四　よんくみ は じぶんの組を
川　かわかみ は 人名の意である。

この種の誤りは，2年になっても依然として続けられ，

2年1学期末

火	かよう	1	(0 1)
	かよ	1	(0 1)
土	どよう	2	(1 1)
	どよ	2	(0 2)
田	たうえ	2	(0 2)
車	きしゃ	1	(0 1)
正	おしょうがつ	2	(1 1)

2年2学期末

火	かよう	2	(0 2)
土	どよう	2	(1 1)
	どようび	1	(0 1)
先	せんせい	2	(0 2)
正	しょうがつ	1	(0 1)
国	こくご	1	(0 1)
作	こうさく	1	(0 1)
心	ようじん	2	(0 2)
名	なまえ	1	(1 0)

2年3学期末

谷	よつや	1	(0 1)	千	ちば	1	(1 0)
紙	てがみ	1	(0 1)	国	こくご	1	(1 1)
田	たんぼ／たうえ	3	(1 2)	戸	えど	2	(1 1)
地	とち	1	(0 1)	近	きんじょ	1	(0 1)
今	きょう	8	(2 6)				

甚だしいのは，同じ誤りをずっと続けているものすらある。また，「火」を「かようび」と読む者が「先」を「せんせい」と読むように，同一人が同一傾向の誤りを重ねている場合が多く見受けられる。この種の誤りをするものは，概して，劣っている児童である。

(2) 熟語を構成する他の文字との読み誤り

b の(1)の変形である。

2年の終りごろになって多い現象である。

2年2学期末

作	こう	3	(0 3)
	ぶん	1	(1 0)
火	よう	1	(0 1)
年	せい	1	(1 0)
先	せい	2	(1 1)
	うまれる	1	(1 0)

2年3学期末

谷	よつ	1	(1 0)	(自分たちのいる所四谷を想起したもの)
池	じらい	1	(1 0)	(地雷を想起カ)
心	よう	1	(1 0)	(用心〃)
近	じよ	2	(1 1)	(近所〃)
文	さく	5	(0 5)	(作文〃)
母	こゝろ	1	(1 0)	(母の心カ)

これらの誤りの中には，未習漢字に対して現われる例があり，明らかに，他の読書や文字経験の影響と思われるものがある。(例，池—じらい)

(3) 熟語としてわかっていても，それを構成する単位としての文字の読みがわからないために生ずる誤り

1年3学期末

先	せ	5	(2 3)
生	せ	3	(2 1)
	ん	2	(1 1)
正	おっし	1	(0 1)

2年1学期末

火	ひの	1	(0 1)	(火の用心カ)

2年2学期

天	おて て お おてん	5	(2	3)
名	なま	2	(0	2)

2年3学期末

気	んき	2	(1	1)
谷	つや	2	(0	2)

これは，だんだんに減少している。

c. 似た意味にとりちがえる誤り

(1) 問われた文字がはっきりしないために記憶の中から近似の意味のものを想起したり類推したりして読む。

1年3学期末

耳	め	1	(1 0)
火	げつ	1	(火曜から月曜を想起する)
木	やま	1	(1 0)
下	つち	1	(1 0)

2年1学期末

火	すい	1	(0 1)
	きん	1	(0 1)
土	どろ	1	(1 0)
	もく	1	(0 1)
	した	2	(0 2)
空	あお	2	(0 2)
	はる	1	(0 1)
夕がた	よるがた	1	(0 1)

2年2学期末

分	じ	5	(0 5)
時	ふん	2	(0 2)
林	もり	5	(3 2)
空	たかい	1	(1 0)
天	たな	1	(0 1) (天気をたなばたとよむ)

2年3学期末

夜	つき	1	(0 1) 月夜カ
西	ゆうやけ	1	(1 0)
地	せかい	1	(0 1) 地球の類推からカ

千	ひゃく(しゃく)	2 (1 1)
高い	あおい	1 (0 1)
	そら	1 (0 1)
黒い	あかい	1 (0 1)
	あおい	1 (1 0)
草	はな	1 (0 1)

歩く	いく	1 (1 0)
	うごく	2 (1 1)
考えた	おぼえた	1 (0 1)
	おぼ	1 (0 1)
走	あるく	1 (0 1)

というように，意味内容の似よったものに誤読する傾向は年とともに増加し

ている。これは，文字によって想起される観念が，増加してくる結果と思われる。

そしてこの傾向は，他の読書が活発になるにつれて動詞・形容詞などを文脈の前後関係から，いいかげんに読んでしまうという型にだんだん変って行くようである。なお，この中には，反対概念の語を想起するタイプもある。しかし数は少ない。

1年3学期末

上	した	2	(1	1)
火	みず	1	(1	0)
出る	くる	1	(0	1)

2年3学期末

秋	はる	1	(0	1)
父	はは	2	(2	0)
母	ちち	1	(1	0)

d. 文脈による読み誤り

(1) はっきり読めない文字に対して，自分の観念の中で，ある語脈・文脈を考え，それにあてはめて読む。

2年1学期末

光る	みる	1	(1	0)
	はるる	1	(0	1)
	きんる	1	(0	1)
作る	いる	2	(1	1)
青い	とおい	1	(0	1)
	おもい	1	(0	1)
早い	とおい	1	(0	1)
赤い	おもい	1	(0	1)
十年	十せん	1	(0	1)

2年3学期末

向かって	ひかって	1	(0	1)
早い	ない	1	(1	0)
	くさい	1	(0	1)
長い	はやい	1	(0	0)
読む	はげむ	1	(1	0)
考えた	こえた	3	(2	1)
	おぼえた	2	(0	2)
	きこえた	1	(0	1)

われわれのテストでは，文脈の関係で読みを誘導されないように問題を提出したが結果としては以上のような現象を呈した。子供たちは，これらの語形や活用形に自分の思いつきの読みを与えているのである。それが文脈として与えられると次のようになる。

(2) 文脈の中で，前後関係から，自分の読みやすい形をさがして読む

合　だす　1 (0 1)
（原文　力を合わせてを
力をだしてと読んだもの）

虫　むら　1 (1 0)
（上に草の字があったので連合させて読む）

知	い	1	(0 1)	(原文　知らない所)
友	さか	1	(0 1)	(原文の友だちからさかだちを想起)
名	うしろ	1	(1 0)	(原文　名まえに対してうしろカ)
	うら	1	(0 1)	(同傾向の誤カ)
町	おとこ	2	(0 2)	(原文　町の前に女があるので)

というように既知の語を動員して自分なりの安定した語脈・文脈を考えるわけである。これらも年次を追って増加している。

e. 音の類似による誤り

耳	みぎ	1	(1 0)
	みる	1	(0 1)

f. 不注意やあわてたために生ずる誤り

人 いと　女 おな　年 ね　耳 み　門 もう
犬 いめ

これらはあまり見受けられない。

g. でたらめの読み誤り

1年3学期末

耳	たっています
下	ちいさい
出	た
人	み
字	あ
口	し

2年1学期末

音	おんな
女	ぶん
村	い
耳	しろ
上	お
火	も
白	ひる

2年3学期末

紙	あき
	さか
	うしろ
鳥	おゆ
半	さじ
分	か
	が
所	ひる

これらの誤りは大体下位者にみられる。全くあてずっぽうの読みのため，同じ回答者がない。

以上のほかに，次のような誤りがある。

h. ある程度許容できる読み誤り

(1) 発音からくる読み誤り。

1年3学期末

人	しと	12	(6	6)
(八，入もこめて)				
下	ひた	2	(1	1)
七	ひち	3	(2	1)
一	しとつ	1	(0	1)

1年2学期末

前	まい	3	(1.	2)
東	しがし	3	(2.	1)
光	しかる	2	(0.	2)
百	しゃく	2	(1.	1)
入	しと	2	(1.	1)

東京方言ひとしの発音上の誤りがそのまま現れている。漢字の読み本来の誤りではないこれらの誤りは1年の頃より少しずつ減っているが，2年末になってもまだかなりある。（いとえの誤りもある）地方によっては，もっと増加するはずで，文部省国語課の漢字の実験学校から，これらの誤りのために，低学年におけるある種の漢字は，読字力より書字力の方が正答率が高いという報告があった。(例 木 きい，二 にい，火 ひい，四 しいといった関西方言からくる誤り)

(2) 表記上の誤り

(イ) 表記が不完全な誤り

2年3学期末

夕	ゆ	11	(5	6)
土	どう	2	(0	2)
火	かあ	3	(0	3)

などは一応読めるのであるが，表記の際に，長音化して書いたり，長音を落して書いたりするのである。

(ロ) 送りがなまで読みがなとしてつける誤り

1年3学期末

( ) 立つ	たつ	2	(1	1)
( ) 小さい	ちいさい	3	(2	1)

2年3学期末

( ) 書く	かく	5	(3	2)
( ) 光る	ひかる ひかり	3 4	(1 (1	2) 3)

( ) 赤い	あかい	1	(0 1)	( ) 早い	はやい	1	(0 1)
				( ) 入れる	いれる	5	(2 3)

これらは文字としては読めるのであるが，活用語の語幹と語尾の区別がまだつかないために生ずる誤りであり，又，表記の約束を知らないためである。落ちついていれば（ ）の内と外とによって当然正しく書き分けられるはずであるが，あわてたり，送りがなの法則を知らずにこの誤りをしているものが，優秀児の中にも，時に見られる。

(3) 音訓を無視した読み誤り

( ) 小さい	こい （1年3学期末）	2	(1 1)

2年3学期末

( ) 黒い土	ど・どう	4	(1 3)
( ) 谷の方	がた	1	(1 0)
( ) 来る	きる	10	(4 6)
( ) 千年前	ち	1	(0 1)
( ) 知らない所	じょ	5	(2 3)
	じょう	2	(1 1)
	しょ	1	(0 1)
( ) 近く	きん	6	(1 5)
( ) 作文	つくる	3	(1 2)

など，語形や文形から一定している音訓を無視して自分の親しい読み方で読んでいる。未習の音や訓が出た場合はこれが甚しい。

hの項の誤りは(a)〜(g)までのものとやや性質を異にしており，低学年の段階では，ある程度許容できると思われたので，テスト結果の処理の際純然たる誤答として扱わず，準正答として取り扱ったこともある。2年の末になっても(h)の誤りは多く，ことに最後の音訓を無視した誤りは，文字領域が広がるためにますます増加する傾向にあり，読字力の上位者にも多く見うけら

れる。なお，「家」を「うち」と読んだものが，10人（6　4）いたのは，音訓整理がまだ徹底していないために他の読みもの等から受けた影響であると思われる。

実験学校　2年生　学年末テスト
漢字読字力（A）準正答の調査

	正答数	正答率	準正答数	準正答もみとめた正答率		正答数	正答率	準正答数	準正答もみとめた正答率
千	31	68.9	1	71.1	夕	33	73.3	10	95.6
前	40	86.7	3	95.6	戸	5	11.1	1	13.3
東	34	75.6	6	88.9	出	38	84.4	5	95.6
合	22	48.9	1	51.1	百	33	73.3	2	77.8
田	36	80.0	2	84.4	間	36	80.0	2	84.4
黒	17	37.8	1	40.0	分	35	77.8	1	80.0
土	38	84.4	4	93.3	心	22	48.9	18	88.9
池	3	6.7	1	8.9	思	40	88.9	3	95.6
何	16	35.6	20	80.0	書	35	77.8	5	88.9
歩	10	22.2	2	26.7	作	28	62.2	2	66.7
早	39	86.7	1	88.9	所	25	55.6	6	68.9
谷	16	35.6	2	40.0	家	35	77.8	10	100
切	7	15.6	1	17.8	学	33	73.3	3	80.0
牛	16	35.6	2	40.0	近	6	13.3	6	26.7
金	42	93.3	1	95.6	入	35	77.8	4	86.7
光	31	68.9	8	86.7	多	36	80.0	2	84.4
見	40	88.9	5	100	長	39	86.7	1	88.9
走	39	86.7	2	91.1	休	42	93.3	1	95.6
来	25	55.6	13	84.4					

h の読み誤りを準正答とした場合の正答との比較を見ると，動詞や形容詞における漢字のかなづかいがはっきりしていないために生ずるものがいちばん多いことがわかり，低学年の一つの実態を現わしている。次に漢字の真の使用法がわからぬために，名詞などで，音訓両方とも使用率の多い文字では，語脈・文脈にかかわらず，自分の親しい読みかたで読むという傾向である。一つの文字についての音・訓・義が真に習得できない低学年の段階ではある程度認めざるを得ない実態といえよう。

〔かき〕

a. 逆書

1年3学期			男	女
大	大	1	(1	0)
小	小	1	(1	0)
七	七	1	(0	1)
正	正	2	(1	1)
手	手	1	(0	1)

2年1学期			男	女
上	上	2	(1	1)
町	町	3	(1	2)
手	手	1	(0	1)

2年2学期			
町	町	6	(3. 2)
右	右	1	(0. 1)
正	正	2	(2. 0)
色	色	1	(1. 0)
虫	虫	1	(1. 0)
外	外	2	(2. 0)

2年3学期			
犬	犬	3	(1 2)
虫	虫	3	(1 2)
声	声	1	(0 1)
話	話	1	(0 1)

というように，数多くはないが，2年の末になってもまだ逆書をするものがある。この誤りをする者は，言語能力のごく下位のもの，落ちつきのない者に多く，同一人によっていくつか誤られ，その誤りが直らずにくり返される場合が多い。

b. 字形が正しくとれないために，点画その他が多かったり少なかったりし，又，位置等の乱れるもの

1年3学期			
先	先	4	(2 2)
	先	2	(2 0)
正	正	4	(3 1)
	正	1	(0 1)
月	月	1	(0 1)
耳	耳	1	(1 0)

2年2学期末			
耳	耳	2	(1 1)
車	車	1	(0 1)

2年1学期末			
花	花	1	(0 1)
	花	2	(1 1)
門	門	1	(0 1)
雨	雨	2	(0 2)
	雨	1	(0 1)
	雨	1	(0 1)
音	音	1	(0 1)
	音	1	(0 1)
男	男	1	(0 1)
立	立	1	(0 1)
学	学	1	(0 1)
	学	1	(0 1)
足	足	3	(1 2)
	足	1	(0 1)

	象	1	(0	1)
年	年	3	(2	1)
家	家	3	(2	1)
	家	1	(1	0)
	家	2	(1	1)
	家	2	(1	1)
道	道	1	(1	0)
高	高	1	(1	0)
行	行	3	(0	3)
	仟	1	(1	0)

2年3学期末

前	前	6	(2	4)
東	東	5	(0	5)
道	道	1	(0	1)
	道	3	(2	1)
	道	5	(1	4)
	道	1	(0	1)
海	海	1	(0	1)
	海	1	(1	0)
	海	2	(1	1)
	海	1	(1	0)
長	長	2	(1	1)
	長	1	(0	1)
	長	3	(2	1)
	長	1	(1	0)

など，漢字の数がふえると共に，増加して行く傾向にある。

c. 文字の一部しか想起再生できないもの

1年3学期

冬	久	1	(0	1)
生	生	1	(1	0)

2年1学期末

足	足	2	(1	1)

2年2学期

書	聿	4	(1	3)
国	口	1	(1	0)
	曰	1	(0	1)
	国	1	(1	0)
虫	虫	2	(1	1)
	虫	3	(2	1)
声	尸	2	(0	2)
赤	赤	2	(1	1)
	赤	1	(1	0)
	赤	1	(0	1)

2年3学期

風	凡	1	(0	1)
金	金	1	(1	0)
	金	1	(0	1)
家	家	1	(0	1)
車	車	1	(0	1)

bの誤りのさらに不完全な型である。これらbとcの誤りは，未習漢字の場合は優秀児，既習漢字の場合には，下位者がなしている。

d. 類似字形の混同による誤り

1年3学期

人	入	5	(1	4)
木	水	1	(1	0)
右	石	1	(1	0)
月	目	1	(1	0)

2年1学期

左	右	3	(1	2)
右	石	5	(1	4)
石	右	4	(2	2)
右	左	1	(0	1)
白	自	1	(0	1)
上	土	2	(2	0)
土	上	1	(1	0)
目	日	4	(3	1)

2年2学期

右	石	3	(1	2)
	左	1	(0	1)
土	上	2	(0	2)
入	人	14	(5	9)
左	右	2	(1	1)
	石	1	(0	1)
分	今	2	(2	0)
	方	1	(1	0)
時	持	4	(2	2)
夕	多	2	(0	2)
村	林	4	(1	3)

2年3学期

石	右	7	(2	5)
百	自	2	(1	1)
虫	足	3	(0	3)
文	交	5	(3	2)
早	車	1	(0	1)
見	貝	2	(0	2)
父	交	1	(0	1)
母	毎	1	(0	1)
学	字	4	(2	2)
門	間	4	(2	2)
間	門	5	(2	3)
半	羊	1	(0	1)
入	人	6	(5	1)
天	夫	1	(1	0)

この誤りは，目立ったものを拾い上げても上のように児童の文字領域が増加するほど，その誤記の領域も拡大されてくる。中には，未習の文字をあてるのもある。

e．意味の如何を問わず，既知の同音の字をあてるもの

(1) 同音からくる誤り

1年3学期

ひ 火 がもえる	日	16	(7	9)
日	火	1	(0	1)

2年1学期

ひ 火 がもえる	日	15	(4	11)
お 正 月	お小月	1	(1	0)

2年2学期

火	日	21	(7	14)
会	回	1	(1	0)
校	交	1	(0	1)

2年3学期

千 年	先	12	(2 10)	半 分 にきる	文	4	(3 1)
竹を 切 るおと	気	11	(3 8)	紙 を半分にきる	上	3	(2 1)
	来	11	(5 6)	字	時	12	(6 6)
	木	3	(0 3)				
毎 朝	前	5	(0 5)	戸 をあける	止	9	(3 6)
	(前)	2	(2 0)		十	1	(1 0)
文	分	4	(0 4)	汽 車	気	1	(0 1)

というように，習得している漢字を実に自由奔放に駆使するという現象がある。未習文字の場合はいっそうはなはだしい。(例 切，千) これは漢字を指導する際に表意文字としての性質を理解させることの必要を示⊃ている。この誤りが一歩進むと次のようになる。

(2) 近い音や訓にかえて書く

1年3学期

右	見	2	(0 2)
耳	見	2	(1 1)
立	田	3	(0 3)

2年1学期

耳	見	8	(6 2)
門から 出 る	手	2	(1 1)
	字	2	(0 2)
立	田	14	(6 8)
田	立	3	(1 2)

2年2学期

耳	見	9	(5 4)
見	耳	2	(2 0)
校	子	1	(0 1)

2年3学期

秋の うんどう 会	書	2	(0 2)
力を 合 わせる	上	5	(1 4)
お 話 をする	花	1	(0 1)
牛	失	2	(1 1)

この誤りは下位の子供に見られ，なかなか根強い誤りである。

f. 不正確な意味内容を想起して書く誤り

同じ種類の意味のものや，反対概念，又はその文字の連想などによるものである。

1年3学期

色	白	1	(0	1)

2年2学期末

耳	目	1	(0	1)
色	白	1	(1	0)
心	思	1	(1	0)
林	森	1	(0	1)
高	上	2	(1	1)
天	上	1	(1	0)
時	分	3	(0	3)
多	大	29	(13	16)
夜	夕	1	(0	1)
早	走	2	(0	2)
走	足	1	(0	1)
地	土	3	(2	1)
行	来	3	(0	3)
来	行	2	(0	2)

2年1学期

青	空	1	(1	0)
下	上	1	(0	1)
門から出る	入る	2	(1	1)
にっぽんの国	日	1	(0	1)
学校	先生	1	(0	1)

2年3学期末

池	川	2	(1	1)
雲	空	3	(1	2)
少	小	2	(1	1)
高	上	1	(0	1)
父	女	1	(0	1)
入	行	8	(2	6)
用が多い	大	28	(9	19)
字がよくよめる	書	1	(0	1)
げんきに歩く	足	1	(0	1)

この誤りも，児童の文字領域と語い範囲が増加拡大するにつれて，活発になっている。中にはその誤りが固定している者もあって，これは指導の問題と結びついている。

g. 熟語又は語脈の中で覚えていて，文字として分化できないもの

2年1学期

二年生	二生	4	(2	2)
	二学		(1	0)
先生	生先	3	(3	0)

2年2学期

心	用	1	(0	1)	(用心)
校	学	9	(3	6)	
早	走	2	(2	0)	この二人の子は完全に逆にかいている。
走	早	2	(2	0)	

2年3学期

間	分	6	(3 | 3)	
作	工	3	(1 | 2)	(工作)
	文	1	(0 | 1)	(作文)
学	校	1	(1 | 0)	

こうした誤りは上級に進むにつれて少なくなっている。低い段階のもの

は，gのような誤り方に加えて，さらに次のようにその文字としても誤っているという二重の誤り方も見られた。

生	先	2	(0 2) ……(1年3学期末)
生	𤣩	1	(1 0)
先生	生尭	3	(2 1) ……(2年1学期末)

h. 乱脈ででたらめな誤り

1年3学期末

口	七	1	(1 0)
土	小	1	(1 0)
字	土	1	(1 0)
二	日	1	(0 1)

こういう誤り方はさすがに年次を追うに従って減少してき，上述の，字形が正しくとれなかったり，意味や音に関連したりする誤りなどで，何らかの意味が感じられるような誤りの形になってきている。その限りにおいて児童の文字意識がだんだんと活発になってきたことがわかる。

i. 字体が旧いもの

新字体と旧字体の区別はどうかするとおとなでもあやしいものである。左表は2年の終末時のテストで，新字体で書くべき文字を旧字体や他の書体で書いていた児童の数を調べたものである。この場合準正答は，旧字体を書いたことを示す。（われわれは旧字体を準正答として扱った）驚いたことに，海は正答者は一名もなく，30人という準正答者——旧字体を書くものがいた。テスト当時には，まだ海の字は未習字であったから，他教科や家庭学習などで旧字体を習得したものと思われる。

実験学校　2年生　学年末テスト
漢字書字力（A）準正答の調査

	準正答者 男 人	準正答者 女 人	準正答者 計 人	正答計	正答率	準正答率
海	10	20	30	(0)	0	65.2%
毎	2	1	3	(0)	0	6.5%
高	0	1	1	(34)	73.9	76.1%
雪	2	1	3	(37)	80.4	87.0%
雨	1	1	2	(42)	76.1	95.7%

F　おぼえやすい字とおぼえにくい字

漢字の誤答状況で見てきたように，字形・字画・構成・意味等によって，比較的おぼえやすい字とおぼえにくい字がある。そのほか，日常生活に頻ぱんに使用されるもの，教科書に頻出度の高いもの等はおぼえやすく習慣づけられていくわけである。

1年終了時のテスト漢字50字に対して，実験学校と協力学校H校のテストの結果，80％以上の者が読める字を読みやすい字，50％以下の者が読めない字を読みにくい字，70％以上の者が書ける字を書きやすい字，30％以下の者が書けない字を書きにくい字として，整理してみると，下表の文字

実　験　学　校	H　　校
読みやすい字(80%, 上位から7番めまで)	読みやすい字(80%, 上位から6番めまで)
手 五	白
小 一 三 山	水 川 青
七 大	上 八 口 山
十 子 四 下 二	手 赤 木 子 人 中 花 六
日 木 六	日 生 七 目 左 一 火
中	小 大 三 本
九	
読みにくい字(50%, 下位から11番めまで)	読みにくい字(50%, 下位から6番めまで)
冬	国
色 字 早	耳 立 入 早 冬
国	色
青 空 足	足
赤	空
右 左	月
花	土
出	石
火	出，下
入	
立	

実験学校	H校
書きやすい字(70%,上位から8番めまで)	書きやすい字(70%,上位から8番めまで)
二 子 山 一	山
大	十 大 一 人 三 本
六	川 木 子 白
木 三	七 四 中 火 二
中 四 十	上 八 口
下	右 正 六 下 字
目 九 手	日 五 小 青
七	水 目 左 花 九
書きにくい字(30%,下位から10番めまで)	書きにくい字(30%,下位から4番めまで)
冬 早 色 赤	耳 足 色 早 冬
字 国 空 青 花	空 立 入 国
足	赤
虫	石 出 土
右	
左	
先	
入	
火	
立	

をあげることができる。

両校の文字の難易度を比較してみると，必ずしも一致していないことがわかる。H校で読みやすく，書きやすい川青花などは，実験学校では，読みにくく，書きにくい字に入っているという工合である。これには使用教科書との関係もあるから，ある一校の読字力・書字力の成績をもって，ただちに文字そのものの難易をいうことの早計さを物語るものであるが，すべてに共通のものを拾って行けば文字そのものの難易の問題も出てくる。

以下はT書，N書，G書，M書，C書の五種の教科書を使用している。実験・協力学校556人の漢字テストの結果（1年終了時）である。

28年度1年生 学年末テスト　漢字読字力正答率一覧表

実験・協力学校 { 男子 264 人 / 女子 292 人　計 556人

よみ	男	%	女	%	計	%	よみ	男	%	女	%	計	%
	人	%	人	%	人	%		人	%	人	%	人	%
手	249	94.3	284	97.3	533	95.9	人	213	80.7	245	83.9	458	82.4
山	249	94.3	281	96.3	530	95.3	火	207	78.4	244	83.6	451	81.1
上	245	92.8	273	93.5	518	93.2	小	195	73.9	252	86.3	447	80.4
中	240	90.9	278	95.2	518	93.2	正	203	76.9	240	82.2	443	79.7
木	239	90.5	275	94.2	514	92.4	石	201	76.1	236	80.8	437	78.6
下	241	91.3	272	93.2	513	92.3	出	201	76.1	236	80.8	437	78.6
日	240	90.9	267	91.5	507	91.2	月	182	68.9	246	84.3	428	77.0
一	233	88.3	273	93.5	506	91.0	生	193	73.1	226	77.4	419	75.4
六	235	89.0	269	92.2	504	90.6	入	197	74.6	221	75.7	418	75.2
目	230	87.1	273	93.5	503	90.5	耳	188	71.2	212	72.6	400	71.9
子	230	87.1	273	93.5	503	90.5	土	183	69.3	213	73.0	396	71.2
三	230	87.1	268	91.8	498	89.6	立	169	64.0	207	70.9	376	67.6
六	227	86.0	267	91.5	494	88.8	先	158	59.8	189	64.7	347	62.4
五	223	84.5	270	92.5	493	88.7	赤	158	59.8	179	61.3	337	60.6
七	223	84.5	268	91.8	491	88.3	花	141	53.4	190	65.1	331	59.5
水	236	89.4	255	87.4	491	88.3	右	143	54.2	176	60.3	319	57.4
川	239	90.5	251	86.0	490	88.1	左	138	52.3	164	56.2	302	54.3
白	225	85.2	264	90.4	489	87.9	青	143	54.2	155	53.1	298	53.6
二	227	86.0	258	88.4	485	87.2	足	138	52.3	158	54.1	296	53.2
四	221	83.7	259	88.7	480	86.3	色	123	46.6	150	51.4	273	49.1
本	223	84.5	247	84.6	470	84.5	字	117	44.3	153	52.4	270	48.6
八	212	80.3	257	88.0	469	84.4	空	123	46.6	140	48.0	263	47.3
十	217	82.2	250	85.6	467	84.0	早	99	37.5	116	39.7	215	38.7
九	215	81.4	249	85.3	464	83.5	冬	94	35.6	121	41.5	215	38.7
日	211	79.9	247	84.6	458	82.4	国	93	35.2	104	35.6	197	35.4

28年度1年生 学年末テスト 漢字書字力正答率一覧表

実施・験力学校 { 男子 272 人 / 女子 289 人 } 計 561人

かき	男	%	女	%	計	%	かき	男	%	女	%	計	%
	人	%	人	%	人	%		人	%	人	%	人	%
山	249	91.5	278	96.2	527	93.9	正	209	76.8	225	77.9	434	77.4
大	240	88.2	276	95.5	516	92.0	日	198	72.8	229	79.2	427	76.1
木	235	86.4	273	94.5	508	90.6	九	198	72.8	225	77.9	423	75.4
上	240	88.2	266	92.0	506	90.2	小	185	68.0	237	82.0	422	75.2
中	231	84.9	271	93.8	502	89.5	火	191	70.2	229	79.2	420	74.9
十	237	87.1	262	90.7	499	88.9	石	181	66.5	227	78.5	408	72.7
川	236	86.8	261	90.3	497	88.6	出	183	67.3	204	70.6	387	69.0
口	227	83.5	270	93.4	497	88.6	土	172	63.2	199	68.9	371	66.1
一	220	80.9	276	95.5	496	88.4	入	165	60.7	191	66.1	356	63.5
子	226	83.1	270	93.4	496	88.4	立	148	54.4	183	63.3	331	59.0
三	220	80.9	268	92.7	488	87.0	生	144	52.9	171	59.2	315	56.1
人	233	85.7	255	88.2	488	87.0	右	132	48.5	170	58.8	302	53.8
下	226	83.1	257	88.9	483	86.1	耳	146	53.7	154	53.3	300	53.5
目	223	82.0	258	89.3	481	85.7	左	115	42.3	147	50.9	262	46.7
水	225	82.7	255	88.2	480	85.6	花	90	33.1	118	40.8	208	37.1
白	215	79.0	252	87.2	467	83.2	赤	91	33.5	116	40.1	207	36.9
本	212	77.9	254	87.9	466	83.1	青	92	33.8	114	39.4	206	36.7
六	210	77.2	253	87.5	463	82.5	足	82	30.1	113	39.1	195	34.8
月	214	78.7	248	85.8	462	82.4	先	84	30.9	106	36.7	190	33.9
七	204	75.0	257	88.9	461	82.2	空	82	30.1	100	34.6	182	32.4
五	215	79.0	242	83.7	457	81.5	字	69	25.4	110	38.1	179	31.9
二	213	78.3	240	83.0	453	80.7	冬	51	18.8	82	28.4	133	23.7
四	206	75.7	244	84.5	450	80.2	色	55	20.2	77	26.6	132	23.5
手	205	75.4	245	84.8	450	80.9	早	47	17.3	78	27.0	125	22.3
八	200	73.5	239	82.7	439	78.3	国	52	19.1	65	22.5	117	20.9

これらによって，1年用漢字では，読み・書きともにおぼえやすい字として

〔一二三四五六七十上中下口目大山川木本子人白手水〕

を，又，おぼえにくい字として，

〔国冬早空字色足青左右花赤〕

などをあげることができよう。耳，生，立などはとくに書きにくい字として加えられようし，前項でみた誤答反応の比率の高い字は，一応，おぼえにくい字として登録されるべきであろう。

文字そのものから見た場合，画数の多寡，類似の字形の有無，意味内容の具体的なものと抽象的なもの，生活上の必要性の多寡などが，難易の条件である。

同じようにして，2年終了時の，文部省配当案110字についてみると，実験学校・協力学校に共通してよく読めた字（80%以上）は，

〔町女雨高村雪声田校草海空門早気石冬見糸春昇天年虫金前休林走出色外力土道方犬森之〕

であり，読みにくい字（60%以下）は，

〔王紙竹雲毎切所歩両近麦考来向波地〕

である。

書きやすい字（60%以上）は，

〔町女冬昇林学力門夕気糸元田土天出雪見声石外東雨家校道高方森思空草作〕

書きにくい字（30%以下）は，

〔馬両鳥歩黒来雲読麦切考合知半波向地〕

等である。

G　漢字習得と教科書及び学習指導との関係

1. 教科書

漢字習得の差に関しては，使用教科書との関係が一つの問題である。2年の学年末までに大体どこの教科書でも150字内外の漢字を提出しているが，その内容は必ずしも同一でない。実験・協力学校では，「あたらしいこくご」

(T書),「一・二年生のこくご」(G書),「こくごの本」(C書),「こくご」(N書),「しんこくご」(M書)の五種の教科書を使用している。五種の教科書の2年までの新出漢字数を調べてみると,

1～2年教科書の新出文字数

教科書名	一の上	一の中	一の下	二の上	二の中	二の下	計
T		16	18	37		53	124
G	10	23	16	58		51	158
C		8	38 (33)	59 (52)		62 (58)	167 (151)
N		20	20	28	41	52	161
M		24	43	36	36	33	172

( ) 内は書く漢字

のように,最低124字～最高172字で,48字の開きがある。

このうち,1・2年の低学年では漢字の提出数が一番少ない「あたらしいこくご」では,他の教科書に比べて読替の文字を多く出すようにしていたり,「こくごの本」では,読む漢字と書く漢字を区別して提出するなど,漢字の提出方法・順位等に,各種の教科書でいろいろの意図があるようである。しかもそれらの漢字は数の上だけでなく,内容の上でも必ずしも各学年に共通したものがあるわけではない。1年では各社とも漢数字をはじめ,字画が簡単で読みやすく書きやすいもの,漢字構成上,偏旁になる基本的なもの,使用頻度が高く,したがって早く漢字として教えておく方がよいもの,などを一応提出の基準としているようで,かなり同質のものが出されているが,それでも文章等に左右されてそこにかなりの差異が生じている。たとえば,「正」の字は四種とも1年の中か下で出ているのに,ある本(N書)では2年になっても提出されていなかったり,ある本(G書)で1年に出されている「戸」は他の二書(M・N書)では2年に,他の二書(T・C書)では,3年というようになっていて,1年で「森」(N書)が出,ある書(C書)では2年に出しているが,他の三書には2年末までは全然出ていない。

こういう傾向は,2年になると,いっそう著しくなる。「汽」は(T書の

み）二下で出て，他の四書では出ておらず，母・父（G書二上），茶・記（C・H書二上）物（C書二下），考・波（M書二中）弟・画・聞（N書二の3）もそれぞれ他の四書には出ていないといった状態である。

1・2年の教科書の新出漢字を五社別にしてみると，**巻末別表2**のようになる。1年で共通に提出された文字数は22字，2年のみで共通に提出された文字数は12字，1・2年間に提出された文字は34字，いわゆる読み漢字も入れると39字という状態である。（この数は音訓のちがいも含めてある）

実験・協力学校の被調査者が1・2年間に共通に学校で学習した文字は68字（73字）という少ない数であることがわかる。

したがって，ある教科書を1年の時使用し，2年には他の教科書を使用したために，学校では学習しなかったという文字も出てくるわけであり，ある途中の段階で限られた数の漢字のテストを使用教科書におかまいなく一律に広範囲に亘って実施した場合，そこに使用教科書による既習・未習の差というものが大きく影響することが考えられる。1年のテスト漢字50字及び2年の1学期・2学期末のテストにはなるべくこうした教科書から来る差を少くするように，各教科書に共通したものをえらぶようにしたが，それでも，やむをえない差が出て来た。2年の終末時には，文部省の学年配当案による2年の終末テスト（110字）をそのまま用いた。（この配当案も，各教科書に共通したものが選定されている）次の表は110字に対する使用教科書による既習・未習の差と読み書きテストの結果である。

学校名	使用教科書	既習	未習	学年末テスト結果全体		既習未習別による正答率	
Y	T書	62字	48字	よみ	63.5	既習	82.1
						未習	39.5
				かき	42.0	既	65.7
						未	8.7
N	G書 T書（2年）	67字	43字	よみ	75.2	既	88.0
						未	56.0
				かき	55.0	既	71.4
						未	30.5
M	N書	77	33	よみ	83.2	既	92.1
						未	62.5
				かき	63.0	既	78.5
						未	26.7
G	N書	77	33	よみ	65.8	既	74.6
						未	45.3
				かき	43.1	既	54.0
						未	17.7
H	C書	75	35	よみ	72.1	既	84.1
						未	46.4
				かき	44.7	既	55.6
						未	18.2
S	G書	88	22	よみ	75.7	既	85.8
						未	35.4
				かき	59.9	既	71.7
						未	12.6
D	M書	85	25	よみ	87.8	既	94.4
						未	65.5
				かき	76.2	既	82.1
						未	53.0
K	M書	85	25	よみ	80.8	既	91.1
						未	45.9
				かき	50.0	既	61.3
						未	11.0
既習字平均		77字		よみ	86.5%		
				かき	67.5%		
未習字平均		33字		よみ	49.6%		
				かき	22.3%		

（注） 既習・未習の中には，提出漢字でもテスト実施までに学習しなかったもの，使用教科書の変ったために生じた差なども含まれている。たとえば，N校の既習の67字には，1年の時（G書）で習わず，（T書）では1年で学習ずみの 見，犬 がへり，1年で（G書）習った，今，西，戸が，加えられているなど。

これによって，次のことが考察される。

(1) 概して既習文字の多い学校の方が，学年末のテスト全体として見た場合の結果がよい。

文部省の調査――「児童生徒の漢字を書く能力とその基準」――によれば，「新出漢字は，その数が少ければ，習得率が高くなるし，数が多くなれば，習得率が低くなる」として，新出漢字と習得率との関係を反比例的現象とみている。これは中・上学年に進んでから，前学年からの持ち越しの負担量が重なり，さらにそれに多くの新出漢字が加わって，受け入れの能力を越した場合の現象であろう。しかし，低学年の段階では，提出される漢字は基本的なもので，画数も少なく，一度新出されれば以後はくり返される可能性の多い，即ち提出回数も多くなる漢字であり，また，受け入れ能力もその余地がある場合であり，中学年の場合とでは，おのずから相異が生ずるように思われる。

(2) したがって，正答率の%は，同じ教科書を使用している学校に，大体，共通性が見出される。

(3) 低学年のうちに，150～170字ほどの漢字を提出しても，児童の漢字習得は一応可能であると推定される。今，既習文字に対する各校の習得率を見ると，読み最高94.4%から最低74.6%，書き最高82.1%から最低54.0%であり，平均読み 86.5%，書き 67.5%となっている。

「小学校学習指導要領（国語科編）」では，1年に30字，2年に100字2年末までに計130字の文字が読め，その大体が書けるとしているが，上の既習字の平均習得率から，それが大体，可能であることがわかる。

(4) しかし，一方に，既習文字が多い場合には，文字の習得率が多いかというと，必ずしもそうでない場合も出てくる。たとえば，既習文字の多さでは三位に属するG校（74.6%）は既習文字の最下位のY・N両校(82.1%，88.0%）よりも，既習文字の正答率が低く，既習文字習得率としては，最下位になっている。しかし，同じ教科書を使用しているM校は83.2%で，習得率が高い。

(5) ここに，学習指導法や，生徒の能力差や家庭環境などの教育的要因があ

わせて考えられるわけである。

これをさらに文字別に見ても，以上のことが，たしかめられよう。**巻末別表3**のように，正答率の上位・下位を占める文字が学校によって非常に近いものと，離れているものとがある。2年生として一応よくできるはずの文字は別として，ある学校（H）では90%の文字が，他校では0，もしくは10%内外の低いものであるという例が出ている。そのほか，読みで，

父・母	S	100%	他　校	50～70%台
牛	M	100	Y	30
玉	M	100	Y・H	20
考	K	100	Y・N・H	1～9
	D	90		
波	K・D	90	S・H	0
			Y・C	1～9

といったように，極端な差のあるのは必ず教科書との関係である。書き方のでも，「汽」という比較的字形がとりにくく，「気」などの他の字とまぎれやすい字でも，

汽	Y・C	80%	K	0
	N	60	S・M	10
			H	30

というように，教科書で学習した所と，未学習の所とでは，大きな差となって現れてくる。国語の教科書以外の読みもの等から漢字を習得することが少ない低学年の段階では当然である。

もちろん，同一の教科書を使用したから文字の習得もそのまま同一の結果をきたすとはいえないのは当然で，そこにはその学校のカリキュラムや，指導法や生徒の能力差個人差などが加わることはいうまでもない。未習文字に対する正答率の高低は，教科書にかかわりなく，漢字学習を特にとりあげて行っているか否かをあらわしていると思われるし，また，テスト実施の際の

条件（なるべく同じ条件であるようにしてはいたが）にも左右されるであろう。たとえば同一の教科書を使用しているYとC（N校は1年と2年の間に二種の教科書を使っているので厳密には比較しにくい），DとK両校の間にも，類似性と同時に，特異性もみられる。そしてここに指導法の必要性もあるわけである。しかし，全体の傾向としてみた時，低学年の段階では使用教科書の差というものがやはり大きく出ているのである。

（巻末別表3参照）

2. 学 習 指 導

同一の教科書を使用しながらも，そこに習得の差が生ずる。指導法の適否や技術が工夫・検討されなければならないのは当然である。

(1) 2年生の2学期の半ばごろ(29. 10. 16土)のある国語教室の時間の，新出漢字「東がわ」の読みの指導。教師が板書した「東がわ」を指名して読ませると，

男児	1	ヒ がわ	（文字能力中位）
女児	1	クルマ がわ	（ 〃 中位）
女児	2	オ がわ	（ 〃 やゝ上位）
男児	2	トウ がわ	（ 〃 上位）
男児	3	モト がわ	（ 〃 下位）
女児	3	ヒがヒがわ	（ 〃 中の下）
		（教師に注意されてじぶんで訂正する）	
		ヒがシがわ	

というように，種々な答を得た。教師は生徒の答を順次に板書して行き，6人めで正答を得たわけであるが，最後の「ヒガシ」を，「そうです」と肯定できたものは，5，6人ぐらいであった。それで「東」の読みは正しくはヒガシと読むということを一同に確認させて先に進んだが，次々と板書して正しい読みの形を分らせたことは，この場合効果があったと思われる。上掲の読

み誤りも，子供たちにとっては，それぞれ何等かのよりどころがあるのだから，このようにたくさんの誤答が出た場合（上位者の女児2も誤っている）は，それぞれ，類似の字形，車，本（ただし，これらは，既習の文字に限る）を比較にあげてその異同をのみこませたり，漢字の音訓の違いにふれて意味を正しく把握するようにさせたり，一字のもつ音の正しい読みや発音のしかたなどを説明したりして，納得のいくように指導するとよいと思われる。2年終了時のテストで，「東」の読みの成績は，正答率75.6で，それほど悪いものではなかったが，書きは78.3で読みをやや上回っている。（読みの準正答率は88.9%であった）このあたりに指導法の問題がからんでいると思われる。

書きの指導の際は「東」と「車」の字形の異同をとりあげて，「柬」と書かないように注意し，それぞれの字を板書させ，筆順の指導も合せて行い，印象に残る指導ぶりであった。書きのテストが，「東」という字形の複雑さにもかかわらず，かなりよい結果であったのは，この指導法にも原因があったように思われる。教師は生徒の犯しやすい誤りをあらかじめ知っておいて，こうした機会に，字形から，意味から，音の上からと，正しい方向へ向けるように絶えず注意したいものである。

(2) 筆順は意外に誤って書かれている。

子供は予想外にでたらめな筆順で書いている。

「車」の字の板書をさせられ，

最初の男児1（中位）は，　一 二 ㄇ 巨　まで書いて書けなくなりやめる。

次　女児1（上位）　一 二 亘 車　字形はできたが筆順が違う。

次　男児2（下位）　一 十 市 車 車　これも筆順が違う。

最後　男児3（上位）　が正しく書ける。

という状態であった。筆順の問題は難しくいうといろいろ問題があるようであるが，一応一般に正しいとして通用している筆順を低学年のうちに最初にその文字を習うときから書きならうようにしたいものである。一度誤っておぼえると，なかなか矯正しにくいものである。上述のような筆順では字形がとりにくく，書き誤るのも無理はない。正しい筆順は，やはりその文字を書くにふさわしい順位と書きやすさをもっているからである。

(3) 2年の3学期（2月）の国語教室での所見

近所の家，雪の道は明かるい，冬，書，動，話などの字を点線でかいた用紙を配り，これらの字をなぞって書かせ，さらに幾度か同一文字を書く練習をさせる。その用紙を先生に提出して見てもらうという作業が前の時間行われ，続いて次の時間に前の用紙を返してもらった。誤って書かれている場合には教師が朱で訂正しておく。直された人は正しく書くようにもう一度練習してごらんと言って，いくどが空書させてから，女児ＡＢＣＤの四人が板書するように命ぜられた。教師は女児たちの誤記を承知していて，めいめい訂正された字を書くように命じたが，女児Ａ（上位），女児Ｃ（やや上位）はそれぞれ家，道がなかなか書けない。家は家となり冢となり，道は辶が書けず，幾度か訂正されて，ようやく数回めに書けるようになった。両人とも文字力では上位の方であるのにこの状態で，字形の複雑でとりにくいものなど，個人的に朱筆で訂正して返し，めいめいそれによって誤りを正すという方法（この方法ももちろん必要であるが）は，低学年ではまだあまり効果が少なく，黒板などに大きく書いて皆でその誤りを気づかせるなどして，再確認をさせておかないと，教師の骨折りにもかかわらず，そのままに過ぎてしまうという例として観察された。

なお，集団的な空書も，それほど診断や治療に役立たないということがわかった。

(4) 作文やノート等に多く見られる漢字の使用法の誤りがある。

てにすでばった大とって見ると，
（ラケットの意）

子わいので，ぶらん子，みに子ないで，ある行ていきました。

十五円ん

四人んで

学校うに，　川は，　人と

2年の2学期でもこうした誤りはかなり見受けられる。これらの誤りは，大体能力の低いものに多いが，どうかすると犯しやすい誤りである。こうした誤りは［　］の中に漢字を書かせるテスト形式ではあまり発見できないが，作文やノートなどを点検して，子供たちの使用上の誤りを絶えず知っておくことが必要である。漢字が表意文字であるということをよく認識させ，送りがなについても適宜に指導することを忘れてはならない。

また教師は新字体と旧字体の区別，かなづかいの問題など一通りわきまえておかないと，不用意な誤りをして，誤った指導をしてしまうことになる。

習った文字はなるべく使用させるようにする。テスト用の文字であってはこまるので，使っているうちに身につくようにしたい。作文など，知っているはずの漢字を書く者は極めて少ない。男児A（優秀児）は文字力が読みも書きも高いが，それは一つには習った文字をよく書くように努めているようであり，反対に男児B（優秀児だが，2年末ごろにはやや劣る）は，才気があって教室などで問われるとよく知っているが，注意して使わない。ノートなどもかなり投げやりの方である。2年終了時のこの二人の漢字の読み書きの成績は，テスト文字110字中

	よみ	かき
A	106字	91字
B	86字	55字

という結果を示している。

Ⅷ 家庭読書の発達

A 調査の方法

1. 調査方法

昭和28年度，児童の入学前後の家庭における読書状態を調査した場合，各家庭に調査用紙を配布して記入してもらい，その結果，かなり信頼のおける資料が得られた。教室観察とにらみあわせて今期も昨年同様，「家庭の読書調査」の用紙（233ページ）を各家庭に配布し，父兄に記入してもらった。

調査項目の記入の仕方に，精粗の別はあったが，用紙の回収は100％の好率を示し，内容を検討した結果，どれもみなまじめな態度で回答されていることがわかった。

2. 調査期日　　昭和29年6月

3. 調査内容

28年度（入門期）の調査項目中，言語能力と関係の深かった項目を選定し，さらにこの段階で必要と思われる項目を加えた。すなわち，家庭における読書（教科書や直接学校のためにする勉強以外の読書）の

(1) 興味，(2) 読書時間，(3) 家人への質問の有無，(4) ひとりで読むか否か，(5) 音読か黙読か，(6) 読書態度上の変化（1年のころと比較して）(7) 読む本の種類・範囲，(8) 本の選定

などである。なお，付帯的に，家庭における読書と相まって，新聞・ラジオとの接近の度合も調査した。

新聞の調査内容

(1) 新聞への興味，関心の有無

(2) 新聞のどこを見るか

(3) 新聞を通しての文字への関心

(4) 子供新聞を読んでいるかどうか

ラジオの調査内容

(1) ラジオへの興味と関心

(2) 聴取番組の種類・傾向

(3) ラジオを通しての言語への関心

家庭の読書調査票

家庭の読書調査 (29年6月)

この調査は教科書や，直接に学校のためにする勉強以外の，絵本，雑誌，単行本などについての調査です。記入の方法は，「こたえ」の欄のあてはまるところに○印をつけ，書きこむところへは，なるべく，くわしく書き入れて下さい。

と い	こ た え	
1. お子さんは，他のあそびとくらべて本を読むのが好きですか。	とても好きで熱中して読む　好きな方である　あまり好きでない　きらいである　よくわからない	
2. 学校から帰って，学習のため以外に本を読む時間は，毎日平均してどのくらいですか。	分　位	
3. 本を読んでいて，わからないことがあれば，たずねますか。	はい　　いいえ	
4. お子さんは，本を読む時，ひとりで読みますか。	いつもひとりで読む　いつもだれかに読んでもらう　その時によって両方	
5. お子さんは，本を読む時に，声を出して読みますか。	声を出して読む　だまって読む　その時によって両方	
6. 1年生のころに比べて，本の読みかたの上で，何かかわったことがありますか。あったら，書いて下さい。	1. わからない字をきくことが多くなった。 2. じぶんで読むようになった。 3. 読んだことを話すようになった。 4. まんがを読むようになった。 5. まんがを読まなくなった。 6. 友だちから本をかりてくる事が多くなった。 7. 余りかりなくなった。 8. 前にくらべて，このごろは本を読むようになった。 9. 前は読んだが，このごろは本を読まなくなった。 10. その他※	※（書きこんで下さい）

とい	こたえ
7. お子さんは，最近（2か月間）どんな本を読んでいますか。借りた本でもよい。くわしく書いて下さい。（同じ書名のでもいろいろありますから，なるべく出版社あるいは著者名も書いて下さい） なお，そのなかでとくに好んで読んでいるものには※印をつけて下さい。	雑誌 雑誌の名 ／ 出版社の名 （雑誌について．次のうち，あっているものに○をつけて下さい）きまってとっている ときどき買う かりてくる 単行本 本の名 ／ 出版社の名・著者名 例，日本昔話 ／ 保育社 ※みつばちの国アリス ／ 保育社編集部 羽田書店 光吉夏弥
8. 本を買うときには，おもにだれが選びますか。	お子さん　うちの人　その時による
9. お子さんは，新聞を見ることがありますか。	はい　いいえ
10. お子さんは，新聞を見て，読んでほしがったり，話をききたがったりしますか。	はい　いいえ
11. お子さんは，おもに新聞のどこを見ますか。	写真　絵　広告　漫画　スポーツ　その他
12. お子さんは，新聞を見ながら，字の質問をすることがありますか。	はい　いいえ
13. お子さんは，子供新聞を見ることがありますか。	はい（新聞名 うちでとっている　かりる）いいえ
14. お子さんは，ラジオを聞きますか。	はい　いいえ
15. お子さんが，最近好んで聞いている番組はどれですか。	たとえば「三つの歌」「紅孔雀」といったようにくわしくかいて下さい。
16. お子さんは，ラジオを聞いて質問をすることがありますか。	はい　いいえ

B　どんな本を読んでいるか

読む本の種類と範囲についてみると，

（実験学校）

	冊数	男	女
1. 雑　誌	53	(26	27)
2. おとぎ話・童話	38	(17	21)
3. 漫　画	26	(18	8)
4. 伝　記	7	(3	4)
5. 探険・冒険記の類	2	(2	0)
6. 社会美談	2	(2	0)
7. 作　文	1	(0	1)

であって，１年のころと比べると，最近２か月間によんだ本として父兄の書き出してくれた書物の冊数は減っている。しかし読書態度の項目では，一様に，１年のころよりも多く読書するようになった，積極的になった，あるいは，他から本を借りて読むことが多くなったと，回答されているから，これらの冊数は，たまたま児童の家にあったものであるとみなされ，児童が読む書物の数は実際はさらに上回るものと思われる。

目立つ現象としては，入門期に第一位をしめていたおとぎ話・童話の類が二位となり，逆に雑誌が一位になったこと，漫画は相変らず喜び迎えられ，入門期の絵を中心とした理科・社会科等に関するごく初歩的な知識ものは全く影をひそめ，探検・冒険・伝記・社会美談などが量的にはまだ少いが，徐々に読まれるようになってきていることである。

なお，２．おとぎ話・童話では，世界名作童話全集，講談社の絵本，幼年生文庫，一年生文庫，二年生文庫を全部揃えて愛読しているという特殊な児童（身体障害児だが，読書力は高い）がいて，これらの数をあげればずっと量的に増加するわけだが，特殊のものと考えられるので，それは計算に入れなかった。

漫画は相変らず，男子の方が多く読んでいる。

それらの書名を具体的にあげてみる。

1. おとぎ話・童話（実験学校）

書名	男	女	書名	男	女
かちかち山	1		シンデレラ姫		2
日本昔話		1	ピーターパン	1	2
はごろも		1	ああ無情	1	
安寿姫と厨子王丸		2	ヘンデルとグレーテル	1	
白菊物語		1	小指姫		1
かぐやひめ		1	小公女		1
ひらがな童話集		1	家なき子		1
アラビアンナイト		1	白雪姫		1
アルプスの少女		1	しあわせの王子	1	
イソップ童話	1	1	ロビンフッド	1	
イソップ（1～3）	1	2	中国昔話		1
グリム童話		3	まほうの梨の木	1	
ぐりむ	1		世界名作童話全集		1
アンデルセン童話		1	講談社の絵本 幼年生 文庫 全部	1	
アンデルセン	1				
あんでるせん	1		一年生 〃		
童話集（アンデルセン）	1		二年生 〃		

日本のものがわずかに数種にすぎないのに外国のものはその4倍弱という率を示している。なお，入門期の浦島太郎・舌切り雀・花さかじじいなどは，もはや読書興味の圏外にあり，外国の童話も，入門期のころから比べて比較的上級向きになっている。

男子と女子とではその好む童話の種類にかなりの差が認められること，それぞれ自分に近い性のものが主人公や主題になっているものを好んで読む傾向が，入門期にすでに見られたが，それがいっそうはっきりしてきていることが上表によって知られよう。

なお，入門期のころは，農村地方のH校では，東京の実験学校に比べて，読書環境にめぐまれていないことが目立ち，童話類はみんなの興味の対象とならなかったが，こんどの調査では次表のように多くなり，雑誌の次位（入門期は第4位）になっている。

書名	男	女	計	書名	男	女	計
いなばの白兎		1	1	こじき王子	1		1
ものぐさ太郎		2	2	世界名作童話集	2		2
安寿と厨子王	1	4	5	ガリバー旅行記	1		1
一休さん		1	1				
				講談社の絵本		2	2
イソップ童話		2	2				
白雪姫		2	2	計	7	18	25

2. 漫　画

(実験学校)

	書名	男	女	計		書名	男	女	計
動物	三匹の小ぶた (デズニー)		1	1		芭蕉さん	1		1
	うさぎのおじいさん (デズニー)		1	1		西郷さん	1		1
	小　計		2	2		小　計	4		4
生活	ヨウちゃん	1		1	冒険探検	少年王者	1		1
	くりちゃん	1		1		少年ケニヤ	1		1
	サザエさん	3	1	4		凸凹漂流記	1		1
	ワカメとカツオ	1		1		小　計	3		3
	藤先生	2		2	時代	弥次喜多	1		1
	いがぐり君	1		1		岩見重太郎	1		1
	びっくりくろちゃん		1	1		あまから姫		1	1
	小　計	9	2	11		脱線ご城下祭		1	1
						小　計	2	2	4
名作	世界名作長篇マンガ	1		1	その他	漫画集		2	2
	ノートルダムの怪人	1		1	総計		18	8	26

この期の子供たちの興味の対象として漫画はますます大きな存在となっている。しかし1年のころと比較すると，漫画の主題となるものが異ってきている。

すなわち，漫画分類の方からいって，1年の時に多かった動物漫画が減って，生活漫画や時代漫画が増加してきたことで，これは児童の読書の興味・内容が成長してきたことを物語っている。動物が活躍するからおもしろいと

いうのは，動物が人間と同じ行動をするというアニミズムの視覚化に興味があるのであって，自己中心的な空想がこれによって満足されればよいのである。

生活漫画のように，現実の人物の行動におかしみを感ずるようになってきている点が指摘されよう。もちろんこの段階では，おとながそれらから批判的に受ける笑いとは大いに性質を異にした興味である。だから，同時に荒唐無稽のさむらいの行動，それに伴なう成功や失敗を喜んだり，自分たちの空想を十分に満足させてくれる冒険漫画にも大いに心をひかれているのである。なお，女子に比べて男子の方が漫画を愛読する現象も前年と同じである。

3. 伝記類その他

1年のころと比較して，伝記類のものが多少ふえてき，その種類も広くなっている。

（実験学校）

書　　名	男	女	計
紫式部		1	1
りょうかんさん	1		1
高峰譲吉	1		1
野口英世		1	1
リンカーン		1	1
ナイチンゲール	1	1	2

入門期的な一つの教養の書であった，理科・社会科等に関するいわゆる絵入り知識もの（例，「日本一づくし」「かずのほん」）は，影をひそめている。もっとも，これらの知識ものは，入門期では親が特に買って与えたために数量の上でも多かったのであろうが，あの種の並列的な事物の紹介や説明は，この期では，すでに卒業したものとみうけられる。しかし，これらの知識的要求はだんだん増加する一方である。児童はその欲求を雑誌によってみたしているようである。この現象は入門期に，他の書物に比べて知識ものが圧倒的に多かったH校にも見られ，わずかに世界の動物　1にすぎない。

4. 雑　　誌

（実験学校）

雑誌名	男(人)	毎月かう	時々かう	かりる	無答	女(人)	毎月かう	時々かう	かりる	無答	男女計(人)
小学二年生	4	3	0.5	0.5		8	4	2		2	12
二年ブック	1	1				2	1	1			3
幼年クラブ	2	1	1			2	1	1			4
こどもブック	1	1									1
キンダーブック	2	1			1	1				1	3
小学三年生						1		0.5	0.5		1
よい子三年生	1		1								1
少女ブック						1		0.5	0.5		1
少年	2	2									2
少女						4		1.5	0.5	2	4
少女の友						1				1	1
譚海	1		1								1
おもしろブック	4	1	0.5	1 0.5	1						4
面白クラブ						1				1	1
漫画王	2		0.5	0.5	1	1		0.5	0.5		3
漫画少年	1			1							1
冒険王	2			2							2
宇宙少年	1		1								1
童話の国						1		1			1
アサヒグラフ	1	1									1
（二年の学習）	(1	1				4		1		3	5)

雑誌については後に述べるので，実験学校についてだけみると，1年の時より，雑誌の種類が多種になったこと，学年相当の雑誌のほかに，他人から借りて興味本位に部分的に読むらしい上級生むきの娯楽雑誌がかなりふえていることである。しかも小学二年生，二年ブック，幼年クラブといった学年相応のものは毎月家庭で購入されるものが多いが，貸し借りによって，父兄の目にふれないで，読まれているこれらの雑誌の数は実際にはもっと多いのではあるまいか。

それに比べて，農村のH校では，娯楽向きの雑誌が供給されないのか，比較的学年相応の雑誌が着実に読まれているようである。

以上のように，入門期よりは，その読書範囲・種類・性質等にわたって変化発達のあることが認められる。それでは，子供たちは，これらの本をど ▲

(H 校)

雑誌名	男(人)	毎月かう	時々かう	かりる	無答	女(人)	毎月かう	時々かう	かりる	無答	男女計(人)
小学二年生	4	1	1	2		8	3	2	1	2	12
幼年クラブ	2	2				1				1	3
二年ブック	1	1									1
小学三年生	1			1							1
少年クラブ	1	1									1
子供家の光	3	2			1						3
おもしろブック						1			1		1

▲ う読んでいるのであろうか。

C どう読んでいるか

1. 読書態度の変化

「1年のころに比べて，本の読みかたの上で，何か変ったことがありますか。あったら書いて下さい。」という問いに対して，次の答を得た。

読書態度の変化 (実験学校)

質問に対する反応	男(18人)	女(28人)	計(46人)	%
① わからない字をきく	11	14	25	54.3
② じぶんで読む	13	14	27	58.7
③ 読んだことを話す	9	10	19	41.3
④ まんがを読む	9	16	25	54.3
⑤ まんがを読まなくなった	1	0	1	2.1
⑥ 友だちから本をかりてくる	6	9	15	32.6
⑦ 友だちから本をあまりかりなくなった	0	2	2	4.3
⑧ 前より本を読む	9	13	22	47.8
⑨ 前より読まなくなった	0	1	1	2.1

なお，父兄から，次のような報告もあった。

1年の時と変らない，すらすら早く読めるようになった，むずかしいことばをたずねる，何どもくり返して読むようになったものが，それぞれ2名 (4.3%)。理解力がました，読んだことを絵に書く，気をつけて読む，熱中して読む，読む時間が長くなった，年令以上の本を読むようになった，ある本は手当り次第何でも読む，判じものやクイズものを好む，1年の時は本を買って与えても読まなかったが，読むようになった，意味がわかりにくいのであきる，早く読むが理解しにくいなど各1名 (2.1%)。

自分で読むものが多くなり，かつ，積極的な読書態度になってきたことが見受けられる。1年の時は，「わからない字をたずねるようになった」のは，20.6％（男18.1％，女23.1％）であったが，2年になると54.3％に増加し，さらに「読んだことを話す」のは41.3％というふうに積極的になっている。

したがって，「前より読まなくなった」2.1％，「1年の時と変らない」4.3％という消極的態度はごくわずかで，（このうち，1年の時と変らないという男児1人は，1年の時に他の児童よりも積極的に読んでいた子であり，他の1人は，他の調査事項にすべてN（無反応）であるので，この数字にあまり意味が認められない。）以前より読んでいると認めているものが多く，さらにその状態を付記してくれたほどである。本を読んでいて，わからないことがあればたずねるかどうかをみると，（実験学校）

	男	女	計
質問する	88.2%	85.7%	86.7%
質問しない	11.8	14.3	13.3

で，文字やことばの分らぬ箇所だけでなく，自分で理解しようとする態度がついてきたことがわかる。この傾向は実験学校ばかりでなく，他の協力学校，（純農村2校，中都市3校）についても同様で，C 校の76.1％を除いてはすべて80％を上回っている。

(1) 自分で読むようになる。

1年の入門期の時は，

ひとりで読んだり読んでもらったり	58.1%
いつもひとりで読む	23.8%
いつも読んでもらう	18.2%

という数で，ひとりで読んだり，家人に読んでもらったりが半分以上を占め，また読書の形態からいっても，この形態が理想的であった。しかし2年になると，以上のように，読書の興味もまし，能力もついてきているためか，

ひとりで読む	53.3%	男 58.3%	女 50 %
両方（ひとりで読んだり／読んでもらったり）	46.7	41.2	50.0
読んでもらう	0	0	0

となって，一人で読むものが多くなり，いつも読んでもらう者

は皆無になっている。

ひとりで読む者を分析してみると，大体において，言語能力の高いもの，文字力・読解力ともにすぐれたものであって，入門期のころとは逆な現象になっている。このころから，読書への自律性ができ，だんだんとひとりだちで読書する力がついてくることが認められる。このことは，協力学校の報告によっても裏づけられる。

		H			S			C			O			F		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
ひとりで読むか読まないか	ひとりで読む	40.0	88.2	65.6	52.0	51.9	51.9	76.0	76.2	76.1	46.2	59.1	52.1	71.4	70.8	71.1
	両方	46.7	11.8	28.4	40.0	37.0	38.5	16.0	19.0	17.4	42.3	40.9	41.7	28.6	20.8	24.5
	読んでもらう	6.7	0	3.1	4.0	3.7	3.8	4.0	0	2.2	0	0	0	0	4.2	2.2
	無答	6.6	0	3.1	4.0	7.4	5.8	4.0	4.8	4.4	11.5	0	6.2	0	4.2	2.2

ただ，実験学校では，他校に比べて，女子の方が，ひとりで読むものが少なく，したがって「両方」と答えたものが多いのは，この学級では女子の方が文字力とくに漢字力が劣っていたことと，関連がありそうに思われる。

2. 読書の興味と時間

前項の読書態度の変化でも，入門期と比べて読書意欲がさかんになってきたのを見たが，それを裏づけるものが，読書の興味と時間とである。

他の遊びと本を読むことと比べた場合，

（実験学校）

読書の興味	男 %	女 %	計 %
本を読むことが非常にすき	17.7	14.3	15.6
すきな方	58.8	57.1	57.8
あまり好きでない	23.5	21.4	22.2
よくわからない	0	0	0
きらいである	0	0	0
無答	0	7.2	4.4

と答えているところからみて，他の遊びよりも本を読むことのおもしろさ，たのしさを知っているものが73%もいることがわかる。したがって読書時間も，

学校から帰って，学習のため以外に本を読む時間は毎日平均して，

毎日の平均読書時間	男 %	女 %	計 %
60 分以上	11.8	3.6	6.1
60 分	23.5	21.4	22.2
30 分以上	35.3	57.1	48.9
20 分前後	17.7	10.6	13.3
10 分以下	11.7	3.6	6.7
無　答	0	3.6	2.2

であり，毎日平均して30分以上本を読んでいる者が77%の多きにのぼっている。

（註）① 阪本一郎氏が「読書の心理」で紹介している，波多野完治氏調査―昭和16年群馬県の学童の調査―によると，最も多く読書する付属小学校の5年生の女児で，1か月に平均約11時間半（690分）である。

② 読書指導のさかんな成蹊学園の児童1～6年の平均読書時間では30分ぐらい37.8%，1時間ぐらい36.8%という数字が出ている。（昭和25年読書週間中の調査――成蹊学園著「読書指導の実践」による）

入門期のころの一日の生活における読書の習慣の度合は，たまに読んでいる状態が53.5%であったが，1年間を経過したこのごろでは読書習慣がこのように上昇していることがわかる。これは反面に，かれらの読書能力がかなりついてきたことを物語るもので，事実読書時間の少ない児童は，言語能力も劣っているものが多い。特に読書を好む子供は別にして，男子に比べて女子の方が読書の時間の多いことは，1年の時と同様である。

3. 本の選択

入門期の調査では，本の選択は家人の手に任せられていた。

（実験学校）

本の選択	1年			2年		
	男 %	女 %	平均 %	男 %	女 %	平均 %
うちの人	61.9	58.3	60.0	52.9	39.3	44.4
その時によって両方	19.0	33.3	26.2	35.3	35.7	35.6
子供	14.3	4.2	9.3	11.8	14.3	13.3
無答	4.8	4.2	4.5	0	10.7	6.7

2年になっても，本の選択はまだかなり家人によってなされていて，子供の

自主的な立場からは選択されていない向きが多い。ただわずかに選択に対する子供の発言がある程度親たちに認められるという段階である。子供の図書の選択能力は，低学年のこの期の段階では，まだ早いようである。そして他の協力学校でも同じ傾向を示している。

4. 音読と黙読

今までみてきたように，量的にも質的にも読書に対する習熟の度合が深められてきつつあることがわかった。これらはいわば，読書習慣形成期とも名づけられる時期に当っている。いままでの調査では，このごろは音読がとれて唇読にうつり，その唇読もほとんどとれて黙読に移る時期とされているが，家庭での自由読みの場合はどうであろうか。

「お子さんは，本を読む時，声を出して読みますか」の問に対して，次のような結果を得た。2年生の初期ではまだ音読の域は脱しきれず，両方混合の状態が最も多いという段階とみられる。この調査結果では，男子の方が黙読に移る時期が早いが，これはこの学校では，男子の方が能力があるので，このケースだけでは，早急にいうことができないが，女子の方が文字力や，黙読理解力の高い他の協力学校でも，1校を除いては，すべて男子の方が，黙読が多くなっている。

	男 %	女 %	平均 %
黙読	52.9	17.9	31.1
両方	29.4	50.9	42.2
音読	17.7	25.0	22.2
無答	0	7.1	4.5

	学校	Y			H			S			C			O		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
		%														
音読	黙読	52.9	17.9	31.1	13.3	5.9	9.3	16.0	14.8	15.4	44.0	9.5	28.3	50.0	22.7	37.5
黙読	両方	29.4	50.0	42.2	33.3	52.9	43.8	44.0	25.9	34.6	32.0	38.1	34.8	26.9	31.8	29.2
	音読	17.7	25.0	22.2	46.7	41.2	43.8	40.0	55.6	48.1	24.0	42.9	32.6	23.1	45.5	33.3
	無答	0	7.1	4.5	6.7	0	3.1	0	3.7	1.9	0	9.5	4.3	0	0	0

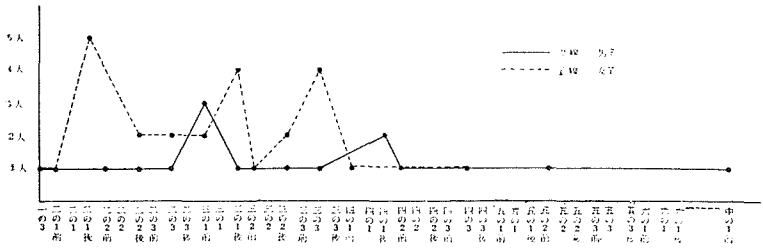
F		
男	女	計
4.8	8.3	6.7
28.6	33.3	31.1
61.9	54.2	57.8
4.7	4.2	4.4

実験学校で，2年の1学期末（7月12日）に黙読理解テスト（集団）を実施した際，黙読せよと指示したにもかかわらずテスト中音読したものがおり，その際の読みの態度

の記録は，下表のごとくで，その時の黙読理解テストの得点は，男子平均5.5点，女子平均4.8点という成績であった。これらのことから，一文字ごとのテストの得点は女子の方が高くても，（実験学校の場合のみは男子の方がよい），読書態度なかんずく，黙読の習慣は男子の方が早くつくと推定してもよさそうに思われる。これについての研究や調査はあまり見受けられないので，その原因がどこにあるかは，今後の問題として残される。実験学校の場合では，女子の方がひとりでよむ場合が少なく，家人といっしょに読む者が多く，そういう場合の音読の影響が予想される。女子の方が聴覚を通して聞く音感に心理的な快味を感ずるのか，あるいは，内容よりも読書そのものをたのしむのか，いろいろの理由が考えられる。

	男 (16人)	女 (28人)	計 (44人)
指示どおり黙読できたもの	12 18.7%	19 67.8%	31 70.4%
はじめ音読したが注意されてやめたもの	3 18.7%	0	3 6.8%
注意されても音読していたもの	1 6.3%	9 32.2%	10 22.8%

なお，実験学校で，２年の２学期（10月20日）に実施した読書テスト（阪本一郎氏「基礎読書力診断テスト」）による読書学年を男女別にグラフにして



見ると，女子は相当学年の前後に山があるのに対し，男子は相当学年の後に山がさり，さらに上にまで伸びている。

この場合，男女の人数（男16人，女28人）に差があるので，比較に不都合だが，読書学年が相対的に男子の方が高いことからも，今回の黙読と音読の調査の結果がある程度実証できるのではあるまいかと思われる。

D 読書と地域差

今まで，実験学校を中心にして，家庭読書の実態を見てきたが，実験学校が東京であるところから，そこに現われたものが，都会地だけに限られた特殊のものか，地方の他の地域ではどうなっているかを見るために，協力学校中，農山村のH校（神奈川県），S校（兵庫県），中小都市のC校（滋賀県），O校（栃木県），F校（岩手県）に分けて同じ調査を行った。

1. 地域差のあるものとないもの

(1) 雑誌と単行本

地域差のとくに見られないものは，雑誌を読むことである。東京の実験学校では雑誌を読むものが64.4％であるのに対し，H校・S校の56.3％，

（実験学校・協力学校） 雑誌・単行本接近状況一覧表

（ ）内の数字は平均をあらわす

	学校	Y				H				S			
		男(17)	女(28)	計(45)	%	男(15)	女(17)	計(32)	%	男(25)	女(27)	計(52)	%
雑誌	読む	14	15	29	64.4	10	8	18	56.3	14	19	33	63.5
	読まない	3	13	16	35.6	5	9	14	43.8	11	8	19	36.5
	冊数（延）	25	25	50	(1.1)	12	10	22	(0.7)	20	23	43	(0.8)
	毎月買う	7	6	13	28.9	6	3	9	28.1	6	6	12	23.1
	時々買う	6	8	14	31.1	2	5	7	21.9	9	14	23	44.2
	借りる	3	3	6	13.3	3	9	12	37.5	6	2	8	15.4
単行本	読む	12	17	29	64.4	5	11	16	50.0	6	4	10	19.2
	読まない	5	11	16	35.6	10	6	16	50.0	19	23	42	80.8
	冊数（延）	35	30	65	(1.4)	11	19	30	(0.9)	9	4	13	(0.3)
	漫画	18	8	26	40.0	3	5	8	26.7	6	2	8	61.5
	童話	17	22	39	60.0	8	14	22	73.3	3	2	5	38.5

		C				O				F			
		男(25)	女(21)	計(46)	%	男(26)	女(22)	計(48)	%	男(21)	女(24)	計(45)	%
雑誌	読む	18	17	35	76.1	19	16	35	72.9	13	18	31	68.9
	読まない	7	4	11	23.9	7	6	13	27.1	8	6	14	31.1
	冊数(延)	30	28	58	(1.3)	25	19	44	(0.9)	16	25	41	(0.9)
	毎月買う	10	14	24	52.2	12	8	20	41.7	3	5	8	17.8
	時々買う	6	3	9	19.6	10	8	18	37.5	6	12	18	40.0
	借りる	1	1	2	4.4	7	6	13	27.1	3	5	8	17.8
単行本	読む	12	9	21	45.7	14	11	25	52.1	2	3	5	11.1
	読まない	13	12	25	54.4	12	11	23	47.9	19	21	40	88.9
	冊数(延)	25	18	43	(0.9)	32	26	58	(1.3)	4	4	8	(0.2)
	漫画	10	3	13	30.2	10	4	14	24.2	3	2	5	62.5
	童話	15	15	30	69.8	22	22	44	75.8	1	2	3	37.5

63.5%を除けば，他はいずれも東京を越して，C校あたりになると，76.1%という数字を示している。雑誌の閲読状態には地域の差はあまりみられず，所によっては，中央の大都市より多く読まれていることがわかる。したがって月ぎめの購読者も多く，C校・D校など雑誌の購読率はかなり高くなっている。中都市に比べると農山村はやはり低い。

それに対して，単行本の方は，地域差がはっきり見られる。東京の64.4%が筆頭で，地方へ行くとわずかに11.1%というのがある。これは一つには，地方における単行本の入手方法に難路があることにもよろうし，一冊でいろいろの要求がみたされる雑誌の方に，大きな魅力を感ずるからでもあろう。人から借りて読む率も総体的に地方の方が高くなっている。

雑誌と単行本の地域差は数量的にばかりでなく内容的にも現われている。

単行本では，C校やO校などの中都市では読まれている書物の種類など東京と大差はないが，農山村になると寥々たるものになる。（前掲H校の表参照）

低学年から読書指導をしている学校では，読書量も質も好成績を示している。

雑誌には，単行本ほどの地域差はみられない。出版社の差はあっても，大

（協力学校）　単行本一覧表

C　校				O　校			
書　名	男人	女人	計	書　名	男人	女人	計
かぐや姫		1	1	一寸法師		1	1
シンデレラ姫		1	1	ブンブク茶釜		1	1
小公女		2	2	牛若丸	1		1
チルチルミチル	1		1	石童丸		1	1
イワンの馬鹿	1		1	白菊姫		1	1
ジヤックと豆の木	1		1	日本昔話	1		1
白雪姫		1	1	孫悟空	2		2
ピノキオ	1	1	2	イソップ物語	3		3
みつばちマーヤの冒険		1	1	アリババ物語	1		1
不思議な国のアリス	1		1	アラジンのランプ		1	1
愛の学校	1		1	ピノキオ		2	2
きつねのさいばん		1	1	シンデレラ姫	1		1
ぞうととらとさる	1		1	おやゆび姫		1	1
シンドバッドの冒険	1		1	白雪姫		1	1
不思議な国の冒険	1		1	乞食王子		1	1
たのしい童話（平塚武二）	1		1	家なき子	1		1
世界名作童話集	1	1	2	ロビンフッド		1	1
世界おとぎ話全集（河出）		1	1	母をたずねて三千里		1	1
世界童話全集(カバヤ文庫)	1		1	少女ケテイ物語	1		1
児童文庫		1	1	ゆめのはしご	1		1
童話	1		1	ひきがえるになった娘	2		2
				ジャングルブック	1		1
親らんさま	1		1	ビンの中の小鬼		1	1
				不思議の国の冒険		2	2
のりもの美談	1		1	たのしい童話	1		1
宝島（マンガ）	1		1	ガリバー旅行記		1	1
魔法の宝島（マンガ）	1		1				
少年探偵団		1	1	エジソン		1	1
海ぼうず	1		1	リンカーン物語	2		2
サザエサン	1		1	陶工柿右衛門		1	1
中将姫（マンガ）	1		1				
世界名作マンガ集		1	1	図鑑など		1	1
まんが	1		1	花づくし	1		1

O校 書名	男人	女人	計人
サザエさん		1	1
あんこひめ		1	1
あめやのチョコちゃん		1	1
グリム童話マンガ	1		1
戦う狼少年	1		1
塚原卜伝マンガ		1	1
鞍馬天狗	1		1
誉れの堪忍袋	1		1
戦国珍勇伝	1		1
武蔵坊弁慶	1		1
雀野名槍伝	1		1
まんが	4	1	5
カバヤ文庫マンガ	1		1
F校			
おとぎの国	1		1
かぐや姫		1	1
イソップ絵物語		1	1

F校 書名	男人	女人	計人
デンスケ	1		1
ゆかいな六人組	1		1
幽霊ホテル	1		1
子カバのカッちゃん			
S校			
童話絵本	1		1
イソップ物語		1	1
レ・ミゼラブル	1		1
童話		1	1
少年漂流記	1		1
まんがたけとり物語	1		1
まんが太平記	1		1
まんが	2	1	3
サザエさん		1	1

2年生実験学校・協力学校読書調査(雑誌)一覧表 (昭和29年6月調)

学校	雑誌名	小学二年生	二年の学習	二年ブック	こどもクラブ	幼年クラブ	小学三年生	よい子三年生	少年	少女	少女ブック	少女の友	キンダーブック	譚海	宇宙少年	おもしろブック
Y	男 17人	4	1	1	1	2	0	1	2	0	0	0	1	1	1	4
	女 28	8	4	2	0	2	1	0	0	3	1	1	1	0	0	0
	計 45	12	5	3	1	4	1	1	2	3	1	1	2	1	1	4
H	男 15	4		1		2	1									0
	女 17	8		0		1	0									1
	計 32	12		1		3	1									1
S	男 25	13	1			0	0		2			0				1
	女 27	17	0			2	1		0			2				1
	計 52	30	1			2	1		2			2				2
C	男 25	13	2	0		2				0	0					3
	女 21	9	7	1		0				2	3					2
	計 46	22	9	1		2				2	3					5
O	男 26	3	15	0					1		0					1
	女 22	3	12	1					0		1					1
	計 48	6	27	1					1		1					2
F	男 21	6	3	1		2						1				
	女 24	11	3	2		2						1				
	計 45	17	6	3		4						2				

学校	雑誌名	漫画王	漫画少年	冒険王	おもしろクラブ	少年クラブ	アサヒグラフ	子供家の光	銀の鈴	幼年ブック	少年画報	まんがブック	太陽少年	幼稚園ブック	小学一年生	少女クラブ	少年王者	痛快ブック	少年ブック	よい子二年生	ひかりのくに
Y	男 17人	2	1	2	0		1														
	女 28	1	0	0	1		0														
	計 45	3	1	2	1		1														
H	男 15					1		3													
	女 17					0		0													
	計 32					1		3													
S	男 25					2		1			0										1
	女 27					0		0			1										0
	計 52					2		1			1										1
C	男 25	1		1					2	1	2	1	1	1							
	女 21	0		0					4	0	0	0	0	0							
	計 46	1		1					6	1	2	1	1	1							
O	男 26		1						0	2							1	1	1	0	
	女 22		0						2	0							0	0	0	1	
	計 48		1						2	2							1	1	1	1	
F	男 21							1		1					1	0					
	女 24							0		2					0	1					
	計 45							1		3					1	1					

体において似通っている。ただ，都会地の子供の方が，読む雑誌がバラエティに富んでい，自分の相応学年より高いもの，娯楽本位の読みものにも相当接近していることがわかる。

学校の勉強のためにする読書以外のものという条件にもかかわらず，「二年の学習」がかなりあげられたのは，家人の一般の雑誌観に相当学習性を認めていて，その結果学習雑誌と娯楽雑誌のけじめがつかないからであろうか。事実低学年の雑誌の中には，学習性の方が多く認められるものがある。

(2) 読む態度その他

読書の興味の上にもある程度の差が認められる。あまり興味を持たないと

実験・協力学校の家庭読書調査（興味・時間・態度）

		Y			H			S		
		男 (17) 人	女 (28)	計 (45)	男 (15)	女 (17)	計 (32)	男 (25)	女 (27)	計 (52)
		%	%	%	%	%	%	%	%	%
読書の興味	非常にすき	17.7	14.3	15.6	6.7	11.8	9.4	16.0	11.1	13.5
	すきでもきらいでもない	58.8	57.1	57.8	40.0	52.9	46.9	36.0	48.2	42.3
	あまりすきでなくわからない	23.5	21.4	22.2	26.7	29.4	28.1	24.0	25.9	25.0
	よきらいである	0	0	0	0	5.9	3.1	8.0	7.4	7.7
	無答	0	0	0	20.0	0	9.4	4.0	0	1.9
		0	7·2	4.4	6.6	0	3.1	12.0	7.4	9.6
読書時間	60分以上	11.8	3.6	6.7	0	17.7	9.3	4.0	7.4	5.8
	60分上下	23.5	21.4	22.2	13.3	23.5	18.8	12.0	18.5	15.4
	30分以上	35.3	57.1	48.9	26.7	23.5	25.0	52.0	40.8	46.1
	20分前後	17.7	10.6	13.3	46.7	5.9	25.0	4.0	3.7	3.8
	10分以下	11.7	3.6	6.7	13.3	23.5	18.8	0	14.8	7.7
	無答	0	3.6	2.2	0	5.9	3.1	28.0	14.8	21.2
有質問の無	質問する	88.2	85.7	86.7	80.0	94.1	87.5	92.0	77.8	84.6
	質問しない	11.8	14.3	13.3	6.7	5.9	6.3	8.0	18.5	13.5
	無答	0	0	0	13.3	0	6.2	0	3.7	1.9
読まない	ひとりで読む	58.8	50.0	53.3	40.0	88.2	65.6	52.0	51.9	51.9
	両方	41.2	50.0	46.7	46.7	11.8	28.4	40.0	37.0	38.5
	ひとりで読んでもらう	0	0	0	6.7	0	3.1	4.0	3·7	3.8
	無答	0	0	0	6.6	0	3.1	4.0	4.7	5.8

		C			O			F		
		男 (25) 人	女 (21)	計 (46)	男 (26)	女 (22)	計 (48)	男 (21)	女 (24)	計 (45)
		%	%	%	%	%	%	%	%	%
読書の興味	非常にすき	8.0	4·7	6.5	11.5	18.2	14.6	0	0	0
	すきでもきらいでもない	52.0	61.9	56.5	57.7	63.6	60.4	28.6	45.8	37.8
	あまりすきでなくわからない	36.0	19.0	28.2	26.9	18.2	22.9	61.9	50.0	55.6
	よきらいである	4.0	4.8	4.4	0	0	0	0	4.2	2.2
	無答	0	4.8	2.2	0	0	0	0	0	0
		0	4.8	2.2	3.9	0	2.1	9.5	0	4.4
読書時間	60分以上	12.0	14.3	13.0	7.8	9.0	8.3	0	0	0
	60分上下	20.0	19.0	19.6	26.9	31.8	29.2	9·5	12.5	11.1
	30分以上	28.0	33.3	30.4	26.9	50.0	37.5	33.3	29.2	31.1
	20分前後	8.0	28.6	17.4	15.4	4.6	10.4	23.8	25.0	24.5
	10分以下	4.0	0	2.2	11.5	0	6.3	19.1	0	8.9
	無答	28.0	4.8	17.4	11.5	4.6	8.3	14.3	33.3	24.4
有質問の無	質問する	76.0	76.2	76.1	76.9	86.4	81.3	66.7	95.8	82.2
	質問しない	16.0	14.3	15.2	19.2	13.6	16.7	28.6	4.2	15.6
	無答	8.0	9.5	8.7	3.9	0	2.1	4.7	0	2.2
読まない	ひとりで読む	76.0	76.2	76.1	46.2	59.1	52.1	71.4	70.8	71.1
	両方	16.0	19.0	17.4	42.3	40.9	41.7	28.6	20.8	24.5
	ひとりで読んでもらう	4.0	0	2.2	0	0	0	0	4.2	2.2
	無答	4.0	4.8	4.4	11.5	0	6.2	0	4.2	2.2

答えているH校やS校では，読書範囲や種類も乏しかったわけで，そうした読書環境が，読書の興味をそぐような結果になったものと思われる。したがってそれは，読書時間の多少にも関係してくる。子供も子供相応に働かせられる農村などでは，家事の手伝いなどすると読書の時間など乏しくなるのは当然であろう。F校では，読書の興味が37.8％で最も低いが，読書時間でも無答のものが24.4％にのぼってい，家庭そのものの読書に関する関心の度が低い結果のあらわれと見ることができよう。

しかし，1年のころと比べると読書態度がついてきているという点では，地域の差は認められない。本を読みながら質問する率が一様に高く，80％台になっている。すなわち，児童自身については読書への関心や興味が地域の別なくつき始める時期に至っており，そうした内的な関心や興味に，地域によっては，その施設，文化性の欠如，家庭の無関心などから，応じられないというのが現状であるようである。

家人が1年の時と比べて読書意欲が高くなり，積極的に読むようになったと，読書態度の変化として認めたことも，上のことを裏がきすると思われる。

協力学校　読書態度の変化（1年と比べて）

学校＼態度変化した	①くい わ 字か ら をき な	②読じ むぶ んで	③と読 を んだ 話こ すと	④読ま むん がを	⑤読まんがを なるくなく
	男％　女％	男　女	男　女	男　女	男　女
H	53.3　64.7 計 59.4％	40.0　58.9 50.0	20.0　17.6 18.8	66.7　41.2 53.1	
S	48.0　63.0 55.8	56.0　51.8 53.8	24.0　25.9 25.0	62.0　44.4 48.1	
C	32.0　38.1 34.8	56.0　52.4 54.3	16.0　38.1 26.1	68.0　57.1 63.0	0　14.3 6.5
O	42.3　54.5 47.9	65.4　54.5 60.4	23.1　31.8 27.1	50.0　36.4 43.8	7.7　4.5 6.3
F	57.1　33.4 44.4	42.9　37.5 40.0	19.0　25.0 22.2	47.6　20.8 33.3	

学校＼変化した態度	⑥友だちから本をかりる	⑦あまりなくなる	⑧前より本を読む	⑨前よりなくなったつまり読	無答
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
H	53.3 35.3 43.8		53.3 35.3 43.8	6.7 0 3.1	6.7 11.8 9.4
S	56.0 33.3 48.1	0 7.4 3.8	48.0 33.3 40.4	0 7.4 3.8	0 3.7 1.9
C	20.0 28.6 23.9	4.0 0 2.2	40.0 42.9 41.3	4.0 0 2.2	4.0 0 2.2
O	38.5 13.6 27.1	7.7 13.6 10.4	50.0 50.0 50.0	3.8 4.5 4.2	0 4.5 2.1
F	42.9 29.2 35.6		47.6 25.0 35.6	4.8 12.5 8.9	4.8 4.2 4.4

読書に対する習熟の度合の一つの目標として，音読より黙読への段階があげられているが，家庭における自由読みの場合にも，黙読の率は，やはり多くの書を興味をもって読んでいる児童の多い学校が高いという結果が出ている。そして，それが一応地域差という形になって表われるのも，以上の諸状況からである。ただそうした中で地域の別なく共通な現象としてあげられるのは，前述のように男子の方が黙読に移る過程が早いということである。(例外F校) 協力学校では，総体的に読書態度として女子の方がすぐれており，黙読の理解力も高いのにもかかわらず，そうである。黙読に移る過程について，性別になんらかの要因があるためと思われ，今後の問題として残される。

	学校	Y			H			S			C			K			F		
		男 (17)	女 (28)	計 (45)	男 (15)	女 (17)	計 (32)	男 (25)	女 (27)	計 (52)	男 (25)	女 (21)	計 (46)	男 (26)	女 (22)	計 (48)	男 (21)	女 (24)	計 (45)
音読黙読	黙読	(17)人 52.9	17.9	31.1	13.3	5.9	9.3	16.0	14.8	15.4	44.0	9.5	28.3	50.0	22.7	37.5	4.8	8.3	6.7
	両方	25.4	50.0	42.2	33.3	52.9	43.8	44.0	25.9	34.6	32.0	38.1	34.8	26.9	31.8	29.2	28.6	33.3	31.1
	音読	17.7	25.0	22.2	46.7	41.2	43.8	40.0	55.6	48.1	24.0	42.9	32.6	23.1	45.5	33.3	61.9	54.2	57.8
	無答	0	7.1	4.5	6.7	0	3.1	0	3.7	1.9	0	9.5	4.5	0	0	0	4.7	4.2	4.4

默読理解力テスト（平均得点）（2年生3第学期）

	男	女
Y	4.1	4.6
S	3.6	3.7
O	3.5	4.9
F	3.5	5.1
G	4.5	3.9
D	5.0	5.6
N	4.1	4.3
平均	4.04	4.58

E　家庭読書の個人差および家庭読書と言語能力との関係

1. 個別的考察

個人別に家庭読書の内容をみるために，質問の諸項目別に整理したものが下表である。

家庭における読書の調査

男子	1. 読書の興味 5非常にすき 4すき方 3あまりすきでない 2きらいである 1よくわからない	2. 読書時間 5 60分以上 4 60分以上 3 30分以上 2 10分以上 1 10分以下	3. 家人の両親へ質問 2しない 1する	4. 両読 3ひとりでよむ 2両方 1読んでもらう	5. 默読 3	5. 音読 2	5. 両方 1	小計	6. 読む態度の変化（いずれも1年に比べた状態） ①わからない字をきく ②じぶんで読むことを話す ③④⑤読んだことがまんがを読まなくなった ⑥友だちから本をかりてくる ⑦余りかりなくなった ⑧前より本を読む ⑨前より読まなくなった （付）文字化してかく
1	4	2	1	3	3			13	1 2 4 6 8
2	4	3	2	3	3			15	1 3　すらすら早く読めるようになった
3									
4	4	3	1	3	3			14	2
5	4	4	2	2	1			13	1 2 4 3 8
6	4	3	2	2	1			12	1 2 4 8
7	3	2	2	3	3			13	変らない
8	4	4	2	3	2			15	1 2 4 8 判じ物，クイズ物に興味をもつ，理解力増

9	5	4	2	3	3	17	1 2 3 4　年令以上の本をよむ
10	3	3	2	2	1	11	1
11	4	1	2	3	2	12	2 8 1 3　むずかしいことばをきく よんだことを絵にかく
12	3	3	2	2	2	12	2 3 8　意味がわかりにくいのであきる
13	4	2	2	2	2	12	1 2 3 5 8　ことばの意味をきく，気をつけてよむ
14	3	1	2	2	3	11	2 3 6
15	4	3	2	2	3	14	2 4 6 8
16	4	4	2	3	2	15	1 2 3 4 6 8
17							
18	5	5	2	3	3	18	1 3 4 6　何でもよむ，くりかえしてよむ
19	5	5	2	3	3	18	2 4 6

計	5 4 3 2 1 人 3 10 4 0 0	5 4 3 2 1 人 2 4 6 3 2	2 1 人 15 2	3 2 1 人 10 7 0	3 2 1 人 9 5 3	235
男女計	5 4 3 2 1 人 7 26 10 0 0	5 4 3 2 1 人 3 10 22 6 3	2 1 人 39 6	3 2 1 人 24 21 0	3 2 1 人 14 19 10	585

（興味・時間・態度・種類）整理表

	雑誌	7. 購入の態度 毎月買う ときどき買う かりてくる ○△▽	単行本	8. 本の選定 家子両人供方 ○△▽
1	よい子三年生	△▽	なし	○
2		△	山から来たカッパ，イガグリ君，岩見重太郎	○
3				
4	宇宙少年・譚海	△	シンドバッドのぼうけん	▽
5	おもしろぶっく・漫画王			△
6	幼年クラブ	△	友だちからはかりないが学校図書からかりる	○
7	おもしろぶっく・アサヒグラフ（主に写真）	○	サザエさん，イソップ童話	○

8	おもしろぶっく・漫画少年・冒険王	∨	サザエさん，藤先生，少年王者	△
9	小学二年生・幼年クラブ	○	1年生文庫，2年生文庫，講談社絵本，世界名作長編マンガ	△
10	N	△		△
11	こどもクラブ・キンダーブック	○	ガリバー旅行記，ヘンデルとグレーテル，かちかち山，まごころ	○
12			イソップ，グリム，アンデルセン，クリチャン	○
13	冒険王		童話集（アンデルセン）	△
14	小学二年生	○		△
15	二年ブック・少年	○	凸凹漂流記，田宮坊太郎，豪勇三羽鳥	○
16	少年	○		∨
17				
18	漫画王・おもしろぶっく小学館	△∨	講談社名作もの　ナイチンゲール，良寛さん，美しい心正しい人，マンガ	○
19	二年の学習・小学二年生	○	高峰譲吉，国姓爺合戦，少年ケニヤ	○
計		○ 7 △ 6 ∨ 6		○ 9 △ 7 ∨ 2
男女計		○13 △14 ∨ 6		○20 △17 ∨ 6

家庭における読書の調査

女子	1. 読書の興味 非常にすき 5	すき 4	あまりすきでない 3	すきでない 2	きらいである 1	2. 読書時間 60分以上 5	60分以上 4	30分以上 3	20分以上 2	10分以下 1	3. 家人への質問 すしない 2	する 1	4. 両方ともよんでもらう 3	ひとりでよむ 2	両方よむ 1	5. 黙読 3	音読 2	小計	6. 読む態度の変化（いずれも1年に比べた状態）（付）文字化してかく	⑨⑧前よりよく読まなくなった	⑦余りかくなった	⑥かりてくるから本を読まなくなった	⑤④友だちがまんがを読むようになった	③②くまんだんで読むようになった	①すきらいがはっきりしてきた
1		4					2				2		2			2		12		1 3					
2		4					3				2		3			3		15		1 6					
3		4					3				2		2			2		13		2 3 4 6 8					
4		N					3				2		2			2		9		1 2 3 4 6 8					
5		4					3				2		3			1		13		1 4 7 8					
6		4					3				2		2			2		13		1 2 3 4					
7		3					N				2		2			1		8		1 2 4 6 8					
8		3					4				2		2			1		12		8					

9	5	4	1	3	3	16	2 3 6 8 熱中してよむ，上級少女雑誌をよむ
10	4	3	2	2	2	13	1 2 4 6 8 よみ方がうまくなった
11	4	3	2	2	2	13	2
12	5	3	2	2	2	14	3 8 まんがを愛読するあるものを何でもよむ
13	4	4	2	3	2	15	1 同じ本をくりかえしよむ
14	3	3	1	3	2	12	2 4 8
15	4	3	1	3	3	14	2
16	4	2	2	3	1	14	1 2 4 8
17	4	3	2	3	1	13	1 2 4
18	4	4	2	3	2	15	1 4 8
19	3	1	1	2	2	9	6
20	5	5	2	3	3	18	3 よむ時間が長くなった
21	4	3	2	2	N	11	1 2 4 7 早くよむが理解しにくい
22	4	2	2	2	2	12	1 3
23	4	4	2	2	2	14	2 3 4 6 8 字やことばが理解出来る
24	3	3	2	3	N	11	4
25	N	3	2	3	1	9	変らない
26	4	3	2	2	2	13	1 2 4 6 8 (1年の時は買って与えてもよまなかった)
27	5	4	2	3	3	17	4
28	3	3	2	3	1	12	9
計	5 4 3 2 1 人 4 16 6 0 0	5 4 3 2 1 人 1 6 16 3 1	2 1 人 24 4	3 2 1 人 14 14 0	3 2 1 人 5 14 7	350	

(興味・時間・態度・種類) 整理表

	雑誌	7. 購入の態様 毎月買う ときどき買う かりてくる ○△▽	単行本	8. 本の選定 家庭 子供 両方 ○△▽
1			リンカーン，シンデレラ 三びきの小ぶた，かぐやひめ．野口英世	○
2	二年ブック	○		△
3			グリム童話，イソップ童話	△
4			グリム童話，イソップ童話	△
5	小学二年生	△▽		○
6	小学二年生	○		N

7			少公女，アルプスの少女，安寿と厨子王	△
8	二年の学習			△
9	少女の友，二年の学習		アンデルセン，紫式部，白菊物語	○
10			まんが	∨
11			世界名作どうわ，日本昔話，イソップ，中国昔話，ピーターパン	○
12	小学三年生，少女，少女ブック	△∨		△
13	小学二年生	○	家なき子	○
14		△	童話	○
15	小学二年生	○		△
16	キンダーブック		びっくりクロチャン，白雪姫	△
17	N	△	N	N
18	小学二年生，少女，面白クラブ，二年の学習	N	シンデレラ姫，脱線御城下祭	○
19	N	○	N	∨
20	幼年クラブ，少女	△	サザエさん ナイチンゲール，はごろも，あまから姫	○
21			アラビアンナイト	○
22	二年の学習，二年ブック	△	なきむしうさぎ，さくぶん，ひらがな童話集，まんが集	△
23			いろいろな本をよんでいるので別に記入しない	∨
24	漫画王	△		∨
25	N		N	○
26	小学二年生，幼年クラブ	○		○
27		∨	ピーターパン	かえない
28	小学二年生	△	なかなか本もかってやれない	△
計		○ 6 △ 8 ∨ 3		○11 △10 ∨ 4

このうち，1から5までの項目は，おのおのよい態度・適当な方法と思われる観点から総合的に判断し評点化して小計を出し，6，7，8 ではその傾向・状態をそのまま記入し，右方の小計と左方の記入を比較しながら見ると，大体，個人別の家庭読書の内容が一覧できるようになっている。(原表，見開き）入門期の頃には，家庭の読書態度にかなりの個人差がみられたが，今期でもまだ相当の差がある。しかし入門期のころに比べると，大体一様に基礎的な読書態度がそろってできてきたと思われる。入門期と同様，多くの本をよい態度で，多くの時間読んでいる者が，国語の能力も一応高く，反対に，読書点数の低い者は，国語の能力も劣っているという結果が出ている。

しかし，その反対のケースも入門期と同様に現われている。しかも，入門期と比べて変った現象は，読書の興味も相当強く，時間数も多く，黙読もしていると親から認められている。ここでいう読書点数の高い子供で，しかも

国語力が必ずしも高くない子供の雑誌・単行本の閲読の状態，最近の読みの態度の変化等を見ると，きまって，「漫画王」式の自分の言語力に合わないような娯楽本位のものを読んでいることが多く，したがって人から借り読みをする場合が多い，家人の子供の読書に対する関心がうすい，本もあまり買ってもらえない，無答（N）が多いなどである。

次の表は，入門期から，2年の家庭読書状態の発達と，言語能力との関係が，個人別に一覧できるように整理したものである。

①は入門期の読書点数と言語能力，②は2年の読書点数と言語能力（7月の各言語能力テストの結果を五段階に評価したもの），③は，実験学校が2年第2学期に学校で読書テスト（阪本一郎氏の基礎読書力診断テスト）を行った結果の読書学年である。②と③の調査時期のずれは，②の状態の結果が③に現われていると解釈したものである。

実験学校　家庭読書能力の個人別発達表（1年～2年）

男子	① 入門期読書点数と言語能力				② 2年読書点数と言語能力 (29.7) 2年1学期末テスト								③ 読書テスト
	点家庭読書数	4月 力読字	4月 力書字	語い力	読書点数	の読書内評価容	読漢字力字	書漢字力字	語い力	読解力	文法能力	作文	読書学年
1	15	4	1	41	13	中	3	3	3	2	1	3	3の1前
2	19	71	54	29	15	中	4	4	4	3	5	4	4の1後
3	11a	7	6	28	14	下	1	1	2	1	1	1	1の3
4	12a	4	3	18	13	下	1	1	3	1	2	3	2の1前
5	15a	8	5	17	12	中	3	2	4	3	3	3	3の3
6	19	64	43	41	13	中	4	4	4	3	4	4	3の2前
7	18a	71	49	27	15	中	3	3	4	4	5	5	4の1後
8					17	上						4	中の1前
9	8a	13	6	24	11	下	3	2	1	2	1	3	3の1前
10	21	70	28		12	上	4	4	4	4	4	4	3の2後
11	19	68	39	30	12	中の上	3	2	3	5	1	3	3の1後
12	16	37	18	24	12	下	4	3	3	1	2	4	3の1前
13	14	2	7	30	11	中	3	3	2	2	4	2	2の2前
14	16	0	6	26	14	中	1	1	3	2	2	2	2の2後
15	17a	35	21		15	中	4	3	3	2	1	2	2の3前
16	24	71	64	30	18	上	5	5	4	2	3	4	4の2前
17					18	上	5	5	5	5	4	5	5の2前
18													
19													

女子	① 入門期読書点数と言語能力				② 2年読書点数と言語能力 (29.7) 2年1学期末テスト								③読書テスト
	点家庭読書数	4月 力読字	4月 力書字	語い力	読書点数	の読書評内価容	読漢字力字	書漢字力字	語い力	読解力	文法能力	作文	読書学年
1	19	61	49	42	12	上	3	4	3	2	4	3	3の1前
2	21	71	64		15	中	5	3	4	5	4	5	4の3
3	20	52	31	29	13	中	3	2	3	1	1	3	2の1後
4	19	71	60	25	9a	中	3	4	2	1	1	3	2の1後
5	22	65	40	38	13	中の下	3	3	3	2	2	2	2の2後
6	20	62	44	36	13	中の上	3	1	3	1	3	2	2の1後
7	15	70	65	25	8a	上	4	4	3	2	4	4	
8	22	8	7	23	12	下	2	2	3	2	1	3	2の3
9	22	71	54	18	16	上	4	4	4	5	2	5	3の3
10	13	2	10	35	13	中の下	3	3	2	2	1	1	2の2後
11	20	71	62	20	13	上	4	5	4	4	5	5	3の2
12	25	71	49	26	14	上	4	3	3	3	3	3	3の2前
13	21	5			15	上	3	4	5	5	4	3	4の1前
14	14	60	17	31	12	中	4	3	3	5	1	3	3の1後
15	15	0	4	26	14	中	1	2	2	1	2	3	2の2前
16	18	3			14	中	3	2	3	3	2	4	3の3
17	6a	2	5	13	13	下	2	1	2	1	2	1	1の3
18	17	58	41	17	15	中	3	2	2	3	2	2	3の1後
19	13	42	24	18	9	下	2	1	4	1	1	2	3の3
20	21	51	21	15	18	中の上	3	1	2	3	2	3	3の1前
21					11a	中	4	3	3	2	3	3	3の3
22	17	31	20	33	12	上	3	2	5	4	3	3	3の2
23	13	13	7	22	14	中	2	3	2	1	1	3	2の2前
24		2	5		11a	下	2	3	1	1	1	2	3の1後
25					13	上	5	5	3	2	2	3	3の1後
26					17	下	5	4	2	2	2	3	2の3
27					12	下	2	1	3	1	1	2	2の1前
28													

これによって各個人の読書発達の状態がわかり，さらに読書点数の高いもの，または，点数がやや低くても読書内容の上位のもの（点数が高くても内容が低かったり，自分の読書力に合わないものを読んでいるものは，前述の

理由から，逆な結果となっている）が，大体読書学年も高いという結果がみられる。2年2学期（10月20日）現在の読書力に，すでに，1年3学期相当のものと，5年の2学期相当のもの（男子，中1相当のものは，特殊児童である）という個人差のあることが認められるのである。

2. 全体的考察

1年入門期における読書の全体的な点数と他の言語能力との相関をみた場合，実験学校でも，協力学校でも，書字力との相関の方が高く，読字力が次位，語い力が最も低かった。

読書点数と言語能力の相関

1年

（実験学校）		H校
書字力との相関	0.67	0.79
読字力 〃	0.57	0.74
語い力 〃	0.22	0.50

しかし，2年になると，

家庭読書の点数と他の言語能力との相関

（実験学校）	
読字力との相関	0.41
読解力との相関	0.34
書字力との相関	0.28
作文 〃	0.28
語い力 〃	0.27
文法 〃	0.17

読字力の相関が第1位，つづいて読解力となり，書字力との相関は第3位になっており，語い力は相変らず低い方である。

F 新聞とラジオへの接近と興味

家庭読書の調査と相まって，家庭における新聞とラジオへの接近及び興味の有無を調査したところ，次のような結果を得た。(332ぺ～234ぺ参照)

		Y				H				S			
		男(17)人	女(28)人	計(45)人	%	男(15)人	女(17)人	計(32)人	%	男(25)人	女(27)人	計(52)人	%
新聞	読む	14	18	32	71.1	12	9	21	65.6	21	12	33	63.5
	読まない	3	10	13	28.9	3	8	11	34.4	4	15	19	36.5
	みるところ 漫画	14	24	38	84.4	11	11	22	68.8	20	12	32	61.5
	みるところ 絵・写真	15	12	27	60.0	12	14	26	81.3	18	17	35	67.3
	みるところ その他スポーツ広告	2	1	3	6.7	1	1	2	6.3	5	1	6	11.5
	子供新聞	4	1	5	11.1	1	1	2	6.3	0	1	1	1.9
ラジオ	聞く	15	25	40	88.9	14	14	28	87.5	23	22	45	86.5
	聞かない	2	3	5	11.1	1	3	4	12.5	2	5	7	13.5

雑誌や単行本に関しては，接近の状態にかなりの地域差がみられた——ことに単行本——が，新聞とラジオについては，ほとんどその差が見られず，一様に接近している。ことにラジオにいたっては，東京の実験学校 88.9％，H校 87.5％，C校 82.6％，S校 86.5％，O校 85.4％，F校 93.3％とほとんど同じ数を示してい，家庭読書であまり積極的でなかったF校が，90％を上回るという状態である。ラジオは農村の方がよく利用されると一般に言われているが，児童にもこのように聴取されているわけで，児童の言語生活に，新聞やラジオの影響が多いということを改めて認めたほどである。

1. 新　　聞

新聞を見ますかの問いに対して，71.1％のものが見ると答えている。この71.1％という数は，雑誌や単行本を読む数の64.4％よりも多く，この傾向は単に東京の実験学校だけでなく，地方の学校でも同じ現象としてさらに

実験学校　（2年）

	男(17)人	女(28)人	計(45)人	%
新聞をみる	14	18	32	71.1
新聞をみない	2	7	9	20.0
無　答	1	3	4	8.9

ラジオ接近状況一覧表

C				O				F			
男 (25)	女 (21)	計 (46)	%	男 (26)	女 (22)	計 (48)	%	男 (21)	女 (24)	計 (45)	%
21	10	31	67.4	18	13	31	64.6	11	13	24	53.3
4	11	15	32.6	8	9	17	35.4	10	11	21	46.7
18	15	33	71.7	19	15	34	70.8	15	14	29	64.4
20	14	34	73.9	16	13	29	60.4	9	11	20	44.4
6	0	6	13.0	5	3	8	16.7	0	2	2	4.4
1	1	2	4.4	8	1	9	18.8	0	6	6	13.3
19	19	38	82.6	23	18	41	85.4	20	22	42	93.3
6	2	8	17.4	3	4	7	14.6	1	2	3	6.7

顕著であることは先に見たとおりである。しかし，この新聞に接近している傾向は，1年入門期のころからすでに見られ，入門期の調査でも，左のような数字である。ただこの「見る」は，むしろ「ながめる」方が主であり，漫画や写真を見て，それについて，家人に読んだり，話したりを要請するていの見方が多いと思われる。しかし2年になると，新聞を読んでほしがる数が減ってきたこと（表Ⅰ），しかしその反対に字の質問をする数が増加してきたこと

実験学校　（1年）

	男 (21)人	女 (23)人	計 (44)人	%
新聞をみる	16	16	32	72.7
新聞をみない	5	5	10	22.7
無　答	0	2	2	4.5

1年　　2年　　（表Ⅰ）

	男		女		計			男		女		計	
	人	%	人	%	人	%		人	%	人	%	人	%
読んだり話したりしてほしがる	18	85.7	17	73.9	35	79.5	読んでほしがる	13	76.4	18	64.3	31	68.9
〃 ほしがらぬ	3	14.3	3	13.05	6	13.6	ほしがらぬ	1	5.9	8	28.6	9	20.0
無　答	0		3	13.05	3	6.9	無　答	3	17.7	2	7.1	5	11.1

（表Ⅱ），したがって見る紙面の範囲がわずかながら拡げられて行き，数も多くなっていること（表Ⅲ）などから，実際に，子供たちが自分で新聞に接近する度合いが多くなっていることがわかる。

1年　　2年　　（表Ⅱ）

	男		女		計		男		女		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
字の質問をする	10	47.6	9	39.1	19	43.2	12	70.6	16	57.1	28	62.2
質問をしない	10	47.6	14	60.9	24	54.5	5	29.4	11	39.3	16	35.6
無　答	1	4.8	0		1	2.3			1	3.6	1	2.2

1年　　2年　　（表Ⅲ）

	男		女		計			男		女		計	
	人	%	人	%	人	%		人	%	人	%	人	%
漫　画	13	61.8	14	60.9	27	61.4	漫　画	14	82.4	24	85.7	38	84.4
写真・絵	4	19.0	7	30.4	11	25.0	写　真	13	76.4	11	39.3	24	53.3
子供のページ	1	4.8	2	8.7	3	6.9	絵	9	52.9	7	25.0	16	35.4
ラジオ	1	4.8			1	2.2	スポーツ	2	11.8			2	4.4
社　会	1	4.8			1	2.2	広　告	1	5.9	1	3.6	2	4.4
広　告	1	4.8			1	2.2	学校に関する記事			1	3.6	1	2.2

子供新聞を見るかどうかの問いに対しては，入門期のころより数が減じているが，1年生で転校したものがあり，むしろ経済問題と結びついていると考えられる面がある。（2年では購読をもきいたので）ただ，観察によると，

1年　　2年

	男		女		計		男		女		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子供新聞を見る	5	23.8	3	13.1	8	18.2	5	29.4	1	3.6	6	13.3
〃 みない	16	76.2	20	86.9	36	81.8	12	70.6	23	82.1	35	77.8
無　答	0	0	0	0	0	0	0		4	14.3	4	8.9

子供新聞を読むと答えた子供の中に，2年の3学期ごろから，子供新聞の記

事を適当に要約・モンタージュして，壁新聞を編集する男児がおり（これは3年1学期になると，数名にふえた。）このように記事が活用できるようになればすでに読んでいる域に達しているといえよう。

2. ラ　ジ　オ

ラジオの場合になると，その接近率はさらに上昇する。しかし，これも今にはじまった現象でなく，1年の時から既にあった。（84.1%）

実験学校

	2年						1年					
	男		女		計		男		女		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ラジオを聞く	15	88.2	25	89.3	40	88.7	18	85.7	19	82.6	37	84.1
聞かない	2	11.8	2	7.1	4	8.9	2	9.5	2	8.7	4	9.1
無答	0		1	3.6	1	2.2	1	4.8	2	8.7	3	6.8

（注）このうち1年（右方）の時，ラジオの有無をしらべたら，ラジオのないもの男3人，女1人あった。

しかも，それらは，さらにさかのぼって，下表のように，すでに3才以下の

(28年6月調べ)

ラジオを聞きはじめた時	男		女		計	
	人	%	人	%	人	%
3才以下	5	23.8	5	21.7	10	22.7
4才	3	14.3	4	17.4	7	15.9
5才	6	28.6	8	34.7	14	31.9
6才	3	14.3	3	13.1	6	13.6
無答	4	19.0	3	13.1	7	15.9

ころから22.7%のものが聞いていることがわかる。しかも，どうして聞くようになったか，ラジオを聞くようになった機会についての調査には，家人にすすめられたもの11人（25.0%），ひとりでに興味をもって聞くようになったもの24人（54.6%）という動機であった。児童の言語生活に関するラジオの影響の大きいことは，これによってもわかる。

しかし，入門期には興味本位に耳に入るものが多く，ラジオを聞いていて

質問するものが27人（61.4%）で，大体半数である，この数はラジオを注意して聞くもの27人（61.4%）と合致している。

ラジオを聞く態度は，1年のころと大差なく，ほぼ同じ状態である。ただ，子供たちの好んで聞く番組に，入門期ごろのものと差が現われてきている。

2年

ラジオについての質問	男		女		計	
	人	%	人	%	人	%
質問する	10	58.8	19	67.9	29	64.4
しない	7	41.2	8	28.5	15	33.4
無答	0		1	3.6	1	2.2

1年

好んで聞くラジオ番組	男		女		計	
	人	%	人	%	人	%
童謡	8	38.1	15	65.2	23	52.3
お話	12	57.1	11	47.8	23	52.3
子供の時間	16	76.2	10	43.5	26	59.1
うたのおばさん	6	28.6	7	30.4	13	29.5
幼児の時間	6	28.6	4	17.4	10	22.7
クイズ	7	33.3	5	21.7	12	27.3
劇	6	28.3	5	21.7	11	25.0
音楽	2	9.5	3	13.1	5	11.4
三つの歌	3	14.3			3	6.8
ニュース	1	4.8	1	4.3	2	4.5
大人の娯楽番組	1	4.8	3	13.1	4	9.1
笛吹童子	1	4.8			1	2.3
天気予報	1	4.8			1	2.3

2年

		男		女		計		
		人	%	人	%	人	%	
童話	童話・紅孔雀，ヤンボーニンボートンボー，キャラネータン おねえさんといっしょ	9	52.9	19	67.9	28	62.2	52人
子供の時間		3	17.7	5	17.9	8	17.8	
子供の新聞		1	5.9	0		1	2.2	
子供クイズ	ちえのポスト ちえのわくらぶ	2	11.8	4	14.3	6	13.3	
	それそれなあに 森永エンゼルクイズ	2	11.8	2	7.1	4	8.9	
子供音楽	子供音楽会	1	5.9	2	7.1	3	6.7	
	うたのおばさん	1	5.9	1	3.6	2	4.4	
ニュース		0		2	7.1	2	4.4	3人
天気予報		1	5.9	0		1	2.2	
大人の娯楽番組	アチャコほろにが物語，鞍馬天狗，源義経，太閤記，次郎物語，銭形平次物語	6	35.3	6	21.4	12	26.7	44人
大人のクイズ	二十の扉，とんち教室，アルファベット読本，ピヨピヨ大学，	2	11.8	1	3.6	3	6.7	
	落語	1	5.9	0		1	2.2	
	三つの歌	6	35.3	22	78.6	28	62.2	
テレビ		1	5.9	1	3.6	2	4.4	2人

すなわち，いわゆる子供番組に伍して，おとなの娯楽番組を好んで聞く傾向が強く出て来ている。おとなの番組のうちで，圧倒的に多いのは，「三つの歌」「アチャコ青春手帖」である。これらは家人とともに聞くのであろうが，おとなの娯楽番組に子供が入りこんでくる段階である。一方，子供番組では，1年のころ上位にあった童謡ものが減少していることが目立っている。子供が童謡を聞ける番組の時間に家庭にいないことも原因があろうが，しかし日曜にも歌の時間はあるわけで，童謡を好んできく時期でなくなって来ていることを物語っている。

3. 新聞・ラジオと地域差

前に述べたように，新聞・ラジオへの接近状態は，都会と地方との差がほとんどみられない。ラジオに比べると，新聞の方にやや都会性がある程度である。ただ新聞を読む態度が，東京の実験学校に比べて，協力学校の方が

		読んでほしがる						ほしがらない						無答					
		男		女		計		男		女		計		男		女		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
Y	45人 17・28	13	76.4	18	64.3	31	68.9	1	5.9	8	28.6	9	20.0	3	17.7	2	7.1	5	11.1
H	31 15・16	7	46.7	4	23.5	11	34.4	7	46.7	10	58.9	17	53.1	1	6.7	2	11.8	3	9.4
S	52 25・27	14	56.0	8	29.6	22	42.3	7	28.0	13	48.1	20	38.5	4	16.0	6	24.0	10	19.2
C	46 25・21	17	68.0	13	61.9	30	65.2	3	12.0	4	19.0	7	15.2	5	20.0	4	16.0	9	19.6
O	48 26・22	13	50.0	8	36.4	21	43.8	13	50.0	9	40.9	22	45.8	0	0	5	22.7	5	10.4
F	45 21・24	6	28.6	7	29.2	13	28.9	12	57.1	16	66.7	28	62.2	3	14.3	1	4.2	4	8.9

		字の質問をする						字の質問をしない						無答					
		男		女		計		男		女		計		男		女		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		%	人	%	人	%
Y	45人 17・28	12	70.6	16	57.1	28	62.2	5	29.4	11	39.3	16	35.6	0	0	1	3.6	1	2.2
H	32 15・17	5	33.3	7	41.2	12	37.5	9	60.0	8	47.1	17	53.1	1	6.7	2	11.8	3	9.4
S	52 25・27	12	48.0	10	37.0	22	42.3	10	40.0	11	40.7	21	40.4	3	12.0	6	22.2	9	17.3
C	46 25・21	12	48.0	10	47.6	22	47.8	11	44.0	10	47.6	21	45.7	2	8.0	1	4.8	3	6.5
O	48 26・22	13	50.0	11	50.0	24	50.0	13	50.0	8	36.4	21	43.8	0	0	3	13.6	3	6.3
F	45 21・24	3	14.3	7	29.2	10	22.2	14	66.4	13	54.2	27	60.0	4	19.0	4	16.7	8	17.8

読んでほしがるもの，字の質問をするものが減っており，ことに農山村ほど低い率になるという地域差が出ている。これは，家人が忙しくて相手にしてもらえないためか，児童の方にまだ新聞を読む態度がついていないためかの，いずれかであろう。紙面では，東京の漫画が多いのに対して，地方では絵や写真の方がやや多くなっている。子供新聞への接近状態は非常に区々であり，中には読むと答えながら，その実は，大人の新聞の子供ページを指していたしりて，はっきりしないものが多い。

学校	ラジオについての質問																	
	質問する						質問しない						無答					
	男		女		計		男		女		計		男		女		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
Y 45人 17・28	10	58.8	19	67.9	29	64.4	7	41.2	8	28.5	15	33.4			1	3.6	1	2.2
H 32 15・17	7	46.7	8	47.0	15	46.9	7	46.7	8	47.0	15	46.9	1	6.7	1	5.9	2	6.2
S 52 25・27	14	56.0	17	63.0	31	59.6	6	24.0	6	22.2	12	23.1	5	20.0	4	14.8	9	17.3
C 46 25・21	10	40.0	11	52.4	21	45.7	7	28.0	9	42.9	16	34.8	8	32.0	1	4.8	9	19.6
O 48 26・22	16	61.5	11	50.0	27	56.3	10	38.5	9	40.9	19	39.6			2	9.1	2	4.2
F 45 21・24	12	57.1	6	25.0	18	40.0	8	38.1	16	66.7	24	53.3	1	4.8	2	8.3	3	6.7

29 年度　2年生　実験学校・協力学校

ラジオ聴取状態（好んで聞く番組）の調査

学校＼番組	三つの歌	紅孔雀	アチャコほろにが物語	子供の時間	ちえのポスト	のど自慢	童話	子供音楽会	ハリスクイズ	鞍馬天狗	子供の新聞	ちえのわくらぶ	二十の扉	子供の歌	歌の玉手箱	森永エンゼルクイズ	うたのおばさん	ヤンボーニンボートンボー	ニュース	とんち教室	天気予報	のびゆく若葉	源義経	クイズゲーム	キャラねえたん	テレビ	五九童のおばあちゃん	歌謡曲	ドラマ	ピヨピヨ大学
人																														
男17	6	7	2	3	2		0	1		0	1	0	0	1		2	1	1	0	2	1		1		0	1				1
Y 女28	22	14	2	5	1		3	2		2	0	3	1			1	1	1	2	2	0		1		1	2				0
計45	28	21	4	8	3		3	3		2	1	3	1			3	2	2	2	4	1		2		1	3				1
男15	7	7	3	1	2	0	0	0		2	1		0	1																
H 女17	12	6	3	2	3	1	1	1		0	0		1	0										1						
計32	19	13	6	3	5	1	1	1		2	1		1	1										0						
男25	17	7	8	1	1	1	0	1	2		0			0	2				1	1								0	
S 女27	17	11	9	4	0	1	3	0	2		1			1	3				0	0								1	1
計52	34	18	17	5	1	2	3	1	4		1			1	5				1	1								1	1
男25	13	6	7	2		1		1	3	1	1	0		0		0			1					1	0		1	0	
C 女21	13	4	4	3		2		1	3	1	0	2		2		1			0					0	1			1	1
計46	26	10	11	5		3		2	6	2	1	2		2		1			1					1	1		1	1	1
男26	14	7	5	1	2	2		1		1		0	2			0	1	0	1	0			1							
O 女22	16	11	0	2	4	0		1		0		1	0			1	0	2	0	1			0							
計48	30	18	5	3	6	2		2		1		1	2			1	1	2	1	1			1							
男21	10	5	1	5	2	1	2	0		1	1		1	0			0		1	1		2								
F 女24	15	5	1	2	0	2	2	2		0	2		0	1			1		0	0		1								
計45	25	10	2	7	2	3	4	2		2	3		1	1			1		1	1		3								

学校	番組	アルファベット読本	おねえさんと一緒	落語	それぞれなあに	物語	ゆかいなダイヤル	子供クイズ	銭形平次	野球	歌の二人三脚	次郎物語	親子ゲーム	漫才学校	童話劇	綴方教室	太閤記	エンタツ	漫才	テレビレスリング	ドレミファゲーム	とかくこの世は	子供向き連続物	マーヤの冒険	少年放浪記	ラジオ体操	バイバイゲーム	アコチャン	ラジオ東京	日本文化のもの
Y	人																												
	男17	1	1	1	0	0	1	1		1		1					1												
	女28	0	0	0	1	1	1	0		0		0					0												
	計45	1	1	1	1	1	1	1		1		1					1												
H	男15																												
	女17																												
	計32																												
S	男25															1		0											
	女27															0		1											
	計52															1		1											
C	男25							1		1	0		0	0	0													0	
	女21							0		0	1		1	1	1													1	
	計46							1		1	1		1	1	1													1	
O	男26																		1	1	1	1	0	0	0				
	女22																		0	0	0	0	1	1	1				
	計48																		1	1	1	1	1	1	1				
F	男21																									1	1		
	女24																									0	0		
	計45																									1	1		

ラジオは，新聞に比べると地域差はなく，逆に，今まで地域性から低い状態であった地域が，ラジオではかえって高率を示しているという現象がみられる。（例，F校）ただ，聞く態度に，東京にやや注意して聞く傾向が見え，F校など聴取は93.3％という最高率を示しながら，聞く態度では，40.0％という最低率で，興味的に聞き流す聞き方が多いのではなかろうかと思われる。聞く番組も東京と大差がなく，好んで聞く番組の中に，おとな用の娯楽番組がかなり入りこんで来ている。

Ⅸ　言語能力を規定する要因

A　言語能力とこれを規定する要因の測定

1.　言語能力の測定

言語能力とは何であるか。いかにしてこれを測定し，これを一つの数値で表すことができるか。言語能力の規定も，その数量化も簡単なことがらのようであって，実際は困難な仕事である。客観性のある言語能力の示標はいかにして求められるかについての一般的な考察はここではとりあげないで，われわれの研究の枠組内でこの問題にふれよう。

第一にわれわれの研究対象は小学校１・２年の児童である。そこでここでいう言語能力とは，小学校の１・２年生で問題になる言語能力に限定することにした。

第二に小学校における国語能力の発達を研究する。その一環としてこの研究はなされているのである。したがってここでいう言語能力とは，国語の教科におけるそれであり，教科書や学習指導要領で特に重んぜられているような言語能力である。

第三にこの研究は学期毎にまとめて言語能力の測定を行っている。その資料にもとづいている。したがって学期毎に問題となる言語能力の面を測定する問題が選択された。

以上の規準によって作られた言語能力テストはつぎの第１表と第２表にあげた通りである。なお，各テストに大体等しい重みを加えることが適当と考えた。そのために，各テストの標準偏差を算出し，各テストがほぼ等価になるように，各テストに重みを加えた。

ここで各テストがそれぞれどの程度関連性があるか。あるいは各テストはそれぞれどの程度共通な要因から構成されているかを知ることは，われわれがここでいう言語能力の妥当性を検討する上に必要なことである。

このような意味で，2年生の言語能力テストについて，(1)各テストの内部相関，及び(2)各テストの因子分析（Factor Analysis）を行った。その結果は，第3表，第4表のとおりである。

第1表　　1年生の言語能力テスト

(1) 読　む	1. ひらがな読字力テスト
	2. 短文の読みのテスト
(2) 書　く	3. ひらがな書字力テスト
	4. 作　文
(3) 話　す	5. 話し方テスト
(4) 聞　く	6. 聞き方テスト

第2表　　2年生の言語能力テスト

(1) 読　む	1. 漢字読字力テスト
	2. 語いテスト
	3. 黙読理解テスト
	4. 音読技能テスト
(2) 書　く	5. 漢字書字力テスト
	6. 作　文
(3) 文法意識テスト	

（注）　このテストはいずれも1学期末に実施したもので，詳細は本書のそれぞれの章に述べてある。

第3表で明らかなように，ここで分析した2年生のテストは(1)から(8)までである。(1)は漢字の読み，(2)は漢字の書取，(3)は文法意識，(4)～(6)は語いの理解・関係・使用，(7)は黙読理解，最後の(8)は音読技能のテストである。

この第3表によるとかなり相互に相関のあるテストもあるが，比較的相関の低いテストもある。ただ負の相関のあるものは一つも見当らない。

第3表からセントロイド（Centroid Factors）を算出し，これからさらに座標転換を行って多因子（Multiple Factors）を算出したのが第4表である。第4表を見ると各テストは第1から第3までそれぞれ異る種類の共通因子を含んでいる。また各テストは，個有な特殊因子をかなり多く含んでいることがわかる。ここでは第1から第3までのそれぞれの共通因子が何であるかに

ついてはふれる必要はない。ただ各テストがそれぞれ異る因子構造をもっていることを理解すれば充分である。いいかえれば各テストは全く同じ能力を測定しているわけではなく，言語能力の異る面を測定しているということを理解すれば充分である。

第 3 表　　各言語テストの相関

テスト	1	2	3	4	5	6	7	8
1. 漢字の読み	……	.720	.415	.860	.438	.768	.505	.627
2. 漢字の書取	.720	……	.472	.234	.404	.309	.346	.640
3. 文法	.415	.472	……	.237	.562	.594	.475	.644
4. 語いの理解	.860	.234	.237	……	.437	.339	.235	.409
5. 語いの関係	.438	.404	.562	.437	……	.610	.540	.516
6. 語いの使用	.768	.309	.594	.339	.610	……	.554	.626
7. 黙読理解	.505	.346	.475	.235	.540	.554	……	.579
8. 音読技能	.672	.640	.664	.409	.516	.626	.579	……

第 4 表　　各言語テストの因子負荷量

テスト	第 1 共通因子	第 2 共通因子	第 3 共通因子	特殊因子と誤差因子
1. 漢字の読み	.472	.662	.434	.515
2. 漢字の書字	.514	.202	.359	.752
3. 文法	.242	.672	.327	.617
4. 語い理解	.066	.639	.464	.600
5. 語い関係	.410	.504	.321	.687
6. 語い使用	.649	.244	.416	.586
7. 黙読理解	.325	.507	.342	.719
8. 音読技能	.544	.518	.360	.552

2.　言語能力を規定する要因の測定

つぎに言語能力を規定する要因の測定について述べよう。言語能力を規定する要因も，これを一義的に決定し，簡単に数量化を行うことはできない。この点についても詳しい一般的考察はさけ，われわれの行った要因の分類の仕方および測定法について，ここでは簡単にふれるだけにとどめよう。

言語能力は，児童自身の側と，環境の側とによって規定される。児童自身の側にあるものとしては，知能・人格性・身体などがあげられ，環境の側に

あるものとしては家庭環境や学校環境における人的・物的なさまざまな要因があげられよう。ただ主体と環境は常に相互的交渉のある力学的な場を構成しているものであり，環境刺戟から全く独立した主体の条件を考えたり，主体から離れた非行動的な物理的な環境を問題とすることはできない。そういう意味で，第5表にあげた言語能力を規定する要因の分類は，必ずしも一方的に主体――環境の区別はつけないことにした。

第5表　言語能力を規定する要因

要因	測定方法
知的要因	1. 知能テスト 2. 推理テスト 3. 記憶テスト
人格的要因	1. 神経質傾向調査票 2. 自立性　〃 3. 社会性　〃 4. 情緒不安定〃 5. 学習興味　〃
身体的要因	1. 発育歴調査票 2. 運動能力検査
環境的要因	1. 家庭の社会経済的条件調査票 2. 家族の教育程度調査票 3. 家庭の文化程度調査票
学校生活要因	1. 学習帳調査 2. 学校生活態度チェックリスト

B　知的要因と言語能力

1. 知的要因の測定方法

知的要因を測定する方法として，標準知能テスト，推理テスト，記憶テストを用いた。それらのテストの内容はつぎの通りである。

(1) 標準知能テスト

標準知能テストは，知能を測定するために作られたテストであり，信頼度

や妥当性を高めるために，いろいろな研究がなされている。そこで，知的要因を測定する方法として，知能テストは最も適当なものであるということができよう。

われわれの用いた標準知能テストは，つぎの二種類である。

武政太郎他二名著：新乙式知能テスト

武政太郎他二名著：低学年用知能診断テスト

前者は絵画や図形を用いたB式知能テストで，言葉の理解力はテスト結果に影響が少ない。このテストは五名ぐらいを一団として実施するなら幼稚園児や新入学児童にも，これを実施することができる。

後者は言語を媒介として知能を測定するA式テストと，図形や絵画を媒介として知能を測定するB式テストが混合された知能テストである。言語・推理・空間・数量という四つの知的要因それぞれについて，分析的に発達程度を理解することができるようになっている点も，この知能テストの特色である。これら二つの知能テストは，精神年齢および知能指数によって知能程度を現わすようになっている。そこで，二つの知能テスト結果の平均によって一つの知能テストによる場合よりも，安定した個人の知能程度を現わすことができる。なお，新乙式知能テストは1年生の学年始めに，知能診断テストは1年生の学年末に実施した。

2. 推理テスト

推理テストはわれわれが考案したものである。これは文章推理テストと，言語を全く用いない絵の組合せテストとから成り立っている。前者は20問，後者は21問あり，両者の合計得点をもって推理力の点数とした。

この推理テストは集団テストであって，学級全体のものを一斉に実施することができる。しかしながら1年生ではまだ文章の読解力が充分とはいえない。そこで，被験者は2年生だけにかぎり，2学期始めに実施した。

文章推理テストと絵の組合せテストの問題およびその実施要領は，第6表，第7表の通りである。問題を見ればわかるように文章推理テストは完成法を用いており，文章を完成させるテスト形式をとっている。問題の分類をすれ

ば(1)反対類推—1問から6問，(2)類似点の抽象—7問から12問，(3)いわゆる文章推理問題—13問から20問，となっている。また絵の組み合せテストは，密接な関係のある絵を二つずつ組合せて，対にする問題である。

昭和29年度2年生　推理テスト（一）（文章推理）

1. 教　　示

（れい1）と書いてあるところをごらん。つぎのようにかいてあります。

こどもは　ちいさい。おとなは

とあって，その下に細長い四角があります。この細長い四角の中に，どんなことばを入れたらよいですか。

おおきい。

ということばですね。そうすれば，

こどもは　ちいさい。おとなは　おおきい。

となって，ちょうどよくなります。

では，細長い四角の中に［おおきい］と入れてください。

（れい2）をごらん。

りんごと　なしの　にたところは

とあって，その下に細長い四角があります。こんどは，この中に何ということばを入れたらよいですか。

りんごとなしの似たところだから，「丸い」とか「たべられる」とか「くだもの」とかいうことばを入れればよいのです。

では「丸い——たべられる——くだもの」のうち，どれか一つ，ことばを入れなさい。

今やったように，どの問題も細長い四角の中に，ちょうどよいことばを入れなさい。

2. 実施時間　（20分）

3. 問　　題

第6表　　昭和29年度2年生　推理テスト（一）

（れい1）　こどもは　ちいさい。おとなは［　　］。

（れい2）　りんごと　なしの　にたところは［　　］。

（1）おとうさんは　おとこ。おかあさんは［　　］。

（2）いぬは　よんほんあし。にわとりは［　　］。

（3）なつは　あつい。ふゆは［　　］。

（4）ひるまは　あかるい。よるは［　　］。

（5）さかなは　みずのなかを　およぐ。ことりは［　　］。

（6）おひさまは　ひるまてらす。おつきさまは［　　］。

（7）さかなと　ふねの　にたところは［　　］。

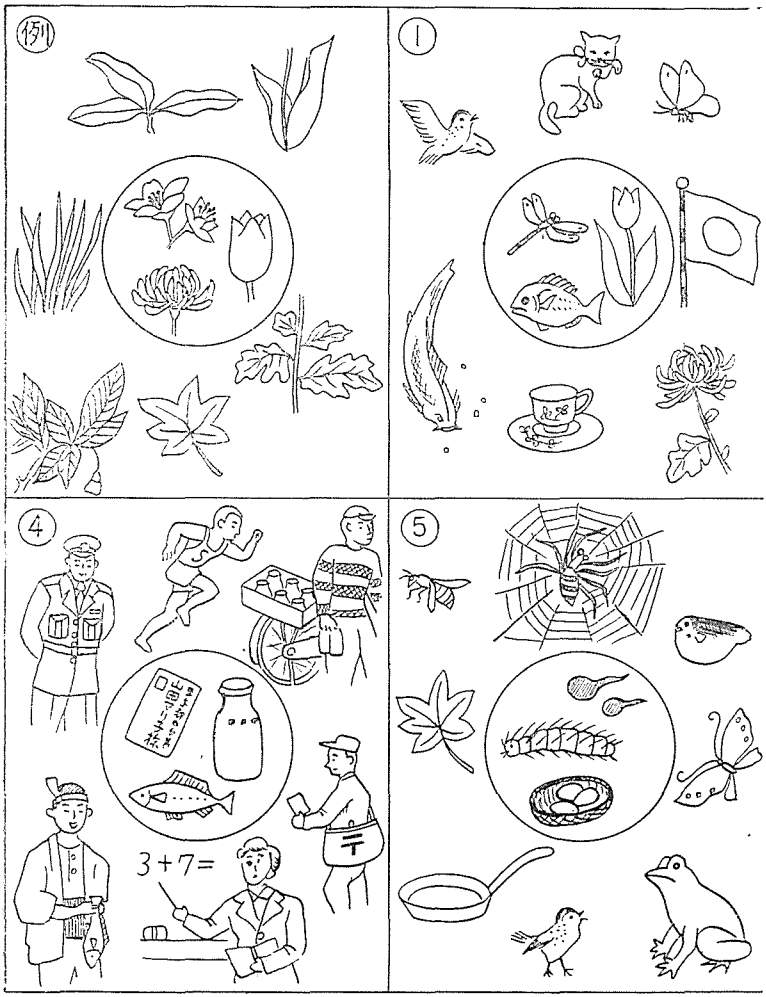
(8) いしと　てつの　にたところは［　　］。
(9) ちょうちょうと　とりの　にたところは［　　］。
(10) えんぴつと　まんねんひつの　にたところは［　　］。
(11) ぱんと　ごはんの　にたところは［　　］。
(12) いぬと　ねこの　にたところは［　　］。
(13) みのるさんは　かずこさんより　おおきい。まさこさんも　かずこさんより　おおきい。さんにんのなかで　いちばん　ちいさい人は［　　］。
(14) まさおさんは　ひでこさんより　はやい。いちろうさんは　まさおさんより　はやい。さんにんの　なかで　いちばん　はやい人は［　　］。
(15) やまださんは　おかださんの　まえにいる。いけださんは　やまださんの　まえにいる。さんにんのなかで　まんなかに　いる人は［　　］。
(16) いちろうさんは じろうさんより ちいさい。さぶろうさんは じろうさんより おおきい。さんにんのなかで　いちばん　おおきい人は［　　］。
(17) はなこさんと　たけこさんと　うめこさんの　くつがある。ひとつのくつには　たけことかいてある。もうひとつのくつには　はなことかいてある。のこりの　くつには　なまえが　かいてない。なまえの　かいてないくつを　もっている　人は［　　］。
(18) みちこさんは　ほんと　えんぴつと　ふでいれが　ほしい。ほんをかうには　おかねがたりない。ふでいれは　おみせやさんに　なかった。みちこさんが　かったものは［　　］。
(19) おとうさんは　たばこと　にんぎょうと　せっけんと　おもちゃと　えほんを　かってきた。おかあさんには　せっけんを　あげた。ぼくには　えほんを　くださった。のこったもののなかで　ねえさんにあげると　よいものは［　　］。
(20) まさおさんは　あした　おとうさんと　どうぶつえんか　えいがを見にいく。おとうさんに　おきゃくさんが　くれば　ひとりで　えいがを　みにいくか　かわにつりにいくが　雨がふれば　かわには　いかない。では，おとうさんに　おきゃくがきて　雨がふったら　まさおさんは［　　］。

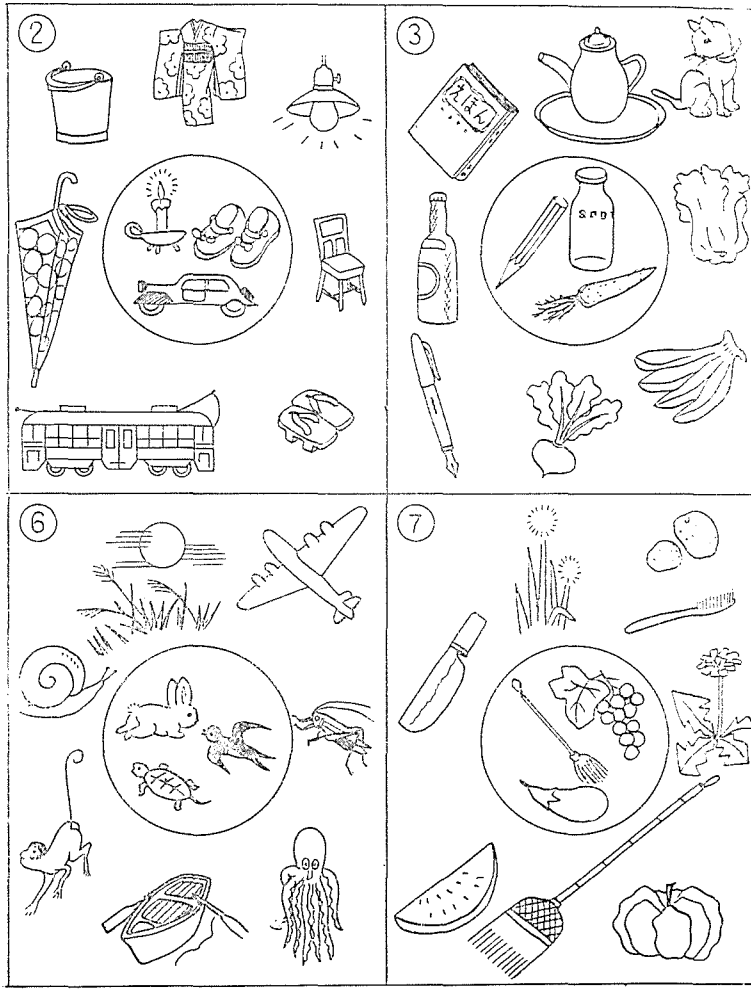
第7表　　推理テスト（二）（絵の組合せ）

1. 教　　示

左上の例のところをごらん。○の中に花が三つあります。この三つの花と組になる枝や葉を○の外に見つけて線で結ぶのです。○の中のさくらの花と結びつける枝は左下のさくらの枝です。菊の花と結びつけるのは，右下の菊の葉です。チューリップの花と結びつけるのは右上のチューリップの葉です。みんな実際に棒で結んでごらん。

今やったようにどの問題もやってごらん。○の中の絵と，○の外の絵を線で結ぶ


例
①
④
3+7=
⑤


②
③
⑥
⑦

のです。

2. 実 施 時 間 （制限セズ）

3. 採　　点　正しい組合せ一つにつき，一点を与える。誤った組合せや，無答は採点しない。満点は21点となる。

3. 記 憶 テ ス ト

記憶テストもわれわが考案したものである。これは4テストに分れている。すなわち，

テスト1　数詞の復唱（検査者が数箇の数詞をいい，被験者はこれを復唱する。）

テスト2　文章の復唱（検査者が簡単な文をいい，被験者はこれを復唱する。）

テスト3　図形の再生（一定の時間だけ無意味図形を見せ，これをとり除いてから，紙に記憶をたどって描く。）

テスト4　絵の再生（数箇の絵を一定時間見せ，これをとり除いてから，絵の名前をいわせる。）

このように種類の異る4種のテストが用いられた。テスト1は耳から聞いたことを記憶する聴覚的記憶のテストである。また数詞は3—8—5といったようにでたらめにならべてあるので無意味記憶のテストである。テスト2は，聴覚的・有意味記憶のテスト，テスト3は視覚的・無意味記憶のテスト，テスト4は視覚的・有意味記憶のテストである。これらのテストは2年生の第1学期末に，個人別に行われた。そして，これら4テストの合計点をもって個人の記憶力の示標とした。

テスト1からテスト4までの実施要領及び問題を示せば，つぎの通りである。

記憶テストの実施要領と問題

〔テスト1〕——数詞の復唱

1. 教　示　これから，先生が数をつづけて言うから，よく聞いていて私の言ったとおりに言ってください。たとえば，先生が3—6—9と言ったら，君も3—6—9とまねをして言うのです。

2. 注　意　　一数詞を1秒よりやや短いぐらいの割合で，区切って，はっきり発音する。二度くりかえさない。答えられないときは，誤りとみなし，つぎの問題にうつる。なお，いくつかの数詞に関する教示者の発音のしかたは次のように統一する。

　　4—ヨン　　7—ナナ　　9—キュウ

3. 採　点　　正しく復唱できれば合格とし，1点を与える。したがって満点は8点である。なお，数詞の順位を入れちがえた時は誤答とする。

4. 問　題

(1) 1 — 4 — 6
(2) 8 — 3 — 2
(3) 4 — 6 — 9 — 7
(4) 3 — 8 — 2 — 4
(5) **6** — 3 — 1 — 5 — 4
(6) 8 — 2 — 9 — 1 — 5
(7) 2 — 4 — 6 — 9 — 8
(8) 3 — 5 — 2 — 7 — 6

〔テスト2〕——文の復唱

1. 教　示　　こんどは私が短い文を言いますから，よく聞いていて，そのとおりに言ってください。

2. 注　意　　問題文は一度しか読まない。

3. 採　点　　一字一句を誤らずに，正しく復唱できたら合格とし，1点を与える。満点は8点である。発音の不正や，ことばのなまりがあっても，この場合には誤りとしない。語句の言いまちがえ，省略，語順の混乱は誤答である。

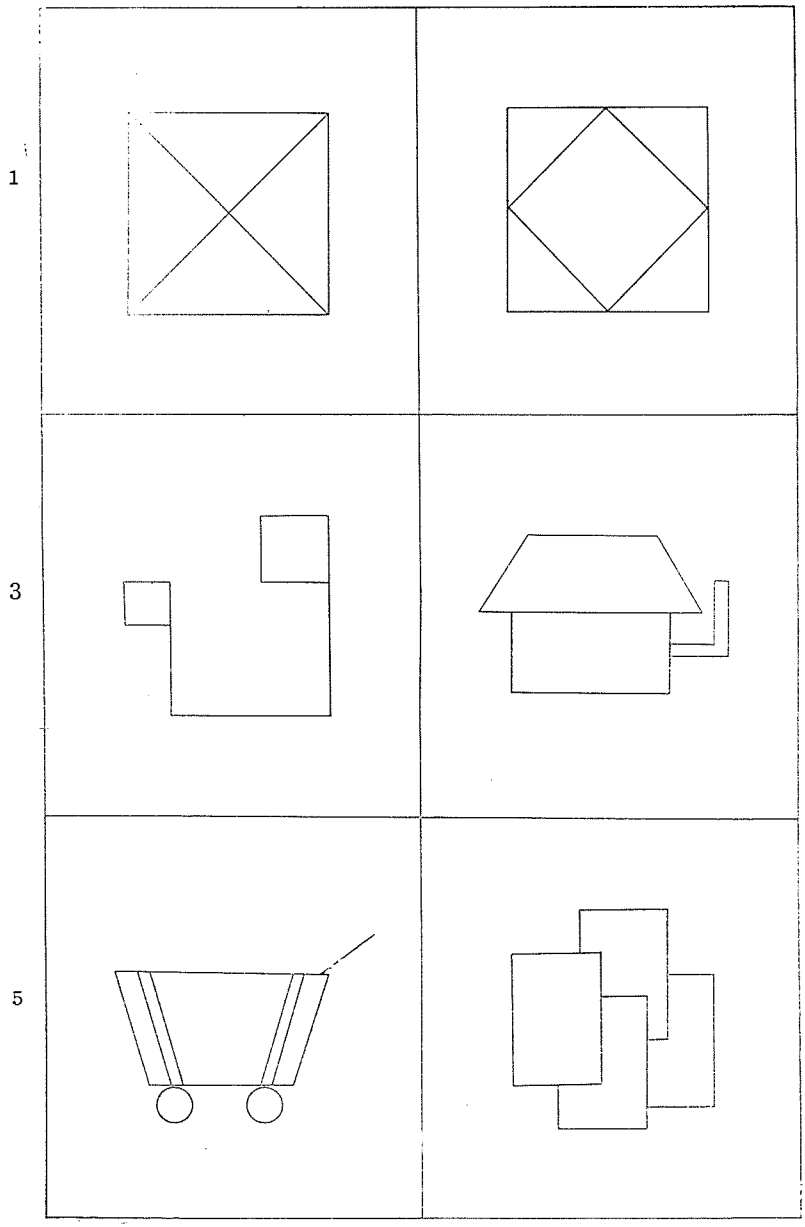
4. 問　題

(1) きょうは　よい　お天気です。
(2) 太郎さんは　小学校の　1年生です。
(3) 正子さんの　学校には　大きな　木が　はえています。
(4) 花子さんは　お人形に　きれいな　着物を　きせてやりました。
(5) 正雄さんは　長い橋を　渡って　川の　むこうへ　行きました。
(6) 山の上から　遠くの方に　小さな　汽車が　見えました。
(7) 春になると　木には　青い芽がでて　きれいな　花が　咲きます。
(8) 運動会の　時には　100 メートル競走や　つなひきや　いろいろな　運動をします。

〔テスト3〕——図形の再生

1. 教　示　　こんどは絵を見てそれと同じ絵を書くのです。絵といっても形だからやさしい。それをちょっとだけ，君に見せますから，よく見ておぼえてください。

図 1



あとでその，絵を見ないで，その通りの形を書いてもらいます。
いいですか，はじめはこの絵です。〔絵1を10秒間呈示，10秒後に，絵1をとりさり，別紙（記録用紙の裏面）をさして〕さあ，この紙に今見たのと，ちょうど同じのを書いてください。線はまがってもいい。
以下，同様に，2—6まで行う。

2. 注　意　　用紙と鉛筆はあらかじめ与えておく，定規はいらない。
3. 採　点　　絵のじょうず，へたは問題にしないで構図が正しければ合格とし，1点を与える。ただし，絵5と絵6は2点で，満点は8点である。
4. 問　題

（図　　1）

〔テスト4〕——絵の再生

1. 教　示　　こんどは，いろいろのものが書いてある絵をちょっと見せますから，よく見て，何があったかを覚えてください。あとで，あったものの名前をききます。いいですか。（と言って，別紙の絵を見せる。30秒後に，この絵をかくし，つぎのようにたずねる）さあ，今，見た紙には，何と何が書いてあったか，その名前を言ってください。
2. 採　点　　正しく名前が言えたものには合格とし1点を与える。したがって，満点は8点である。（小数点以下4捨5入）
答の名前について下記のいいかたは許される。
   1. ちょうちょう（ちょう）
   2. さかな（まぐろ，その他）
   3. にわとり（とり）
   4. 本（ちょうめん）
3. 問　題

（図　　2）

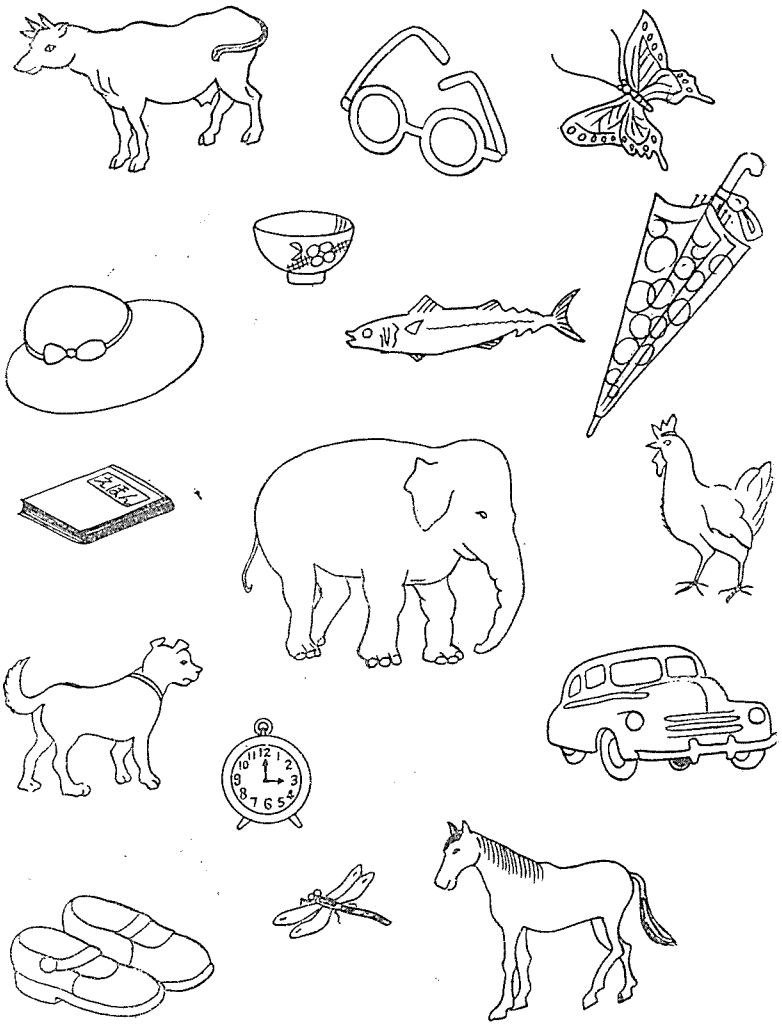
2. 知的要因の測定結果とその考察

a．個人別の成績

知能テストの個人別成績は前の報告「入門期の言語能力」にかかげたからここでは省略することにした。

推理テストの個人別成績は，つぎの第8表の通りである。この表で見られるように文章推理テストは最低4.5点から，最高20点までにわたっている。4.5点のように小数点以下の点数のものがあるのは，答があってはいるが表現が不完全で，正しい文章に完成されていないものを0.5点としたからであ

図　2



る。また絵の組合せテストは最低6点から最高20点までにわたっている。二つのテストの合計点では，最低15.5で，最高は39点になっている。平均点および標準偏差は，つぎの通りである。

テスト1　　12.0 ± 4.44

テスト2　　16.5 ± 3.06

合計　　24.4 ± 4.98

表の評価欄は合計点にもとづき，これを1・2・3・4・5の5段階の評価段階になおしたものである。なお最後の言語能力の評価の欄は，各言語テストの得点をそれぞれ等価になるように重みをつけて換算点を求め，その合計点を求めた。この合計点にもとづいて，1・2・3の3段階の評価段階を求めたものである。

記憶テストの個人別成績もつぎの第9表に示すとおりである。この表のテスト1，2，3，4はそれぞれ数詞の復唱，文章記憶，図形の再生，絵の再生に関するテストである。最後の評価欄は合計点にもとづいて，1から5までの5段階の評価段階を求めたものである。

なお，各テストの平均点と標準偏差はつぎの通りである。

記憶テスト	男子	女子	全員
テスト 1	5.75	5.21	5.41
テスト 2	3.94	3.64	3.75
テスト 3	3.75	3.82	3.80
テスト 4	4.50	3.79	4.05
合計点	17.94	16.46	17.00

第 8 表　　昭和29年度 2 年生　推理テストの個人別成績

男子	テスト(一)	テスト(二)	計	評価
1	11	16	27.0	3
2	17	20	37.0	4
3	5.5	18	23.5	2
4	4.5	19	23.5	2
5	16	19	35.0	4
6	15	20	35.0	4
7	14.5	19	33.5	4
8	15.5	19	34.5	4
9	8.5	19	27.5	3
10	10.5	16	26.5	3
11	14.5	19	33.5	4
12	15.5	15	30.5	3
13	8	18	26.0	3
14	7.5	15	22.5	2
15	12.5	19	31.5	3
16	17.5	20	37.5	5
17	20	19	39.0	5
18	8	17	25.0	3
19	19.5	18	37.5	5

	平均	S.D
テスト(一)	12.0	4.44
テスト(二)	16.5	3.06
テスト(一)+(二)	24.4	4.98

女子	テスト(一)	テスト(二)	計	評価
1	16.5	19	35.5	4
2	16	17	33.0	3
3	4	12	16.0	1
4	11	15	26.0	3
5	11	12	23.0	2
6	18	13	31.0	3
7	11.5	18	29.5	3
8	11	13	24.0	2
9	17.5	21	38.5	5
10	6	11	17.0	1
11	18.5	16	34.5	4
12	17	20	37.0	4
13	16	17	33.0	3
14	12.5	16	28.5	3
15	7	17	24.0	2
16	8	16	24.0	2
17	9.5	6	15.5	1
18	6.5	16	22.5	2
19	12.5	14	26.5	3
20	9	16	25.0	3
21	17	18	35.0	4
22	15.5	17	32.5	3
23	5.5	11	16.5	1
24	7.5	16	23.5	2
25				
26	8.5	19	27.5	3
27	10.5	11	21.5	1
28	8	18	26.0	3

第 9 表　　昭和29年度 2 年生　記憶テストの個人別成績

男子	テスト1	テスト2	テスト3	テスト4	テスト1と2の計	テスト1と3の計	テスト2と4の計	テスト3と4の計	合計	評価
1	4	2	5	4	6	9	6	9	15	3
2	8	6	3	5	14	11	11	8	22	4
3	転校									
4	4	5	1	4	9	5	9	5	14	3
5	5	2	1	3	7	6	5	4	11	2
6	5	5	1	4	10	6	9	5	15	3
7	8	6	6	3	14	14	9	9	23	5
8	7	4	3	5	11	10	9	8	19	3
9	5	3	6	3	8	11	6	9	17	3
10	8	2	4	5	10	12	7	9	19	3
11	8	4	4	2	12	12	6	6	18	3
12	4	4	5	7	8	9	11	12	20	4
13	5	4	4	8	9	9	12	12	21	4
14	5	5	4	5	10	9	10	9	19	3
15	3	2	4	4	5	7	6	8	13	2
16	7	5	5	6	12	12	11	11	23	5
17	欠									
18	6	4	4	4	10	10	8	8	18	3
○の計	92	63	60	72	155	152	135	132	287	
○の平均	5.75	3.94	3.75	4.50	9.69	9.50	8.44	8.25	17.94	

注
- 視覚記憶　（1と2の計）
- 聴覚記憶　（3と4の計）
- 無意味記憶　（1と3の計）
- 有意味記憶　（2と4の計）

女子	テスト1	テスト2	テスト3	テスト4	テスト2の1計	テスト3の1計	テスト4の2計	テスト4の3計	合計	評価
1	7	5	3	4	12	10	9	7	19	3
2	8	4	5	2	12	13	6	7	19	3
3	1	2	2	3	3	3	5	5	8	1
4	4	3	3	3	7	7	6	6	13	2
5	4	4	5	3	8	9	7	8	16	3
6	7	7	4	3	14	11	10	7	21	4
7	6	2	6	4	8	12	6	10	18	3
8	4	3	2	6	7	6	9	8	15	3
9	8	5	5	4	13	13	9	9	22	4
10	6	3	3	5	9	9	8	8	17	3
11	8	4	4	6	12	12	10	10	22	4
12	5	3	5	4	8	10	7	9	17	3
13	4	4	5	4	8	9	8	9	17	3
14	5	5	4	3	10	9	8	7	17	3
15	5	3	3	3	8	8	6	6	14	3
16	7	4	5	4	11	12	8	9	20	4
17	3	3	1	3	6	4	6	4	10	1
18	3	2	5	2	5	8	4	7	12	2
19	1	4	3	3	5	4	7	6	11	2
20	4	4	2	5	8	6	9	7	15	3
21	8	6	3	5	14	11	11	8	22	4
22	8	5	6	3	13	14	8	9	22	4
23	5	3	1	2	8	6	5	3	11	2
24	4	2	6	6	6	10	8	12	18	3
25	7	4	3	2	11	10	6	5	16	3
26	4	3	3	4	7	7	7	7	14	3
27	8	4	5	5	12	13	9	10	22	4
28	2	1	5	5	3	7	6	10	13	2
○の計	146	102	107	106	248	253	208	213	461	
○の平均	5.21	3.64	3.82	3.79	8.86	9.04	7.43	7.61	16.46	
男女○の計	238	165	167	178	403	405	343	345	748	
男女○の平均	5.41	3.75	3.80	4.05	9.16	9.20	7.80	7.84	17.00	
男女計のS.D									3.85	

b．知的要因と言語能力の相関

言語能力と知的要因の関連の度合をみるために，まず両者の間の相関係数を求めた。その結果はつぎの通りである。

知的要因と言語能力の相関表

(1)	知能テストと言語テスト	r＝0.476
(2)	推理テストと　〃	r＝0.448
(3)	記憶テストと　〃	r＝0.595
(4)	合　計　と　〃	r＝0.556

このように，知的要因を測定する各テストと言語テストとの相関はかなり高い。したがって両者の間には密接な関連のあることがうかがわれる。

ここで昨年度の「入門期の言語能力」における報告と，今度の場合を比較してみよう。昨年度は，新乙式知能テストと文字の読み書きのテストとの相関を求めた。それによると相関係数は，r＝0.61 となっている。これと比較してみると本年度の知能テストの結果はやや低すぎるように思われる。そこで，本年度の資料について，二つの知能テストのそれぞれと言語テストとの相関を求めた。それによると，新乙式知能テストの場合は，r＝0.56，知能診断テストの場合は，r＝0.27 となっている。それ故，新乙式知能テストだけについていえば，昨年度と同程度の相関係数の値が得られている。知能診断テストの場合は相関係数の値が低すぎる。これは異る実施者が異る群にテストを実施したのでそういう副次的な影響も入っていると思われる。

なお，知的要因を測定するテスト相互の相関も求めてみた。これはわれわれの作製した推理テストと記憶テストの妥当性をしらべる一つの試みである。従来行われた研究の結果によると，知的要因相互の間には 0.3～0.5 ぐらいの相関がある。それ故，われわれの作製したテスト間にもこの位の相異があることが望ましいわけである。結果は，(1)知能テストと推理テスト r＝0.476，(2)知能テストと記憶テスト r＝0.395，(3)推理テストと記憶テスト r＝0.471 となった。それ故，この面からする検討の結果では，われわれの考案した推理テストと記憶テストには妥当性があるといえよう。

c．知的能力の優れたもの，劣ったものと言語能力

知的能力の優れたものの中に，言語能力の劣ったものがいるか。また知的能力の劣ったものの中に言語能力の優れたものがいるか。この点を明らかにするために，知能テスト，推理テスト，記憶テストのそれぞれについて優秀者をまず拾いだした。ここでいう優秀者とは，どのテストの場合も評価段階が4または5のものである。つぎにこれらの児童の中に言語能力の評価段階が1のものが何人いるかを調査した。言語能力は3段階評価であるから，評価段階1のものだけを言語能力の劣ったものとしたのである。以上のようにして知的能力の優れたものの中に何人言語能力の劣ったものがいるかを調査したところ，知能テスト，推理テスト，記憶テストのどの場合にも言語能力の劣ったものはいなかった。

つぎに知的能力の劣ったものとは，その評価段階が1または2のものであると定め，こういう児童の中で言語能力のすぐれたものを調査した。ただし言語能力のすぐれたものとは，3段階の評価段階で3の段階のものとした。この結果によると，知的能力の劣ったものは一人も言語能力では優れてはいなかった。これらの結果から，つぎのようなことがいえよう。

一般に知的能力が優れたものには，言語能力が劣ったものはいない。また知的能力が劣ったものには，言語能力がすぐれたものはいない。

C　人格的要因と言語能力

情緒不安定でおちつきのない子供，社会性がなく引込み思案な子供，このような人格的欠陥のある児童は，言語能力の発達もおくれることが多い。ここでは，自立，社会性，神経質傾向，情緒，学習興味の5つの人格的要因と言語能力との関係を研究することにした。対象となる児童は1年生である。

1．人格的要因の研究の方法

人格的要因の測定方法は種々あるが，ここではつぎの規準を設け，これに沿った質問紙法を作製した。

(1)　対象は低学年児童であるから，自分で自分の行動を判断したり質問紙

を読むことはできない。そこで児童をよく知っている保護者がこたえる他人評価法を用いること。

(2) 人格的要因のそれぞれについて10問の問題を作り，点数で要因を数量的に示し得ること。

(3) 問題は「はい」または「いいえ」のうち，一方を丸で囲む諾否法であること。

(4) 問題は主観的な判断がなるべく入らないように，児童の具体的な行動について述べたものであること。

このような規準に基づいてつくられたのが，「新入学児童の人格調査用紙その一」である。この用紙は，A，B，C，D，Eの5つの下位テストに分れており，各下位テストはそれぞれ10問題ある。下位テストの名称はつぎの通りである。

A. 自　立
B. 社会性
C. 神経質傾向
D. 情緒不安
E. 学習興味

なお，前年度作製した「人格調査用紙その二」を，ついでにつぎに掲げておく，これは前年度の新入学児童（2年生）に実施したものである。

前年度の問題は本年度の問題の基礎になったものであるから，両者の内容はかなりよく類似している。

新入学児童の人格調査用紙（その一）

〔記入のしかた〕どの問題にも，子供さんが，つぎに書いてある通りのときは番号を○でかこんで下さい。たとえば正しいと思うことも、反対されるとやめる子供の場合は1を○でかこんで①にします。

A

1	自分では正しいと思うことも反対されるとやめる
2	ものごとを人に手伝ってもらいたがる
3	本やおもちゃをそまつにする
4	勉強や遊びのあとで　道具などをあまりかたづけない
5	いろいろと世話のやける方である
6	遊びはじめると食事時にも帰らない
7	わがままで　がまんがたりない
8	洗面　手洗いなど　さいそくされてやることが多い
9	ものごとに熱中してもすぐあきる
10	ねる時や　起きるとき　ぐずぐずする

B

1	自分のものを　なかなか人に貸さない
2	知らない人には　なかなか　なじまない
3	呼ばれても　すぐ返事ができない
4	たびたびお友達をなかせたり　またなかされたりする
5	しかられると　いつまでも　ぐずぐずしている
6	うちべんけいで　外ではおとなしい
7	年下の　小さい子供とばかり遊ぶ
8	どちらかといえば　人に好かれない方である
9	大きらいな　お友達が近くにいる
10	ひとり遊びが　好きである

C

1	人の前で　指をかむくせがある
2	時々　夢をみて　泣きだすことがある
3	腺病質で　すぐ　ちょっとした病気になる
4	時々　元気がなく　ぼんやりとする
5	時々　夜　おもらしをする
6	ひじょうに　きれい好きである
7	食べものに　好き　きらいが多い
8	気が小さい方である
9	心配性で　ものごとを　苦にする
10	目を　ぱちぱちさせる　くせがある

D

1	ちょっとしたことも　ひどくおこる
2	はらをたてると　手がふるえたり　目つきがかわる
3	うれしくなったり　悲しくなったり　気が変りやすい
4	ひねくれて　だまりこむことが度々ある
5	人前では顔が　あかくなってものがいえない
6	暗いところを　ひどくこわがる
7	毛虫や小さな虫など　ひどくこわがる
8	泣きだすと　いつまでも　なきやまない

E

1	就学前に　幼稚園（または保育園）に行っていた
2	就学前に　絵の本を見る　習慣があった
3	就学前　文字の書いてある　やさしい本を読む　傾向があった
4	かるたや　文字のついた　積木遊びをよくした
5	就学後　本をよく読む
6	わからない字があるとすぐたずねる
7	ラジオを　いっしょうけんめいきく
8	いろいろな　お話をいっしょうけんめいきく
9	遊びに行って帰ってくると　出来事をいろいろと報告する
10	いっしょうけんめいきくラジオの番組があったら（　）の中に記入（　　）
11	最近1カ月の間に読んだ本があったら（　）の中に本の名前と発行所を記入（　　）
12	鉛筆クレヨンなどで絵や字をかくのが好きである

（注）　Aは自立性，Bは社会性，Cは神経質傾向，Dは情緒性，Eは学習興味
Eのうち10，11は採点せず。

新入学児童の人格調査用紙（その二）

左がわの質問をよんで，右がわに記入して下さい。記入のしかたは，大部分，あてはまる所を ⬭ でかこむようになっておりますが，＊じるしの所もあって，ここだけは書き入れていただくようになっております。したがって，＊じるしの所には書き入れ，その他の所は ⬭ でかこむようにして下さい。

お子さんの名まえ（　　）

（A）

1	お子さんは，指をかんだり，目をぱちぱちしたりするくせがありますか	はい　いいえ
2	お子さんは，時々こわい夢を見て，うなされたり泣き出したりしますか	はい　いいえ
3	お子さんは，食べ物に好ききらいが多いですか	はい　いいえ
4	お子さんは，時々かぜをひいたり，おなかをこわしたり，頭痛がしたりすることがありますか	はい　いいえ
5	お子さんは，朝から元気なくぐったりしていることがありますか	はい　いいえ
6	お子さんは，つかれてぼんやりしていることが時々ありますか	はい　いいえ
7	お子さんは，戸外で活発に遊ぶ方ですか	はい　いいえ

（B）

8	お子さんは，自分のしなければならないことをするのに，たいがい親や家の人からさいそくされますか	はい　いいえ
9	お子さんは，やり始めたら何ごとも最後までやりつづけようとする方ですか	はい　いいえ
10	お子さんは，自分で正しいと考えたことは，反対されてもやりとおそうとしますか	はい　いいえ
11	お子さんは，勉強や仕事をする時に，すぐほかの人に手つだってもらいますか	はい　いいえ
12	お子さんは，自分の本やおもちゃを大切にする方ですか	はい　いいえ
13	お子さんは，きちょうめんで規則正しい方ですか	はい　いいえ
14	お子さんは，あまり世話のやけない方だと思いますか	はい　いいえ

（C）

15	お子さんは，知らない人にもはにかまずにお話ができますか	はい　いいえ
16	お子さんは，きょうだいや友だちに自分の持ち物を喜んで貸す方ですか	はい　いいえ
17	お子さんは，呼びかけられてもすぐには返事ができない方ですか	はい　いいえ
18	お子さんは，ほかのお友だちといっしょに仲よく遊びますか	はい　いいえ
19	お子さんは，しかられるといつまでもぐずぐずしている方ですか	はい　いいえ
20	お子さんは，「うちべんけい」で，外ではいくじのない方ですか	はい　いいえ
21	お子さんは，ほかの人の考えや人からいわれたことをよく聞きますか	はい　いいえ

（D）

22	お子さんは，家の人にわがままなことをしたり口答えなどをよくしますか	はい　いいえ
23	お子さんは，きょうだいどうし仲のよい方ですか	はい　いいえ
24	お子さんは，家でよく役に立つ子だとほめられることが多いですか	はい　いいえ
25	お子さんは，何かいわれるとうそをつくことが時々ありますか	はい　いいえ
26	お子さんは，近所の友だちにいじわるされることがたびたびありますか	はい　いいえ
27	お子さんは，近所に仲のよい友だちが多い方ですか	はい　いいえ
28	お子さんは，家庭や家の近くに大きらいな人がいますか	はい　いいえ

（E）

29	ちょっとしたことにお子さんは，思わずひどくおこったり，らんぼうしたりすることがありますか	はい　いいえ
30	お子さんは，何かのことで腹をたてると手がふるえ目つきがすごくなることがありますか	はい　いいえ
31	お子さんは，ちょっとしただけでも顔が青くなり大さわぎすることがありますか	はい　いいえ
32	お子さんは，嬉しくなったり，かなしくなったり非常に気がかわる方ですか	はい　いいえ
33	お子さんは，だまりこんでひねくれてしまうことが時々ありますか	はい　いいえ
34	お子さんは，人の前に出るとかたくなり顔が赤くなりものが言えなくなる方ですか	はい　いいえ
35	お子さんは，暗い所や毛虫など，物事を非常にこわがる方ですか	はい　いいえ

（注）　Aは神経質傾向，Bは自立性，Cは社会性，Dは対人関係，Eは情緒性

2.　人格的要因の研究結果とその考察

a.　反応の分析

まず一つ一つの問題について，どのような反応があらわれたかを表にまとめてみた。第10表である。表の読み書き能力の上・中・下の各群は，前記言語語力テストの総合点によって決めたものである。人数は上・中・下群それぞれ16人，15人，16人としている。これら各欄の数字は各問題に対して好ましくない反応を示したものである。たとえば（A）では，「自分では正しいと思うことでも反対されるとやめる」という好ましくない反応を示したものの人数が，上・中・下群にそれぞれ4人・4人・7人いたことを示す。

最後の欄には○印と×印がある。○印は言語能力のすぐれた群ほど好ましくない反応を示すものが少ないような問題で，×印はその逆の問題である。なにも印のつけてない問題はどちらの傾向も見られないような問題である。

この表によると，大部分の問題については，望ましい人格的行動を示すものは，言語能力のすぐれたものに多いことがわかる。しかしながらつぎの少数の問題では，そのようなことがいえないように思われる。

〔問題番号〕　〔行　　動〕

A の 4　あとしまつをよくする

A の 9　ねっしやすくさめやすいではない

B の 10　ひとりあそびが好きではない

C の 10　目をぱちぱちさせるくせがない

D の 6　暗いところをひどくこわがることはない

D の 7　毛虫や小さい虫をひどくこわがることはない

E の 9　帰宅してから出来事を報告する。

以上あげた7問においては望ましい行動をするものは，言語能力のすぐれたものに多いという関係は見当らない。もっともこの調査の被験者は少ないので，これだけの調査から一般論をくだすことはできない。ただ大ざっぱな一つの傾向が見られるだけである。

第 10 表　　昭和29年度1年生　人格性調査問題の反応分析表

(A)	性格調査の問題	読み書き能力			
		上群	中群	下群	
1	自分では正しいと思うことも反対されるとやめる	4	4	7	○
2	ものごとを人に手伝ってもらいたがる	5	7	8	○
3	本やおもちゃをそまつにする	3	4	8	○
4	勉強や遊びのあとで，道具などをあまりかたづけない	8	7	7	×
5	いろいろと世話のやける方である	3	6	7	○
6	遊びはじめると食事時にも帰らない	4	7	7	○
7	わがままで，がまんがたりない	2	2	6	○
8	洗面，手洗いなど，さいそくされてやることが多い	6	8	9	○
9	ものごとに熱中してもすぐあきる	5	5	3	×
10	ねる時や，起きるとき，ぐずぐずする	4	3	9	○

（B）

1	自分のものを，なかなか人に貸さない	3	4	4	
2	知らない人には，なかなか，なじまない	4	3	5	
3	呼ばれても，すぐ返事ができない	1	4	5	○
4	たびたびお友達をなかせたり，またなかされたりする	2	2	3	○
5	しかられると，いつまでも，ぐずぐずしている	4	4	7	○
6	うちべんけいで，外ではおとなしい	3	3	7	○
7	年下の，小さい子供とばかり遊ぶ	0	1	2	○
8	どちらかといえば，人に好かれない方である	1	1	2	○
9	大きらいな，お友達が近くにいる	0	3	2	○
10	ひとり遊びが，好きである	2	0	0	×

（C）

1	人の前で指をかむ，くせがある	0	1	2	○
2	時々，夢をみて，泣きだすことがある	3	3	3	
3	腺病質で，すぐ，ちょっとした病気になる	1	0	1	
4	時々，元気がなく，ぼんやりとする	0	0	1	○
5	時々，夜，おもらしをする	0	2	2	○
6	ひじょうに，きれい好きである	5	3	5	
7	食べものに，好き，きらいが多い	5	10	7	○
8	気が小さい方である	10	9	10	
9	心配性で，ものごとを，苦にする	3	5	0	○
10	目を，ぱちぱちさせる，くせがある	1	0	0	×

（D）

1	ちょっとしたことも，ひどくおこる	3	3	6	○
2	はらをたてると，手がふるえたり，目つきがかわる	0	0	2	○
3	うれしくなったり，悲しくなったり，気が変りやすい	0	0	1	○
4	ひねくれて，だまりこむことが，度々ある	2	2	3	○
5	人前では顔が，あかくなって，ものがいえない	1	1	3	○
6	暗いところを，ひどく，こわがる	7	7	5	×
7	毛虫や小さな虫などを，ひどくこわがる	3	3	2	×
8	泣きだすと，いつまでも，なきやまない	3	1	3	

（E）

1	就学前に，幼稚園（または保育園）に行っていた	4	6	7	○
2	就学前に，絵の本を見る，習慣があった	5	3	7	○
3	就学前，文字の書いてある，やさしい本を読む，傾向があった	2	10	13	○

4	かるたや，文字のついた，積木遊びをよくした	0	4	4	○
5	就学後，本をよく読む	6	10	10	○
6	わからない字があるとすぐたずねる	2	5	6	○
7	ラジオを，いっしょうけんめい，きく	8	8	12	○
8	いろいろな，お話をいっしょうけんめい，きく	6	6	6	
9	遊びに行って帰ってくると，出来事をいろいろと報告する	6	11	5	×
10	鉛筆，クレヨンなどで絵や字をかくのが好きである	4	6	4	

b．人格的要因と読み書き能力の相関

各人格的要因と言語能力との関係を数量的に現わしたのがつぎの第11表である。これによると自立性・社会性という二つの人格的要因は，言語能力と最も相関が高い。自立性は前掲の問題をみればわかるように，自分のことを自分でする独立心をみる問題群にわかれている。社会性の方は，自立性の上に立って，さらに対人関係や対人的交渉に関する技能をみる問題にわかれている。自立性も社会性も広い経験をもち，事物に関する興味を養う上に大切なものである。このような人格的特性が言語能力と関係が深いということは当然なことである。

これらについで，学習興味が言語能力と関係が深いことがわかる。学習興味の問題は，ラジオ・絵本・文字など言語に関連のある文化財に対する興味の広さを見る各種の問題から成り立っている。このような興味と言語能力の関係が深いのも当然であろう。

第 11 表　　人格的要因と言語能力の相関

要因	相関係数	要因	相関係数
(1) 自立性	.455	(4) 情緒性	.248
(2) 社会性	.452	(5) 学習興味	.397
(3) 神経質傾向	.290		

最後にここで調査した5つの人格的要因のうち，言語能力と最も相関がないのが情緒性と神経質傾向である。前者は情緒の表出が異常な表れ方をするかどうかを見る問題群からなり立っている。いわば極端な情緒不安の程合を

見る問題である。後者は内向的・消極的な人格的傾向をみる問題から成り立っている。いずれも相関係数は 0.2～0.3 の間にあるので，相関はあるが高いとはいえない。

c．人格的要因の優れたもの，劣ったものと言語能力

人格的要因が優れたもの，いいかえれば三段階評価の上の群に，言語能力下のものは何パーセントいるか。逆に人格的要因が劣ったもの，いいかえれば下の群に，言語能力上のものは何パーセントいるか。この点を各要因について調査したのがつぎの第12表である。

この表をみると自立性・社会性・学習興味の各要因についていえば，それのすぐれたものには概して言語能力の低いものはない。またそれの劣ったものには言語能力の高いものは少ないといえよう。神経質傾向・情緒性については，そのような傾向がややはっきりしない。これは両者の言語能力との相関係数が前三者の場合にくらべてやや低いという前述の結果と一致している。

ついでに，言語能力上・中・下の各群別に各人格的要因の平均点を求めてみた。それが第13表の「言語能力群別による人格要因平均点表」である。この平均点は，望ましくない行動に対する反応をそれぞれ1点としたものである。したがって点数が少いほど，人格の評価はすぐれているということになる。

表によると，各要因とも，上群ほど平均点が少なく，下群ほど平均点がよくなっている。いいかえれば上群ほど人格の評価はすぐれており，下群ほど劣るということがいえよう。

第 12 表　人格要因の優れたもの，劣ったものの言語能力点の表

人格的要因上群	言語能力下のもの (%)	人格的要因下の群	言語能力上のもの (%)
(1) 自立性	18	(1) 自立性	9
(2) 社会性	0	(2) 社会性	0
(3) 神経質傾向	35	(3) 神経質傾向	30
(4) 情緒性	33	(4) 情緒性	29
(5) 学習興味	16	(5) 学習興味	14

第 13 表　　言語能力群別による人格点表

人格的要因	言語能力上群	同　中群	同　下群
(1) 自立性	2.75 ± 1.02	3.54 ± 2.70	4.44 ± 2.56
(2) 社会性	1.25 ± 0.41	1.67 ± 0.77	2.38 ± 0.76
(3) 神経質傾向	1.75 ± 0.71	2.20 ± 1.69	2.31 ± 0.98
(4) 情緒性	1.91 ± 0.80	1.13 ± 0.89	1.56 ± 0.81
(5) 学習興味	2.69 ± 0.88	4.63 ± 2.62	4.63 ± 2.62

なお，人格的要因相互はどのような関係をもっているかを知るために相互の相関係数を求めた。それによるとつぎの通りである。

	自立性	社会性	神経質傾向	情緒性	学習興味
自立性					
社会性	.378				
神経質傾向	.336	.419			
情緒性	.034	.409	.298		
学習興味	.512	.615	.178	.335	

D　身体的要因と言語能力

1. 身体的要因の研究方法

ここでは入学までの発育を中心とした身体的諸条件を質問紙法によって調査するやり方をとった。他方，さまざまな身体および運動能力の検査を行った。質問紙の項目および身体および運動能力検査はつぎの通りである。

昭和29年度2年生　発育歴調査用紙

つぎの項目の中で，お子さんに　ちょうどよくあてはまるところを ⬭ でかこんでください。書き入れ方がつぎにあります。

記　入　の　例

4　離乳後の発育	順調　(重い病気) (7才の時, チブス1カ月) すぐに軽い病気にかかる
7　目と耳	普通　(視力が弱い) 少し耳が遠い (その他) (やぶにらみ)

1	出産について	安産　熟産　難産（　　）早産（　　）
2	離乳までの栄養	母　乳　人口栄養　混合栄養
3	離乳までの発育	順　調　重い病気（　　）すぐ軽い病気にかゝる
4	離乳後の発育	順　調　重い病気（　　）すぐ軽い病気にかゝる
5	き　き　腕	右腕きき　左腕きき　左ききを右ききになおした
6	鼻とのど	普通　鼻がわるい　アデノイド　その他（　　）
7	目　と　耳	普通　視力が弱い　少し耳が遠い　その他（　　）
8	運動能力	普通　手が不自由　足が不自由　からだが不自由　不自由でないが無器用
9	よくする戸外の遊びの名まえ （例）学校ごっこ　お人形，木のぼり	
10	遊ぶ場所	おもに戸外　おもに家の中　両方

昭和29年度2年生　身体および運動能力検査

検査項目	合格規準
1. 視力検査	万国視力表で0.7以上は合格
2. 眼球運動検査	眼球の転動に障碍がない時合格
3. 聴力検査	30デシベル以上の音が聞えば合格
4. 片足立ち	左，右とも10秒以上立っておれば合格
5. 片足跳び	左，右とも5米以上進むことが出きれば合格
6. ボール投げ	正しい姿勢で目標の方向になげられれば合格

2. 身体的要因の研究結果とその考察

a. 身体的要因と言語能力との相関

身体的要因と言語能力の関係を大づかみにするために，まず両者の相関係数を求めた。その値はつぎのとおりである。

発育歴調査と言語能力　　$r=0.357$

身体および運動能力検査と言語能力　　$r=0.125$

このように，発育歴と言語能力とはかなり相関があるが，身体および運動

能力の検査と言語能力の相関はほとんどない。

従来の研究によると，発育が完全でない児童と同様に，身体および運動能力に欠陥のある児童も言語能力は劣っているのが普通である。だから従来の研究とわれわれの研究とは，結果が一致しない。この点は身体および運動能力の調べ方の相違によると思われる。従来の多くの研究は身体および運動能力に著しい欠陥のある児童だけをとりだしてその言語能力をしらべた。あるいは言語能力がいちじるしく劣った児童について事例研究を行い，かれらの多くに著しい身体的ないし運動能力の欠陥のあることを見出したのである。この研究では普通の学級について，全体として身体および運動能力と言語能力との間にどんな関係があるかを調査した。このような方法上の相違によると考えられる。そこでわれわれも，つぎに従来の研究に準ずる資料の処理を行った。

b．身体的要因の優れたもの，劣ったものと言語能力

身体的要因の調査を行った発育歴調査と，身体および運動能力検査の結果が三段階評価でそれぞれ上のものを拾い出した。そして，これらの群のうち，何パーセントのものが言語能力は下の評価になっているかを調査した。

これと全く逆に，身体的要因下の群に，言語能力上のものは何パーセント含まれているかも調査した。その結果は，つぎの第14表である。

第 14 表　　身体的要因の優れたもの，劣ったものの中に含まれる言語能力の劣ったもの，優れたものの割合（%）

身体的要因上の群	言語能力下のものの含まれる%	身体的要因下の群	言語能力上のものの含まれる%
発育歴調査	15	発育歴調査	14
身体および運動能力検査	29	身体および運動能力検査	14

第14表で明らかなように，発育歴のよいものには，言語能力の劣ったものは少なく(15%)，また発育歴のわるいものにも，言語能力のすぐれたものは少ない(14%)，身体および運動能力の優れたものの中には，言語能力の劣ったものは29%という比較的多数がいる。しかし，身体および運動能力の劣っ

たもので言語能力がすぐれているものはわずか14%しか見当らない。

前に身体および運動能力と言語能力の相関は低いが，このことは必ずしも身体および運動能力が言語能力にそれほど関係がないという結論にはならないだろうといった。このことは，われわれの以上の資料から確められたわけである。

最後に発育歴調査と，身体および運動能力の相関を求めたところ，その値は r＝0.159 で比較的小さかった。

E　家庭環境要因と言語能力

1. 家庭環境の研究方法

家庭環境のうち，ここでは (1)家庭の社会・経済的条件，(2)家族の教育程度，(3)家庭の文化環境について調査を行った。調査用紙は保護者が記入する質問紙法によった。これについては昨年度の報告にあるから，ここでは採点規準を略記するに留めることにした。

家庭環境調査の採点規準

(1) 家庭の社会経済的条件　（つぎの各問の答が「ハイ」の場合１点を与える）

1. 家族のだれも，現在および過去数年間重い病気でねていたということはない。
2. 住んでいる家はアパート，借間ではない。
3. 住んでいる家はたたみが15畳以上，あるいは１人当り３畳はある。
4. 子供の勉強する場所は充分ある。
5. 家庭でとっている雑誌は一冊以上ある。

(2) 家族の教育程度　（これはつぎのように最初から上・中・下の三段階に区分した）

上――父母の一方が大学，高等専門学校程度の学歴をもつ。

中――父母の一方が中等学校程度の学歴をもつ。

下――両親とも義務教育程度の学力をもつ。

以上の他に他の家族の学歴・両親の出身地域・年輩等を加味して上・中・下を決めた。

(3) 家庭の文化程度　（つぎの各問とも答が肯定のとき一点とする）

1. 絵本はたまには買って与える。
2. 家に20冊以上の本（雑誌は含まず）がある。
3. 所有している子供用の本が4冊以上具体的に記述してある。
4. おもちゃ類はたまには買って与える。
5. 持っているおもちゃが4つ以上記述してある。
6. 子供の机がある。
7. ラジオ・新聞が家にある。
8. 芝居・映画の類を見せたことがある。

2. 家庭環境要因の研究結果とその考察

a．家庭環境要因と言語能力の相関

はじめに，上にのべた3種の家庭環境調査のそれぞれと言語能力の相関を求めた。これは，各家庭環境要因の得点と，言語能力得点とを算出し，それぞれ段階点になおしてから，相関係数を算出する方法をとった。その結果は，つぎのとおりである。

家庭の社会経済的条件と言語能力	r＝0.209
家族の教育程度と言語能力	r＝0.577
家庭の文化程度と言語能力	r＝0.338

このように，いずれもかなりの相関がある。とくに親の教育程度は言語能力と高い相関が見られた。

b．家庭環境要因の優れたもの，劣ったものと言語能力

つぎに，家庭環境要因のすぐれた児童だけを選択し，その中で言語能力下のものは何パーセント含まれているかを調査した。これとは逆に，家庭環境要因の劣った児童だけを選択し，その中に言語能力上のものが何パーセント含まれているかも調査した。その結果は，つぎの第15表のとおりである。

第 15 表　家庭環境要因のすぐれたもの，劣ったものの中に含まれる，言語能力上のもの，下のものの割合 (%)

家庭環境要因上の群	言語能力下のものの含まれる%	家庭環境要因下の群	言語能力上のものの含まれる%
社会経済条件	25%	社会経済条件	14%
親の教育程度	21	親の教育程度	0
家庭の文化環境	0	家庭の文化環境	7

第15表で明らかなように，社会経済条件，親の教育程度のそれぞれについては，それがすぐれていても言語能力は劣っているという児童がかなり見られる。しかしながら，全体としていえば，家庭環境のよしあしと，言語能力とはかなり密接な関係がある。このことは前に求めた相関係数の値がかなり高いこととも一致している。

なお，社会経済的条件と親の教育程度及び文化環境とは，それぞれ，$r=0.250$，$r=0.238$ で相関が多少あるが，親の教育程度と家庭の文化環境については $r=0.123$ にすぎなかった。

F　学校生活要因と言語能力

1. 学校生活要因の研究方法

ここでは学習帳の調査と学校生活態度のチェックリストとを行った。

前者すなわち学習帳の調査は，7月3日の土曜日に，予告なしに学習帳を集め，五つの評価の観点から，上・中・下の三段階に評価を行った。五つの評価の観点とは，つぎのとおりである。

1. 分　　量　　(多い——少ない)
2. 質　　(内容がよい——わるい)
3. 誤字・誤記　　(多い——少ない)
4. 使い方　　(きれい——きたない)
5. 字くばり，紙面の利用　(上手——下手)

学校生活態度のチェックリストは，(1)教師と児童との接近の度合，(2)学校・学習に対する熱心さ，(3)学校生活への三部面から成りたっている。これ

は，担任教師の評価によった。この調査結果も最後に上・中・下の三段階に評価を行った。

2. 学校生活要因の研究結果とその考察

a．学校生活要因調査の個人別成績

学習帳および学校生活態度チェックリストの個人別成績の一部を示せば，第16表および第17表のとおりである。第16表は，学習帳の分量・質・誤字誤記・使い方・紙面の利用というそれぞれの観点から，三段階の評価を行った結果，および段階点の合計点を個人別に求めたものである。第17表は学校生活態度を6箇の観点から担任教師がチェックしたもので，やはり三段階に評価している。計の欄はこれらの合計点で，評点欄は合計点から更に五段階評価を行ったものである。これらの表により，学校生活態度の個人差がかなりあることがわかる。

なおこの二つの調査の相関係数を求めたところ，その値は $r=0.466$ であった。学習帳の使い方のよしあしと，学校生活態度のよしあしには，かなり関係があることがこれによってわかる。

b．学校生活要因と言語能力との相関

まず学習帳検査および学校生活態度のチェックリストの結果と言語能力との相関を求めた。その結果はつぎのとおりである。

学習帳検査と言語能力　　$r=0.33$

学校生活態度と言語能力　　$r=0.10$

このように学習帳のよしあしは言語能力とかなり相関がある。学校生活態度のチェックリストの方は相関係数の値は低い。このことはそのまま学校生活態度が言語能力に無関係だといえるだろうか。この点を吟味するために，つぎのような資料の整理の仕方も行った。

c．学校生活要因のすぐれたもの，劣ったものと言語能力との関係

学校生活要因のすぐれた児童だけを選び，その中に言語能力下のものが何パーセントいるかを調査した。学校生活要因の劣った児童について言語能力上のものの割合を算出した。その結果は，第18表のとおりである。

第 16 表　　29年度２年生　国語学習帳検査個人別成績の一部

男子	分量	質	誤字・誤記	使い方	紙面利用	計
1	3	2	2	1	3	11
2	2	2	3	2	2	11
3						
4	3	2	2	2	1	10
5	3	1	2	2	2	10
6	欠					
7	2	2	2	2	2	10
8	3	3	3	3	2	14
9	欠					
10	欠					
11	3	3	3	3	2	14
12	2	1	2	1	1	7
13	3	2	2	1	1	9
14	3	2	1	1	1	8
15	2	2	2	2	2	10
16	3	2	2	2	2	11
17	欠					
18	3	3	3	2	3	14
19	3	3	3	3	3	15
計	38	30	32	27	27	164

得点分布		男	女
14・15 —	7名	4	3
12・13 —	7	0	7
10・11 —	15	7	8
9 —	7	1	6
7・8 —	6	2	4
計	42	14	28

得点平均

男　11.00

女　10.75

第 17 表　第1学期　学校生活態度チェックリスト個人別成績の一部

女子	教師と生徒の接近 ×　○　◎ 教師をかっておふざけをしたり遊びすぎる 恐れていてよく話をする とるうしろ	学校・学習への熱心さ ◎○× 遅刻時刻をよくする した刻をよく忘れる ない	◎○　× 忘れ物時間割をよく忘れてくる こない	◎○　× 熱心に学ぶ学校での勉強でない 心うが	学校生活への適応 ◎　○　× 授業にてふさわしくない よくついてい	◎　○　× 教室でとふさわしくないのびのびる うい	計 ◎3点 ○2点 ×1点	評 点
1	◎	◎	○	◎	○	×	14	3
2	○	◎	◎	○	○	×	13	3
3								
4	○	◎	×	×	×	×	9	1
5	○	◎	◎	○	○	○	14	3
6	×	◎	○	×	○	×	10	1
7	◎	◎	◎	◎	◎	◎	18	5
8	◎	◎	◎	◎	◎	◎	18	5
9	×	◎	◎	○	○	○	13	3
10	○	◎	◎	○	○	○	14	3
11	○	◎	○	○	○	○	13	3
12	○	◎	○	×	○	×	11	2
13	○	◎	◎	○	○	○	14	3
14	○	◎	○	×	×	○	11	2
15	○	◎	○	○	○	○	13	3
16	◎	◎	◎	◎	×	×	14	3
17								
18	◎	◎	◎	◎	◎	×	16	4
19	○	◎	◎	◎	◎	◎	17	5
計	37	51	43	36	35	30	232	
男女計	103	134	119	90	89	89	624	

第 18 表　学校生活要因上の群，下の群に含まれる，言語能力下のもの，上のものの%

学校生活要因上の群	言語能力下のものの含まれる%	学校生活要因下の群	言語能力上のものの含まれる%
学習帳	10%	学習帳	0%
学校生活態度	20	学校生活態度	21

第18表であきらかなように，学習帳のよしあしは，言語能力と極めて密接な関係がある。学習帳がよくて言語能力が下だとか，学習帳がわるくて言語能力は上だというものはほとんどいないのである。

学校生活態度については，言語能力との関係は学習帳ほど密接ではない。しかしながら，ここにおいてもかなりの関係のあることがうかがわれる。少なくとも学校生活態度は言語能力に無関係であるということはいえない。

G　ま　と　め

(1)　この研究は小学校における言語能力の発達に関する研究の一環として行われたものであり，言語能力の発達を規定する要因を明らかにするのが目的である。

(2)　研究に当って言語能力の規定およびその測定法が問題になる。この点については第1節(A)に述べてある。簡単にいえば，この研究の対象となる小学校1・2年生の第1学期に国語科で問題にされる学力を測る各種のテストを作り，その総合点をもって言語能力とした。

(3)　言語能力を規定する要因としては，児童すなわち主体の側の条件と，環境の側の条件とを考えた。これらは密接な相互関係があるので，ここまでが主体の条件，その先が環境条件というように画然と区別せず，つぎのように分類した。

1. 知的要因
2. 人格的要因
3. 身体的要因
4. 環境的要因
5. 学校生活要因

これらの要因は，テスト・質問紙・チェックリストなど目標と測定しようとする対象に応じて様々な方法を適宜用いた。

(4)　知的要因と言語能力の関係は第2節(B)に見られるように極めて密接なものがある。知能テスト・推理テスト・記憶テストのいずれも言語能力と

かなり高い相関がある。知的要因に基いて上群，中群，下群をわけ，その上群中に含まれる言語能力下のものの割合，および下群中に含まれる言語能力上のものの割合を調べたところによると，いずれも0％ないしそれに近い数値が得られた。

(5) 人格的要因と言語能力との関係は第3節(C)に見られるように，これも割合深い関係がある。つぎの6種の人格的要因の中で言語能力と最も相関の高い順にあげると，つぎのとおりである。

1. 自立性
2. 社会性
3. 学習興味
4. 神経質傾向
5. 情緒性

またこれら6種の人格的要因を測定する個人個人の問題に対する反応を分析したところによると，中には言語能力と明らかにプラスの関係のないものも見られた。

なおこの調査は保護者が記入する質問紙法によって行われた。人格的要因は質問紙法によって調査するだけでは必ずしも充分とはいえない。この点，今後他の適当な方法を併用する必要があると思われる。

(6) 身体的要因と言語能力との関係は，第4節(D)に述べてある。ここでは身体的要因として発育歴の調査と身体および運動能力の検査とを行った。それによると，発育歴のよしあしは言語能力とかなり密接な関係がある。身体および運動能力と言語能力との相関はあまりない。このことは両者が無関係ということではない。そのことはつぎの資料から示される。

1. 身体および運動能力のすぐれた群について言語能力下のものをしらべたところ，そのようなものは僅少であった。
2. 身体および言語能力の劣った群について言語能力上のものを調べたところ，その数も僅少であった。

(7) 家庭環境要因と言語能力との関係も，第5節(E)にみられるように密

接な関係がある。ここでは家庭の社会経済条件，親の教育程度および家庭の文化環境のそれぞれと言語能力の相関を求めた。その結果は親の教育程度が最も相関があり家庭の文化程度，社会経済条件の順になっている。

(8) 学校生活要因としては，学習帳の検査と学校生活態度のチェックリストを行った。それによると，学校生活要因もまた言語能力と密接な関係がある。ただ相関係数だけについていえば，学校生活態度は言語能力とあまり関係がない。

(9) 言語的諸能力は独立したものであるか，また言語能力を規定する要因は相互に独立したものであるか，この点は一応検討してみる必要がある。前者については第1節(A)で因子分析を行い，後者については第2節(B)以下の各節で相関係数を求めて，これを検討した。その結論としていえることは，つぎのとおりである。

1. 言語的諸能力は相互に独立したものではなく，かなり共通した要素がある。
2. 言語能力を規定する要因相互も同様である。

(10) 言語能力は，相互に密接な関連性のあるさまざまな要因によって規定されている。われわれはこれらの要因が言語能力とそれぞれどの程度の関係をもつかを，一応数値的に明らかにした。しかしながら，要因相互の関連性については，まだ研究が充分でない。この点については，つぎの2つの方向を考えている。

1. 継続的な事例研究により，要因相互の関係を調べて行く。
2. 因子分析により，要因相互の因子構造を明らかにする。

X 発達事例

A 概観

この章では，事例研究の立場から，ひとりびとりの児童の言語能力の発達事例をとり扱う。われわれは，実験学校，協力学校を設け昭和28年度入学児童について，言語能力——読む，書くの2年間の能力の発達を追跡した。

特定の児童の発達事例を述べる前に，まず，ここでとった方法や立場また手続きを紹介しておく必要がある。この研究は3つの方法を採用している。

(1) 言語能力——読む，書く——テスト

(2) 言語能力を規定する要因の調査

(3) 言語と行動の観察記録

補説的に(3)の観察記録について触れよう。これは学校生活，学習場面の自然の状況の中で児童の言語と行動の特徴を観察によってとらえていく研究法である。個人別，行動内容別にカードに記入し，それを累加して解釈をくだしていく。そして学校内だけに限らず，必要に応じて適宜，家庭，近隣社会の広域生活まで観察範囲を拡げる。あるいは意図的に構成した実験状況に児童を追いこんで行動の特徴を観察記録した。発達事例の研究のための資料としてわれわれが最も重く見たのが観察作業である。

従来の研究法は(1)言語能力と(2)要因調査の結果から診断していた。われわれは，それで充分としないで(3)の方法も含めて詳しく，その日その日の児童の言語発達の諸相をダイナミックに追跡しようと企てた。

そうした立場に立った，この研究は次の特徴を持っている。

(1) 知的能力，言語能力など，特にある能力が劣る児童だけを対象としないで，ふつうの能力の児童も事例研究の対象としている。

(2) めいめいの言語能力の問題点を診断することと合わせて，言語能力に関する発達事例の研究も扱っている。

(3) ある時期の言語能力を横断面的に区切って，問題を発見するふるいにかけたり，偶発的な問題をとりあげたりすることはしない。この研究は同じ個人の発達を継続して追跡していく6年研究である。

(4) 言語能力のテスト問題はわれわれの研究室が作ったものであり，市販されている標準テストは採用していない。

(5) テストだけでなく，ありのままの生きた経験処理の観察を重く見ているから，言語能力の診断が抽象的な関係づけに終らない。われわれは事実の記述因果関係の説明に終らないで，それぞれの児童の将来の言語能力がどう発達するかに関する見通しさえも知ろうとしている。

発達事例に関する学級全員の諸資料は次の4段階に従ってまとめた。その手続きのあらましを述べよう。

1. 言語能力の発達を規定する要因

まず，全員について予想される各要因の調査をして，それから各個人の特徴を明らかにする。観察記録，面接による逸話記録はこの補助資料として役に立つ。そして，どんな要因がどのように，からみあいながら言語能力の発達を，どれだけ，どの能力を規定しているかを考える。

2. 言語能力の発達

定期的に実施したテストの結果には，学級内における5段階評点を与え，各期の言語能力の平均は $\frac{(n_1+n_2\cdots\cdots n_r)}{N}$ で示した。（n＝各能力の評点，N＝テスト実施回数）従って月毎，学期毎にそれぞれの児童の言語能力が学級の中でどれだけ向上したか，あるいは低下したかを知ることができる。次頁にあげたふたつの表はテスト期別に見た児童の総言語能力の評点表である。その中で，発達のバライティは，たとえば以下の児童例から見ていただこう。

向上した者　（男）No.5　No.12　（女）No.13　No.24

低下した者　（男）No.2　No.14　（女）No.4　No.23

各言語能力には数量的処理の上で，特別に重みづけをしていない。[※1)] ここでは，そのかぎりで，文字の読み，書き能力が言語能力を考える中心になっている。また，児童の属する実験・協力学校が全国水準から見てどれだけ言語能力が発達しているかが問題になる。[※2)] この点，ほかの実験協力学校の調査資料から解釈に補正を加えている。

※1) 読む，書く，話す，聞くの各能力の重みづけをすることは，言語能力とは何かの基本的問題に立ち入ることになる。この解答は「言語能力の発達に関する調査研究」の終了後，明らかにされるものでなければならない。暫定的にも，また，特定個人の主▲

学級男子のテスト期別にみた総言語能力評点（平均）

男子	年月 28.4	28.5	28.6	28.7	28.9	28.12	29.3	29.7	29.12	30.3	平均点	学級順位
1	2.36	2.36	2.17	2.67	2.33	3.17	2.92	3.00	2.94	2.93	2.69	34
2	3.79	4.21	4.25	4.25	4.58	4.42	4.33	3.89	4.13	3.67	4.15	6
3	2.43	2.07	1.92	2.17	—	1.83	1.67	1.56	2.38	2.60	2.07	41
4	2.43	2.29	2.50	2.08	2.25	2.25	2.17	2.11	2.75	2.00	2.28	38
5	2.50	2.71	2.67	2.67	3.67	3.58	3.08	3.11	3.69	3.60	3.13	24
6	4.07	4.00	4.50	4.50	4.75	4.42	3.50	3.67	4.31	3.73	4.15	7
7	3.86	4.14	4.33	4.08	4.58	4.50	4.00	3.78	4.00	4.00	4.13	8
8	3.29	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
9	2.43	3.00	3.17	3.08	3.00	–	2.33	2.22	3.60	3.33	2.90	29
10	3.58	3.86	4.50	4.33	4.75	4.67	3.83	3.89	4.38	3.87	4.17	5
11	3.64	3.43	3.42	3.58	4.00	3.75	3.00	2.89	4.19	3.14	3.50	19
12	2.93	2.64	2.75	2.42	2.67	3.67	2.42	3.11	3.19	2.93	2.87	30
13	2.50	2.71	2.42	2.50	3.08	2.67	2.33	2.67	3.00	2.93	2.68	35
14	2.14	—	2.00	2.17	2.24	1.75	2.50	2.44	2.13	2.00	2.15	40
15	2.67	3.21	3.33	3.58	3.42	3.17	–	2.78	3.63	3.39	3.24	22
16	4.29	4.36	4.50	4.58	5.00	4.58	4.17	3.78	4.88	4.67	4.48	2
17	–	–	–	–	–	–	(転入学)	4.78	4.81	4.67	4.74	1
18	–	–	–	–	–	–	–	(転入学)	3.69	3.47	3.62	15
19	–	–	–	–	–	–	–	(転入学)	2.38	2.27	2.33	37

▲観による能力の重みづけをするとかえってあとあと煩瑣になる。そこでそぼくな立場で，特に重みづけをしないということにきめた。言語能力にいくつかの柱を立て，わかった限りでそれを総計あるいは平均することにした。そうすることにより，後の言語能力への統計処理が簡便になることをはかったものである。

※2) たとえば，A校のある児童の語い力がかりに数量的には同じ結果で，前回とくらべて変化がなかったにもせよ，A校が全国平均から低下していることになれば，A校の児童の語い力は実際は低下しているわけである。

3. 言語能力の特徴

学級女子のテスト期別にみた総言語能力評点（平均）

女子	年月 28.4	28.5	28.6	28.7	28.9	28.12	29.3	29.7	29.12	30.3	平均点	学級順位
1	3.64	3.62	3.69	3.67	3.92	–	–	3.22	3.33	3.33	3.55	17
2	4.25	4.14	4.38	4.42	4.75	4.75	4.33	4.00	4.69	4.27	4.40	3
3	3.29	3.00	3.31	3.17	3.42	2.83	2.67	2.11	2.38	2.80	2.90	28
4	4.00	3.79	4.23	3.75	4.42	4.08	2.75	2.56	3.56	3.27	3.64	14
5	3.57	3.43	3.92	3.67	4.25	3·58	3.00	2.78	3.44	3.00	3.46	20
6	3.64	3.21	3.00	3.42	3.75	3.58	2.50	2.67	3.19	2.67	3.16	23
7	4.00	4.43	4.00	4.58	4.92	–	3.83	3.56	–	4.13	4.19	4
8	2.86	2.57	1.99	2.58	3.33	2.92	2.58	2.56	2.75	3.00	2.71	32
9	3.79	3.86	3.62	3.67	4.25	4.25	4.08	3.89	4.13	4.07	3.96	11
10	2.50	2.29	2.08	2.17	2.00	3.00	2.50	2.00	2.06	2.07	2.27	39
11	3.57	4.14	4.38	4.42	4.67	3.92	3.42	4.22	4.19	4.33	4.12	9
12	4·43	3.79	4.23	4.50	4.67	4.25	3.92	3.44	3.88	3.67	4.08	10
13	2.25	–	3.08	3.50	4.25	3.58	3.75	3.67	4.19	4.29	3.61	16
14	3.29	2.50	2.46	2.75	2.92	3.00	2.92	3.00	3.56	3.21	2.96	26
15	2.17	1.64	1.38	1.33	1·08	1.75	2.25	2.56	1.56	1.93	1.77	46
16	2.17	1.93	1.92	2.58	3.07	3.50	3.42	2.67	3.63	3.40	2.83	31
17	2.70	1.85	1.54	1.83	1.75	2.08	1.83	2.00	1.94	1.46	1.84	45
18	2,86	2.64	3.23	3.00	3.42	2.92	2.75	2.67	2.87	3.00	2.94	27
19	2.79	2.71	2.23	2.50	2.75	2.83	2.50	2.44	2.19	2.60	2.55	36
20	2.86	2.57	2.85	3.25	3.67	3.25	2.83	2.56	3.47	3.36	3.06	25
21	–	–	–	–	–	–	3.08	3.11	3.94	3.67	3.45	21
22	3.00	3.29	3.69	3.92	4.42	4.00	3.50	3.78	3.69	3.80	3.71	12
23	2.71	2.93	3.00	3.17	3.42	2.08	1.92	2.22	2.88	2.67	2.70	33
24	2.08	1.93	1.85	1.42	1.42	1.33	2.33	2.00	2.75	2.60	1.97	44
25	–	–	–	–	–	–	（転入学）	3.33	3.81	3.53	3.55	18
26	–	–	–	–	–	–	（転入学）	3.00	3.94	4.07	3.69	13
27	–	–	–	–	–	–	（転入学）	2.11	2.13	1.80	2.01	42
28	–	–	–	–	–	–	–	–	（転入学）	2.07	2.01	43
男女全員平均点	2.89	3.07	3.10	3.19	3.54	3.33	3.00	2.97	3.37	3.20	3.17	

（注） テスト実施期別にみて平均点に差がある。ある言語能力テストの結果が正常曲線をえがかず，一律的に各段階に正規の人数配分をすることができなかったためである。

児童の各言語能力の発達は量的にも，質的にも必ずしも同じ度合いを示さ

ない。[※3)] 1年次の学級全員の言語能力評点表と，2年次のものとを以下にあげた。ふたつの表から能力にいろいろなかたよりがある児童を知ることができる。たとえば第2年次の表から以下の児童の特徴を見ていただこう。

○ ある能力が優るもの

男子 No. 7（作文），No. 18（文法），女子 No. 2（読解），No. 9（読解）

○ ある能力が劣るもの

男子 No. 11（語い），No. 18（作文），女子 No. 17（平がな書），No. 26（語い），

※3) 各言語能力の発達とは，読む，書く，話す，聞くの4能力および各下位能力（たとえば，読むでは漢字，かなの読み，文章読解，音読技能等）のかたよりをも含む。そして，ちがった発達の度合いとは，一般的に，ある時期がくると，ある能力だけは×

学級全員の第1年次言語能力評点（平均）

男子	言語能力									
	読字	書字	読解	語い	発音	文法	作文	話す	総点	評点
1	2.5	2.4	2.7	5.0	5.0	2.5	2.3	3.0	24.4	3
2	4.5	3.9	4.4	3.3	4.0	3.5	4.3	5.0	32.9	5
3	退学	–	–	–	–	–	–	–	–	–
4	2.2	2.4	1.4	2.8	1.5	2.0	1.0	3.0	16.3	1
5	2.6	2.2	2.2	2.2	3.0	3.0	1.0	3.0	19.2	2
6	3.2	2.7	3.1	2.8	4.0	3.3	1.7	1.0	23.8	3
7	4.5	4.5	3.5	3.5	3.5	3.3	3.7	5.0	31.5	4
8	4.3	3.9	4.7	3.5	4.0	3.8	4.7	5.0	33.9	5
9	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
10	3.2	2.9	2.8	2.5	2.5	1.7	1.0	3.0	19.6	2
11	4.5	3.9	4.1	3.3	4.0	4.0	4.0	5.0	32.8	4
12	4.1	3.4	3.3	2.5	2.5	3.3	2.7	3.0	24.8	3
13	2.9	2.8	2.2	2.8	3.0	3.8	2.5	3.0	23.0	3
14	2.6	2.9	1.8	3.0	3.5	3.0	1.3	3.0	21.1	2
15	2.0	2.3	2.7	2.5	2.0	2.3	2.0	–	(15.8)	2
16	3.4	3.3	3.0	2.7	3.5	3.3	3.0	1.0	23.2	3
17	長欠	–	–	–	–	–	–	–	–	–
18	4.7	4.2	4.7	3.8	2.0	4.3	5.0	1.0	29.7	4

女子	言語能力									
	読字	書字	読解	語い	発音	文法	作文	話す	総点	評点
1	3.7	3.4	3.1	4.0	3.0	2.0	–	–	(19.2)	3
2	4.6	4.1	5.0	3.7	2.5	4.3	3.3	5.0	32.5	4
3	3.4	3.3	2.4	2.8	3.0	3.3	2.7	3.0	23.9	3
4	4.3	3.8	3.5	2.3	4.0	2.8	2.7	5.0	28.4	4
5	4.2	3.7	2.8	3.3	1.5	3.3	3.7	3.0	25.5	3
6	3.5	3.1	2.7	3.0	4.0	3.8	2.7	3.0	25.8	3
7	4.3	4.3	4.0	3.8	4.5	4.0	4.0	–	(28.9)	5
8	2.8	2.8	2.1	2.5	2.5	3.0	2.7	3.0	21.4	3
9	3.8	3.6	5.0	3.0	2.5	4.3	3.7	5.0	30.9	4
10	2.3	2.6	2.9	2.0	1.0	3.0	3.0	3.0	19.8	3
11	4.3	4.2	3.3	3.0	4.0	3.3	4.3	1.0	27.4	3
12	4.9	3.9	4.1	3.0	3.5	4.8	3.3	3.3	30.2	4
13	3.4	3.3	3.2	3.7	2.5	5.0	3.3	3.3	27.1	3
14	3.0	2.8	2.8	3.5	1.5	2.5	3.3	3.0	22.4	3
15	1.4	1.8	2.0	2.8	2.0	2.8	1.7	5.0	19.5	2
16	2.4	2.8	2.8	3.0	4.0	4.0	2.0	5.0	22.0	2
17	2.0	2.1	1.5	1.8	2.0	2.0	1.3	–	(12.7)	1
18	3.2	3.1	3.0	2.0	1.5	3.3	2.0	3.0	21.1	2
19	2.5	2.7	2.4	2.5	3.5	3.5	2.7	3.0	22.8	3
20	3.3	3.1	2.6	2.3	1.5	3.3	3.3	1.0	20.4	2
21	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
22	4.0	3.5	3.2	4.5	2.0	3.0	3.7	5.0	28.9	4
23	3.3	2.9	1.8	2.3	4.0	1.7	2.0	–	(18.0)	2
24	1.7	2.1	2.6	1.7	1.0	2.0	1.0	1.0	13.1	1

×急に伸びるものだという発達曲線の相違（一般的特徴）および今ひとつはある個人だけがある条件のために発達が違う（個人的特徴）ことを含む。

4. 言語能力の診断

言語能力とそれを規定する要因との機能的な関係から，言語能力の発達の診断をする。事例研究の対象である治療処置やその効果の問題については，われわれの直接の任務でないから，取り扱わない。なお各年度で診断できない問題は次年度におくることにしている。それ故，この報告書では，診断のところは重点的に基本的事項だけについて述べるに留めた。

学級全員の第2年次言語能力評点（平均）

男子	平がなよみ	片かなよみ	漢字よみ	平がなかき	片かなかき	漢字かき	読解	語い	文法	作文
1	3.3	4.0	3.0	2.0	2.9	2.8	2.7	3.2	2.3	3.0
2	4.3	4.8	3.8	3.7	3.1	3.7	3.7	3.9	5.0	4.0
3	2.7	3.8	2.0	3.3	2.4	1.7	1.7	2.0	2.7	2.0
4	3.7	1.7	1.8	4.3	1.6	1.8	2.2	2.4	3.0	2.3
5	4.0	4.8	3.2	4.7	2.7	2.8	3.7	3.7	3.3	3.0
6	5.0	4.4	3.8	4.7	4.2	3.3	3.5	3.9	4.0	3.3
7	4.3	4.8	3.5	4.0	4.2	3.3	3.7	3.0	4.3	5.0
8	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4.3
9	5.0	5.0	3.3	3.3	3.2	2.7	2.5	1.9	2.0	2.7
10	5.0	5.0	3.7	4.7	3.9	4.2	4.2	3.4	3.3	4.0
11	4.3	4.5	3.0	4.7	4.3	2.5	3.7	1.9	2.7	3.0
12	4.3	2.7	3.3	4.3	3.0	3.0	2.2	3.5	2.0	3.3
13	4.0	3.7	3.0	2.0	2.3	2·8	2.7	2.7	3.3	2.5
14	3.0	1.2	1.7	2.0	1.9	2.0	2.8	1.9	2.7	2.7
15	5.0	3.4	4.0	4.3	2.9	3.5	2.7	3.0	2.0	2.7
16	5.0	5.0	5.0	5.0	4.6	4.8	4.5	3.7	4.0	4.0
17	5.0	5.0	5.0	4.3	4.9	5.0	4.2	5.0	4.0	4.7
18	4.3	4.3	3.0	4.0	3.3	3.8	3.0	3.0	4.5	2.5
19	3.7	2.0	1.8	2.7	2.2	2.3	1.3	2.0	2.5	3.0

B 具体的事例

低学年の言語能力の発達に関する具体的な事例は，この報告書の作成上，次の基準に従って6事例だけを中間的に選び出した。

1. まず，低学年児童のふつうの言語能力の発達——学級でふつうの子どもの言語能力はどんなふうに伸びていくかをつかみたい。
2. 次に，そのためには両極の事例——学級で特に優る子どもと，劣る子どもの事例について触れることが便宜的である。
3. 特に，言語能力と知的・身体的・性格的・環境的・教育的な各要因との力学関係はまちまちであるから，なるべくそれらのからみあいが，

女子	平がなよみ	片かなよみ	漢字よみ	平がなかき	片かなかき	漢字かき	読解	語い	文法	作文
1	4.0	3.4	2.8	4.3	3.4	3.8	2.7	3.0	3.0	3.5
2	5.0	4.7	4.5	5.0	4.9	3.8	4.7	3.2	3.7	4.7
3	1.3	3.5	2.7	2.0	3.3	2.5	1.5	2.2	2.0	3.0
4	4.3	4.0	2.8	4.3	3.9	3.7	2.2	2.2	2.0	3.0
5	4.3	3.1	3.0	4.7	3.0	2.8	2.7	3.2	3.0	2.7
6	4.3	2.5	2.7	4.3	2.2	2.3	2.5	2.7	3.7	2.3
7	–	5.0	4.0	–	4.0	4.0	4.3	3.0	4.0	3.5
8	4.0	3.2	2.3	3.0	2.4	2.2	3.0	2.9	2.7	2.0
9	5.0	4.8	3.3	4.3	4.2	3.5	4.5	3.7	3.0	4.3
10	3.0	2.0	2.0	1.7	2.0	2.8	2.8	1.5	1.0	1.0
11	5.0	4.3	4.0	4.7	4.4	4.5	4.3	3.4	3.7	4.0
12	4.3	5.0	3.0	4.3	3.0	3.3	4.0	3.2	3.7	3.3
13	4.3	5.0	3.7	3.7	4.0	3.8	4.3	4.5	4.7	3.0
14	4.3	3.7	2.8	4.3	3.4	2.8	4.0	2.9	2.7	2.5
15	1.7	1.9	1.3	1.3	1.4	2.0	2.2	2.7	2.0	2.7
16	5.0	3.4	2.8	4.0	2.6	2.5	3.3	2.9	3.3	3.7
17	3.0	1.5	1.8	1.0	1.4	1.3	2.2	2.0	2.5	1.5
18	4.3	3.5	2.7	1.7	2.6	3.2	2.7	2.2	3.0	2.3
19	1.3	2.5	2.0	3.0	2.0	2.5	2.5	3.2	2.3	2.3
20	4.3	4.3	2.7	4.0	2.9	2.3	2.8	3.2	3.0	3.0
21	5.0	4.8	3.8	4.3	3.0	3.7	3.3	2.9	3.0	2.7
22	4.3	3.7	2.8	4.7	3.7	3.0	4.0	4.2	4.0	3.3
23	4.3	2.9	2.7	3.3	2.6	3.2	1.5	2.7	1.7	2.0
24	2.7	3.0	2.2	3.0	2.2	3.0	2.8	2.4	2.0	2.0
25	5.0	4.0	4.7	4.3	2.9	4.0	3.0	2.4	3.0	3.3
26	4.3	4.0	4.0	4.7	3.5	3.5	3.5	2.7	3.3	3.3
27	4.0	1.7	1.3	2.3	1.6	1.5	2.0	2.5	2.0	2.0
28	–	1.7	2.0	–	1.7	2.0	2.0	2.0	3.0	3.0
29	–	–	2.0	–	–	2.0	1.0	2.3	3.0	2.0

見渡せることが望ましい。

4. 男・女の両事例を含むことが望ましい。

この基準に従って，選び出した6事例が言語能力の発達，および要因の特徴の上に全体として統一あるバライティを持つようにした。その結果6事例

のとり合わせは次のようになった。表の数字は五段階評点を示し，同じ項目で，調査期（年度）によって評点が違っていれば（a ～ b）の表記をしておいた。評点は１＝最劣，５＝最優を示す。

事例	氏　名	環境	知能	身体	性格	教育	言語能力
No.1	上野　京子	3～1	2～3	2～1	1	3	1
No.2	安田　道子	1	2～1	4	4	3	2
No.3	井上　和雄	3	4～2	3	2	1	3
No.4	石川　雪夫	1	4～5	3～4	4	5	4
No.5	浅原　隆	5	5	5	5	3	4
No.6	高木　洋子	2	4	3	2	4	5

この人名は仮名である。またわれわれは，教育的な配慮から，事実の持っている意味をそこなわないかぎりで，年令や場所やその他のことを変えた。そして，個人個人の家庭生活の内部事情について必要以上のことは伏せた。従って，各事例は現実のものよりも，むしろ仮空のもの，あるいはどこかに実在する児童の事例というよりも，どこにも見いだされるそれぞれの類型のものと考えていただきたい。

また，観察作業で得た逸話記録は必要に応じて３年初めの資料も若干とり入れ，発達的事例研究の特徴を生かすようにした。

〔事例 No.1〕 上野京子　（女子）　昭和22年２月生まれ

（Ⅰ）言語発達条件

（A）家庭環境（※評点　3－1）

両親は健在。父親は42才 高等小学校を経て，軍の学校を卒業した。母親は36才，女学校卒。４人家族で，京子は長女，４つ年下の妹がいる。京子が入学する頃，大きな酒類商の店を構え，店員を数名おいて手広く商売をしていた。しかし，京子が２年生の終り頃，父は事業で失敗し，酒類商の店を閉じた。そして家族は盛り場にある大衆酒場K店の二階に昼間だけ間借りし，父は競馬の馬券中継所に勤め，母は酒場の手伝いをする生活に落ちた。そんな

※評点は当該項目に関する学級内における評価段階を示す。評点の変化は１年時２年時，および調査期による変化である，以下同じ。

逆境のどん底にあって，京子は学校が終ると，そのまま酒場に行って妹と遊ぶ。夜ふけてから，やっと閉じたままの自分の家に帰ってくるという日課が続いている。帰る時刻は大概，夜中の1時，2時になることが多い。本，雑誌類は酒場に置いておくと，子どもがいたずらをするというので，全部家に残してある。従って，殆んどそういう本を見る機会がない。

養育歴　半月の早産で，かんしぶんべん，難産であった。出生時の体重1貫100匁，母乳と人工栄養で育った。離乳は1年3ケ月で少しおそかった。嬰児期から肺炎で1か月間入院したり，風邪，気管支炎等の軽い病気によくかかった。母親も健康と言えるほどでないから，そのためかもしれない。京子の妹（6才）は非常に丈夫である。

就学前，家庭では一緒に話をしたり，絵本を読んで聞かせたり，名前を書かせるという直接指導をしなかった。歌のお稽古は1ケ月程通わせたが肝心の京子が嬢ってやめてしまった。泊りがけで旅行したり，日帰り外出という移行の機会も少なかった。もちろん，経済的に楽であったし，お勉強もしっかりやらせようとして思い立つことはたびたびであったが，なにせ，京子自身は興味がなし，病弱だし，目も悪いから無理してはと，時期を見過ごしてきた。しかし保育園は比較的近距離にあったから，2年間通わせた。そのためにクレヨンで絵をかくことが好きになったが，家にひきこもりがちで，お友だちと遊ぶことも少ない。学習レディネスは入学までに充分につかなかった。

家庭の文化環境　比較的よい。家にある蔵書は50冊程度で，定期的に「主婦の友」「暮しの手帳」「商店界」を買っている。京子には絵本雑誌を毎月買い与えてきた。〔うたのほん（小学館），かずのほん（小学館），人形絵本(グリム館)，こども絵文庫（羽田書店），1年生（小学館），等があり，2年に入ってからは小学2年生を買っている。〕また，ままごと遊びのおもちゃ，人形類は就学前充分に買い与えてやった。

このように京子の物的な文化環境はととのっていたが，肝心な京子の興味がほとんどそれについていかなかった。本を見る習慣もなく，ラジオも聞こ

うとすることがなかった。

母親の指導態度にもやや，積極的な関心と実践に欠けていたようにも思われる。1年も半ばを過ぎた頃，両親は京子の文字力が全然ないことに気がついた。そこで下宿していた大学生にお願いして，1年の11月から，京子の勉強を見てもらった。京子はその当座漢字の読み書きなどを興味をもって教わったが，それも束の間，半年たらずで，前にちょっと触れたが，父の事業の失敗で勉強も見てもらえなくなった。

（B）知　　能（評点　2－3）

I. Q.　78 武政他，新乙式団体知能検査，昭和28年7月10日実施

I. Q.　111　〃　　団体知能診断テスト，〃　29年2月26日　〃

各能力のC点　空間 (6)，推理(9)，言語(8)，数(7)

記憶力（評点3），描画力（評点4－2），推理力（評点2）

以上のテストの中，視覚の弁別の負担が大きい問題には特に劣り，またいちじるしく反応速度がおそい。概して，京子は知的能力に劣る。

2学年の3月，算数の時間，皆で棒グラフを書くお勉強をした。それが終って，皆で生まれた月日をグラフに表わすことにした。教師は生徒たちに「自分の生まれた月を知らない人はいるかな」と聞いた。クラスで京子と今ひとりの女の子が手をあげた。皆，どっと笑った。

（C）身　　体（評点　2－1）

やや，虚弱体質，体重の増加に不規則なゆれがある。夏秋の季には体重がふえない。暑気まけである。学校への欠席は2年間延べ16日。

体　重　の　発　達　　単位は kg.

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	19.0	19.5	20.0	20.0	－	－	20.0	19.5	20.1	19.6	19.5	20.1
2年	20.1	20.4	20.9	21.5	－	21.5	21.5	－	21.5	22.0	－	22.0

聴力，左（30db），右（25db）で正常。鼻が少し悪い。目にひどい障害がある。これに関する昭和30年3月22日の眼科医の診断は次の通りである。

右眼，外方への運動は少しく制限され，外背より 3mm のところまで，角膜縁に達する。左眼は運動正常。共動性外斜視，その程度は左眼で注目した場合，右眼は5mm外方に向く。右眼で注目した時に左眼は殆んど外方に行かない。結膜・角膜・眼底に異

常なし。視力は左右とも 0.3。

この視覚障害は分娩時の失態に原因している。既に述べたように難産のため，きかいで胎児の京子をひきだしたが，その際，脳傷をひきおこした。誕生当時，左眼が開かなかった。両親は盲目かも知れぬと心配したが，1月目に目が開いたので大喜びをした。そんな事情で斜視であることは大病をしてから，初めて気がついたということである。

一方，運動能力は相当に劣る。手や足の運動が無器用で，トラックをかける走法も右肩をおとした不自然な恰好でおそい。

（D）性　　格（評点　1）

自立性，自律性，社会性の発達がおくれている。あきしょうである。本やおもちゃを粗末にしたり，散らかし放題で催促されると，よく跡片づけを人に手伝ってもらいたがった。入学時，洗面手洗などの習慣が身についていなかった。叱られると何時までもぐずぐずして世話がやけることが多かった。

一方，知らない人にもなかなかなじまない。うちべんけいで外ではおとなしい。妹と遊ぶことが多いし，そうでない時は年下の子供を相手にしている。

食事は，食べるものに好ききらいが多い。朝食も少ししか食べない。気が小さい。心配性であるという神経質徴候がある。しかし，2年生になってから，この傾向は減少し，逆に自我意識が強くなった。男性徒にいじわるをされると，どんどん攻撃していくという面がでてきたし，集団生活にも適応できるようになる気配が見えてきた。

（E）教　　育（評点　3）

学 校 生 活（評點　3）

目立たない地味な子どもである。学習に積極性がない。手をあげて発言することが少ないけれども，そうかといって隣の生徒とおしゃべりしたり，いたずらをしているということもない。だからこんなこともおきる。

2年の7月，学級一斉テストがあった。各班から，おぎょうぎよくテストを受けた子に答案を集めてもらうことになった。京子は班で最初に指名された。

教師と特別に親しくすることはなく，友人関係もだれと決まった親しい友だちがいない。学校の休み時間は，お友だちが楽しく遊ぶのを側でぼんやり

眺めていることが多い。だから，逆にそうした機会に恵まれない行動の補償として体操の時間には皆といっしょに遊べるから大好きである。

3年生の5月，遠足に行った。京子は仲間はずれにされ，電車の中では座席が譲ってもらえない。お弁当は所員といっしょ。教師や所員にくっついてばかりしていた。校内の廊下で顔を合わせても，おじぎもせず，知らぬ顔をして通りぬける。積極的に所員に話しかけない。〔指導要録の行動記録には，人と親しむ，正しく批判する。きまりを理解して守る点に欠けるとある。〕

服装は派手で高価なものを着てるが，爪がきれいに切ってなかったり，ハンケチ，鼻紙を持たなかったりする。学用品，宿題も時々忘れてくる。しかし．国語学習帳の利用状況（評点4）はよい。

次に，特に京子の持つ視覚障害が原因になって現われた学習態度の特徴をあげてみよう。

1. 教師の話を聞く京子の姿勢は半身に構えて不自然である。

2. 鉛筆のシンをなめて書くくせがついている。（鉛筆はＨＢ） そして，鉛筆も普通よりも下の方を固く握って書く。

3. 文字，単語を認知するたびに不自然な姿勢をとる。一目読みの拡がりが狭く，1～2文節の文字を書き終るたびに休憩をする。

4. 本を非常に近づけて読み，書く時はノートに顔をうずめる。

5. 勉強中，疲労のためにアクビをよくする。

家庭読書（評点 3）

家に帰ってから学校友だちの家に遊びに行くことはなく，家で妹と一緒に遊ぶ。毎日30分ぐらいは本を見ている。読書時間はそんなに短かすぎることはないが，読書に対する積極性が見られない。内容を理解しながら文を読みとることをしない。絵本が中心である。積極的に文にとりくんで，両親に疑問の点を聞きただしたりしない。それも買った当座だけは読むがじきにあきてしまう。学校図書館の利用のしかたは目立つほどでなく，時折妹のために借りることがある。新聞（評点1）は2年になっても見ようとしない。ラジオは自然に耳に入る程度で，特に興味をもって聞きいる番組はない。

京子のテスト期別にみた各言語能力評点

	テスト実施年月 / テスト項目	28 4	5	6	7	9	12	29 3	7	12	30 3
読字	ひらがな清音	1	1	1	1	1	1	–	–	1	–
	ひらがな濁音・半濁音	2	1	1	1	1	1	–	–	2	–
	ひらがな拗・長・促音	–	–	–	–	–	2	–	–	1	–
	かたかな清音	2	2	1	–	–	–	–	–	1	2
	かたかな濁音・半濁音	3	2	2	–	–	–	–	–	1	1
	かたかな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5
	数字	1	1	1	1	1	–	–	–	–	–
	漢字	2	2	1	1	1	1	1	2	1	1 1
書字	ひらがな清音	2	1	1	1	1	1	–	–	2	–
	ひらがな濁音・半濁音	2	1	1	1	1	1	–	–	1	–
	ひらがな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	1	–	1	–
	かたかな清音	3	3	2	–	–	–	–	–	1	1
	かたかな濁音・半濁音	3	3	3	–	–	–	–	–	2	1
	かたかな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2
	数字	–	1	1	1	2	–	–	–	–	–
	漢字	2	2	2	2	1	1	1	3	1	2 2
読解	音読	1	1	1	1	1	2	2	3	–	3
	黙読	–	–	–	–	–	–	2 2 3	2	2	2
語い		3	–	–	3	–	–	3 2	2 2 3	–	3
発音		–	2	–	2	–	–	–	–	–	–
文法		3	–	–	–	–	2	3	3	2	1
作文		–	–	–	1	–	1	3	3	3	2

（注） 音読，黙読，語い能力テストは，ある期には 2 種以上の下位テストを行った。

（Ⅱ）言語能力の発達

京子のテスト期別にみた総言語能力評点（平均）と順位

	1年						2年				
月	4月	5月	6月	7月	9月	12月	3月	7月	12月	3月	平均
評点平均	2.17	1.64	1.38	1.33	1.08	1.75	2.55	2.56	1.56	1.93	1.75
順位	34.5	36	38	38	37	34	32	29.5	44	43	46
学級人員	(39)	(36)	(38)	(38)	(37)	(35)	(37)	(43)	(44)	(46)	(46)

2年間の言語能力の平均順位は，学級で最下位。1年前期中は最下位，後期に入ってやや向上し，2年生の7月には29番に上ったが，12月には再び最下位に落ちた。（前表参照）学校の成績は普通。ここで問題になる事は，文字力テストをした期は常に最下位になっていることである。このことはいかに京子が文字力に劣っていたかを裏書きしている。（次表参照）

京子のテスト期別にみた正答文字数

		1年生4月	5月	6月	7月	8月	9月	12月	2年生7月	12月	3月
ひらがな清音	読	0	3	6	10	15	39	–	–	43	–
	書	4	3	4	2	7	25	–	–	44	–
平均											
ひらがな濁・半濁	読	0	0	0	0	0	5	–	–	24	–
	書	0	0	0	0	0	7	–	–	17	–
かたかな清音	読	0	0	0	–	–	–	–	–	5	35
	書	0	0	0	–	–	–	–	–	7	14
かたかな濁・半濁	読	0	0	0	–	–	–	–	–	3	11
	書	0	0	0	–	–	–	–	–	4	4
数字	読	$\frac{0}{10}$	0	1	1	6	–	–	–	–	–
	書	–	$\frac{0}{10}$	欠	1	6	–	–	–	–	–
漢字	読	$\frac{0}{50}$	0	0	$\frac{0}{60}$	0	8	$\frac{8}{50}$	$\frac{22}{50}$	$\frac{20}{60}$	$\frac{35}{110}$
	書	$\frac{0}{50}$	0	0	$\frac{0}{60}$	0	8	$\frac{6}{50}$	$\frac{17}{50}$	$\frac{8}{60}$	$\frac{22}{110}$

京子の第1年次・第2年次言語能力評点（平均）

	読字	書字	音読	黙読	語い	文法	作文	発音
1 年	1.4	1.8	1.6	2.3	2.8	2.7	1.7	2.0
2 年	1.6	1.6	3.0	2.0	2.7	2.0	2.7	–

文字力が非常に悪いため，読解，語い，文法等の能力の方が相対的に優っている。作文，読解能力はかなの読み，書きが完成してから急激に発達した。文字力の中で，書字力は読字力より優る。また1年の時は音読技能より黙読理解力の方が優っている。話すことは他の能力より一段と優っているようである。解釈は浅いが，積極的に話そうとする意欲は聞き手に好ましい印象を与える。以上が言語能力のかたよりのあらましである。概して文字をなかだちにした能力に劣るということができる。

((文字)) は入学当初は全然読めなかった。どの文字を読ませても，「チョウチョ」と応答して，字を読むとはどういうことか知らなかった。一方，書く方は入学当初，4字だけ書けたが，これは自分の名まえである。書字速度がおそく，柔かく流暢に鉛筆を走らせることが普通の子よりできないので，テスターの教示についていけないことがある。1年の学年末ひらがな拗・長・促音は全然できなかった。誤答例をあげよう。

（刺戟語）→（応答）

きしゃ→き　　まっさお→まさお　　びょうき→よき　　やきゅう→やきう
らっぱ→ら　　りょこう→じよこ　　まっか→まか　　おちゃ→おちや

文字力の中，読む方は字形の似たものを読みちがえ，書く方は誤字・似た形の混乱があり，字形もととのわないという反応の特徴が目立つ。

((音読)) はひらがなが全然読めないから無理のないことであるが，入学当初は短文は全然読めなかった。1年の学年末から短文を語として，読むようになったし，内容も少し読みとれるようになった。しかし，まだ文中での促・長音の読みができない。読みはじめが非常におそい。普通の子供とくらべて，行の最初の文字を目がうまくとらえられないわけである。

((黙読理解)) はクラスで中。悪い成績ではない。評価が内容理解度に向けられるから，音読に現われた重点は直接表面に出ない結果であろう。

((発音)) は，入学当初のテストではガ行の鼻濁音ができなかった。また幼児音，ヒとシとの混同がかなり残っていた。誤答例をあげよう。

（刺激音）→（応答）

ニューガク（ニューニャク），ゴチソーサマ（ゴシソーサマ），ニヒキ（ニシキ），ギューニュー（ズューニュー），カラダ（カララ），ライネン（ライエン），ヒロウ（シロウ），ピーヒャラ（ピーシャラ）

1年7月のテストで，ガ行の鼻濁音は正確になったが，まだヒとシとを混乱していて，幼児音が消えない。拗音・促音は正しく発音できた。

((作文)) は1年の2学期末まで，誤記が非常に多く，所員は内容の判断に苦しまされた。2年の1学期末，読点はついていないが，句点を正しくつけて作文を書いた。その上，句点ごとにマスをあけた。これは，進歩である。内容も手際よく書いてまとめてある。しかし，いつも書く分量が少ない。

1年学年末の作文〈題，せんせい〉は30分の時間制限でわずか90字の文しか書けなかった。

（Ⅲ）言語能力の診断

京子の言語能力は2年間の平均をみると，クラスで最下位である。これは明かに基礎学力としての文字力が特に劣る結果である。文字力をぬいた言語能力を考えれば，そのかぎりでの彼女の学級内順位は中位になろう。話す，聞く，語い，文法，黙読理解能力はふつうだからである。そのために，学業成績は立派に中位にいることができる。

文字力が劣る要因の中で，視覚障害というものが京子の言語能力の発達をさまたげている根本的要因である。近視および斜視という視覚障害は次のような言語行動と能力の特徴を現わしている。

(1) 速度テスト，時間制限法テストでは運筆の速度がおそくて，そのために予期しただけの成績がとれない。

(2) 書字テストでは逆書が目立つ。

(3) 作文に書く分量が他の子供にくらべて少ない。

(4) 音読テストでは理解力はあるが，メカニカルな技能，目の運動規制に劣る。

(5) 音読テストで，読み始めがおそく，ぬかし読み，眼球の逆行が目立つ。

(6) 読字力が書字力よりも劣る。

(7) 視覚に訴える言語能力ばかりが著しく劣る。

従って，京子には視覚障害がなくならなければ知能相当の読み，書き能力の発達を期待することは無理である)。B式知能テストは視覚的弁別に訴える面が強いから，将来京子にはA式テストを施行する必要がある)。近視，特に近視に輪をかけた斜視は単に言語能力の発達の障害であるだけでなく，将来の社会的適応をさまたげ，全人格的人間形成をはばむ最大の要因ともなろう。早急の治療と対策が望まれる。

〔事例　No.2〕 安田道子　（女子）　昭和21年5月生まれ

（I）言語発達条件

（A）家庭環境（評点　1）

両親家族関係　父親は継父，母親は先夫と離縁後，就学前の道子を連れて嫁いだ。道子にはそこでふたりの弟(異父)ができた。両親とも定職なく，日雇労務者である。母親は40才，小学校卒。健康でなく，心臓弁膜症を患らい，病気がちである。両親が一日中家を留守にするため，祖母が道子たちの面倒を見ている。家は寺院を背にした一段と奥まつた谷間の日雇人夫部落にある。二間の狭い家に道子のおば一家が10才の女児を頭に 5 人の子供をかかえて同居しているため，騒がしくて，勉強どころではない。道子の学習環境はどう見ても悪いという点で底をついている。

養育歴　生地は神奈川県，安産，母乳で育ち，順調に生長した。4才の頃，左ききを右ききになおした。長女でもあり，家庭が離婚問題とたえざる生活の不安のために，しつけが充分でなく，わがままいっぱいに育てられた。母親は道子に，現在の父を「おとうさん」と呼ばせようとしたが，道子はどうしても納得しなかった。道子は物のけじめがつき出してから，父との折り合いが悪く，父にはことごとに反抗する。父子にコンフリクトが生じ，家庭内が冷たく暗いために，外で暗くなるまで遊んで帰ることが多い。道子の妹が生まれてから，父親は道子にはさらに冷たくなった。母親も生活に追われ，教育に無関心である。家庭に調査用紙を頼んでも提出しなかったり，必要事項を書いてくれない。家庭の事情が事情だけに家庭内部の問題に触れることを避けている。

文化環境として，一応はラジオあり，新聞もとっているが，本や雑誌を読まないから全然なく，道子の本も買ってやらない。そのほか家庭での教育指導に望ましい点は見当らない。

（B）身　　体（評点　4）

大柄の体格。2年に入って体重のふえ方が正常でない。視力左（1.2）右

(1.2) 聴力，左 (27db) 右 (27db) 視力，聴力は正常。

体 重 の 発 達　単位kg.

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年	19.0	20.0	20.3	20.6	−	−	19.5	20.0	20.0	21.0	−	20.6
2 年	21.0	21.2	20.4	21.0	−	20.5	22.0	22.0	22.5	22.0	−	23.0

道子は耳疾と軽度の副鼻腔蓄膿症を持つ。血色がよくない。顔にビタミン欠乏によるハタケができている。食べ物に好き嫌いが多く，油物は全然食べない。学校の出席状況は1年次は皆出席，2年次は延べ10日の欠席をしている。一方，運動神経はよく発達している。〔2年の春の運動会には紅白対抗リレーに選手として出場し，大いに活躍した。〕学業成績でも，体育は他の学科にくらべてよい評点をもらっている。

(C) 知　　能 (評点　2.1.2.)

I Q.　100 武政他　新乙式団体知能検査，　昭和28年7月10日実施

I Q.　86　〃　団体知能診断ラスト，　昭和29年2月26日　〃

知能偏差値 43　新制田中B式知能検査，昭和29年10月2日　〃

記憶力（評点2）に劣り，特に推理力（評点1）はクラスで最下位グループにある。描画（評点2）もうまくない。

(D) 性　　格 (評点　4)

社会性が発達し，情緒性にも安定性がある。神経質徴候なし。しかし，入学時には気に入らない相手には自分のものを人に貸したがらない，母親や弟に仕事を手伝ってもらいたがる，不精で物を粗末にする等の点が少し問題になるかと思われた。（学業成績でも図工は他の学科にくらべて悪い。）また，人に意地悪をする。〔3年の5月西武園に遠足に行った。歩きながら前にいる内山さんに砂をかけかけしてとうとう泣かせてしまった。〕

(E) 教　　育 (評点　3)

学 校 生 活 (評点　3)

教師に余り接近せず，学習意欲なく，教室では積極的に手もあげないでぼんやりしている。〔2年9月国語の時間，教科書の文をノートに写す。大部分の生徒が書き終ったのに，道子はまだ書けない。それなのに鉛筆を口にくわえ，うつろな表

情でぼんやりしていた。「書けた？」と聞くと，しばらくして我にかえり，生あくびをかみしめながら「まだ」と答えた。〕

しかし，こと学習以外の活動では見違えるほど快活で積極的になる。これは驚くほどである。〔2年の11月，文化室で動作テストをした。テストを待つ間，道子に話しかけると，非常にはきはきと目を輝かせて答える。そして，室にあった大太

道子のテスト期別にみた各言語能力評点

	テスト実施年月 / テスト項目	28 4	5	6	7	9	12	29 3		7	12	30 3
読字	ひらがな清音	3	3	2	3	5	5	1		–	5	–
	ひらがな濁音・半濁音	3	2	3	3	3	2	–		–	5	–
	ひらがな拗・長・促音	–	–	–	–	–	1	–		–	3	–
	かたかな清音	3	3	2	–	–	–	–		–	2	3
	かたかな濁音・半濁音	3	2	3	–	–	–	–		–	2	3
	かたかな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	–		–	–	5
	数字	5	5	5	5	5	–	–		–	–	–
	漢字	3	3	3	3	3	3	3		2	3	3
書字	ひらがな清音	2	2	3	2	2	2	–		–	5	–
	ひらがな濁音・半濁音	3	2	3	2	2	2	–		–	2	–
	ひらがな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	–		–	3	–
	かたかな清音	3	3	2	–	–	–	–		–	3	3
	かたかな濁音・半濁音	3	3	3	–	–	–	–		–	2	3
	かたかな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	–		–	–	2
	数字	–	5	5	5	5	–	–		–	–	–
	漢字	2	2	2	3	3	3	2		3	3	3 4
読解	音読	1	1	3	1	3	(1 2	–		2	–	2
	黙読	–	–	–	–	–	–	2	2 3 1	1	3 1	1
	語い	2	–	–	4	–	–	2	1	(3 2 2	–	3
	発音	–	4	–	4	–	–	–		–	–	–
	文法	2	–	–	–	–	1	2		2	2	1
	作文	–	–	–	3	–	1	2		3	2	1

鼓をうち鳴らして興じた。とめてもきかなかった。〕

学習意欲のなさは服装にも現われている。不精でもあろうが1年次は粗末なのはよいとして全くだらしがなかつた。2年次になってから，髪にリボンをつけたりして，少しはましになった。

〔2年6月，面接，お友だちのことを尋ねると「Bさんは洋服がきちんとしているから好きだ」と面白い答えをした。〕爪も切ってこない時が多く，風呂は何日も入らない。学習帳（評点1）は汚なくよごして，書いてある分量も少ない。忘れ物をよくする。家庭での予習・復習もおろそかで，読書興味もない。家でも読まず，学校図書館も全然利用していない。〔3年の6月11日読書ノートを渡し，借りた本の名前を記入するように頼んだ。道子は「わたし，どうせ借りないからいらない，」と平然と言ってのけた。〕交友関係は普通である。

（Ⅱ）言語能力の発達

道子のテスト期別にみた総言語能力評点（平均）と順位

	1年						2年				
月	4月	5月	6月	7月	9月	12月	3月	7月	12月	3月	平均
評点の平均	2.71	2.93	3.00	3.17	3.42	2.08	1.92	2.22	2.88	2.67	2.70
順位	23	20	21.5	21.5	21.5	30.5	35	34.5	30	34.5	33
学級人員	(39)	(36)	(38)	(38)	(37)	(35)	(37)	(43)	(44)	(46)	(46)

2年間の言語能力の平均順位は33番で下位。1年後期から成績が低下してきた。学業成績（評点2）もまた下位である。（上表参照）

道子の第1年次・第2年次言語能力評点（平均）

	読字	書字	音読	黙読	話い	文法	作文	発音
1年	3.3	2.9	1.6	2.0	2.3	1.7	2.0	4.0
2年	3.3	3.0	2.0	1.5	2.7	1.7	2.0	-

言語能力の中，1年次では音読・文法力に劣り，発音は正確である。2年次では黙読，文法能力に劣り，音読・作文がこれに続いている。（上表参照）

概して，基礎的な文字の読み，書き能力は普通である。その中でひらがなは漢字・かたかなよりも成績がよい。読解力は大意把握，文の主題をつかむ，鑑賞，そして詳細把握に劣る。同じ意味合いで，聞き方は内容の聞き取り能力にひどく欠けている。黙読速度がおそい。〔2年の6月26日，こくごの時間，他の生徒が通して2回も「おまわりさん」の文章を読み終っていたのに，道子は一回も

読みきれなかった。〕音読は一目読みの能力に欠け，自分勝手な読みぐせをする。しかも読む調子がたどたどしく，くりかえし読みも多い。読み誤りの例を示そう。

2年7月の音読テスト

むかし，あるところに，こころの　やさしいおじいさんがありました。　あるひ，うら
（くりかえし）　　（くりかえし）
のやまで　しばを　かって　いますと，　ばさ，　　ばさと，やぶの
　　（キ）　　（オバーサン）（ボサット）　　なかで，く
るしそうに　なにかもがいているおとが　しました。
　　（カ）

ひらがなの読みは，清音だけは1年9月に完成したが，濁・半濁音となると，1年末になっても完成しない（21字完成），ひらがなを書く方は，清音も1年で完成しなかった)。42字完成)。ひらがなの拗・長・捉音は読み書きともにずっとおくれている。他方，漢字の読みは1学期末に5字しか読めず，書く方は6月まで全然だめだった。従って，2年の10月，国語の時間，<東>をヒガヒと読んだりしているのは能力の自然なあらわれであろう。

作文は文字の混乱と叙述の重複とが目立つ。文字力と表現力の劣ることを示すものである。

1年学3学期末　作文「せんせい」

○○せんせいさようならもうすぐ二ねんせいになります，せんせさようならこんどははるやすみになります。からこんどせんせいとあそべませんといいました。わたくしさちはさむしくなりました。せんせいさようなら。こんどはせんせいが，かわりますからせんせいさようなら。わたくしはとてすさびしくなりました。

せんせいさようならこんどの日ようびは二ねんせいになります，せんせいさようならわたくしたちは，もうすぐ二ねんせいになるとみんながはやくおりこうになるようにてせんせいがそうしてせんないがいいました，いんせいより。

2年学期末の作文「せんせい」

○○先生　もうじき二年生に　なれるようになりました○○先生も，きょしつで　おはなしをしてくださいといいました。わたくしは○○先生も　いっしょうに　また　○○先生また　○○先生と　三年に　して　もらいたいと　わたくしは　いいましたわたくしは○○先生はすきです　△△△△先生い　△△△△先生も　もうじき　先生いの　一年生も　二年生に　なれる　ようになれますよ。

（Ⅲ）言語能力の診断

道子の言語能力の発達の度合いを見る時，1年の前期までは中位の下にあったが，後期に入って相当に低下したという事実に気がつく。これにはふたつの要因が考えられる。ひとつは文字，発音の基礎的言語能力に代って後期からは，黙読理解，作文という高度の言語能力がテストされてきた。今ひとつは困難な課題解決に対して，学習興味が低下してきたためである。

道子は発音だけは非常に正確である。このテストは幼児音の有無の検査を中心にして構成されている。道子は長女でもあり，社会性の発達，身体的成熟という特長が比較的早期に幼児音をなくさせた結果であろう。さて，劣った言語能力の中で，読解力がひどく劣り，2年生になっても発達がほとんど見えないことは，読書興味がなく，絵本，雑誌を読む経験に乏しいためと考えられる。さらにあながち，これらの要因が劣った知的能力だけによるものと速断できない問題が別にある。いくつかの原因をあげて見よう。

(1) 低い社会的経済的状態

(2) 冷たい夫婦関係，父子のコンフリクト

(3) 身体的障害——栄養不良

(4) 学校における学業への不適応

この中で，(3)(4)の特徴は(1)(2)から結果的に生じたのだと見ることができる。暗い家庭のふんいきが，道子の言語能力の発達を低下させ，少女期にあるパーソナリティにくずれた浸しょくの兆候を見る時，せめて父子のコンフリクトが軟化して欲しいと願わざるをえない。

〔事例　No.3〕 井上和雄　(男子)　昭和21年9月生まれ

(I) 言語発達条件

(A) 家庭環境 (評点　3)

両親家族関係　両親は健在，父親は56才高等小学校卒の学歴。現在，工場勤務の会社員である。先妻をなくして，20才年下の後妻を迎えた。子供たち4人はすべてその後妻の子である。彼女は高等女学校卒，37才，小柄である。

和雄には姉（中学２年），兄（小学６年），妹がいる。４人とも共通して内向的性格である。

兄についてはこんな話がある。和雄の担任教師が病院に入院中の母の容態について，和雄の兄に尋ねたところ，口ごもってばかりいて上手に話せない。少し性急に聞きただしたら，涙を浮かべてとうとう泣き出したという。

母親がひっこみじあんの性格だから，それを子供が受けついでいる。

家は静かな住宅地にあり，普通の二階造り。素人下宿の形で親戚の二世帯を入れ，和雄と仲よしのあきらちゃんも同居している。家庭の経済状態，文化状態は普通である。

養育歴　和雄の生地は長野の諏訪市。終戦を中にはさんで両親は永住のつもりで家を構え，疎開していた。和雄はそこで生れて４才半ばまで諏訪で育ち，後，現在の住居に移った。

生後，特別に大病もせず，健康に育ってきたが，ひどい臆病とひっこみじあんで両親は手をやいてきた。親戚の家に連れて行っても，こわがって，しきいをまたごうとしなかった。そのために幼稚園に入れる機会を失った。また，家庭では学習準備ということについて，特に心がけなかった。

しつけは父親が一徹者の気性で，きびしく育てた。兄弟げんかをすると勝負が決るまでやらせ，また，悪い事をすれば，子どもが悪かったと謝まるまで徹底的に叱りつけた。（和雄の兄弟仲はあまりよくなかった。）

（B）知　　能（評点　4.4.2）

I Q. 115.　武政他，新乙式団体知能検査　昭28. 7. 10 実施

I Q. 117.　〃　　団体知能診断テスト　昭29. 2. 2. 26〃

推理力（評点４），記憶力（評点３）。無意味記憶は有意味記憶より悪い。その中，図形再生力（評点１）は特に劣る。描画（評点２）。

（C）身　　体（評点　3）

健康であり，運動能力もふつうに発達している。学校の欠席は２年間に延べ２日。１学年の末身長 114.2cm，体重 20.7kg，それが２学年の末には身長，115.7cm，体重 24.0kgとなった。視力は，左（0.8）右（0.7），で正常。聴力は左（35db）右（35db）で少し耳が遠い。ほかに軽い慢性鼻炎がある。

（D）性　　格（評点　2）

社会性の発達がいちじるしくおくれている。未知の者とはお話しが全然できない。友だちに物を貸さないとか，叱られるといつまでもぐずぐずしているとかいったふうに，固執生閉鎖性が強く，対人関係がうまくいかない。また自律性，自主性に劣り，近隣児童との交際関係が狭い。

就学までは，家人とも余り話し合わず口重であった。従って家人以外の子どもと慣れることは容易なことでなかった。少し緊張でもすると，どもり気味になり，顔面がこわばる。このために幼稚園にも通えぬ程であったから，就学する事はいわゆる屠所にひかれる思いであったらしい。

しかし，１学期も過ぎた27年の夏，１つ年下でいとこに当る〈あきらちゃん〉という男の子が前橋から転居してきた。これを転機に家中がにぎやかになり．和雄は全くよいお友だちを持つことになって，明るさをとりもどし，一日中，だまりこくっていることがなくなった。そして近所にもお友だちができだした。

和雄のよい性格上の特徴としては，非常に母親思いで，やさしさを持っていることである。こんな逸話も残っている。

３年の春，母親の病気入院が心配のあまり，とうとう楽しい遠足をその前日になって，ひとりで決心して止めた。

ところが一面，父親に似て片意地の面があり，言い出したことは絶対に後にひかない。こんな性格の者にありがちであるが，しょうぎが非常に強く，父親と対等に勝負を争うことができる。歌，音楽方面には興味が少ない。

学業成績でも，音楽は表現（-1），理解（0）で劣っている。

（E）教　　育（評点　1）

学校に入って，和雄は非社会性の殻の中にさらに深く入りこんでしまった。教師に接近できず，学校生活への不適応，学習興味のそう失という悪い傾向が現われた。教師とお話ができず，少したしなめでもしようものなら，すぐに涙ぐんでしまう。

入学当初，個別に書字力テストをした日，こんなことがおきた。和雄にマス目の線入りの半紙に自分の名前を書かせた。彼はいっしょうけんめいに書こうとあせったが，

鉛筆を持つ手がふるえ，どうしても書けない。そこで所員が試みに半紙の裏面のマスなしの余白に書かせると，正しく書けた。このことは制約したマス目の中での書字行動は強い心理的抵抗を与え，過度の不安定感をひきおこした結果である。

また，授業中，教師の方を向かず，腰かけに後向きになり，まわりで参観している父兄をきょろきょろ見つめるという珍事がおきた。参観者が自分を監視しているという恐怖観念が情緒的不安をひきおこした。

1年の1学期はこんな状態のまま過ぎた。兄もこんな傾向がないでもなかったが，それにしても分裂気質の強い特異児でないかと両親は気をもんだ。しかし夏休みが過ぎてから，教室活動に見違えるように安定感が現われた。クラスの子どもと共同学習ができるようになり，学習に興味が出てきた。

3年の6月17日，体育の時間，前の時間に作った切符を使って全員で電車ごっこを屋上でした。教師ははじめに生徒たちに自分がなりたいと思う役柄の申し出をさせた。線路班，運転手，車掌，駅長，切符売り，切符受け等の役柄があった。和雄は積極的に挙手して車掌さんになった。

このように夏休みを契機にふつうの子どもと何等ちがわないようになった。その内向的性格は，たとえば，テスト中は，他の生徒が何をしているか，今，どこまで書き終ったかという行動意識と他人との競争心というゆがんだ形が現われた。席が前の方にあるから，うしろをふりむいて能力ある生徒をマークしたりするのである。

ところで問題はなくなったわけでない。対教師・所員関係は2年になってもまだまだよくない。学友に見せた微笑は大人の前に出ると，途端に消え失せてしまう。

2年の6月，国語の時間，家庭に依頼する読書調査用紙を教師が児童の父兄名を呼んで配布した。和雄は父の名を呼ばれても，返事をしない。教師が「君のお父さん，何ていう名？」と尋ねたが答えないで身体を硬直させるばかり。周囲の児童は一斉に，「1年の時もそうなの」と告げた。しばらく後に，所員が和雄をそっと呼んで聞いた。彼はぽつんと「○○だよ」と答えた。

教師におびえ，面接調査の時，自分でも「先生はこわい」と答えている。

2年の6月，オフサルモグラフで目の動きを撮影した。実験前，目からの反射光線をレンズで絞るために，目を動かさないよう注意したが和雄は目を静止できず，逆に烈しく動揺させるばかりでとうとう，この日は和雄だけ撮影不能に終った。

和雄のテスト期別にみた各言語能力評点

	テスト項目＼テスト実施年月	28 4	5	6	7	9	12	29 3	7	12	30 3
読字	ひがらな清音	3	3	2	3	5	5	−	−	5	−
	ひらがな濁音・半濁音	2	1	3	3	3	5	−	−	2	−
	ひらがな拗・長・促音	−	−	−	−	−	3	−	−	5	−
	かたかな清音	2	2	3	−	−	−	−	−	4	5
	かたかな濁音・半濁音	3	2	2	−	−	−	−	−	5	5
	かたかな拗・長・促音	−	−	−	−	−	−	−	−	−	5
	数字	5	5	5	5	5	−	−	−	−	−
	漢字	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3 4
書字	ひらがな清音	2	2	2	2	3	5	−	−	5	−
	ひらがな濁音・半濁音	2	1	3	2	3	5	−	−	5	−
	ひらがな拗・長・促音	−	−	−	−	−	−	3	−	4	−
	かたかな清音	2	3	2	−	−	−	−	−	3	3
	かたかな濁音・半濁音	3	3	3	−	−	−	−	−	3	2
	かたかな拗・長・促音	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2
	数字	−	5	2	3	5	−	−	−	−	−
	漢字	2	2	2	3	3	3	2	3	3	2 3
読解	音読	1	1	3	1	3	3 5	3	3	−	4
	黙読	−	−	−	−	−	−	3 3 5	3	3 3	5
	語い	2	−	−	3	−	−	3 3	4 3 3	−	4
	発音	−	5	−	3	−	−	−	−	−	−
	文法	3	−	−	−	−	3	4	3	3	4
	作文	−	−	−	1	−	2	2	3	3	3

2年の3月，話しかたラストをした。その時の和雄の所員に対する話しぶりを紹介しよう。

話題　きのうの芸能会，昭和30年3月8日

<話すことに積極的でない，助言が必要>

所員　オ名前ヲ言ッテ下サイ。

和雄　イノウエ　カズオ

所員　コナイダ，芸能会　見マシタ？

和雄　ハイ

所員　オモシロカッタデスカ？

（間 3.5 秒）

和雄　ウン，オモシロカッタ

所員　ジャ　ソノ話，ナンデモ　イイカラ　オ話シテ　チョーダイ，…（中略）…オモシロカッタトイウコトネ

和雄　（間，沈黙 16 秒）

所員　一番面白イト思ッタノワ　ドンナコト

和雄（間，沈黙 5 秒）

所員　劇ヤ歌ヤナンカアッタデショ

和雄（間，沈黙 6 秒）

所員　何ガオモシロカッタ？

和雄　劇

所員　劇ガ面白カッタ？　ソウ，劇ノ中デドンナノガオモシロカッタ。何年生ノガオモシロカッタ？　ドンナノガオモシロカッタ？

和雄　（間，沈黙 8 秒）

所員　劇ニワ　1 年生ノモ，2 年生ノモアッタデショ，ソレカラ 5 年生ノモアッタデショ，2 年生デワ　ドンナノガ　アッタ？

和雄　釣ラレル

所員　釣ラレルッテ，オ魚ノ話デショ？　ソノオ話シテ　チョーダイ

和雄（間，沈黙 11 秒）

所員　忘レチヤッタ？　ソウ，デワ，ホカニ覚エテルノ，ナイカナ　ドンナノガオモシロカッタ？

和雄　（間，沈黙 4 秒）

所員　オモシロカッタケド　忘レチャッタ？　ジャ，一番キレイダト思ッタモノアッタデショ？

和雄　（間，沈黙 19 秒）

所員　1 年生ノカザグルマッテイウ劇見タ？　ドンナコトスルノ？　人ガ出テキテ廻スノ？

和雄（沈黙，こっくりとうなずく）

所員　ソウ，ドンナ風ニシテ　アノ　コウカケテ歩クノ？

和雄（沈黙，こっくりとうなずく）

所員　ソウ，ソレデ　キョーソー　スルノ，……ソウジャナイノ？

和雄　（沈黙，こっくりとうなずく）

所員　フウン，ハイ　分リマシタ

——全部の所要時間2分58秒——

和雄は諾否を問われてやっと一語文で発言するか，口に出さないで，うなずいたり，かぶりをふるだけである。しかし，事実を違えて答えていない。特に質問されて，黙っている時間の長さに注意されたい。

指導要録の行動記録には，責任を重んずることに優るが，人と親しむことと，明るい態度に欠け，特に1年次では安定感のないことが指摘されている。

家庭読書（評点　2）

たいして本を読まず，漫画本のほかは興味が少ない。学校図書室から本の借り出すことも全然しない。新聞，ラジオへの接近状態は時折，子供新聞を見るほかは興味なく，特に興味をもって聞きたがるラジオ番組もない。

（II）言語能力の発達

和雄のテスト期別にみた総言語能力評点（平均）と順位

	4月	5月	6月	7月	9月	12月	3月	7月	12月	3月	平均
評　点	2.50	2.71	2.67	3.67	2.67	3.58	3.08	3.11	3.60	3.69	3.12
順　位	27	22	25	25	12.5	15.5	14.5	15	16.5	16	24

入学時の言語能力は学級人員 44 人中，27 位で，1学期間は 25 位前後にあった。夏休みを終り，2学期に入ってから，急激に向上し，10 番代に突入した。2年間の平均順位はほぼ学級中位にある。（前表参照）

学業成績（評点3）普通。ただ話す力がひどく劣る。

和雄の第1年次・第2年次言語能力評点（平均）

	読字	書字	音読	黙読	語い	文法	作文	発音
1　年	3.2	2.7	2.6	3.5	2.8	3.3	1.7	4.0
2　年	4.0	3.4	3.5	3.5	3.7	3.3	3.3	–

各言語能力の中，1年次には発音は正確であるが，作文が他の能力よりひどく劣っていた。（上表参照）28年7月，課程作文「ともだち」

よしいくん

これだけしか書いていない。

制限時間　30分

29年3月「せんせい」という題で書いた作文は8行だけ，先生に対する希望を書いた。

○○○○せんせいがをこるとげんこつをくれる。○○○○せんせいは，やさしいときは，やさしい，おこるときはおかないせんせいだ。○○○○せんせいがうちのぼくのうちにあそびにくるといいです。はるやすみになると○○○○せんせいがあそびにくるといい。

2年次には学級相当の作文能力がつき，おしなべて言語能力のかたよりはなくなった。しかし，字の書き方がへたで2年になっても，1年の習得期に似て直線的な文字ばかりを書く。漢字の筆順の誤りが多い。

2年2学期の漢字テストには漢字の逆書，不完全字形が目立った。

まち＝𠂢　　せん(生)＝𠂉　　ねん＝𠂒　　いれる＝𠂆

むし＝𠂤　　い　く　＝仆　　そと＝𠂘

文章の読みでは音読能力より黙読理解の方がまさる。音読の技能に劣る。音読をすると，口調が早くなり，どもりがちになる。そのために音読速度は速いけれども，区切り方が適切でない。

（Ⅲ）言語能力の診断

知能の水準からみると，和雄の言語能力はもっと伸びてよいはずである。言語能力の発達をさまたげている要因は何といっても，はなはだしい非社会性，不適応という性格的，情緒的欠陥にある。さらにこの性格形成の原因としては次の点を挙げることができるであろう。

(1) 母親からの遺伝的要因と今ひとつは母親が夫と年齢の開きが大きい後妻であることから来た家庭の服従的関係

(2) 父親の厳格なしつけ方

(3) 身体的要因，聴力障害と鼻炎

(4) 学習レディネスの不足

彼の性格的，情緒的特性は次のような言語能力の特徴となって現われた。

(1) 話す力だけがひどく劣る。（教室観察の結果から）

(2) 1年次で作文表現力が劣る。（他人と満足に話ができないという話す経験の不足にある。）

(8) 音読能力が黙読より劣る。（音読は内容を理解することとともに，より技能的な面が重視される。音読は聞き手を意識しなければならないしさらに個別テストの形式で行われた条件も原因になっている。）

入学当初の言語能力が非常に悪かったのに，２学期に入って，急に向上した。この変化は興味ある事で，学校生活における行動の安定化にほかならない。直接的には２つのきっかけがある。ひとつは学校に入って急には馴れなかった集団生活に漸く適応してきた。今ひとつは親戚のあきらちゃんというお友だちができたということである。

和雄の社会性が発達し，集団生活への適応ができ，積極的に手をあげて発言する学習態度がつけば，言語能力はさらに向上すると思われる。だがしかし，家庭の雰囲気と別に家庭読書に積極的な興味がないという問題も相当に言語能力の発達をはばんでいようから，両方に正常な発達がなければ将来，位置にのしあがる期待は大して望めないと思う。

〔事例　No.4〕 石川雪夫　（男子）　昭和21年12月生まれ

（Ⅰ）言語発達条件

（A）家庭環境（評点　1）

両親家族関係　父親は 43 才，中学校中退の学歴。運ばん業，戦前は相当に手広く事業をしていたが，戦災にあい，現在の職業に転向した。母は内職として紙袋はりをしている。昭和26年10月，父親は痔瘻手術，１年間ほど仕事を休んだ。生計が思わしくない上に，この休職でそのため経済状態が苦しくなり，民生委員の世話を受けることになった。

祖母（73才）は健在。雪夫は４人兄弟，姉が中学１年と小学５年にいる。長女は知能が勝れ，小学校を首席で卒業した。次女の方は学業成績は普通だけれども，作文，図画は特に優っている。この子は思ったことをすなおに，表現することができる。おとなしく誠実な性格で，教室の掃除などは陰ひなたなくやるそうである。それに５才の弟がいる。

家は住宅地にあり，３畳６畳の２間である。

養　育　歴

安産，出産時の体重800匁弱，母乳で順調に発育した。歩行は12ケ月目で，16ケ月からウマウマ，ハイチャイを言いだした。雪夫の養育には母が当ったが，生活に追われて，祖母に任せきりの時期が続いたこともあった。

家庭の経済状態がおもわしくないので，幼稚園にはあげず，就学前には，泊りがけはおろか，日帰り旅行も経験していない。移行という面から経験的背景を深めるレディネス形成の機会は時たま近くの新宿の盛り場に出かける程度で決して恵まれたものではなかった。

家庭の教育指導は充分でなかった。時たまおとぎ話をしてやったり，絵本を読んでやったり，数をいっしょにかぞえることはあった。しかし，歌をいっしょにうたったり，色紙を折って楽しむことはなく，入学前に名前以外の文字は教えていない。

しかし，雪夫から何か尋ねられれば，納得がいくまでていねいに教えてやることを忘れなかった。この両親の熱意は入学後も変らない。むしろ，雪夫の積極的態度が周囲の者を引きずって行った。

2年の11月のテストに，未学習である片かながよく読めた。だれに教わったかと聞くと，「家でお父さんに教わった。片かなカードが本についていたから，それで習った。」と答えた。

文化環境として，ラジオあり，新聞は産業経済新聞，東京新聞をとっている。本は20冊以下で，父親が病気で静養中，退屈しのぎに買った小説新潮，探偵雑誌類が主である。雪夫の本，雑誌はたまに買う程度で充分でない。本でも，おもちゃでも万事古いもので間に合わせ，入学後，勉強机をと思ったが，専用の机を与えていない。小遣いも決っては与えず，映画も縁遠い。

けれども，家庭のふんいきとして親子，兄弟関係が非常によい。夕食は皆顔をつき合わせ，いろいろな話題を出し合い，お互いの意見を聞き合う団楽の機会が豊かである。子どもたちはよく発言し，のびのびと生長している。この点は他の家庭では見られないことである。教育には熱心で母親はP・T・Aの会合には必らず出席する。

雪夫の登校時は服装もよく注意し，質素ながらきちんとして，爪も切って

あるか確め，ハンケチ，鼻紙も忘れずに持たせて送り出している。

2年の10月，算数の時間，他の生徒たちが新しい物さしを持っているのに，雪夫だけ古いはげちゃけた物さしを使っていた。しかし，別に自分を卑下もせず，「お母さんのだ」と言って，満面に母親の愛情を知らせていた。

（B）知　　能（評点　4.5）

I Q	133.	武政他，新乙式団体知能検査	昭和28年7月10日実施
I Q	114.	〃　団体知能診断テスト	昭和29年2月26日　〃
知能偏差値	66.	田中　新制田中B式知能検査	昭和29年10月2日　〃

記憶力（評点3）は普通（数を暗唱する力は優る。）推理力（評点4）に優る。描画力（評点 2.4）は，入学時，黒のクレヨンでぬりつぶすだけだったが，12月の描画では非常にうまくなった。

（C）性　　格（評点　4）

社会的・情緒的発達は満足できる水準にある。温和な明るい性格である。若干，自立性に欠け，時に，自分の持ち物を貸したがらない欠点がある。理科方面に興味があり，音楽は苦手である。音楽の成績は他の科目にくらべて劣る。表現（0）理解（0）

（D）身　　体（評点　3.4）

健康である。学校は2年間に延べ5日の欠席。3年4月，身長，122.3cm 体重22.5kg。視力，左（1.2）右（1.2）聴力，左（20db），右（25db）で正常，運動能力に若干欠ける。

（E）教　　育（評点　5）

学 校 生 活（評点　5）

積極的に学習し，よく手を挙げる。応答もしっかりしている。

2学年の7月，社会科の時間，「たのしい遊び場」の絵を見て，お話をするように指名された。彼は「はい」と言い，椅子を中に入れてから話に移り，上手にお話ができた。

授業中，いたずらもせずきちんとしている。勉強が大好きで，何事もてきぱきと処理して次の学習を待つといった着実な学習態度である。

教師によく接近し，未知の成人に対しても人なつこい。所員に会うと，

「きょう，テスト？」などと言って，あいさつすることを忘れない。学級内の友人関係もよく，よいお友だちをたくさん持っている。学級委員もした。国語学習帳もきれいに，たくさん書き，上手に利用している。

家庭読書（評点 2.4）

家庭にある蔵書の冊数は非常に少ないが，その代りに雪夫は本を買う時は自分でよく選択して買っている。友人から読みたい本を借りたり，学校図書館をよく利用して，少ない本の穴埋めをしている。

図書館の最近の利用状況は次の通りである。（2週間の調査）
（5月7日）ドンキホーテ，（5月12日）一茶さん，（5月13日）月夜のくつ音，（5月16日）さんたろうもも，（5月18日）二つのたね

雪夫は就学前から絵本の字を見て楽しむ習慣がついていた。2年生になって毎日規則的に60分程度，教科書外の本を読んでいる。その読みかたはていねいにゆっくりと内容を読みとる型である。特に程度の高いもの，科学的なものを好むということはない。最近の母親の報告では，判じもの，クイズものに興味を抱くようになったということである。

学校での休憩時間には，暇をみつけて学級文庫の本を読む。

2年6月図画の時間，「絵が書けた人は本を見ていてよろしい」教師はこう指示した。雪夫はすぐ机の上を片づけて本箱の側に行った。お話の本を手にすると，にっこり笑って机にもどり，きちんとして読み始めた。知識欲にあふれ，読み耽る雪夫の満足感はおして知るべしであろう。

一方，新聞をよく読み，ラジオも積極的に聞いてインフォメーションを得ている（評点4）。ラジオはもう6才から聞き始めた。2年の当初，三つの歌・紅孔雀・子供音楽会の番組を楽しんで聞いているという報告があった。

（II）言語能力の発達

雪夫のテスト期別にみた総言語能力評点（平均）と順位

月	1年 4月	5月	6月	7月	9月	12月	3月	2年 7月	12月	3月	平均
評点	38.6	4.14	4.33	4.08	4.58	4.50	4.00	3.78	4.00	4.00	4.127
順位	6	5	5	9	7.5	4	5	7	11	9	8

学級上位にあり，2年間の平均言語能力の順位は8位。2年に入って幾分

雪夫のテスト期別にみた各言語能力評点

テスト項目＼テスト実施年月	28 4	5	6	7	9	12	29 3	7	12	30 3
読字 ひらがな清音	5	5	5	5	5	5	–	–	5	–
読字 ひらがな濁音・半濁音	5	5	5	4	5	5	–	–	5	–
読字 ひながな拗・長・促音	–	–	–	–	–	5	–	–	3	–
読字 かたかな清音	4	4	4	–	–	–	–	–	4	5
読字 かたかな濁音・半濁音	4	4	4	–	–	–	–	–	3	5
読字 かたかな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5
読字 数字	5	5	5	5	5	–	–	–	–	–
読字 漢字	3	3	3	3	3	4	3	3	4	3 4
書字 ひらがな清音	3	4	5	5	5	5	–	–	5	–
書字 ひらがな濁音・半濁音	4	4	4	4	5	4	–	–	3	–
書字 ひながな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	4	–	4	–
書字 かたかな清音	3	4	4	–	–	–	–	–	4	4
書字 かたかな濁音・半濁音	3	3	3	–	–	–	–	–	4	4
書字 かたかな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	–	–	4	5
書字 数字	–	3	5	5	5	–	–	–	–	–
書字 漢字	4	4	4	4	3	3	3	4	3	3 3
読解 音読	5	5	5	3	5	4 5	4	4	–	4
読解 黙読	–	–	–	–	–	–	3 5 5 5	4	3 5	3
語い	3	–	–	4	–	–	3 4	3 3 3	–	3
発音	–	5	–	3	–	–	–	–	–	–
文法	3	–	–	–	–	4	4	5	4	4
作文	–	–	–	4	–	5	5	5	5	5

下り加減の様子も見える。（上表参照）

学業成績（評点4－5），は1.2年とも3番内外の優秀な成績である。その評点は次の通り。聞く（＋2），話す（＋2），読む（＋2），書く（＋2），作る（＋2）。

各言語能力の間では，作文が特に優り，比較的，語い力が劣る。話し方は多少，早口になるが，教師の前でよく考えて発表することができる。

雪夫の第1年次第2年次・言語能力評点（平均）

	読字	書字	音読	默読	語い	文法	作文	発音
1 年	4.3	3.9	4.8	4.5	3.5	3.7	4.7	4.0
2 年	4.2	3.8	4.0	3.8	3.0	4.3	5.0	–

((文字力)) はかなにくらべて漢字が読み，書きともに少し悪い。ひらがなと数字の読みは入学時に，もう完成していた。書く方は6月に完成。簡単な文章は入学時から，すらすらと読めた。

((作文)) は毎回，非常に分量も多く書き，1年の終りには33行書いた。一文に含まれる語数が多く，文字使用も正しい。句読点の使用は1年7月，いちばんはじめの書き出しにひとますあけること，パラグラフごとに行を改めることは2年末にできた。表現内容の構成とまとめ方は学級で一番うまい。作文表現力の特長は次の通りである。

1. 感想文よりも行動の叙述をすることがうまく，かんけつにまとめる。
2. 事件の時間，空間の推移を客観的に順序よく述べる。
3. 教科書的，生活綴り方的表現をする。
4. 現実を見つめる力に優るが子どもらしさがいくぶん欠ける。

その一例を紹介しよう。これは課題作文である。

1年の12月，わたくしのうち（原文はたてがき）

ぼくっちはこおりやです。たまというねこがいます。たまがこねこを三びきうみました。こねこが一ぴきしみました。ぼくはかはいそうだなとおもいました。あと三びきだけのこりました。そうしてたまが二ひき(に)のこねこをどこかえ(わ)つれていってしまいました。またつれてきました。たままたつれてきたの。ぼくはがっこうからうちへ(へ)かえって○○○さんとあそびました。○○○さんちであそぼうとおもったけど○○○くんがすきなので○○○くんとあそびました。おもしろかったです。

次に話し方から表現力をみると，作文の表現とよく似た点がある。

話題　—昨日の芸能会　　昭和30年3月

話し方に落ちつきがある。事件の順序を正しく覚えている。行動叙述は上手だが，因果の説明に欠けている。モンチャンという劇の説明，

……中略……

モンチャン……モウ一回ヤリナオシダッテ言ッテネ、ツマンナイッテ言ッテネ、コンド小使サンガキテネ、エート、ヤッテルヤッテル、ナンテ言ッテ、ソレカラ、学校中マワッテクルカラ、踊リ見セテネ、言ッタノ、ソレデキテ、スワッテカラ、小使サンガ、オ地蔵サンニナッテ、ミンナ踊ッテルノネ、ソレデモンチャンガ　ウオーットキタカラネ、小使サンネ、オコッテネ、足イタクシテネ（下略）
（主語がない）　（主語がない）

((語い))は言語経験が狭く，語い量が少ない。しかし，学校で学習した語いはよく理解している。〔2年7月末，通信簿を渡す。教師が評点を板書し，どれが一番よい点かを尋ねた。大部分の生徒は「タス2」と答えた。雪夫は「それくプラス2>って言うんだよ」と言った。〕

概して語い使用能力はあるが，語いの関係，定義能力に劣る。身近な生活語いはよくできるが読書語いは余り知らない。入学時，正解した語いは，てつだい，くやしい，しょくじ，くわえる，しーんとした，つまずく，るすい。未知の語いは，せいよう，まちはずれ，こけ等であった。

2年の7月，語いテストから，家庭環境とにらみあわせて興味ある誤答例をあげてみよう。集団テスト，多肢選択法.

A．いちめんに（1．ちらばる。2．はしる。（3．たべる））

B．ゆずる（1．じぶんのものをひとにあげる。2．ともだちとなかよくする。（3．ひとからものをもらう））

（Ⅲ）言語能力の診断

雪夫に望ましい言語能力の発達を与えていて最大の要因は深い愛情に満ちた人間関係を持つ家庭のふんいきにある。この特徴は物的条件のよいわるいによって規定されるものでない。両親，兄弟の教育的な暖かなふんいきは雪夫に一抹の生活不安，劣等感も感じさせない。望ましいパーソナリテイ，学習態度，読書生活はこうした家庭生活を背景にして効果的に形成された。従って重大な障害条件と考えられた家庭の貧困も現在までのところ，言語能力の発達にさして表立って阻害の条件となっていない。

ここで雪夫の言語能力の中で，作文の力が特に優る原因を考えなければなるまい。雪夫の姉もまた作文がうまいという兄弟による言語能力の類似は興味ある問題である。しかし，だからといって，ただひとつの要因を想定することは出来ない。その原因となるいくつかの点を挙げよう。

(1) 一般的な知的能力に優っている。

(2) 読書興味，特に深い味わい読みの習慣がついている。

(3) 着実的な性格行動を持つ。

(4) 家庭の貧困から来る生産的雰囲気の中にいる。

(6) 家庭内で話すことになれている。

劣った生活環境は手放しで影響なしとは言えない。語い量が他の能力に比較して劣るのは，旅行，ハイク等の移行，書物の多読が充分に行えず，広い経済的背景を持つことができなかったためである。言語能力が学業成績より劣ることは，学校で教わった事だけはよく覚え，他のソースからの情報の獲得が少ないためであろう。2年次の能力低下の兆候は学習領域の拡大に伴ない，これと劣った雪夫の物的環境とのずれを示すものではなかろうか。

さらに，雪夫の物的環境がパーソナリティに及ぼす影響も無視できない。

1年次，クラスで好きな友だちを尋ねたら，「A君，家に遊びにいくと，遊ぶものをくれるから」と理由を言った。

これは問題である。教師父兄の雪夫をとりまく一層の学習環境の整理が要請される。

〔事例　No. 5〕 浅原　隆（男子）昭和21年5月生まれ

（I）言語発達条件

（A）家 庭 環 境（評点　5）

両親家族関係　父親は経理士で，その事務所は日本橋にある。年齢は55才種々の要職にあり，学校に顔を出したことはないが，その代りに母親が P. T. A. の会には必ず出席し，子どもの教育には非常な熱意を持っている。具体的な学習指導法の問題にも深く立ち入った質問をする。母親は女子専門卒で教養も高く，会合の席では，余暇が見つかれば，手にした本を読みはじめるというような人である。隆は6人兄弟の末子，兄4人，姉1人で，長男は大学卒，次男はいま大学在学中である。姉は小学6年生になる。

姉の学業成績は中，家庭学習はよくやるが，試験はさほどできない。運動神経はよく発達している。児童会の発表，劇は上手である。性格は派手で，お転婆である。

隆の家は住宅地にあり，閑静，相当の住宅である。

養　育　歴

隆は両親が終戦後も，ひきつづいて疎開していた九州で生まれた。安産，順調に育った。4か月目に現在の住居に移る。離乳は1年6ケ月で，少し授乳期間が長かった。

幼児期から，よく移行の機会が与えられていた。遠くは，最近，夏休みを利用して父親が仕事を兼ねて新潟へ温泉旅行に，近くは，休日に，新宿御苑，上野動物園，多摩川園に連れて行っている。

家庭でのしつけの方針は，厳格にしてきたが，末子のため，とかく甘やかされて育った。やんちゃで幼児音が消えない。この型の子どもは末子に多い。

隆は玩具もたくさん持ち，親兄弟から本を読んでもらったり，歌をうたって団楽する幸福な幼児時代を過ごした。早く就学前から，絵本・雑誌を見て楽しむ習慣があった。ラジオは3才ぐらいから聞き始め，文字は特に教えなくても，自発的に覚えてしまい，早期に学習レディネスが完成した。4才から6才まで幼稚園に通った。

入学当初は隆の興味もあって，母親は本もいろいろと買ってやった。

童話（グリム，広介），善太と三平，風の中の子供（坪田譲治），光の子（宮本さえ子）等。

小遣いは月々相当程度（入学時は約600円），映画は児童向きのものに注意して，適度に見せている。

家庭にある蔵書は戦時中の疎開でかなり紛失してしまったけれども，現在200冊以上あり，恵まれた文化環境にある。

（B）知　　能（評点 5）

I．Q．	149	武政他，新乙式団体知能検査	昭和28年7月10日実施	
I．Q．	142	〃　団体知能診断テスト	昭和29年2月26日	〃
知能偏差値	67．	田中　新制田中B式知能検査	昭和29年10月2日	〃

推理力（評点4），記憶力（評点4）ともに発達している。描画力（評点3.2）は普通。

（C）身　　体（評点 5）

健康，学校は2年間，皆出席。2年3月で，身長130.3cm，体重26.0kg。視力，左（1.2）右（1.2），聴力左（27db），右（27db）でともに正常。器質的障害なし。手・足の運動スキルも発達し，運動能力もある。

2年末，体育の時間で倒立の練習をした。学級で隆だけ上手に倒立ができ，教師にほめられた。

（D）性　　格（評点 5）

社会性，自立性が充分に発達し，家庭近隣関係もよく，神経質徴候もない。明るく快活な少年である。兄姉いっしょになってよく話し合いをする。けんかの相手は年齢が一番近い姉である。性格の中，難を言えば，自律性にやや欠けると言えないこともない。遊びに夢中になると，食事や風呂に呼んでも言うことをきかない。おいたをして小言を言われても，途中で止めないこともあるが，最近ではなくなった。家庭における行動面にはまずまず申し分がない。どちらかといえば，開放的性格の子である。

（E）教　　育（評点 3）

学習態度がひどく悪い。自分の席は教室の後の方にある。学級で一番お行ぎが悪くて，よく注意を受ける。特に文字のドリル学習，テキストの斉読の時に落ちつきがない。授業中，椅子の上にすわってみたり，隣りにいる子にいたずらをする。2年になっても一向になおらず，教師は席順をかえることに苦心している。

2年の5月，国語の時間、女の子の靴を隠して教師に注意された。そのあと，自由時間，教師は算数答案の個人指導をしていた。その間，隆は他の生徒と言い争ったり，大声を出したりして騒いだ。教師に注意を受け，教室の後ろに立たされた。

クラスの生徒は彼を「お行ぎの悪い班長さん」と呼んでいる。

2年の1月，算数の時間，加算4問の中，1問を間違えていたのに、全部できた人と言われて，隆はさっと手を挙げた。これを見つけた教師が，「隆，できたのか」ときいた。一度は手を下したが，また手をあげた。再び「顔を見せてごらん」と念を押され，遂に机の上に顔を伏せてしまった。「正直にしなくてはいけない」と注意を受けた。

また教師に対して，汚ない言葉を平気で連発する。

2年の6月，板書中の教師にむかって発言する子どもの声の中から，こんな隆の言

葉を耳にした。「ナンデエ，ダメジャナイカ」「ホーレ，ザマーミナサイ」「先生残念デシタ，ハハ……（クイズからの流行語）」，

また，級友を尊敬する態度に欠け，悪口を遠慮なく発する。ふだん，勉強のできない子が珍らしく発言をしようとすると，「ナンダ，分ルカ」と軽蔑したことばをあびせる。

3年の5月，国語の時間，単元「おたんじょうび」（二）の〈十の扉〉の導入の時，教師が問題を出して児童に〈十の扉〉をやらせた。その第二回目，動物，答えは人間で，クラスの○○君と分った。当の生徒は自分だと察して，机の下に体をずり落し，照れくさそうにしていた。子どもたちはどっと笑いこけた。突然，隆は「ナーンダ，ソイジャ，オッチョコチョイデスカッテ聞キャヨカッタンダヨ」と言った。自分の事は全く棚上げにしている。

これでもわかるように，隆の，個人的な応答は活発である。学習外の社会的話題には積極的にだれよりもよく聞いている。教師には非常によく接近し，教室では実によくのびのびしている。

指導要録の行動の記録には，人を尊敬する。仕事を熱心にする。物を大事にする。持久力，自制心にやや欠けるとある。

友人関係では隆は人なつこく，統率力もあって，クラスのリーダーとなって遊ぶ。学級委員もした。お友だちが多勢いて，女の子も隆をお友だちとしてあげる。しかし，いじわるするから嫌いと言う者もある。予習，復習や宿題はよくやってくる。国語学習帳の利用状況は普通である。

家庭読書（評点 3.4）

家庭での学習は本人が自発的にしている。両親が手をとって教えることをしないかわりに，上の兄姉たちが勉強を見てくれる。読書欲は盛である。

2年の9月，休み時間，他の生徒たちは学級文庫の漫画本に読みふけっているのに，隆は偉人伝記物語を熱心にくいいるようにして読んでいた。

学校図書館もよく利用している。

最近こんな本を借り出した。（5月9日）ふしぎな国のアリス，（5月11日）大むかしの人々，（5月12日）冬のせいぶつ，（5月15日）石のいろいろ，（5月16日）かいそうのいろいろ，（5月19日）ほしのいろいろ，（5月23日）ちょうちょのいろいろ，概して，高い程度の本を読み，特に科学的読みものに関心がある。

1年生の当初新聞は漫画だけ面白がってみてたいが，最近は新聞の写真と

隆のテスト期別にみた各言語能力評点

テスト項目＼テスト実施年月	28 4	5	6	7	8	12	29 3	7	12	30 3
読字 ひらがな清音	5	5	5	5	5	5	−	−	5	−
読字 ひらがな濁音・半濁音	5	5	5	5	5	5	−	−	5	−
読字 ひらがな拗・長・促音	−	−	−	−	−	5	−	−	3	−
読字 かたかな清音	4	4	4	−	−	−	−	−	4	5
読字 かたかな濁音・半濁音	4	4	4	−	−	−	−	−	5	5
読字 かたかな拗・長・促音	−	−	−	−	−	−	−	−	−	5
読字 数字	5	5	5	5	5	−	−	−	−	−
読字 漢字	4	4	4	4	4	4	5	4	4	4 3
書字 ひらがな清音	4	4	3	5	3	5	−	−	5	−
書字 ひらがな濁音・半濁音	4	4	4	4	5	3	−	−	2	−
書字 ひらがな拗・長・促音	−	−	−	−	−	−	4	−	4	−
書字 かたかな清音	3	4	4	−	−	−	−	−	4	3
書字 かたかな濁音・半濁音	3	3	3	−	−	−	−	−	3	2
書字 かたかな拗・長・促音	−	−	−	−	−	−	−	−	−	3
書字 数字	−	4	5	5	5	−	−	−	−	−
書字 漢字	4	5	4	4	4		4	4	4	3 3
読解 音読	3	5	5	3	5	4 5	4	4	−	3
読解 黙読	1	−	−	−	−		4 4 5 5	3	5 4	3
語い	2	−	−	3	−	−	4 4	3 4 4	−	4
発音	−	3	−	5	−	− 3	−	−	−	−
文法	3	−	−	−	−		4	5	5	5
作文	−	−	−	3	−		5	4	4	4

ニュース記事と結びつけて読むようになった。ラジオでは童謡，お話，子供の時間を聞いた。2年生になってからは，銭形平次，次郎物語，太語記，ぴよぴよ大学をきくようになった。

こうした，広い言語経験によって一般的な常識はよく発達している。

2年の5月，「母の日ってどういう日？」と教師が聞いた。「お母さんのいらっしゃる人は赤いカーネーションをつけるし，いない人は白いカーネーションをつける。

お母さんを助けるの」と答えた。

またこんなこともあった。2年の11月，油が着物についたら，何で落すと尋ねたら，即座に「ベンジンでやったら落ちる」と答えた。3年の4月「木の葉の色は誰がつけたのかな」と先生が言って，自然につくのだと，説明しようとすると，隆は「神様がつけたの」と答えた。

Ⅱ．言語能力の発達

隆のテスト期別にみた総言語能力評点（平均）と順位

	1年 4月	5月	6月	7月	9月	12月	3月	2年 7月	12月	3月	平均
平均評点	3.79	4.21	4.25	4.25	4.58	4.42	4.38	3.89	4.13	3.67	4.15
順　位	8.5	3	6	6	7.5	5.5	1.5	4.5	9.5	14	6

2年間の言語能力の平均順位は学級で6位。1年の終りには首席に上ったが，2年に入って少し，低下してきている，2年の学年末は14位に落ちた。（上表参照）学業成績（評点4）は優秀，1年では，聞く，話す，読む，書く，作る力が全部，＋2で，2年では書く力だけ（＋1）になった。

隆の第1年次・第2年次言語能力評点（平均）

	読字	書字	音読	黙読	語い	文法	作文	発音
1　年	4.5	3.9	4.3	4.5	3.3	3.3	4.3	4.0
2　年	4.3	3.5	3.5	3.8	3.9	5.0	4.0	−

各言語能力の中で，1年次には，読字，黙読がまさり，語い，文法がやや劣る。2年次には，文法，読字にまさり，書字がやや劣る。文法は2年になってから，非常に向上した。（上表参照）

入学当初，発音はガ行の鼻濁音ができなかった。2年になってから，まだ，会話に，甘ったれた口調が残っている。歯切れがあまり正しくない。2年生の6月，社会科の授業中，隆の発言をとらえて見よう。

「大掃除をした家は手をあげて……」（挙手20名），「大そうじの話ができるかな…」（挙手 5,6名），最初の発表者が隆に決まった。正しい姿勢で話す。

※（イントネーションの上向を示す，以下同じ）「あれね↗，※うちでね↗みんなをするのね↗面倒くさいってね，台所だけしてね↗そんでね↗，みんなね↗，いらない箱やね↗，そーゆーものおね↗，もやしたの……あとね↗，残ったのね↗，お皿や，瀬戸物おね↗，みんなきれーに，かたずけてね↗，戸棚の中に入れたの……そいからねー，たんすやなんかねー，瀬戸物が入っているからね↗，みんなかたずけたの，おわり」

話す内容はなかなかよくまとまり，行動の理由づけへの心づかいが働いている。

《音読》は，黙読能力より劣るけれども，学級平均以上の力がある。2年生の2月，国語の時間，先生が「どうして紙芝居は見ていて泣けてくるのか」の質問に隆「本当らしく読むから……。（紙芝居はいいところで終ってしまう。そうでないと，もうからないから）」と答えた。2年の16月，指名読みの際，文中の会話のところを注意し，他の文と区別し，聞き手を予想した読みができた。

《文字》は書き誤り，脱落が多い。

2年3学期の漢字書字力テストから，いくつかの例を見よう。

（提出漢字）→（応答）

前 → 前　秋 → 秋　空 → 空　来 → 来　百 → 百　虫 → 虫
思 → 思　入 → 人

2年の11月，授業中，「持」の漢字を習う。「寺」をぬかして書き，先生に注意された。

学習作業は全般的に機敏で，テストもだれよりもはやくにやってしまって答案を提出する。それだけに不注意な誤まりがおきる。

また，1年6月のテストで，前月のテストの時に書けた文字が書けない。いとも簡単に「忘れちゃった」と投げだした。テストへの執着性がない。

《作文》は文章表現に特別のうまみはないが，事件，事実について，因果関係の説明をしたり，物事の一般的結論をひきだそうとする表現の芽生えが2年の学年末の作文から現われてきた。（題，先生）

「○○先生はごちゃごちゃしてんのやうるさいのはきらいです。こゆうことをむずかしくゆうときびしいといいますだから○○先生はすきです。じかんはりをちゃんとやらないことがあります。だいくなどほとんどやりませんどうしてやんないのかというとみんながうるさいからです。だからぼくはすきです。どうしてきびしいかというと○○先生はもと六年生をやってたからです……（中略）……

この作文に現われた表現上の特徴は対所員との話し合いにもよく現われている。その一例を紹介しよう。

話題，一昨日の芸能会　昭和30年3月

〈声が大きく，元気で，話すことが積極的である。〉

所員　名前ワ？

隆　アサハラ　タカシ

所員　ハイ，コナイダ，芸能会　アッタデショ。

隆　ハイ

所員　見マシタデショ。

隆　ハイ。

所員　ソノ時ネ，先生ハ見ナカッタカラ，ナンデモイイカラ，話シテ下サイ，面白カッタコトヤネ。

隆　ソネ，　オモシロカッタノワ，　三ツノシクジリッテ言ウノトノンチャン，（問）ソノネ，三ツノシクジリッテ言ウノワ，オ父サンノコトヲネ，一匹ッテ言ッタリネ，アレ，ネコノコトヲネ，アノ……（中略）

ノンチャンテ言ウノワネ，皆ガネ，アノ村ノオ祭リデ，踊リヲオドッテルノネ，ソコニアレアノ，ノンチャントイウ熊ガ出テクルト，皆ネ，踊リヲヤメテ逃ゲチャウノネ，ソレヲ何回モクリカエシテイルカラ，皆疲レチャウノ，ソレガネ，アレ，ソレガネ，小使サン，小使サンガ（説明）クルノ，ソレマダ練習ダヨ（だめおし），コッチノ，ソレデネ，小使サンガ，学校ヲ一廻リシテクルカラ，ソシタラ踊リヲ見セテクレッテ言ウノネ，踊リ（間）……ソレデ廻ッテキテ，オヤ，モウ，止メタノカイッテ言ウンダヨ，マダッテ言ッテネ，アレ，ナンデヤンナイノッテイウト……（中略）

オ地蔵サーンナッテ　アゲヨウト言ウノ，小使サンノオジサンガネ，ノンチャンノ熊ガウオーッテ来タラ，足ヲ痛クシタノ，ソンデネ，ソノ時，リーンティウ学校ニイチャイケナイッテイウ鐘ガ鳴ッタノ，ソンデ，皆，小使サンニ，サヨーナラ言ッタノ，ソシテ，帰ッタノ，小使サンワ，サヨーナラ言ッタノ，ツマンナクナッカラ，痛イ，痛イッテ泣イタノ。（下略）

（III）言語能力の診断

隆の言語能力は望ましい水準に達している。これは恵まれた知的発達，身体的発達，家庭読書，パーソナリテイの個人的要因と家庭の教育，文化，社会的経済的条件のよさという環境的要因とに基づいている。隆のパーソナリティは姉のそれとよく似ている。豊富な経験的背景，移行，多い兄弟数，多い話し合いの機会は豊かな常識を持たせた。この基礎の上に，作文力，話し方における表現特徴が生かされたと考えられる。文法力，読解力の向上は家庭読書，程度の高い作品に対する接近の効果である。

他方，言語能力の発達をさまたげている要因は出生後，離乳がおそく，多い兄弟の中の末子として育てられた生育歴と落ちつきのない学習態度の悪さとである。生育歴が学習態度に影響を与えているとみることもできる。会話中に，いつまでも幼児音が残り，甘ったれた口調が残るのは明かに生育歴に原因がある。学習態度が悪いためにこんな特徴が出た。

(1) 言語能力が2年に入って低下してきた。

(2) 学業成績と言語能力との間に差がある。（学業成績の方がよい）

(3) 漢字の書き誤りが多い。普段学習中での漢字の書き誤まりが目立つ。

(4) 聞き方テストで，聞きとりの態度が悪く，詳細を聞きもらしたり，早急に誤った判断を下したりする。

隆の言語能力を知能なみに向上させない最大の原因は学習態度にある。学校環境の中で集団生活をする際に行動の抑制ができないのは2つの特徴によると思われる。そのひとつは主体的要因として，性格は別として勉強に対する実力の過信である。できない生徒に正面きって軽蔑するのもその現われであろう。今ひとつは学級の集団的な指導法に問題がある。能力の低い者に対する学習指導法が知能の高い者に最も効果的ではありえない。この意味で，隆に対して，その高い能力に応じた個別的学習指導が要請される。

〔事例　No.6〕 高　木　洋　子　（女子）昭和21年6月生まれ

（I）言語発達条件

（A）家 庭 環 境（評点　2）

両親，家族関係　父親48才，大学卒の医師。昭和26年，白血病で倒れ入院，現在も入院加療中である。母親41才病臥の夫と3人の子供を加えて，池袋某商店の事務員となり，辛うじて生活を支え，民生委員の世話を受けている。母親は高女卒，兄弟は3人，小学5年の兄と5才の弟がいる。

洋子の兄は学業成績は普通，研究的で新聞を作ったりする学習はよくやり，興味を持っている。しかし家庭学習が充分でない。ぱっとしない性格で身体虚弱。時々歯ぐきがはれてウミが出る。（洋子も虚弱である。）

現在の住居はカトリック系の母子寮に，3畳の狭い一室を借りて住んでい

る。

養　育　歴

洋子の生地は富山県，安産，混合栄養で育ち14か月から歩き始めた。4才まで富山県に，6才まで母の手を離れて叔母のいる仙台で育てられ，ついで就学のため東京に移った。保育園には仙台で4才～6才の間，通った。

幼時から健康でなく，よく夢を見て泣き出すことがあった。食べ物に好き嫌いが多く，風邪をひき，頭痛を訴えることがしばしばあった。

母親は一日中家を留守にして，あわただしい生活を送っているので，洋子たちといっしょに過ごす時間が少ない。一緒にいる時間はわずかに疲れて帰った夕食後のひとときぐらいで教育指導やしつけということは，気にかけるばかりで，充分でない。しかしわずかに，よいことといえば，寮生活のため時間的には規律正しい。起床は6時母子寮全員が食堂に集まってお祈りをすませてから食事をする。また洋子たちと同年齢の子供たちが大勢いるから，集団生活には馴れやすい。洋子は日曜日には日曜学校に通っている。

寮生活というのはどこでもそうであるが，洋子たちの寮生活も家庭的ふんいきに欠け，子どもは親の愛情に水いらずでひたることができない。洋子は時々，入院中の父親に会いに行かせてと頼むけれども，健康を気づかって今まで禁止してきている。

母親は洋子がのびのびと朗らかな子供になるように願っているが，そんな生活のために必ずしも現実は母親の祈る方向に進んでいない。就学前は親許を離れて育ったため，子供のこととて何のためにこんな生活を送っているのかと深くは知らないようであったが，苦しい生活のあえぎは洋子のパーソナリティに暗いかげりを作ってきている。

文化環境もまた恵まれていない。母親としては本や雑誌もできるだけ洋子に与えるように心がけているが，経済的にそんな余裕がない。家にある本は全部，ひっくるめても20さつ程度。洋子はそのために，たびたび，絵本や雑誌をお友だちから借りてきて読み，要求を充たしている。学習レディネスは幸にも保育園に通って充分についた。学習机はもちろん，与えてやれない。

（B）知　　能（評点　4）

I.Q.　117　記憶力（評点3）推理力（評点3）は普通。数暗唱力にまさり，絵再生力に劣る。描画力（評点4）はまさる。

（C）身　　体（評点　3）

身長低く，体重も軽い。入学時は，身長108.5 cm，体重18.5 kg。2年の10月以降，体重がふえていない。（下表参照）視力，左（0.8）右（0.7）で軽

	2年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
体重	20.3	20.6	20.5	21.5	－	21.5	22.0	22.0	22.0	22·0	－	22.0

（単位はkg）

い近視。聴力，左（27db）右（27db）。入学後，百日咳と水痘にかかった，現在，軽度の耳疾がある。学校の欠席日数は2年間で延べ26日，少し多すぎる。虚弱体質で顔色もすぐれない。

2年の5月，休み時間の学校の屋上で遊んでいると，雨が降り出した。ほんの小雨程度のものなのに，洋子は「雨が降ってきた。あたし，濡れるからいやだわ」と言って，雨に濡れることをひどく嫌った。ほかの子どもは一向に雨なんかお構いなく，遊んでいた。

運動能力はひどく欠けている。

学業成績の中でも体育（評点　0）は他の学力にくらべて悪い。

しかし本人は体操は大好きなようで，縄とびして遊ぶのが一番好きだと話してくれたことがあった。

（D）性　　格（評点　2）

自立性に欠け，神経質徴候がある。おとなしい洋子だがぐずぐずした面があって，お友だちからいじめられる。洋子の性格の上で一番の問題は暗い性格のかげりがあり，それが物の考え方にも入りこんで，現実生活でのフラストレーションが見られることである。

1年の12月，自分で書いた絵にこんなお話の文を添えた。

はねつきおしてここわいやだとゆってむこうえいくところです。また，うちへかえ
　　（を）　　（は）　　（い）　　（へ）
ったらします。

絵にはそんな場面のふたりの女の子が書いてあった。この時期の子どもはだれだって楽しい思い出を書くものであるのに，洋子だけはちがう。

また，大人に対して非常に人なつこく，むやみと慕い寄る。心が強い親の愛情にひたれないためであろう。音楽方面にはあまり興味がない。

（E）教　　育（評点　4）

学 校 生 活（評点　4）

学級にこれと決ったお友だちがいない。家から学校までの往復はいつも淋しそうにひとりで歩いている。

洋子は学習態度がよく，教師のお話をよく聞いている。国語学習帳（評点4）の利用状況もよい。しかし，2年後期に入ってからというものはだんだんと積極的に手をあげて活発に応答することが少なくなり，宿題も忘れてきたりするようになった。

2年の6月，面接の際に，学級でひとりだけ，洋子は学校が面白くないと答えた。

服装にも手入れが行き届かないことが目立って来た。

しかし，物の考え方と感受性はよく発達し，少し異常ではないかと感じさせるふしもある。

2年6月の面接で，「○○先生はどうして好き？」と聞くと，「4月1日のエープリルフールでも，嘘を言わなかったから好きよ」と答えた。

2年の1月，かきぞめを教師に提出した。それには「こひつじ」と書いた。他の生徒は，はつひので，まつかざり等，平凡なものが多かったのに。

3年の5月，遠足に行った時，クラスの友だちを避けて研究所の者とばかり遊んだ。その折，洋子が後から近づいて，気づかずにいた所員某の目をふさいだ。「誰？」と尋ねると，「空気！」と答えた。そして眼鏡をはずそうとする。「目を悪くするから，眼鏡をとらないで」と言うと，「目を悪くして見えなくなればいいじゃないの，そうすれば皆親切にしてくれるから」と言う。指導要録の行動記録には，人と親しむ，指導力，態度の明るさに欠けるとある。

家 庭 読 書（評点　4）

家庭では，非常によく，たくさん，程度の高い本をむさぼるようにして読んでいる。家にある本が少ないので，よく借りて来る。

2年の6月，休み時間。研究所にやってきて，書棚にあるたくさんの児童雑誌を見つけた。「家の本は全部読んでしまった。大事に読むから，ぜひ貸して，」としきりに頼んだ。

また学校図書館も非常によく利用し，家に借り出す本の冊数では洋子が学

級で一位。

最近では次の本を借りた。（5月11日）びっくりかめすく，（5月12日）こぶたのとことこ（5月13日）うみぼうずとおひめさま，（5月16日）むくどりのゆめ，（5月18日）村の子，町の子，（5月20日）ころげたやしのみ，（5月27日）日本むかしばなし。（以上，2週間の調査から），

そして，本を借りた日は遊びにいかず，一日中読みふけっている。

洋子のテスト期別にみた各言語能力評点

	テスト実施年月 / テスト項目	28 4	5	6	7	9	12	29 3	7	12	30 3
読字	ひらがな清音	5	5	5	5	5	5	–	–	5	–
	ひらがな濁音・半濁音	5	5	5	5	5	5	–	–	5	–
	ひらがな拗・長・促音	–	–	–	–	–	5	–	–	5	–
	かたかな清音	4	4	4	–	–	–	–	–	5	5
	かたかな濁音・半濁音	4	4	4	–	–	–	–	–	5	3
	かたかな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5
	数字	5	5	5	5	5	–	–	–	–	–
	漢字	4	5	4	5	4	5	4	4	5	5 4
書字	ひらがな清音	5	4	5	5	5	5	–	–	5	–
	ひらがな濁音・半濁音	4	4	4	5	5	5	–	–	5	–
	ひらがな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	4	–	5	–
	かたかな清音	3	3	4	–	–	–	–	–	5	4
	かたかな濁音・半濁音	3	3	3	–	–	–	–	–	5	5
	かたかな拗・長・促音	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5
	数字	–	5	5	5	5	–	–	–	–	–
	漢字	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4 3
読解	音読	5	5	5	5	5	5 5	5	5	–	4
	黙読	–	–	–	–	–	–	5 5 5	4	5 4	5
語い		欠	–	–	4	–	–	3 4	3 3 4	–	3
発音		–	3	–	2	–	–	–	–	–	–
文法		欠	–	–	–	–	5	4	4	3	4
作文		–	–	–	3	–	3	4	5	4	5

（Ⅱ）言語能力の発達

洋子のテスト期別にみた総言語能力評点（平均）と順位

	1年 4月	5月	6月	7月	9月	12月	3月	2年 7月	12月	3月	平均
評点	4.25	4.14	4.38	4.42	4.75	4.75	4.73	4.00	4.69	4.27	4.40
順位	3	5	4	5.5	4	1	1.5	3	3	4	3

2年間の言語能力は学級で第3位。入学以来，女の中で言語能力が最も発達している。学校の成績も優秀で，女子で首位を占めている。（上表参照）

洋子の第1年次・第2年次言語能力評点（平均）

	読字	書字	音読	黙読	語い	文法	作文	発音
1年	4.6	4.1	5·0	5.0	3.7	4.5	3.3	2.5
2年	4.7	4.6	4.5	4.5	3.2	3.9	4.7	–

各言語能力の中で，1年次で特に優っていた能力は読解力である。発音は標準的でなく，作文がやや劣る。2年次になっては読解，作文に優り，表現力がついた。（上表参照）話す力もまさる。解釈する能力がある。聞く力は中，語い力だけが少し劣る。

一般的に見て，どの能力も優っているが，家庭読書を背景にした文章読解力が一番のびている。2年間の黙読理解テストはどの問題も全部，正解。読書速度も速い。

2年の12月，読書速度テストで3分間に1050字の文を読んだ。（非常にはやい）

文の内容理解，大意把握，そして観賞力に高い解釈力と感受性を持っている。

((音読)) は入学当初から，簡単な文ならすらすらと読み，内容もよく理解できた。

2年の10月，国語の時，指名読み。声量，音調は適切。地の文，会話の文とで読み方を変え，不自然でなく，文のリズムをうまくつかんで，聞き手を予想した読みができた。句読点の所では正しく休止した。また文字の読み誤りはなかった。

((作文)) は，1年1学期末に書いた作品をみると，最初の一文とそして終りとに読点がふたつつけてあった。句点はというと1年の学年末の作文から現われているが，まだ正確でなかった。2年の7月末の作文から正確に使えた。2年の終りには改行もできている。

内容の面では，1年の学年末から，従来の単に叙述的態度から変って相手を予想した自己表現のための訴え文を書くようになった。そして，全体的にも上手になった。2年の7月に書いた作文〈ともだち〉を紹介しよう。場面の特異なとらえ方，かなしい，さびしいという語をよく使って，楽しみ，喜びの心はあまり文に表われていない。

さらに読点のつけ方，現在時制による表現に注意されたい。

わたくしのおともだちで一ばんすきな人は，はきはきして小さいこどもをかわいがって，いる人です。その人はちゃこちゃんというなです。そのつぎとしこちゃんです。

わたくしはいつも学校から，かえると，としこちゃんとあそびます。ちゃこちゃんが学校かからかえって，くると，わたくしはちゃこちゃんと，としこちゃんと，わたくしと，三人で，あそびます。わたしはそのともだちとけんかを，したら，すぐへやへいってないています。けんちゃんがいたら，なかないでけんちゃんと，いっしょにあそびます。二人のほか，ふたばでは，なかよしのともだちは，いないのですぐわたくしはないてしまいます。その，ちゃこちゃんんけんかをしているあいだわかなしいのです。けんかは，くちげんかです。あくるひになると，すぐなかよしになってしまいます。

((語い)) は他の能力より劣る。テストの結果では，文脈の中で語いを正しく使用する能力は優るが，定義する能力が少し劣る。((平がな)), ((数字)) の読みは入学当初には既に完成していた。概して，読字は書字力よりわるい。((発音)) は入学時，ガ行の鼻濁音ができなかった。

ニューガクオメデトウ（ガ），ヘンジガデキマスカ（ガ），オリガミ（ガ），キシャガハシッテキマシタ（ガ）。

（Ⅲ）言語力能の診断

知能検査でえた洋子の知的発達を規準にしてみると，言語能力の発達は少し，よすぎる傾向がある。知能以上に言語能力がよく伸びたのは，何といっても，積極的な家庭読書からえた効果によるものである。洋子の学級で彼女ほどたくさん本を読む子どもはいない。どうして，そんなに洋子は本を読むのか，読書行動は洋子にとって，現実のフラストレーションの代償を非現実な読みものの世界に自己を逃避させ満足させる機能を持つからである。

一方，洋子の言語能力や言語行動に現われたいくつかの特徴もまた正常で

ない読書行動からきている。この要因は次の六点が相互にからみあっている。

(1) 家庭の生活苦
(2) 父親の病気
} 間接的な原因

(3) 洋子の身体的虚弱性
(4) 暗い孤独の性格
(5) 社会に対する心理的抑圧
} 直接的な原因

洋子が同年配の児童よりむしろ成人を慕うこと，体操を好む，学校が嫌い，読書への異常な関心等は上にあげたいくつかの理由に基づくゆがんだ行動の型である。宗教の世界に救いを求めようとする母親とともに，洋子もまた彼女なりに生へのきびしさを抱かずにはいられない。

言語能力の中，発音能力が劣るのは，幼児期をおばの手で育てられたこと，身体的虚弱とによるものである。入学時，片かなの読み，書き能力が劣るのは，クラスの子どもが何らかの形で豊かな文字環境にあるなり両親から文字指導を受けていたのに，洋子にはこのいずれかの機会にも恵まれなかったためである。

家庭読書は黙読理解，解釈力をつけ，文脈から語いの意味を理解する力をつけた。しかし，読書耽溺は文の詳細を知る力に欠け，文内容の情趣にばかり溺れさせる結果を招いた。洋子は読書分裂児と見ることができる。

学校生活態度が，次第に後退的になり，積極性に欠けてきたことは注意すべき傾向である。その理由には3点が挙げられる。

(1) 家庭環境のみじめさが子供ながらに自覚され，それが人格形成の中核に強くくいこんできた。
(2) 家庭で学習をする上に，適当な相談相手がいない。
(3) 健康の悪化。

XI 低学年国語教科書の実態

A 1・2年の教科書の形式・内容の分析

教科書は，能力の発達に即して作られているはずである。逆に，能力の主要部分は，教科書は中心とする学校の学習指導等によって，ついて来ているわけである。

ここに，低学年の読み書き能力の発達について，教科書の組み立てを分析してみた。資料としては，実験学校・協力学校で使っている代表的検定本5種（いずれも29年度版）をえらんだ。

1年生はどれも3冊本で上中下になっているが，特にその第1冊の厚さ，内容は実にさまざまである。使用期間もちがっている。しかしここでは上巻は上巻，中巻は中巻，下巻は下巻として，書物を単位として分析した。

2年生から上はたいていは上下2冊であるが，ここでも3冊本になっているところがある。これについては，その中巻を2つに分けて，2冊本として計算した。（内容あるいは題材によって，これは何月にやるということがわかるので，それによって2つに分けた。）

低学年教科書別形式・内容の分析

		教科書名		N	T	G	M	C
1	上	1. 文が出るまでの頁数		10	6	2	2	15
		2. 文が出てからの頁数		49	23	56	28	30
		3. 全体の文字数		1,716	89	707	859	1,332
		4. 文中の漢字頻数		0	0	24	0	0
		5. 。の数		147	16	88	85	122
		6. 一文の長さの平均	字	2.7	5.6	8.0	10.1	10.9
		7. 漢字使用の割合	%	0	0	3.4	0	0
		単元 1. 物語		1	0	0	0	0
		単元 2. 学校生活		0	3	18	3	1
		単元 3. 家庭生活		4	3	9		1

		教科書名		N	T	G	M	C
		の題材	4. 社会生活		1	3	3	2	1
			5. 自然			0	0	0	0
			6. その他		1	0	0	0	1
			計		7	9	30	5	4
年	中	1.	文が出るまでの頁数		0	2	2	0	0
		2.	文が出てからの頁数		70	66	76	61	66
		3.	全体の文字数		6,547	1,930	3.020	4,187	2.654
		4.	文中の漢字頻数		47	16	70	102	4
		5.	。の数		341	148	214	266	195
		6.	一文の長さの平均	字	19·2	13.0	14.1	15.7	13.6
		7.	漢字使用の割合	%	7.2	0.8	2.3	2.4	0.2
		単元の題材	1. 物語		2	0	1	1	1
			2. 学校生活		3	3	6	1	1
			3. 家庭生活		4	6	5	3	6
			4. 社会生活		4	4	7	0	2
			5. 自然		2	4	1	5	4
			6. その他		2		5	8	5
			計		17	24	25	18	19
生	下	1.	文が出るまでの頁数		0	0	2	0	0
		2.	文が出てからの頁数		56	84	62	79	107
		3.	全体の文字数		5,079	8,168	3.076	6.374	6.266
		4.	文中の漢字頻数		171	541	114	330	274
		5.	。の数		281	461	191	411	391
		6.	一文の長さの平均	字	18.1	17.7	16.1	15.5	16.0
		7.	漢字使用の割合	%	3.4	6.6	9.6	5.2	4.4
		単元の題材	1. 物語		3	5	1	2	1
			2. 学校生活		3	6	2	1	9
			3. 家庭生活		2	8	3	11	11
			4. 社会生活		3	2	4	1	2
			5. 自然		3	3	4	1	0
			6. その他		0	2	1	0	3
			計		14	26	15	16	26

		教科書名		N	T	G	M	C
2年生	上	1. 文が出るまでの頁数		0	0	0	0	1
		2. 文が出てからの頁数		103	104	124	124	111
		3. 全体の文字数		10,285	10,499	10,723	12.074	11,921
		4. 文中の漢字頻数		561	583	680	780	1,231
		5. 。の数		504	516	521	701	579
		6. 一文の長さの平均	字	20.5	20.3	20.6	17.2	20.6
		7. 漢字使用の割合	%	5.5	5.6	6.3	6.5	10.3
		単元の題材 1. 物語		4	2	4	7	1
		2. 学校生活		10	4	8	2	5
		3. 家庭生活		1	4	6	1	5
		4. 社会生活		6	9	2	4	12
		5. 自然		4		3	5	0
		6. 其の他		2	2	3	0	1
		計		27	21	26	19	24
	下	1. 文が出るまでの頁数		0	0	0	0	0
		2. 文が出てからの頁数		90	104	124	114	124
		3. 全体の文字数		9,638	12,618	10.673	10.547	14,157
		4. 文中の漢字頻数		725	1,019	694	1.059	1,759
		5. 。の数		489	579	554	662	669
		6. 一文の長さの平均	字	13.3	21.8	19.3	15.9	21.2
		7. 漢字使用の割合	%	7.5	8.1	6.5	10.0	12.4
		単元の題材 1. 物語		4	5	6	3	2
		2. 学校生活		2	3	5	7	3
		3. 家庭生活		3	7	1		6
		4. 社会生活		4	1	10	2	7
		5. 自然		2	3	4	2	0
		6. 其の他		3	0	0	0	0
		計		18	19	26	14	18

低学年教科書（5種類）内容・形式分析平均

		1年生 上	1年生 中	1年生 下	2年生 上	2年生 下
文が出るまでの頁数		ページ 7.0	0.8	0.4	0.2	0
文が出てからの頁数		ページ 37.0	67.6	77.6	113.2	111.2
全体の文字数		字 941.0	3,667.6	5,192.6	11,100.4	11,526.6
文中の漢字総数		字 4.8	47.8	286.0	767.0	1,051.2
漢字の使用率		(%) 0.7	2.6	5.8	6.8	8.9
全体の。の数		906	232.8	347.0	564.0	590.6
一文の長さの平均		字 7.5	15.1	16.7	19.8	18.3
単元の題材	物語	(18.0%) 0.2	(4.9) 1.0	(12.4) 2.4	(15.4) 3.6	(21.1) 4.0
	学校生活	(45.5%) 5.0	(13.6) 2.8	(21.6) 4.2	(24.8) 5.8	(21.1) 4.0
	家庭生活	(30.9%) 3.4	(23.3) 4.8	(36.1) 7.0	(14.5) 3.4	(17.9) 3.4
	社会生活	(18.2%) 2.0	(16.5) 3.4	(12.4) 2.4	(28.2) 6.6	(25.2) 4.8
	自然	(0%) 0	(15.5) 3.2	(11.3) 2.2	(10.3) 2.4	(11.6) 2.2
	その他	(3.6%) 0.4	(26.2) 5.4	(6.2) 1.2	(6.8) 1.6	(3.1) 0.6
	計	11.0	20.6	19.4	23.4	19.0

以上について考察すると，全体の文字数，つまり実質内容は少しずつふえているが，2年生の上と下とでは余りちがわない。（ページ数はむしろ減っている。）発達というか上昇というか，増加の最もはっきりしているのは，漢字の総数とその使用率である。文の長さの増加は目立たない。

次に，内容面については，1年の上を除けば単元の数はふえていない。低学年の方が，1単元の長さが短いからであろう。

1年の上は学校生活を取扱ったものが非常に多い。2年生になると全体として社会生活に取材したものが多くなる。しかし，巻を追っていちばん順調にふえているのは，物語教材である。

B　2年生の教科書におけるかたかなの地位

2年生教科書におけるかたかなの月別配当

	四　月	五　月	六　月	七　月	九　月
T		シベルポ(40)シュ(拗)ツ(促)ポゴトガタン(41)ヤ(拗)ブオラ(42)ウク(43)カチツテ(44)リ(45)	キ(47)スメイムバケ(48)レヨ(49)	ドセ(74)プログ(75)	サ(92)ピ(105)以上二の上
G	カタコト(6)ランドセル(7)クウ(8)パチ(22)ピヨ(29)バイオリ(31)	ポケッ(促)(46)ボ(47)	ゲロ(72)	ツ(94)メ(96)以上二の上	
M	ポ(4)ゴウ(6)シュ(拗)ツ(促)トンネル(8)		バス(40)エジ(41)プラ(52)チカマ(54)	コクリ(61)ハド(62)キタ(66)サ(67)グイヤォ(69)ケ(75)以上二の上	以下二の中ワャ(拗)ツ(6)
C	ラジオ(6)ブル(8)カチクタッ(促)ンボ(10)ポ(12)	プログム(44)	キ(73)ペ(75)	アスサヒガシマエツ(81)ピゴ(83)	トネ(98)バケ(113)以上二の上
N	スミオ(6)ネズ(7)コ(8)リボン(10)カエル(15)	キッ(促)(16)ムギツバメ(25)ペジパャ(拗)ラアイソ(29)シチョ(拗)ウ(30)ヌワへ(31)トビピロュ(拗)(32)ヤマガホ(33)ヒ(34)ポケ(38)	ハ(40)モザクヨ(42)デナノ(43)タ(44)ダ(50)サグ(57)	プ(62)プ(64)以上二の1	以下二の2レ(6)

十　月	十一月	十二月	一　月	二　月	出ない字
以下二の下 ホ(18) ネ(21) コ(25)	ヤ(37) ハ(38) モ(47)	アエ(52) ナニヌノ(53) ズマパミゼ(55)			ソヒフヘ ワヲギゲ ザゾダヂ ヅデビペ
以下二の下 ブキ(20)	ヤ(30) ズ(32) ヒュ(拗)(44) レサ(49)	ネ(60) マ(66)	ジ(68) ス(71) ホ(73)	ナ(87) シ(89) プガョ (拗)(105)	アエソテ ニヌノハ フヘミム モワヲギ ゲゴザゼ ゾダデヅ デビベペ
レ(35) ダ(36) ロブ(38)	ガ(60) ア(63) 以上二の中		以下二の下 ピ(17)	セ(28) ヨ(38) ナ(40) テ(46) ヨ(拗)(48) ギ(50)	ソニヌノ ヒフヘホ ミムメモ ヲゲザズ ゼゾデヅ デビベボ パペ
以下二の下 ャ(拗)(6) イ(7) ウ(8) ゾデリ(9) ハドベ(18)	ザ(44) ョ(拗)(46) モ(49)	メコレ(59) パ(60) セズ(62) ソフ(63) ニホギビ(65)	ワノ(70)	ヤ(99) テ(108) ナヨダ(109) ミ(111) ヌユヲゲゼヅ (112)	ヘヂ
ド(26) フ(30) セデニユオ(37)					ゲゴゼゾ ヂヅベ

新出かたかなの用語

	T	G	N	C	N
ア	アイウエオ (下52)		カアカア(中63)	アス (上81)	アメリカ(1の29)
イ	チューインガム (上48)	バイオリン (上31)	タイヤ (上69)	ライオン(下7)	イギリス(1の29)
ウ	ブブウ (上43)	クウクウ(上8)	ゴウゴウ(上6)	ウォー (下8)	シチメンチョウ (1の30)
エ	アイウエオ (下52)		エンジン(上41)	エキ (上81)	カエル (1の15)
オ	ボオオー(上42)	バイオリン (上31)	ウオン (上69)	ラジオ (上6)	スミオ (1の6)
カ	カッチン(上44)	カタコト(上6)	チカッと(上54)	カチ (上10)	カエル (1の15)
キ	キャベツ(上47)	ブリキ (下20)	キチキチ(上66)	キラキラ(上73)	キッコ (1の10)
ク	トラック(上43)	クウクウ(上8)	コンクリート (上61)	チクタク(上10)	ヤマザクラ (1の42)
ケ	バケツ (上48)	ポケット(上46)	バスケット (上75)	バケツ (上113)	ポケット(1の38)
コ	カタンコン (下45)	カタコト(上6)	コンクリート (上61)	チョコレート (下59)	ネコ (1の8)
サ	サラサラ(上92)	サイレン(下49)	サクサク(上67)	アサ (上81)	ウサギ (1の57)
シ	シューッ(上41)	ドシンドシン (下89)	シュッ (上8)	ヒガシマチ (上81)	シチメンチョウ (1の30)
ス	ガラス (上48)	スキー (下71)	バス (上40)	アス (上81)	スミオ (1の6)
セ	ランドセル (上74)	ランドセル (上7)	セロハン(下28)	セーター(下62)	サシスセソ (2の37)
ソ				ソフトボール (下63)	エジソン(1の29)
タ	ゴトゴトガッタン (上41)	カタコト(上6)	カタカタ(上66)	チクタク(上10)	ホタル (1の44)
チ	カッチン(上44)	パチパチ(上22)	チカッと(上54)	カチ (上10)	シチメンチョウ (1の30)
ツ	ポッツン(上44)	バケツ (上94)	ワイシャツ (中6)	ツク (上81)	ツバメ (1の25)
ッ	シューッ(上41)	ポケット(上46)	シュッ (上8)	カッチン(上10)	キッコ (1の16)
テ	トッテンカン (上44)		トンテンカン (下46)	キテ (下103)	タテツテト (2の37)
ト	ゴトゴトガッタン (上41)	カタコト(上6)	トンネル(上8)	トンネル(上98)	トンビ (1の32)
ナ	ナニヌネノ (下53)	ピーナツ(下87)	シグナル(下40)	トナリ (下109)	ナデシコ(1の43)
ニ	ナニヌネノ (下53)			ニホン (下65)	ナニヌネノ (2の37)
ヌ	ナニヌネノ (下53)			ナニヌネノ (下112)	イヌ (1の31)
ネ	トンネル(下21)	トンネル(下60)	トンネル(下8)	トンネル(上98)	ネズミ (1の7)
ノ	ナニヌネノ (下53)			「ノ」 (下70)	ヒノキ (1の43)

	T	G	M	C	N
ハ	ハンカチ(下38)		ハンドル(上62)	ハンドル(下18)	ハト (1の40)
ヒ		ヒュウッと(下44)		ヒガシマチ(上81)	ヒバリ (1の34)
フ				ソフトボール(下63)	フレー (2の30)
ヘ					「へ」 (1の31)
ホ	プラットホーム(下18)	ヤッホウ(下73)		ニホン (下65)	ホオジロ(1の33)
マ	トマト (下55)	トマト (下66)	トマト (上54)	ヒガシマチ(上81)	ヤマガラ(1の33)
ミ	ミシン (下55)			マキガミ(下111)	スミオ (1の6)
ム	チューインガム(上48)			プログラム(上44)	ムギ (1の25)
メ	キャラメル(上48)	メートル(上96)		キャラメル(下59)	ツバメ (1の25)
モ	コスモス(下47)			モウモウ(下49)	モモ (1の42)
ヤ	タイヤ (下37)	リヤカー(下30)	タイヤ (上69)	ガヤガヤ(下99)	ヤマガラ(1の33)
ャ	ジャブン(上42)		ワイシャツ(中6)	クジャク(下6)	キャラメル(1の29)
ユ				ヤユヨ (下112)	ヤイユエヨ(2の37)
ュ	シューッ(上41)	ヒュウッと(下44)	シュツ (上8)		チュッ (1の32)
ヨ	クレヨン(上49)	ピヨピヨ(上29)	クレヨン(下38)	ヨク (下109)	ヨモギ (1の42)
ョ		カーネーション(下105)	チョキンチョキン(下18)	ピョン (下46)	シチメンチョウ(1の30)
ラ	ガラガラ(上42)	ランドセル(上7)	ポプラ (上52)	ラジオ (上6)	キャラメル(1の29)
リ	リンリンチリン(上45)	バイオリン(上31)	コンクリート(上61)	チリンチリン(下9)	リボン (1の10)
ル	ベル (上40)	ランドセル(上7)	トンネル(上8)	ブル、ブルブルー(上8)	カエル (1の15)
レ	クレヨン(上49)	クレヨン(下49)	リレー (中35)	チョコレート(下59)	レール (2の6)
ロ	プログラム(上75)	ゲロ (上72)	グローブ(中38)	プログラム(上44)	ピーヒョロ(1の32)
ワ			ワイシャツ(中6)	「ワ」 (下70)	ワンワン(1の31)
ヲ				ワヲン (下112)	ワイウエヲ(2の37)
ン	ゴトゴトガッタン(上41)	ランドセル(上7)	トンネル(上8)	カッチン(上10)	リボン (1の10)
ガ	ゴトゴトガッタン(上41)	ガラス戸(下105)	ガチャガチャ(中60)	ヒガシマチ(上81)	ヤマガラ(1の33)
ギ			ギィと (下50)	ペンギンビール(下65)	ムギ (1の25)
グ	プログラム(上75)		グウグウ(上50)	プログラム(上44)	ウグイス(1の57)

	T	G	M	C	N
ゲ		ゲッコ (上72)		ガキグゲゴ (下112)	
ゴ	ゴトゴトガッタン (上41)		ゴウゴウ(上6)	ゴロゴロ(上83)	
ザ				ザック (下44)	ヤマザクラ (1の42)
ジ	ジジジジー (上40)	ラジオ (下68)	エンジン(上41)	ラジオ (上6)	ページ (1の23)
ズ	ズボン (下55)	ズボッと(下32)		ズボン (下62)	ネズミ (1の7)
ゼ	ガーゼ (下55)			ザジズゼゾ (下112)	
ゾ				ゾウ (下9)	
ダ			ダンス (中36)	キャクダ(下109)	メダカ (1の50)
ヂ				ダヂヅデド (下112)	
ヅ					
デ				インデラ(下9)	ナデシコ(1の43)
ド	ランドセル (上74)	ランドセル (上7)	ハンドル(上62)	ハンドル(下18)	ドングリ(2の26)
バ	バケツ (上48)	バイオリン (上31)	バス (上40)	バケツ (上113)	ツバメ (1の25)
ビ				ペンギンビール (下65)	トンビ (1の32)
ブ	ジャブン(上42)	ブリキ (下20)	グローブ(中38)	ブ・ブ・ブー (上8)	ブンブン(1の62)
ベ	ベル (上40)			ベル (下18)	
ボ	ボッ (上41)	ボール (上47)		ボン (上11)	リボン (1の10)
パ	パン (下55)	パチパチ(上22)		パン (下60)	パン (1の29)
ピ	ピリピリッ (上105)	ピヨピヨ(上29)	ピン (下17)	ピカピカ(上83)	ピーヒョロ (1の32)
プ	プログラム (上75)	チューリップ (上105)	ポプラ (上52)	プログラム (上44)	プルルン(1の64)
ペ				ページ (上75)	ページ (1の23)
ポ	ポー (上40)	ポケット(上46)	ポポー (上4)	ポポー (上12)	ポケット(1の38)

XII　低学年国語学習指導の実態

A　調査のあらまし

低学年の言語能力の発達を述べるについて，現行教科書の仕組みと，またそれを使って実際におこなわれている教室の学習指導の実際とは，無視することのできない大きな要因である。

ところが，これについて，毎週9時間ずつ国語の時間を設けている学校もあれば，毎週4時間だけの学校もある。作文に力を入れている学校もあれば，話し方に力を入れている学校もある。教科書の取り扱い，読み方の指導過程なども，実にいろいろである。

もっとも，教育の計画も実践も，本来，地域の必要に即して，それぞれの児童の必要と能力とに即しておこなわれるべきものであるから，ある程度の変化のあるのは当然である。しかし，そうした種々相を肯定し，前提して，その上で，その中になにか一つの基本傾向があるとか，標準のやり方があるということになれば，実際家がめいめいの特殊性を発揮する上に参考になるであろう。われわれにとっても，この期の児童の言語発達の状況を概観にする場合に有力な参考になるわけである。

このような観点から，こんどのこの報告書をまとめるにあたって，各地指導主事の諸氏の協力を得て，特に国語をやっているというのではなく，すべての点においてきちんと経営されている標準的な学校を選んでもらって，くわしい質問紙を送って，その回答を得た。

それは，この文の最後に校名を記した全国31の都府県にわたる216校である。そのうち，回答もれの項目もあったので，整理に使ったのは212校である。幸に，すべて，なんの誇張もなく虚飾もなく，ここに，わが国の現在の学校教育における低学年国語学習指導の実態と，またその上に立っての教師たちの感想希望がわかった。

質問用紙は，次のような「表題」と「まえがき」を持ち，質問項目は57項

目ある。以下そのおもなものについて，回答の大体を記す。

読み書きを中心とした小学校低学年（1年後期—2年)の国語学習指導の実態の調査

ま え が き

1. この調査は小学校低学年の児童の読み書き能力の発達に直接関連をもつと考えられる国語の学習指導の実状を知りたいためにおこないます。

   読み書きに関する調査を中心とし，聞き話すことに関するものは読み書きに直結する面にかぎってふれる程度とします。

2. この調査の直接対象は学級です。

3. この調査では，まず現在あなたの学級で実行している実際について答えてもらい，最後に一括して別に，こうあるべきだという意見をつけ加えてもらうようにしてあります。

   それは「実際にこうやっている，こうやってきた」ということと，「こうあるべきだ（と考えている)」ということをはっきり区別したいからです。

4. 質問調査の項目は次のとおりです。

   A．学校・学級の性格

   B．読み書きの学習指導

   Ⅰ．時間と比重　Ⅱ．教科書と指導過程　Ⅲ．学習指導過程　Ⅳ．書くことの指導　Ⅴ．ワーク・ブックとドリル　Ⅵ．家庭学習　Ⅶ．教具・施設・経営

   C．Ⅰ．読書の指導　Ⅱ．話すことの指導　Ⅲ．聞くことの指導

   D．国語学習指導の重点

   E．あなたの読み書き学習指導上の意見

5. 答えかたは（　）の中に書きこむか，あるいは該当する項目を ○ でかこみ，更に足りないと思われることがあったらそれを適宜書きこむようになっています。

(1) 調査の対象となった学校・学級の性格

上述のように，全国 31 都府県にわたる 212 校であるが，各学校の学区はどのような地域であるかという回答を整理すると（二つにまたがって回答しているものあり）

商業地	87	工業地	20
住宅地	45	農業地	123
漁業地	16	その他	11

である。これによって，回答校が都市とか農村とかにかたよっていないということがわかる。

学校の大きさは生徒数2,000名以上の学校もあれば，200名以下の学校もあり，生徒数総平均は894名である。そのうち，能力別編成をしている学校は，新潟，栃木，神奈川，徳島にそれぞれ1校ずつで，他は全部，生年月日順その他による，ふつうの学級編成であった。

(2) 国語科の時間数その他

国語の時間数の平均は，1年の時が毎週6時間，2年も6時間である。ほかの教科の時にも読み書きの指導がはいり，そうした意味で国語科以外の読み書き指導にはどのくらい時間がかかるかという問いに対して，1年生の場合は毎週4.0時間，2年生になると少しへって毎週3.7時間という答が出た。これによってみると，国語科としての時間は少ないが，実際には10時間かかっているわけである。

また，この毎週の国語の時間6時間の中で，特にドリルとか作文とかに時間を特設している学校は18.2%であって，大部分の学校では特設していない。

(3) 仕事の比重

1年のごく最初の2か月間を除いて，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことにどんな比重を与えているかについては，

	1年前期	2年前期
聞く	30.4%	9.0%
話す	45.5%	15.0%
読む	18.2%	48.6%
書く	5.9%	27.1%

であって，1年前期の主要な仕事は「話すこと」であり，2年になって「読むこと」が主になる。これは，戦前の国語教育とは大いに様相のちがっている点である。

(4) 教科書の使用

教科書の使用については，１年の入学当初には教科書による学校は48.3%であるが，２年生になると97.2%が教科書の順に，教科書によって教えている。教科書を使わない学習指導には，作文,話し方,聞き方，漢字のドリル，読みの発展的取扱いなど種々ある。国語の時間の中で教科書を使わない時間の割合は平均して，25.8%である。

(5) 学習指導形態

国語学習指導の形態としては，常にグループ編成をしているものは少ない。特に能力別グループ編成をしているものは，わずかに0.5%であった。

グループにすることはほとんどない	21.9%
時によってグループにする	73.5%

また，

教師が主となって話したり読んでやったりする形態	11.1%
教師の質問に児童が答えてゆく形態	70.5%
児童たちが問題を出し自分たちでできるだけ解釈し，教師はそれを見守っているという形態	18.4%

であって，この段階では大部分問答法であることがわかった。

(6) 文字の読み書きの指導の方法

特に文字の書き方の指導については次のようになっている。

教室で新出の同じ文字を何回もノートに書かせる	5.5%
同じ文字を何回も書かせず，いろいろな語の形で与えて書かせる	13.5%
文字の構造等について，記憶しやすい話をしてやる	12.5%
黒板その他に児童に大きな字を書かせる	11.2%
聴写をさせる	10.7%
書取りのテストをする	16.2%
ノートの検査をする	14.8%
視写（教科書のある部分の書きぬきなど）をさせる	12.9%
その他	2.7%

ノート検査と書取りという，ふつうの方法が一番多いようである。

また，筆順指導は，空中に指で書くことよりも，黒板に教師が板書して，

それを見ながらノートに書かせる方法の方が多くおこなわれている。

(7) 低学年の作文，習字

低学年の書くことの中でどこに重点をおいているかについては，

絵日記	31.4%
詩	6.8%
紙芝居	5.7%
手紙	7.8%
伝言文	3.3%
感想文	4.8%
生活文	39.6%
その他	2.6%

であって，生活文と絵日記ということになる。

作文の実施については，この段階では，「作文」とか「つづりかた」とかいわず，「お話を書きましょう」とか「文を書きましょう」といって書かせるのがふつうである。しかし用紙は作文用紙を使っている学校が多い。

特別に文を書かせることを，今年度の4月から12月まで8か月の間に何回やったかということについては，平均17.8回であって，月2回以上になる。

また作文には，誤字，脱字をなおし，感想を書きこんで返すという回答が一番多い。

作文処理はいつするかについては，

授業中（自習時など）に	4.5%
放課後に	50.9%
空時間に	8.2%
家庭へもちかえって	34.7%
その他	1.7%

であって，仕事をかなり家庭にまで持ちこまなければならないことが知られる。

習字（書き方）の本は92.5%が使っている。

(8) ドリルとワーク・ブックの使用

ワーク・ブックは教科書に即したものを使っているのが70.5%，教科書に

即さぬもの 13.5％,全然使わないもの 14.3％である。

ドリル学習は，きめてはやっていないが，かなりやるというものが多い。ほとんどやっていないという学校はわずかに 2.3％である。

なにをドリルするか，いつするか。

ドリル学習を意識してやっているとすれば，何を主としているか。

漢字を書くこと	14.0%
漢字の読み書き	39.5%
語句練習	25.5%
朗　読	17.6%
そ の 他	3.4%
一課一課（単元）のあとにやる	27.7%
毎時間の前または後にやる	23.2%
曜日をきめて集中的にやる	7.7%
いつときめず，必要と認めた時にやる	35.1%
そ の 他	6.3%

漢字の読み書きを必要と認めた時にやるというものが多い。

ドリルにかける時間は 1 回平均 16.3 分,一週合計 76.6 分である。

(9) 家 庭 学 習

家庭学習については

宿題を多く出す	38.9%
少し出す	57.9%
ほとんど出さない	3.2%

これは，質問がはっきりしないからほんとうの程度はわからないが，重く見ているかどうかはわかる。宿題として出されるのは，漢字の練習と教科書の読みが多い。

(10) 施 設 と 経 営

施設・経営において，俗に文字板という語カードはかなり使われている。

校内放送の設備は，ほとんどの学校にあり，時々使っている。学校放送も時々聞かせるというのが多い。テープレコーダーもあって時々使うという学校が多い。ない学校は 27.8％である。

学級文庫は，ない教室が26.5％，教室においてある書物は，平均して，

単行本	31.3冊
雑誌	33.2冊

である。

学校図書館のない学校は4.5％，自由に出入りさせている学校が多い。

(11) 読書指導

低学年の読書指導は，この回答によれば，実によく行届いている。「教室で教科書以外の本を児童たちに読んでやったことがありますか」という質問に対して，216校全部が「ある」と答えている。100％の項目はこれだけである。

「読書したことを児童たちに発表させたことがありますか」についても，97.2％が「ある」といっている。家庭での読書について児童たちと話し合うことが多いのは，もちろんとして，児童たちの家庭での読書を調べたことのあるもの72.8％，まだのもの27.2％である。

(12) 話すこと聞くことの指導

話すことの学習指導については，計画を立てていないところは少ない。全体の計画は立てておいて，しかし機会を見て実施するというやりかたが多い。

聞きかたについては，時間をさいて実施することがあるという方がないという方より少し多い。そして，聞きとったかどうかあとで質問を出してテストするというのがふつうのようである。

(13) 低学年国語学習指導の重点

低学年国語学習指導の重点については，次のやりかたで答えてもらって，次のような比率になった。

低学年におけるあなたの指導実践は，次のどれとどれに重点をおいていますか，4つだけえらんで○をつけてください。

他人の話をよく聞くこと	20.4％
よく発表すること	17.6％

教科書をすらすらと読むこと	9.2%
文字を正しく書くこと	17.1%
正しい筆順で書くこと	4.2%
方言や幼児語を使わないこと	1.9%
悪いことばを使わないこと	2.5%
よい本をたくさん読むこと	7.8%
正しい語感を養うこと	4.2%
絵日記を書くこと	5.8%
劇をすること	0.9%
文をたくさん書くこと	3.0%
ノートをきちんと書くこと	4.6%
詩を書くこと	0.2%
その他（具体的に書いてください）	0.6%

B　学習指導過程の型

学習指導過程については，教科書の教材が物語や随筆であって，それによって読解や文字本位の学習指導をする場合と，言語教材，劇教材，詩教材などの場合とを区別した。

そうして，特に教科書による場合については一つの型をサンプルとして提出し，それに，めいめいの型を書き込む，修正するという方法をとった。これは型を暗示したわけであるから，結果の数字はそうした条件を考慮して解釈するのでなければならないが，こういう問題については，この質問のしかたでないとまとまりがつかないと考えたからである。

(1)　教科書の教材が物語とか随筆であった場合の指導過程

提出した型は次の通りであって，（　）の中に(1)(2)(3)……という順序を書き込むことにしてある。（この整理の対象になったのは203校である）

（　）題目についての話し合いや経験の想起
（　）教科書の通読……第1次の読み
（　）新出文字，語句の指導
（　）教科書の精読……第2次の読み
（　）内容の話し合い
（　）教科書の味読（達読）……第3次の読み

（　）新出文字・話句の練習

これに対して，この順序通りに(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)と番号をつけた学校は65校で，他の138校はこれを多少変え，あるいは多少つけ加えている。それを型に分けると40種類ある。その中で何校かに共通しているのをあげると，

1. (8)「評価」を加えているもの　38校
2. (8)「紙芝居化」「劇化」(9)「評価」としているもの　13校
3. (2)と(3)の順序を変えているもの　8校
4. (6)を欠き　最後に「評価」を加えているもの　8校
5. (1)(3)(2)(5)(4)の順にしているもの　6校
6. (1)(2)(5)(3)(4)(6)(7)にしているもの　5校
7. (1)(2)の間に「さしえの話し合い」を，(6)(7)の間に「感想発表」を，そして最後に「評価」を加えているもの　5校

他の37型は1校か2校か3校しか採用していないものである。そこで提出した型に「評価」をかっこして加えれば，約80パーセントにはこれで共通するわけである。

次に，こうした指導過程の中で主としてどの段階で教師の板書と児童のノートがおこなわれているかについては，前記の型の順に過程(1)(2)(3)(4)…として，これに対する解答校100校について次の数字を得た。

過程	教師の板書	児童のノート記入
(1)	29	14
(2)	22	18
(3)	96	82
(4)	30	25
(5)	94	69
(6)	24	16
(7)	25	46

これによって，教師は黒板に新出文字や新出語句を書くこと，内容の話し合いにおいて要点を書くこと，そうして最後に児童にノートさせることなどがわかった。

(2) 詩教材，劇教材，言語教材等の場合

こうした教材の場合にも，題目の話し合い，教科書の通読，内容の話し合

い，新出文字の取り扱いなど，基本的なコースには変化がなかった。

劇教材であれば，読ませる時に配役をきめて読ませるというのがある。演出について話し合って，実演するというのがある。

詩教材であれば，朗読，暗誦があり，全文視写があり，また他の参考詩を鑑賞させるというのがある。言語教材では，教材の発展的取扱いがある。そして，これ等については，ちょっと型に入れにくいほど，多くの種類の指導過程が提出されていた。

C．学習指導上の意見

この調査の最後に，回答者の学習指導上の意見を書いてもらった。これは，意見そのものを知りたいことと，もうひとつ，前の実態そのものについての回答の方に意見がまぎれこまないようにすることと，二つのねらいを持っていた。こういう教育上の質問紙調査では，往々にして，「こうやっている」，「こうやってしまった」，という事実そのものと，「こうやりたかった」，「こうであるといい」という意見とが，いっしょになる可能性が多い。しかし，この方法で，われわれの場合は，それがかなりまで分離されたように思う。それは，整理の対象になった203校のうち，意見をくわしく書き込んでおり，しかもその意見が回答の方の現実そのものとはたしかに分離されていると考えられるものが162校もあったことによっても証明される。

学習指導上の意見は，これを整理すると約90項にわたっている。このうち2校以上に共通していたものだけ取りあげる。（この順序は多い順ではない）

(1) 教科書以外の読み物を多く与えたい。
(2) 読みの指導において音読・輪読を重く見たい。
(3) 筆順を重視し，低学年で徹底させたい。
(4) 語句とし，文章として漢字を書かせる機会を多くしたい。
(5) 多く書く，速く書くよりも，正しく書くことを重視したい。
(6) 作文の時間を多く持ちたい。
(7) 誤字・脱字・あて字をなくすようにしよう。
(8) かなづかいを低学年からしっかり教えよう。
(9) 方言矯正よりも，発表意欲を盛んにしよう。
(10) 学年提出漢字を中央で規定してほしい。

(11) 個人差に応じる指導の徹底によって，おくれている子供を低学年の時から，なくしたい。
(12) 視聴覚教具を国語学習の場に取り入れたい。
(13) 学校図書館の充実。
(14) 児童読物について，父兄がもっと教育的関心を持つようにしたい。
(15) 国語学習の時間数をふやしたい。

以上は，まじめな教師たちが，現在の教育課程や学習指導に対して抱いている希望意見である。そして，この面から国語学習指導の現下の問題点を知ることもできるであろう。

低学年国語学習指導実態調査回答校一覧

秋田県	仁井田小学校	北小学校	花館小学校
	生保内小学校	五城目小学校	六郷小学校
	鮎川小学校	七滝小学校	和田小学校
岩手県	山岸小学校	大渡小学校	二子小学校
栃木県	桜小学校	城北小学校	真岡小学校
	小山第一小学校	小山第二小学校	烏山小学校
	関谷小学校	日向小学校	山形小学校
	白沢小学校	豊田北小学校	
埼玉県	本太小学校	仲町小学校	熊谷西小学校
	成田小学校	奈良小学校	青木北小学校
	本庄西小学校	粕壁小学校	羽生小学校
	松山第一小学校	柏原小学校	馬室小学校
	明戸小学校	小鹿野小学校	川辺小学校
	三輪野江小学校	福田小学校	横瀬小学校
	大沢小学校	霞ケ関小学校	庄巣小学校
千葉県	海神小学校	公津小学校	貞元小学校
	南条小学校	関小学校	
東京都	方南小学校	高井戸第四小学校	杉並第四小学校
	杉並第九小学校	新井小学校	大和小学校
	三軒茶屋小学校	淀橋第一小学校	西戸山小学校
	氷川小学校	桜川小学校	南山小学校
	原町小学校	久松小学校	東糀谷小学校
	坂本小学校	金曾木小学校	前野小学校
	第二大島小学校	金町小学校	柳原小学校

神奈川県	高津小学校	諏訪小学校	藤沢小学校
	花木小学校	本町小学校	厚木小学校
	新磯小学校	久木小学校	比々多小学校
	西浜小学校	中央小学校	中津小学校
新潟県	神田小学校	日越小学校	村上小学校
	村上小学校	名立小学校	西五十沢小学校
	川東小学校	間瀬小学校	大和川小学校
石川県	芦城小学校	御祓小学校	此花町小学校
	浜小学校	立飯山小学校	穴水小学校
	外角小学校	林中小学校	
富山県	大布施小学校	早月加積小学校	阿見尾小学校
	大久保小学校	水島小学校	
福井県	嶽岳小学校	湯尾小学校	中島小学校
山梨県	谷村第一小学校	塩山小学校	初狩小学校
	駒城小学校	一宮西小学校	押原小学校
	都川小学校		
静岡県	中田小学校		
愛知県	筒井小学校	東山小学校	昭和橋小学校
	稲葉地小学校	白水小学校	豊岡小学校
	井田小学校	祖母懐小学校	大志小学校
	麻生田小学校	平洲小学校	舟入小学校
	岩倉小学校	清洲小学校	足込小学校
岐阜県	東小学校	安井小学校	日新小学校
	西小学校		
滋賀県	中央小学校		
京都府	綾部小学校	明倫小学校	河守小学校
	知井小学校		
奈良県	済美小学校	高田小学校	志都美小学校
	秀久山小学校		
和歌山県	大野小学校	田辺第一小学校	細野小学校
	塩津小学校	中野上小学校	中山路小学校
	中津川小学校	藤並小学校	三川第三小学校
兵庫県	千歳小学校	船場小学校	明石小学校
	相生小学校	大塩小学校	室津小学校
	幸世小学校	三草小学校	居組小学校
	福住小学校	杉原谷小学校	

岡山県	清輝小学校	倉敷東小学校	笠岡西小学校
	植月小学校	領家小学校	
山口県	白石小学校	鴎西小学校	小郡小学校
	鳥地小学校	滝部小学校	福川小学校
	船木小学校	白井田小学校	向峠小学校
徳島県	新町小学校	日和佐小学校	福原小学校
	千代小学校	宮前小学校	岩倉小学校
	日野谷小学校	相川小学校	大影小学校
	市場小学校	平島小学校	石井小学校
香川県	直島小学校	西浜小学校	城乾小学校
	柞田小学校	川添小学校	五名小学校
	豊浜小学校	琴平小学校	陶小学校
大分県	豊田小学校	蒲江小学校	南庄内小学校
熊本県	白川小学校	池上小学校	滑石小学校
	本渡北小学校	中富小学校	西村小学校
鹿児島県	武小学校	川内小学校	出水小学校
	郡山小学校	登尾小学校	溝辺小学校
	竹子小学校	中山小学校	伊集院小学校

数表・図表等一覧

I　B

音読技能検査問題，同実施要領…… 5
実験学校音読技能テストの成績…… 7
黙読態度検査問題…… 8

I　C

読書速度テスト問題と手引……10

I　D

1年生終了時と2年生終了時とにテストした問題……14
2年生の第1学期と2年生終了時とにテストした問題……15
2年生終了時の水準を示す文と設問……16
1年生終了時の水準を示す文と設問……16

II　C

作文にあらわれた文字・文法上の誤り……19

II　F

作文「わたくしのうち」の内容的分類……22

II　G

作文の実施の手引……24
作品の処理（実験学校の実例）……24

III　B

2年生の第1学期の語いテストの問題 I・II・III……43
同　上　の語いテストの成績 I・II・III……46

IV　A

28年度1年生学年末文法能力検査問題……66

IV　B

29年度2年生の第1学期末文法能力検査問題……68

29年度２年生第１学期末テスト正答率一覧表……69

Ⅳ　C

29年度２年生の第３学期末文法能力検査問題Ⅰ．……70
文法能力テストのインストラクション……75
文法テストⅠ正答率一覧……76
文法能力テスト問題Ⅱ……78
文法能力テスト問題Ⅲ……79

Ⅴ　A

１年生第２学期末ひらがな文字別正答率一覧表……85
２年生第２学期末テスト集計表（実験学校）……87
ひらがな清音文字別正答率の上昇（実験学校）……88
ひらがな濁・半濁音文字別正答率の上昇（実験学校）……90
ひらがな清音文字別正答率の上昇（協力学校）……91
ひらがな濁・半濁音文字別正答率の上昇（協力学校）……92

Ⅴ　B

拗・長・促音の読みの正答率の発達……99
促・拗・長音の読みの確度……102
促・拗音の誤答分析……103

Ⅵ　A

２年生第２学期末テストかたかな読字・書字集計表……124
かたかな文字別正答率の上昇（実験学校）……126
かたかな文字別正答率の上昇（協力学校）……128
１～２年かたかな文字別正答率発達一覧表（実験学校）……132

Ⅵ　B

２年生第１学期末促音・拗音の読字力書字力（実験学校）……136

Ⅵ　C

２年生第３学期末かたかな読字力・書字力テスト文字別正答率表
（実験・協力学校）……137
読字力の誤りの傾向（実験学校）……140
書字力の誤りの傾向（実験学校）……141

Ⅶ　A

入学当初の漢字力調査結果表…… 146
漢字　読めた字の平均数（実験学校，28年4月～29年3月）…… 147
漢字　書けた字の平均数（実験学校，28年4月～29年3月）…… 148
29年度2年生漢字平均読字数・書字数（実験・協力学校）…… 149
2年生第1学期末漢字書字力テスト問題…… 151
2年生第1学期末漢字書字力テスト問題…… 152
2年生第2学期末漢字読字力テスト問題…… 154
2年生第2学期末漢字書字力テスト問題…… 155
2年終了時テスト漢字読字力問題(A)…… 158
2年終了時テスト漢字書字力問題(A)…… 159
文字別発達一覧表（実験学校1～2年）…… 161
2年終了時テスト漢字読字力問題(B)…… 171
2年終了時テスト漢字書字力問題(B)…… 172
漢字力Bテスト反応分析表（実験学校）…… 175

Ⅶ　B

個人別漢字読字数・書字数の発達（実験学校）…… 179

Ⅶ　C

実験・協力学校29年度2年生第1学期末テスト学校別平均得点数・
正答率一覧表…… 184
学校別（地域別）読字力の順位（2年生第1学期）…… 185
学校別（地域別）書字力の順位（2年生第1学期）…… 187
学校別（地域別）読字力の順位（2年学年末）…… 188
学校別（地域別）書字力の順位（2年学年末）…… 190

Ⅶ　D

実験学校漢字の平均読字数・書字数（男女別・1～2年）…… 192
1年生学年末テストの平均読字数（実験・協力学校）…… 192
1年生学年末テストの平均書字数（実験・協力学校）…… 192
2年生学年末テスト，学校別(男女別)読字力の順位(実験・協力学校)… 195
2年生学年末テスト，学校別(男女別)書字力の順位(実験・協力学校)… 198

Ⅶ　E

実験学校2年生学年末テスト，漢字読字力（A）準正答の調査…… 211

実験学校２年生学年末テスト，漢字書字力（A）準正答の調査…… 217

Ⅶ　F

28年度１年生学年末テスト，漢字読字力正答率一覧表(実験・協力学校)… 220
28年度１年生学年末テスト，漢字書字力正答率一覧表(実験・協力学校)… 221

Ⅶ　G

１～２年教科書の新出文字数…… 223

Ⅷ　A

家庭の読書調査票…… 233

Ⅷ　B

読む本の種類と範囲（実験学校）…… 235

Ⅷ　C

読書態度の変化（実験学校）…… 240

Ⅷ　D

雑誌・単行本接近状況一覧表（実験・協力学校）…… 246
協力学校単行本一覧表…… 248
29年度２年生実験・協力学校読書調査（雑誌）一覧表…… 249
29年度２年生実験・協力学校の家庭読書調査（興味・時間・態度）…… 251
協力学校読書態度の変化（１年と比べて）…… 252

Ⅷ　E

家庭における読書の調査（興味・時間・種類）整理表…… 254
実験学校家庭読書能力の個人別発達表（１～２年）…… 259

Ⅷ　F

新聞・ラジオ接近状況一覧表（実験・協力学校）…… 262
29年度２年生ラジオ聴取状態（好んで聞く番組）の調査（実験・
協力学校）…… 269

Ⅸ　A

1年生の言語能力テスト…… 272
2年生の言語能力テスト…… 272
各言語テストの相関…… 273
各言語テストの因子負荷量…… 273
言語能力を規定する要因…… 274

Ⅸ　B

昭和29年度2年生推理テスト（一）…… 276
昭和29年度2年生推理テスト（二）…… 277
昭和29年2年生推理テストの個人別成績…… 286
昭和29年2年生記憶テストの個人別成績…… 287

Ⅸ　C

昭和29年度1年生人格性調査問題の反応分析表…… 295
人格的要因と言語能力の相関…… 297
人格要因の優れたもの，劣ったものの言語能力点の表…… 298
言語能力群別による人格点表…… 299

Ⅸ　D

身体的要因の優れたもの，劣ったものの中に含まれる言語能力の劣ったもの，優れたものの割合（%）…… 301

Ⅸ　E

家庭環境要因のすぐれたもの，劣ったものの中に含まれる，言語能力上のもの，下のものの割合（%）…… 304

Ⅸ　F

29年度2年生国語学習帳検査個人別成績の一部…… 306
第1学期学校生活態度チェックリスト個人別成績の一部…… 307
学校生活要因上の群，下の群に含まれる言語能力下のもの，上のものの% 307

Ⅹ　A

学級男子のテスト期別にみた総言語能力評点（平均）…… 313
学級女子のテスト期別にみた総言語能力評点（平均）…… 314
学級全員の第1年次言語能力評点（平均）…… 315

学級全員の第２年次言語能力評点(平均)…… 317

X　B

京子のテスト期別にみた各言語能力評点…… 324
京子のテスト期別にみた総言語能力評点(平均)と順位…… 324
京子のテスト期別にみた正答文字数…… 325
京子の第１年次・第２年次言語能力評点(平均)…… 325
道子のテスト期別にみた各言語能力評点…… 330
道子のテスト期別にみた総言語能力評点(平均)と順位…… 331
道子の第１年次・第２年次言語能力評点(平均)…… 331
和雄のテスト期別にみた各言語能力評点…… 337
和雄のテスト期別にみた総言語能力評点(平均)と順位…… 339
和雄の第１年次・第２年次言語能力評点(平均)…… 339
雪夫のテスト期別にみた各言語能力評点…… 345
雪夫のテスト期別にみた総言語能力評点(平均)と順位…… 344
雪夫の第１年次・第２年次言語能力評点(平均)…… 346
隆のテスト期別にみた各言語能力評点…… 352
隆のテスト期別にみた総言語能力評点(平均)と順位…… 353
隆の第１年次・第２年次言語能力評点(平均)…… 353
洋子のテスト期別にみた各言語能力評点…… 360
洋子のテスト期別にみた総言語能力評点(平均)と順位…… 361
洋子の第１年次・第２年次言語能力評点(平均)…… 361

XI　A

低学年教科書別形式・内容の分析…… 364
低学年教科書（５種類）内容・形式分析平均…… 367

XI　B

２年生教科書におけるかたかなの月別配当…… 368
新出かたかなの用語…… 370

別表 1

個人別Aテスト・Bテストの比較表

（実験学校）　　（読　字　力）

文字 / 名前	科目	林	名	多	会	天	字	歩	少	分	雪	南	休	話	所	王	来	百	間	西	先	正答計	誤答計	無答計
男1	Aテスト			大い				ひと								おう		しろい		りょ		13	4	2
	Bテスト		なまえ		いま			はし								おう	とる				せい	13	6	0
2	A			まわ	い										じょ					また		13+1	3	2
	B				ふん			いく				よう								よう		15	4	0
3	A															おう				あめ		11	2	6
	B						かく						はる			おう				あめ		12	4	3
4	A		ねろう				うう								じゅう			しゅう		にし		9+1	4	5
	B				ふん		こう									くに	とる					15	4	0
5	A																					16	0	3
	B		なまえ														とる					17	2	0
6	A						かく					みな				おう	きる					15+1	3	0
	B						かく									おう				よう		16	3	0
7	A															おお	きる			ひがし		12+1	2	4
	B															おう	とる					17	2	0
8	A							うこ								おお	きる					15+1	2	1
	B	もの	なまえ					はく				ひがし							もん	りょ		13	6	0
9	A						かく									おう						15	2	2
	B						かく									おう			しゅん			14	3	2
10	A								すし							おお				お		11	3	5
	B						かく									おう			もん			13	3	3
11	A	もり													じょ	くに		ひく		にし		9+1	4	5
	B		なまえ			げん	かく									おう						15	4	0
12	A							うこ								おお						12	2	5
	B		なまえ	たい				はく	こし							おう				りょ		13	6	0
13	A														じょ							8+1	0	10
	B		なまえ									よう				くに	とる	ろく	しゅん			12	6	1
14	A															おう	い			よう		16	2	1
	B				しゃ											おう						16	3	0
15	A																					19	0	0
	B																					19	0	0
16	A							ぎょく														18+1	0	0
	B																					19	0	0
17	A															おう	きる					13+1	1	4
	B		なまえ													おう						15	2	2
18	A																					7	0	12
	B		なまえ	なまい			かく					きた				くに	とる	ろく				12	7	0

文字 / 児童 / テスト方式		林	名	多	会	天	字	歩	少	分	雪	南	休	話	所	王	来	西	間	西	先	正答計	誤答計	無答計
☆1	A B		なまえ		いま	でん	がっ がく	いく		か		ひがし			じょ	お おう	きる					9+2 12	4 6	4 1
2	A B							いく						おはなし								18 16	0 2	1 1
3	A B		なまえ				がっ がく					きた				おお おう	きる	ひく				10+1 13	3 4	5 2
4	A B																くる					12+1 11	0 1	6 7
5	A B		なまえ					おやはしご						おはなし	いる	おお おう					よう	13 14	3 5	3 0
6	A B																きる				せい	11+1 15	0 1	7 3
7	A B		なまえ																			17 16	0 1	2 2
8	A B		なまえ		いま		や	はやい		ぶん じ			ほん			お おう		百			よう	9+1 13	5 6	4 0
9	A B		なまえ					がく								おう						13 14	0 3	6 2
10	A B	やし	なまえ	かたち	いま		こう	はやい		ふん		よう				だから		しんぶん			りょう ほんや	7+3 12	1 7	8 0
11	A B																				よう	19 18	0 1	0 0
12	A B															おう おう		むく			たに	13 14	2 2	4 3
13	A B																	しろい				19 18	0 1	0 0
14	A B		なまえ					がく							じょ	おう おう						12+1 11	1 3	5 5
15	A B			たい																	おおい おおい	4 10	0 2	15 7
16	A B		なまえ									よう				おお おう					たに	14 16	2 3	3 0
17	A B		いし	ゆうがた												おう	きる とる	し しろい	夜 あんだ		むこう せんせい	5+2 9	3 4	9 6
18	A B			おおい				おおい								おお おう	くる					12+3 15	1 1	3 3
19	A B		かまえ				がく	いく									はしる	しろい	ぎんこう		せい	9 12	0 6	10 1
20	A B		なまえ		いま		こう	いく								おう	とる	しろい				12	7	0
21	A B															おう			もん		きた	17 15	1 2	1 2
22	A B	もり	なまえ				がく									おお おう						13 11	1 4	5 4

23	A B		 なまえ		/ /		/ がく	/ 				/ /		ななし 	じょ△ 	/ おう				お /		11+1 13	2 3	5 3
24	A B		なまえ なまえ		/ いま	 たいん	/ がく	/ はしく				/ 	やすみ△ 			おお /	くる△ 			あめ あめ	 せんせい	10+2 12	3 6	4 1
25	A B							/ 									する△ とる					17+1 18	0 1	1 0
26	A B																			 よう		19 18	0 1	0 0
27	A B		うら いし	 おおさ	/ /	て 	が がく	/ /				/ /			/ /	/ くに	ころ△ 	しろ しろい	あた 	/ 	 せい	7+1 10	5 5	6 4
28	A B			 た、	/ じん	/ 	/ こう	/ ひく	/ こし	/ じ		/ よう	/ 	はな 	じょう 	/ おう	/ 	/ 	/ 	/ 		4 11.	2 8	13 0

（書　字　力）

文字＼氏名	テスト方法	何	気	歩	早	南	見	来	長	糸	風	時	間	紙	話	書	行	家	近	多	雪	正答計	誤答計	無答計
前 1	Aテスト Bテスト	/ 		/ /	/ 	/ /		行 /	長 		/ 		分 間	/ /	許 /	書 		家 家	/ /	六 		6 12	7 2	7 6
2	A B			/ 走		/ /		来 			/ 風		門 	/ 紙		力 				大 	雪 	11+1 16	4 3	4 1
3	A B	/ 		/ 走	/ 	/ /	/ 	/ 	/ 	/ 	/ 風	/ 	/ 	/ /	/ 	/ 	/ 	/ 	/ 	/ 	/ 	1 16	0 2	19 2
4	A B	/ 		/ 走	/ 早	/ /		/ 			/ 風	/ 	 間	/ 	話 	/ 			/ 返	大 		8 14	2 5	10 1
5	A B	/ 		/ 	/ 	/ /		/ 	長 長		/ 風		間 	/ 紙		/ 			/ 返			9 15	2 4	9 1
6	A B			/ 		/ /				 糸	/ 			上 		 書	行 	 家	/ 返			14 15	2 4	4 1
7	A B	同 		 走		/ /	/ 	/ 糸			/ 			/ 紙		書 			/ 近			12 15	2 4	6 1
8	A B	/ 何		/ 		/ /		/ 	長 長		/ 		分 	/ 紙					/ 近		/ 	10 15	2 4	8 1
9	A B	/ 		/ /	林 	/ /		/ 			/ 風		分 	/ 紙			/ 		/ 	大 大		9 15	3 3	8 2
10	A B	/ 		/ /		/ /		行 行			/ /	時 	門 	/ 紙		書 		家 	/ /	大 		8 14	6 2	6 4
11	A B	佑 		/ 走		/ /		/ 来			/ 雲			/ 		/ 	/ 		/ 近	/ 		10 15	1 4	9 1
12	A B	/ 		/ 赤	早 	/ /		/ 		 /	/ 			/ 	話 	 書		 家	/ 返	/ 大		10 13	2 5	8 2
13	A B	/ 		/ 赤	/ /	/ /	/ 	/ 米	長 	 /	/ 	間 	力 	/ 		 書		家 家	/ 	大 大		6 13	5 5	9 2
14	A B			/ 		/ /					風 			/ 		/ 	/ 		/ 	大 		12 19	2 0	6 1

15	A					南					風											18	2	0
	B					／					風		間			書						16	3	1
16	A			／		／			長		／			／					／			14	1	5
	B					／																19	0	1
17	A	何		／	／	／		／			／			上				家	／	大	雪	9	5	6
	B			走		／																18	1	1
18	A	／		／	林	／	／	／	長		／	／	／	／		／	／	家	／	大	雪	3+1	4	12
	B			／		／					風			紙		書				／		14	3	3

氏名＼文字	テスト方法	何	気	歩	早	南	見	来	長	糸	風	時	間	紙	話	書	行	家	近	多	雪	正答計	誤答計	無答計
女 1	Aテスト			／		／		／	長		／		門	／	話	／			／	大		9	4	7
	Bテスト			／							風			紙								17	2	1
2	A	／		／		／					凡			／								15	1	4
	B			／						糸	風			紙			／					15	3	2
3	A	持		／		／		／			風			川	話		／		／	大		10	5	6
	B			／		／		行			風			／		書			返			13	4	3
4	A			／	走	／					／		門	／					／			13	2	5
	B			／		／					／			／								16	0	4
5	A	／		／	／	／	貝	／			／			／		／			／	大		9	2	9
	B			／		南					風			紙				家	返	多		13	6	1
6	A	／		／		／		行			／			／					／	大		12	2	6
	B			／		／					／		間	／								15	1	4
7	A			／				／			八			／	話	／	行			大		12	4	4
	B			／							風			紙	／					大		16	3	1
8	A	／		／	／	／		／	長		／	／	分	／	花	／	／		／	／		5	3	12
	B			／										紙		書			返	大		15	4	1
9	A	／		／		／		／			／		分	／					／	大		11	2	7
	B			／		／					風			／					／			15	1	4
10	A			足	林	／		行	長		風			／	／				／	太		10	6	4
	B			／		北		行			風				／	書				／		13	4	3
11	A			／		／					苫			／					／			15	1	4
	B			／																		19	0	1
12	A			／	／	／		／	長		／	／		／	話	書			／	大	雹	7	5	8
	B			／		／					風			／						大		15	2	3
13	A			／		／					／			／					／	門		14	1	5
	B	何		／							／								／			16	1	3
14	A			／	走	／		／	長		／			／					／	大		11	3	6
	B			／		／		／						／		書			／	大		13	2	5
15	A	／		／	／	／	／	／	／		／	／	／	／		／	／		／	／		5	0	15
	B			／		／					／			／		書			／	大		13	2	5
16	A	／		／		／	貝	／			／	／		／					／	大		10	2	8
	B			／																		19	0	1

17	A	何			甲		道		長	糸	風			紙	書		家		大	雪	2	6	12
	B							米					門								11	8	1
18	A				車				太				間						大		12	3	5
	B																				15	1	4
19	A												門	紙					大		8	2	10
	B																		9		17	2	1
20	A				球						風				話				大		7	3	10
	B							米													17	2	1
21	A										風			紙					大		13	1	6
	B																				17	2	1
22	A	何			早				長								家		大		10	5	5
	B																				16	2	4
23	A									糸		持							大		8	3	9
	B																家		9		17	2	1
24	A	作									風	分		紙	書			力	大	雪	9+1	5	5
	B																	近	大		15	4	1
25	A				園									上				返	大		12	3	5
	B							米						紙	書		家				14	5	1
26	A												分				家				15	2	3
	B													紙							18	1	1
27	A	中			右				間				力				家	力			4	6	10
	B				東				長		風		門	紙			行				13	6	1
28	A					南	見		長	糸					話			近	大		4	5	11
	B														詰		車		大		14	5	1

(注) 1. 太字は未学習文字を示す。

2. 「先」の字は，1年用の漢字として，Aテストでは実施しなかった。したがって，計欄ではA，Bともに，「先」に関する数は除外してある。

3. △の印および，＋のついている数字は準正答を示す。

4. 空欄は正答を示す。

5. ／印は無答を示す。

別表 2

1・2年用漢字教科書別提出表

書名＼提出文字	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	土	山	大	小	目	上
T	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
G	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○
N	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○
M	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○

書名＼提出文字	手	中	人	木	下	子	正	月	日	先	生	見	立	白	耳	入
T	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
G	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○
C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	●	○	●	●
N	○	○	○	○	○	○		○	○	●	●	●	●	●	○	●
M	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	●	○

書名＼提出文字	石	犬	夕	田	西	口	火	用	川	水	少	外	戸	力	出	左
T	○	○	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
G	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
C	●	●	●	●	●	○	○		○	○					●	○
N	○	●	●	●	●	○	○	●	○	○	●	●	●	●	●	○
M	○		○	●	●	○	○	●	○	○	●	○	●	●		○

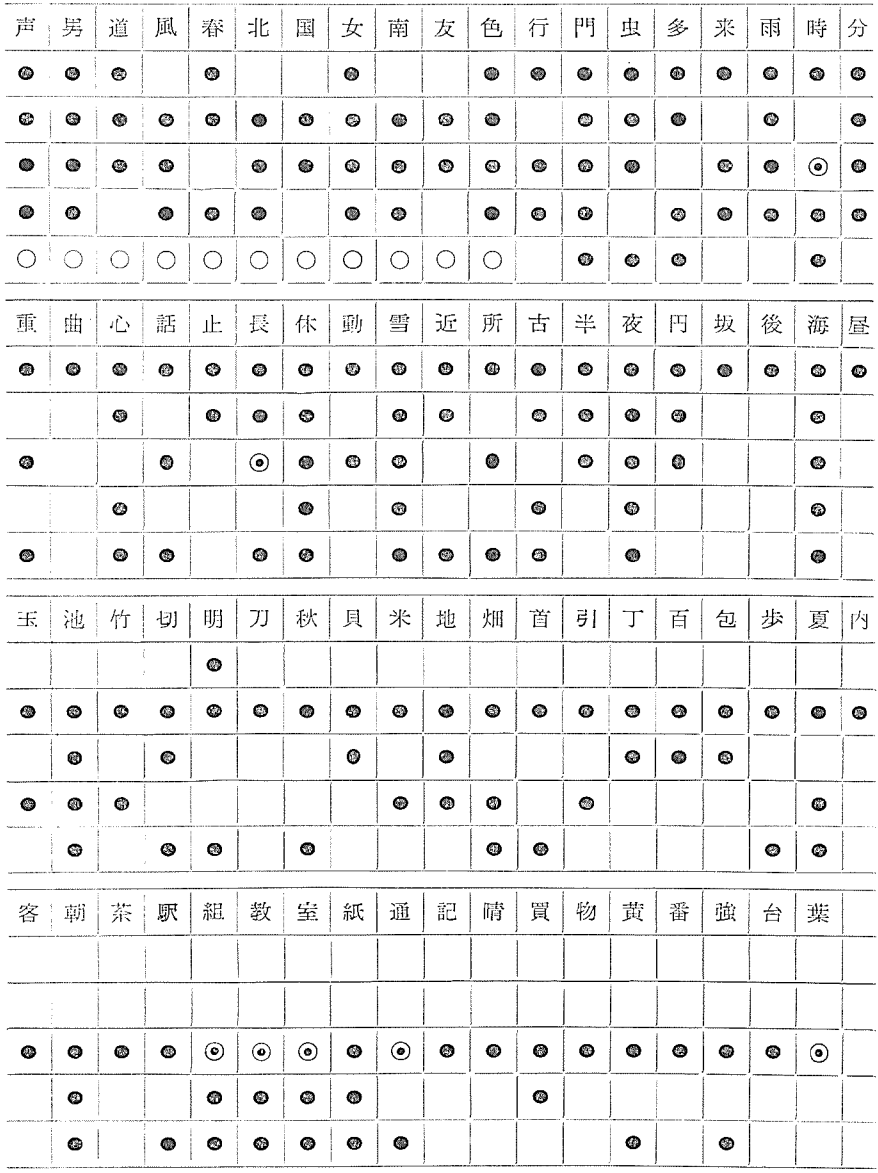
書名＼提出文字	光	今	本	方	年	青	字	車	町	屋	学	校	花	太	郎	
T	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		
G	○	○	○	○	○	●	●	●	●		●	●	●	●		
C	●		○	●	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	
N	●	●	○	●	●	●	●	●	●		●	●	○			
M	●	●	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○			

書名＼提出文字	右	金	林	村	作	文	森	足	赤	空	音	冬	高	糸	前	早
T	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●
G	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●
C	○	●		●	●	●	●		●	●	●		●		◎	●
N	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●
M	○		●	●	●	●		○	○	○	○	○	○	○	○	○

書名＼提出文字	何	走	元	気	持	思	東	汽	京	間	天	家	電	工	書	氷
T	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
G	●	●	●	●		●	●			●	●			●		
C	●	●	●	●	●	●	●			●			◎		●	
N	●	●	●	●	●	●	●			●		●		●	●	
M	●	●	●	●		●	●		●		●	●			●	

書名＼提出文字	草	失	牛	自	同	母	才	末	名	妹	回	父	向	平	兄	会
T	●	●														
G	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
C	●		●	●					●				●			●
N	●		●	●					●	●			●			●
M	●			●	●				●							●

書名＼提出文字	毎	谷	王	合	代	取	麦	広	助	申	面	知	私	店	栄	次
T																
G	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
C								●					●	●	●	●
N	●	●		●					●			●				
M	●	●					●					●		●		


声 男 道 風 春 北 国 女 南 友 色 行 門 虫 多 来 雨 時 分
重 曲 心 話 止 長 休 動 雪 近 所 古 半 夜 円 坂 後 海 昼
玉 池 竹 切 明 刀 秋 貝 米 地 畑 首 引 丁 百 包 歩 夏 内
客 朝 茶 駅 組 教 室 紙 通 記 晴 買 物 黄 番 強 台 葉

書名＼提出文字	橋	投	乗	鳥	遠	馬	柱	級	庫	新	読	着	雲	両	売	喜
T																
G																
C	◎	●	●	●	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
N				●		●		●			●			●	●	
M	●			●	●					●	●		●			

書名＼提出文字	付	句	点	野	仕	芸	受	聞	姉	役	原	星	流	魚	波	毛
T																
G																
C																
N	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
M					●					●	●	●	●	●	●	●

（注）　○は一年に提出した字　　五社が1年で共通に提出した字（○）　22字
●は二年に提出した字　　五社が2年で共通に提出した字（●）　12字
◎一年によませる漢字　　五社が1・2年で共通に提出した字(○●)34字
◉二年によませる漢字　　(読ませる漢字も含む場合)(○●◉◎)　39字

万	待	頭	局	黒	市	使	寺	言	事	実	岩	礼	絵	去	弟	集	画	折
●	●	●	●	●	●	●												
					●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		●		●		●			●	●		●				●		

根	都	考	美	親	由	寒	表	肉	食	守	船	送	育	歌	岸
											●				
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

別表3

文字別漢字習得表

学校名	使用教科書名			土	石	犬	入	見	力	田	何	早	方
Y	T	よみ	正答	84.4	93.3	86.7	77.8	88.9	95.6	80.0	35.6	86.7	80.0
			準正答	93.3			86.7	100		84.4	80.0	88.9	
		かき	正答	87.0	78.3	50.0	41.3	80.4	84.8	89.1	32.6	47.8	73.9
			準正答										
N	GT（12年）	よみ	正答	95.7	91.5	89.4	87.2	95.7	91.5	85.7	83.0	85.1	91.5
			準正答				89.4	97.9			87.2		95.7
		かき	正答	96.0	82.0	66.0	38.0	84.0	98.0	94.0	64.0	64.0	76.0
			準正答										
S	G	よみ	正答	97.9	95.7	87.2	85.1	100	80.9	91.5	91.5	95.7	83.0
			準正答										
		かき	正答	91.8	83.7	83.7	63.3	95.9	75.9	91.8	91.8	69.4	71.4
			準正答										
M	N	よみ	正答	81.8	100	97.7	95.5	100	93.2	100	88.6	100	81.8
			準正答	88.6									
		かき	正答	42.2	80.0	75.6	46.7	88.9	88.9	95.6	35.6	64.4	40.0
			準正答										
G	N	よみ	正答	52.8	77.4	83.0	79.2	81.1	75.5	90.6	35.8	81.1	66.0
			準正答	69.8				90.6					67.9
		かき	正答	47.2	60.4	90.6	32.1	67.9	66.0	79.2	7.5	30.2	28.3
			準正答										
H	C	よみ	正答	81.3	90.6	87.5	87.5	84.4	56.3	90.6	34.4	84.4	75.0
			準正答	90.6				90.6			84.4		
		かき	正答	78.8	72.7	63.6	18.2	78.8	51.5	81.8	30.3	57.6	66.7
			準正答					81.8					
D	M	よみ	正答	97.0	90.0	91.7	88.2	90.0	95.3	100	86.5	98.8	98.8
			準正答				91.7	98.8					
		かき	正答	90.0	91.7	85.0	73.3	86.7	91.7	91.7	76.7	90.0	88.3
			準正答										
T	M	よみ	正答	95.3	86.0	34.9	93.0	81.4	88.4	95.3	86.0	97.7	100
			準正答	97.7									
		かき	正答	89.1	69.6	10.0	30.4	82.0	80.4	78.3	17.4	67.4	80.4
			準正答										

（教科書別）　太字は未出文字を示す。なお、既出文字の中には、テスト実施までに学習しなかった文字も含まれている。

音	空	光	走	来	春	夕	町	村	出	高	時	分	虫	行
77.8	80.0	68.9 86.7	86.7 91.1	55.6 84.4	84.4	73.3 95.6	100	86.7	84.4 95.6	93.3	82.2	77.8 80.0	95.6	88.9
52.2	67.4	37.0	56.5	23.9	45.7	84.8	100	32.6	84.8	73.9 76.1	70.0	21.7	28.3	71.7
93.6	95.7	87.2 93.6	87.2	66.0 83.0	95.7	83.0 95.7	100	93.6	80.9 95.7	89.4 95.7	78.7 85.1	74.5 83.0	95.7	89.4 93.6
82.0	80.0	78.0	60.0	52.0	84.0	88.0	92.0	70.0	90.0	82.0	74.0	66.0	64.0	62.0
89.4	97.9	93.6	95.7	**8.5**	97.9	74.5	95.7	97.9	80.9	95.7	**17.0**	19.1	97.9	**46.8**
67.3	87.8	98.0	69.4	**6.1**	91.8	87.8	87.8	85.7	85.7	79.6	**4.0**	22.4	89.8	**10.5**
79.5	93.2	97.7	95.5	20.5 38.6	97.7	95.5	100	100	97.7	100	93.2	29.5 34.1	**83.6**	93.2 95.5
42.2	66.7	68.9	48.9	8.9	91.1	91.1	100	82.2	95.6	77.8	68.9	8.9	**11.1**	71.1
66.0	83.0	83.0 88.7	73.6	**11.3** 15.1	84.9	67.9 77.4	86.8	81.8	92.5	90.6	73.6 75.5	15.1 22.6	**50.9**	64.2 66.0
43.4	84.9	73.6	17.0	0	77.4	64.2	73.6	58.5	67.9	67.9	50.9	5.7	**7.5**	34.0
84.4	90.0	68.8 78.1	78.1 81.3	9.4 12.5	**50.0**	90.0	96.9	96.9	87.5 90.6	90.6	85.5	87.5 90.6	90.6	90.6
36.4	51.5	72.7	45.5	30.3	**12.1**	87.9	90.9	78.8	78.8	51.5	48.5	57.6	63.6	60.6
100	100	97.0	97.0	**44.1** 49.1	98.8	97.0	98.8	100	91.7 97.0	100	84.7 90.0	**51.0** 60.0	97.0	**51.0** 52.9
90.0	83.3	91.7	85.0	**41.7**	86.7	76.7	91.7	90.0	85.0	86.7	50.0	**21·7**	85.0	**38.3**
95.3	100	93.0 95.3	90.7	**4.7** 9.3	97.7	88.4 90.7	97.7	100	95.3	100	79.1	**25.6**	97.7	**55.8**
71.7	78.3	71.7	41.3	0	71.7	67.4	82·6	78.3	56.5	37.0	26.1	0	71.7	0

学校名	使用教科書名			学	校	門	多	雨	男	女	年	前	道
Y	T	よみ	正答	73.3	95.6	93.3	80.0	97.8	91.1	97.8	88.9	86.7	100
			準正答	80.0			84.4					95.6	
		かき	正答	87.0	74.0	84.8	21.7	76.1	91.3	97.8	71.7	50.0	73.9
			準正答					95.7					
N	GT（一年）	よみ	正答	93.7	93.6	93.6	83.0	91.5	87.2	93.6	89.4	87.2	95.7
	（二年）		準正答								91.5	91.5	
		かき	正答	88.0	86.0	78.0	40.0	74.0	88.0	84.0	78.0	64.0	84.0
			準正答										
S	G	よみ	正答	97.9	85.7	87.2	70.2	97.9	95.7	97.9	80.9	89.4	95.7
			準正答										
		かき	正答	89.8	89.8	89.8	71.4	89.8	87.8	93.9	67.3	46.9	67.3
			準正答										
M	N	よみ	正答	90.9	95.5	90.9	93.2	100	86.4	95.5	95.5	97.7	54.5
			準正答						95.5	97.7	97.7		
		かき	正答	95.6	88.9	93.3	62.2	91.1	95.6	93.3	86.7	73.3	71.1
			準正答										
G	N	よみ	正答	79.2	88.7	77.4	77.4	92.5	83.0	90.6	81.1	79.2	41.5
			準正答										
		かき	正答	90.6	83.0	79.2	60.4	75.5	75.5	71.7	73.6	71.7	13.2
			準正答										
H	C	よみ	正答	81.3	87.5	85.5	37.5	96.5	87.5	93.8	84.4	81.3	90.6
			準正答				56.3						
		かき	正答	90.0	84.8	84.8	0	87.9	93.9	93.9	54.5	54.5	69.7
			準正答										
D	M	よみ	正答	95.3	97.0	98.8	98.8	98.8	95.3	100	93.5	91.7	97.0
			準正答										
		かき	正答	93.3	86.7	86.7	86.7	88.3	86.7	86.7	81.7	73.3	90.0
			準正答										
T	M	よみ	正答	97.7	97.7	90.7	65.1	90.7	90.7	100	93.0	95.3	100
			準正答						93.0				
		かき	正答	80.4	76.1	67.4	39.1	41.3	78.3	63.0	58.7	52.2	73.9
			準正答										

東	元	気	冬	夜	金	長	糸	休	少	聞	林	声	心	思
75.6 88.9	93.3	95.6	95.7	71.1	93.3 95.6	86.7 88.9	97.8	93.3 95.6	95.6	80.0 84.4	91.1	100	48.9 88.9	88.9 95.6
78.3	89.1	97.8	95.7	15.2	54.3	60.9	93.5	54.3	45.7	56.5	89.1	78.3	50.0	67.4
80.9 95.7	93.6	95.7	95.7	89.4	85.1	89.4	91.5	95.7	91.5 93.6	76.6 87.2	85.1	91.5	76.6	78.7 89.4
84.0	88.0	80.0 95.8	88.0	40.0	52.0	64.0	82.0	76.0	78.0	50.0	74.0	84.0	4.80	78.0
85.1	10.6	80.9	95.7	91.5	93.6	97.9	100	78.7	89.4	6.4	59.6	97.9	59.6	89.4
83.7	34.7	53.1	87.8	63.3	83.7	83.7	63.3	79.6	89.8	20.4	87.8	73.5	49.0	73.5
86.4	90.9	93.2	100	88.6	88.6	81.8	97.7	95.5	77.3 79.5	93.2	88.6	97.7	86.4 90.9	93.2
71.1	73.3	75.6	88.9	44.4	95.6	17.8	80.0	75.6	42.2	71.1	82.2	73.3	82.2	73.3
64.2 67.9	64.2	73.6	83.0	73.6	81.1 83.0	39.6	73.6	77.4	69.8 71.8	77.4	88.7	77.4	67.9 71.7	64.2
47.2	77.4	50.9	77.4	15.1	43.4	1.9	54.7	60.4	35.8	66.0	71.7	20.8	58.5	34.0
87.5 90.6	87.5	87.5	46.9 50.0	90.6	87.5 90.6	93.8	56.3	84.4 90.6	18.8 37.5	56.3 81.3	78.1	87.5	46.9 68.8	84.4 90.6
66.7	54.5	63.6	15.2	45.5	36.4	39.4	9.1	51.5	0	6.1	72.7	39.4	45.5	57.6
61.8 93.5	98.8	98.8	98.8	93.5	88.2	91.7 93.5	98.8	95.3	98.8	45.9 47.4	98.3	100	93.5 97.0	97.0
83.3	86.7	91.7	91.7	71.7	76.7	88.3	83.3	85.0	91.7	58.3	93.3	85.0	90.0	90.0
69.8 90.7	95.3	97.7	97.7	93.0	97.7	93.0	95.3	88.4	100	39.5	86.0	97.7	83.7 86.0	95.3
45.7	73.9	69.6	78.3	69.6	32.6	58.7	69.6	54.3	60.9	0	71.7	50.0	71.7	56.5

学校名	使用教科書名			話	書	作	汽	車	所	家	外	近	用
Y	T	よみ	正答	93.3	77.8	62.2	88.9	82.2	55.6	77.8	93.3	13.3	77.8
			準正答		88.9	66.7			68.9	100		26.7	
		かき	正答	70.0	50.0	63.0	82.6	82.6	54.3	76.1	79.3	10.9	39.0
			準正答										
N	GT(一年)(二年)	よみ	正答	85.1	80.9	66.0	89.4	87.2	74.5	95.7	95.7	42.6	83.0
			準正答	91.5	95.7	72.3			76.6			55.3	
		かき	正答	72.0	56.0	38.0	62.0	90.0	48.0	80.0	76.0	28.0	52.0
			準正答										
S	G	よみ	正答	44.7	19.1	76.6	42.6	38.2	4.3	83.6	89.4	55.3	68.0
			準正答										
		かき	正答	8.2	2.0	61.2	16.3	46.9	6.1	18.4	75.5	69.4	49.0
			準正答										
M	N	よみ	正答	75.0	100	100	36.4	36.4	15.9	100	100	6.8	77.3
			準正答					70.5					
		かき	正答	8.9	75.6	93.3	6.7	11.1	0	86.7	86.7	0	28.9
			準正答										
G	N	よみ	正答	30.2	56.6	90.0	49.5	45.3	11.3	90.6	84.9	28.3	50.9
			準正答					56.6					52.8
		かき	正答	0	34.0	62.3	0	7.5	0	52.9	73.6	17.0	24.5
			準正答										
H	C	よみ	正答	84.4	87.5	93.8	81.3	90.6	78.1	84.4	37.5	6.3	40.6
			準正答	90.6	93.8							15.6	
		かき	正答	63.6	51.5	54.5	33.3	78.8	18.2	6.1	15.2	3.0	9.1
			準正答										
D	M	よみ	正答	93.5	87.0	95.3	65.2	68.8	81.2	86.5	95.3	91.7	90.0
			準正答		98.8	97.0		81.2		95.3		93.5	93.5
		かき	正答	86.7	71.7	88.3	50.0	70.0	68.3	66.7	73.3	81.7	76.7
			準正答										
T	M	よみ	正答	93.0	97.7	81.4	23.3	14.0	83.7	86.0	81.4	79.1	83.7
			準正答			90.7		69.8					
		かき	正答	63.0	28.3	43.5	0	4.3	32.6	67.4	43.5	43.5	15.2
			準正答										

天	雪	海	色	半	草	今	千	両	合	黒	池	歩	向	秋
93.3	97.8	97.8	82.8	77.8	93.3	28.9	68.9 71.1	22.2	48.9 51.1	37.8 40.0	6.7 8.9	22.2 26.7	13.3	37.8
84.8	80.4 87.0	0 65.2	0	6.5	63.0	4.3	39.1	0	0	0	0	4.3	0	6.5
83.0 85.1	93.6	93.6	87.2	80.9	95.7	63.8	70.2 76.6	23.4	55.3	87.2	6.4	10.6	0	72.3
58.0	74.0	66.6	58.0	56.0	80.0 84.0	44.0	76.0	18.0	2.0	38.0	4.0	0	0	32.0
93.6	89.4	93.6	100	14.9	91.5	89.4	19.1	17.0	44.7	57.4	100	89.4	66.0	95.7
79.6	77.6	61.2	67.3	10.2	87.8	57.1	44.9	16.3	59.2	2.0	59.2	79.6	36.7	87.8
86.4	100	95.5	90.9	15.9	97.7	95.5	79.5 88.6	75.0	93.2	93.2	79.5 90.9	20.5	61.4	75.0
40.4	91.1	88.9	42.2	0	80.0	48.9	8.9 11.1	53.3	53.3	20.0	33.3	0	6.7	8.9
81.1	90.6	86.8	66.0 73.6	9.4	83.0	67.9	50.9 52.8	64.2	75.5	41.5	69.8	13.2	47.2 49.1	60.4
49.1	84.9	50.9	43.4	0	39.6	45.3	15.1	49.1	24.5	0	32.1	0	18.9	1.9
71.9	84.4	87.5	75.0	90.6	93.8	81.3	46.9 65.6	78.1 81.3	65.6	90.6 93.8	81.3 84.4	43.8	75.0 78.1	65.6
18.2	42.4 45.5	72.7	42.4	30.3	36.4	66.7	24.2	75.8	3.0	39.4	60.6	0	0	24.2
98.8	95.3	93.5 95.3	98.8	44.1	98.8	86.5	68.8	31.8	77.6 84.7	98.8	98.8	97.0	12.4	91.7
85.0	85.0	83.3	86.7	3.3	86.7	86.7	75.0	46.7	15.0	56.7	81.7	86.7	16.7	70.0
97.7	100	93.0	100	4.7	97.7	97.7	27.4 39.5	18.6	69.8	93.0	95.3	90.7	7.0	90.7
67.4	76.7	80.4	76.1	0	41.3	65.2	2.2	0	0	54.3	47.8	37.0	0	39.1

学校名	使用教科書名			会	毎	朝	北	南	国	谷	竹	切	牛
Y	T	よみ	正答	37.8	6.7	8.9	24.4	31.1	46.7	35.6	17.8	15.6	35.6
			準正答							40.0		17.8	40.0
		かき	正答	6.5	0	4.3	13.0	2.2	21.7	21.7	4.3	0	6.5
			準正答		6.5								
N	GT(二年)(一年)	よみ	正答	59.5	23.4	74.5	87.2	78.7	78.7	38.3	31.9	17.0	57.4
			準正答					93.6	85.1	46.8			59.0
		かき	正答	22.0	12.0	52.0	78.0	72.0	48.0	16.0	20.0	0	24.0
			準正答								22.0		
S	G	よみ	正答	87.1	70.2	40.4	91.5	95.7	93.6	89.4	85.1	89.4	85.1
			準正答										
		かき	正答	77.6	34.7	0	75.5	79.6	93.9	79.6	59.2	16.3	69.4
			準正答										
M	N	よみ	正答	95.5	84.1	90.9	93.2	93.2	79.5	84.1	93.2	50.0	100
			準正答										
		かき	正答	88.9	53.3	75.6	86.7	77.8	37.8	53.3	82.2	82.2	71.1
			準正答										
G	N	よみ	正答	81.8	45.3	77.4	83.0	75.5	60.4	60.4	77.4	39.6	81.1
			準正答										
		かき	正答	75.5	18.9	69.8	58.5	62.3	22.6	32.1	83.0	0	47.2
			準正答										
H	C	よみ	正答	87.5	15.6	90.6	90.6	93.8	84.4	31.3	43.8	46.9	93.8
			準正答							34.4		87.5	
		かき	正答	60.6	6.1	75.8	60.6	42.4	72.7	0	3.0	0	81.8
			準正答										
D	M	よみ	正答	95.3	98.8	100	97.0	100	98.8	95.3	60.0	81.2	60.0
			準正答									90.0	65.2
		かき	正答	91.7	85.0	91.7	88.3	78.3	88.3	78.3	33.3	80.0	35.0
			準正答										
T	M	よみ	正答	95.3	93.0	97.7	88.4	93.0	100	100	27.4	79.1	65.1
			準正答										
		かき	正答	87.0	54.3	65.2	63.0	45.7	56.5	47.8	0	47.8	10.9
			準正答										

西	馬	夏	宇	読	友	名	戸	玉	雲	波	風	百	森	鳥
35.6	28.9	35.6	37.8	17.8	55.6	75.6	11.1 13.3	24.4	11.1	2.2	53.3	73.3 77.8	80.8	24.4
17.4	6.5	2.2	8.7	0	4.3	6.5	8.7	15.2	0	0	2.2	37.0	73.0	2.2
95.7	89.4	33.0	68.1	42.6	76.6	83.0	59.6 83.0	55.3	57.4	10.6	89,4	80.9	74.5	87.2
84.0	18.0	36.0	54.0	6.0	14.0	32.0	70.0	16.0 18.0	4.0	0	44.0	58.0	64.0	30.0
95.7	38.2	95.7	93.6	53.2	72.3	97.9	76.6	72.2	34.0	0	91.5	78.7	59.6	19.1
65.3	0	63.3	83.7	0	75.5	91.8	79.6	42.9	0	0	71.4	75.5	59.2	0
93.2	97.7	95.5	95.5	85.5	84.1 88.6	100	93.2 95.5	100	4.77	36.4	97.7	84.1	93.2	88.6
75.6	68.9	55.6	86.7	48.9	11.1	62.2	66.7	77.8	15.6	0	57.8	62.2	88.9	22.2
83.0	86.8	83.0	84.9	73.6	66.0	73.6	60.4	83.0	32.1	5.7	67.9	60.4	84.9	64.2
73.6	52.8	56.6	60.4	24.5	1.9	60.4	64.2	54.7	7.5	1.9	15.1	37.7	86.8	17.0
96.9	87.5	0	87.5	75.0 81.3	87.5	93.8	25.0 93.8	28.1	71.9	0	90.6	75.0 81.3	96.9	84.4
69.7	42.4	0	57.6	18.2	42.4	57.6	6.1	18.2	71.2	0	57.6	84.8	93.9	27.3
97.0	79.4	75.9	97.0	93.5	98.8	100	98.8	56.5	95.3	95.3	97.0	88.2 90.0	98.8	100
86.7	68.3	73.3 80.0	86.7	71.7	90.0	91.7	80.0	66.7	81.7 88.3	46.7 51.7	81.7 93·3	51.7	90.0	83.3
72.1	67.4	88.4	93.0	86.0	93.0 97.7	90.7	76.9	32.6	83.7	95.3	100	60.5	72.1	95.3
39.1	6.5	37.0	65.2	21.7	78.3	69.6	50.0	0	52.2	37.0	84.8	4.3	47.8	32.6

学校名	使用教科書名			紙	考	文	組	知	父	母	米	麦	地
Y	T	よみ	正答	26.7	6.7	68.9	40.0	24.4	71.1	75.6	33.3	2.2	8.9
			準正答										
		かき	正答	6.5	0	24.0	2.2	0	34.8	71.7	13.0	0	0
			準正答										
N	GT(二年一年)	よみ	正答	17.0	6.4	55.3	87.2	40.4	74.5	85.1	42.6	57.4	10.6
			準正答			57.4							
		かき	正答	0	0	18.0	56.0	0	42.0	68.0	52.0	14.0	2.0
			準正答							70.0			
S	G	よみ	正答	8.5	12.8	89.4	57.4	91.5	100	100	95.7	91.5	8.5
			準正答										
		かき	正答	0	0	51.0	20.4	36.7	87.8	85.7	87.8	63.3	460
			準正答	49.0									
M	N	よみ	正答	97.7	15.9	100	79.5	75.5	84.1	84.1	79.5	6.8	70.5
			準正答										
		かき	正答	75.6	0	91.1	55.6	24.4	57.8	66.7	73.3	2.2	6.7
			準正答										
G	N	よみ	正答	62.3	22.6	88.7	52.8	52.8	58.5	60.4	67.9	0	24.5
			準正答								69.8		
		かき	正答	56.6	7.5	77.4	28.3	0	11.3	39.6	48.5	0	9.4
			準正答										
H	C	よみ	正答	93.8	9.4	93.8	84.4	53.1	53.1	62.5	21.9	18.8	56.3
			準正答				87.5						
		かき	正答	72.7	0	81.8	66.7	0	12.1	33.3	0	0	0
			準正答										
D	M	よみ	正答	98.8	95.3	97.0	100	93.5	86.5	88.2	58.2	84.7	31.8
			準正答					95.3			60.0		
		かき	正答	81.7	88.3	90.0	86.7	65.0	71.7	68.3	26.3	68.3	40.0
			準正答										
T	M	よみ	正答	95.3	100	95.3	95.3	81.4	51.1	72.1	100	4.7	4.7
			準正答										
		かき	正答	71.7	47.8	73.9	67.4	13.0	4.3	26.1	2.2	8.7	0
			準正答										

—— 国立国語研究所刊行書 ——

昭和24年度	国立国語研究所年報 1	
昭和25年度	国立国語研究所年報 2	
昭和26年度	国立国語研究所年報 3	
昭和27年度	国立国語研究所年報 4	
昭和28年度	国立国語研究所年報 5	
昭和29年度	国立国語研究所年報 6	

国立国語研究所報告1	八丈島の言語調査	
国立国語研究所報告2	言語生活の実態 —白河市および付近の農村における—	(秀英出版刊 ¥350.00)
国立国語研究所報告3	現代語の助詞・助動詞 —用法と実例—	
国立国語研究所報告4	婦人雑誌の用語 —現代語の語彙調査—	
国立国語研究所報告5	地域社会の言語生活 —鶴岡における実態調査—	(秀英出版刊 ¥600,00)
国立国語研究所報告6	少年と新聞 —小学生・中学生の新聞への接近と理解—	
国立国語研究所報告7	入門期の言語能力	
国立国語研究所報告8	談話語の実態	
国立国語研究所報告8	読みの実験的研究 —音読にあらわれた読みあやまりの分析—	

国立国語研究所資料集1	国語関係刊行書目（昭和17～24年）	
国立国語研究所資料集2	語彙調査 —現代新聞用語の一例—	
国立国語研究所資料集3	送り仮名法資料集	
国立国語研究所資料集4	明治以降国語学関係刊行書目	(秀英出版刊 ¥300,00)

国立国語研究所編	国語年鑑（1954年版）	(秀英出版刊 ¥450,00)
国立国語研究所編	国語年鑑（1955年版）	(秀英出版刊 ¥600,00)
国立国語研究所編	国語年鑑（1956年版）	（近刊）

昭和31年3月

国立国語研究所

東京都千代田区神田一ツ橋1—1

電話 九段(33) 代表 4295

UDC 495.6-07

NDC 375.8

THE LANGUAGE ABILITY OF CHILDREN IN THE FIRST AND SECOND GRADE

The Second Report 7 Years Studies on the Language Development of School Children

CONTENTS

Foreword
The Outline of the Study
Chap I The Growth in Reading
Chap II The Growth in Written Composition
Chap III The Growth in Vocaburary
Chap IV The Growth of Grammatical Consciousnees
Chap V The Growth of the Ability to read and write Hiragana
Chap VI The Growth of the Ability to read and write Katakana
Chap VII The Growth of the Ability to read and write Kanzi
Chap VIII Home Reading
Chap IX Factors influencing the Language Development
Chap X The Cace Studies
Chap XI The Analysis of Text Books
Chap XII The Analysis of Teaching Method
Lists of Tables and Figures

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
KANDA- HITOTUBASI, TIYODA, TOKYO
1956